京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2017-16

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇一七－一六

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2018年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2018年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

２区　Ⅱ－１期全景（西から）

５区　Ⅱ－２期全景（北から）

１　５区　溝5135補修前（杭は補修後、北西から）

２　５区　溝5135補修後（北西から）

１　５区　曲物5150（北西から）

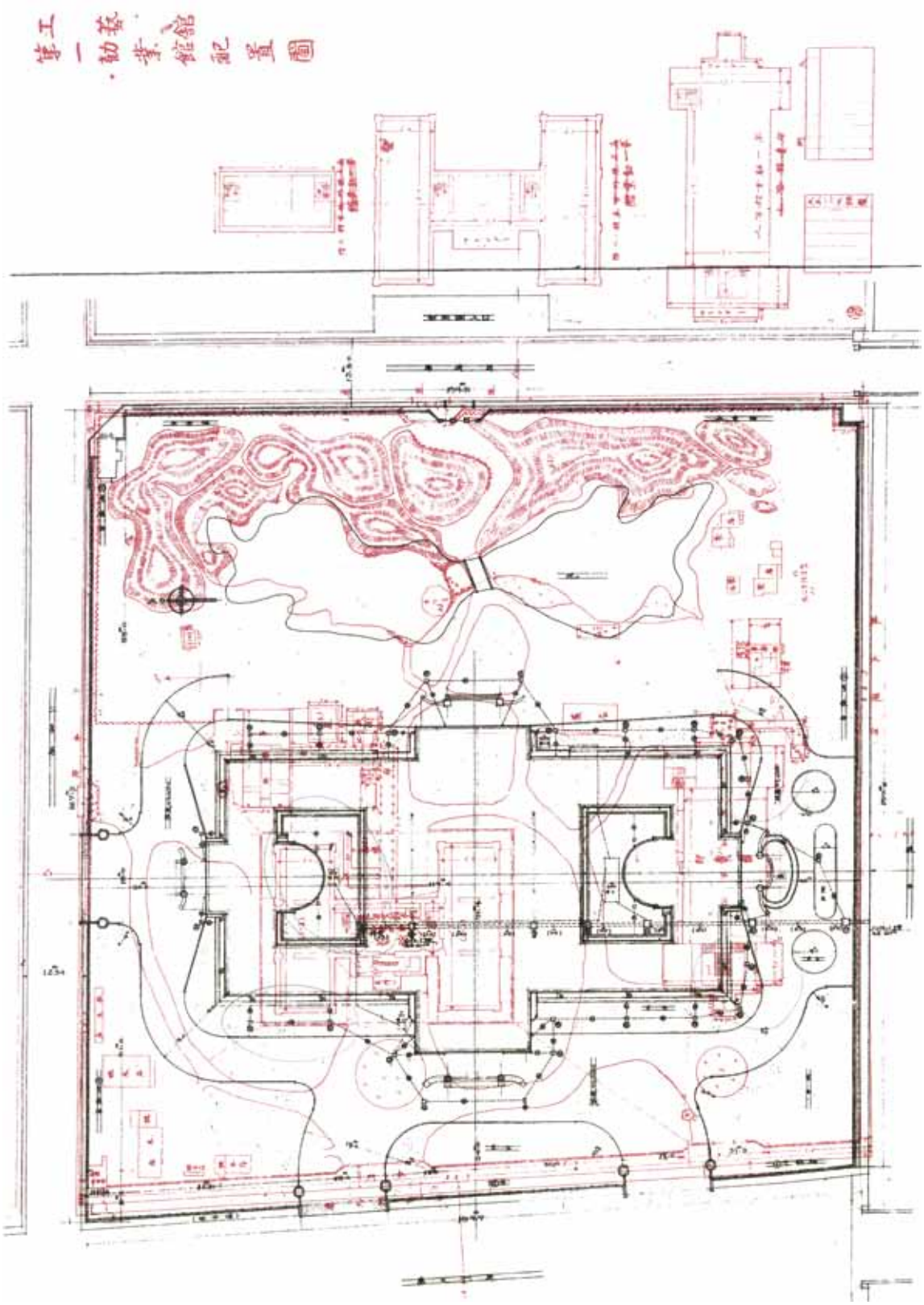
２　５区　南北溝断面（北西から）

４区　Ⅳ期全景（北東から）

１　４区　建物基礎4120（南東から）

２　４区　煉瓦刻印１

３　４区　煉瓦刻印２



京都市商品陳列所、京都市美術館設計図

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、美術館の再整備事業に伴う円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

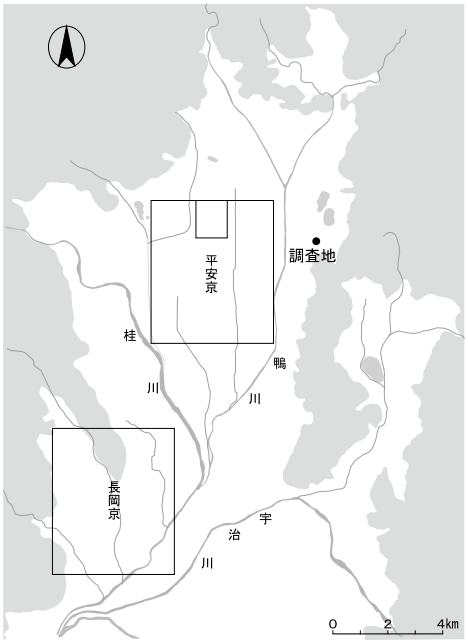
平成30年12月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡　（京都市番号　13 R 450）
2	調査所在地	京都市左京区岡崎円勝寺町124（京都市美術館敷地内）
3	委　託　者	京都市　代表者　京都市長　門川大作
4	調 査 期 間	2017年４月17日～2018年２月24日
5	調 査 面 積	1907.5㎡
6	調査担当者	柏田有香・辻　裕司・鈴木康高・松永修平・末次由紀恵
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「御所」・「吉田」・「三条大橋」・「岡崎」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	通し番号を付し、写真番号も同一とした。
13	本 書 作 成	柏田有香・上村和直
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査の概要 …… 1
（１）調査経過 …… 1
（２）位置と環境 …… 3
（３）周辺の調査 …… 9
２．遺　　構 …… 14
（１）基本層序 …… 14
（２）１区の遺構 …… 17
（３）２区の遺構 …… 18
（４）３区の遺構 …… 25
（５）４区の遺構 …… 26
（６）５区の遺構 …… 29
（７）６・７区の遺構 …… 33
（８）８区の遺構 …… 35
（９）９区の遺構 …… 36
３．遺　　物 …… 38
（１）出土遺物の概要 …… 38
（２）土器類 …… 38
（３）瓦　類 …… 46
（４）土製品 …… 55
（５）木製品 …… 58
（６）石製品 …… 59
（７）金属製品 …… 59
４．ま と め …… 62
（１）遺構の変遷とその性格について …… 62
（２）円勝寺の位置について …… 72

図　版　目　次

巻頭図版１　遺構　２区　Ⅱ－１期全景（西から）

巻頭図版２　遺構　５区　Ⅱ－２期全景（北から）

巻頭図版３　遺構　１　５区　溝5135補修前（杭は補修後、北西から）

２　５区　溝5135補修後（北西から）

巻頭図版４　遺構　１　５区　曲物5150（北西から）

２　５区　南北溝断面（北西から）

巻頭図版５　遺構　４区　Ⅳ期全景（北東から）

巻頭図版６　遺構　１　４区　建物基礎4120（南東から）

２　４区　煉瓦刻印１

３　４区　煉瓦刻印２

巻頭図版７　京都市商品陳列所、京都市美術館設計図

図版１　遺構　調査区配置図（１：800）

図版２　遺構　１区実測図（１：100）、土坑1001・1003・1005断面図（１：50）

図版３　遺構　２区Ⅰ期平面図（１：200）

図版４　遺構　２区Ⅱ－１期平面図（１：200）

図版５　遺構　２区Ⅱ－２期平面図（１：200）

図版６　遺構　２区Ⅲ期・Ⅳ期平面図（１：200）

図版７　遺構　２区東壁・南壁断面図（１：100）

図版８　遺構　溝2090・2092～2095セクション断面図、溝2090護岸実測図（１：50）

図版９　遺構　柱列2294、土坑2380～2382・2388実測図（１：50）

図版10　遺構　土坑2378・2404・2324・2440実測図（１：50）

図版11　遺構　井戸2025・2100実測図（１：50）

図版12　遺構　柱列2069・2313実測図（１：80）

図版13　遺構　土坑2066、柱穴2084・土坑2086、土坑2354・2421・2277・2168実測図（１：50）

図版14　遺構　土坑2096・2071・2174・2117実測図（１：40）、瓦溜2355実測図（１：50）

図版15　遺構　柱列2057実測図（１：100）

図版16　遺構　柱列2073実測図（１：100）

図版17　遺構　３a区平面図（１：100）

図版18　遺構　３b区平面図（１：100）

図版19　遺構　３区壁断面図（１：100）

図版20　遺構　落込3020、土坑3009～3011実測図（１：50）

図版21　遺構　土坑3003・3004、建物基礎3022実測図（１：50）
図版22　遺構　４区Ⅱ－１期平面図（１：150）
図版23　遺構　４区Ⅱ－２期平面図（１：150）
図版24　遺構　４区Ⅲ期平面図（１：150）
図版25　遺構　４区西調査区Ⅳ期平面図、建物基礎4120実測図（１：100）
図版26　遺構　４区壁断面図（１：100）
図版27　遺構　溝4009・4010・4055・4056実測図（平面図１：80、断面図１：40）
図版28　遺構　柱列4074・4089実測図（１：40）、井戸4070実測図（１：50）
図版29　遺構　５区Ⅰ期平面図（１：200）
図版30　遺構　５区Ⅱ－１期平面図（１：200）
図版31　遺構　５区Ⅱ－２期平面図（１：200）
図版32　遺構　５区Ⅲ期平面図（１：200）
図版33　遺構　５区西壁断面図（１：100）
図版34　遺構　溝5140・5135・5115・5028断面図（１：50）、曲物5150実測図（１：40）
図版35　遺構　溝5140東護岸・井戸5032・土坑5091実測図（１：50）
図版36　遺構　溝5135北半実測図（１：80）
図版37　遺構　溝5135南半実測図（１：80）
図版38　遺構　溝5115平面図（１：80）
図版39　遺構　井戸5031・5090・柱列5139・土坑5033実測図（１：50）、土坑5147実測図（１：20）
図版40　遺構　６・７区Ⅰ期・Ⅱ－１期平面図（１：200）
図版41　遺構　６・７区Ⅱ－２期・Ⅲ期平面図（１：200）
図版42　遺構　６・７区北壁・東壁断面図（１：100）
図版43　遺構　溝6170・建物6110実測図（１：50）
図版44　遺構　土坑6079・6135・6136・6100、井戸6047実測図（１：50）
図版45　遺構　８区Ⅱ－１期・Ⅲ期平面図（１：100）
図版46　遺構　８区北西壁断面図（１：50）
図版47　遺構　８区東西セクション断面図（１：50）、柱穴8013・土坑8016実測図（１：40）
図版48　遺構　９区Ⅱ－１期・Ⅱ－２期・Ⅲ期平面図（１：100）
図版49　遺構　９区西壁断面図（１：50）
図版50　遺構　９区北壁断面図、土坑9008・9009実測図（１：50）
図版51　遺物　土器実測図１（１：４）
図版52　遺物　土器実測図２（１：３、１：４）
図版53　遺物　土器実測図３（１：４）
図版54　遺物　土器実測図４（１：４）
図版55　遺物　土器実測図５（１：４）

図版56　遺物　土器実測図６（１：４）
図版57　遺物　土器実測図７（１：４）
図版58　遺物　土器実測図８（１：４）
図版59　遺物　土器実測図９（１：４）
図版60　遺物　土器実測図10（１：４）
図版61　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版62　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図２（１：４）
図版63　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図３（１：４）
図版64　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図４（１：４）
図版65　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図５（１：４）
図版66　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図６（１：４）
図版67　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図７（１：４）
図版68　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図８（１：４）
図版69　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図９（１：４）
図版70　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図10（１：４）
図版71　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図11（１：４）
図版72　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図12（１：４）
図版73　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図13（１：４）
図版74　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図14（１：４）
図版75　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図15（１：４）
図版76　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図16（１：４）
図版77　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図17（１：４）
図版78　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図18（１：４）
図版79　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図19（１：４）
図版80　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図20（１：４）
図版81　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図21（１：４）
図版82　遺物　軒平瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版83　遺物　軒平瓦拓影及び実測図２（１：４）
図版84　遺物　軒平瓦拓影及び実測図３（１：４）
図版85　遺物　軒平瓦拓影及び実測図４（１：４）
図版86　遺物　軒平瓦拓影及び実測図５（１：４）
図版87　遺物　軒平瓦拓影及び実測図６（１：４）
図版88　遺物　軒平瓦拓影及び実測図７（１：４）
図版89　遺物　軒平瓦拓影及び実測図８（１：４）
図版90　遺物　軒平瓦拓影及び実測図９（１：４）

図版91　遺物　軒平瓦拓影及び実測図10（１：４）
図版92　遺物　軒平瓦拓影及び実測図11（１：４）
図版93　遺物　軒平瓦拓影及び実測図12（１：４）
図版94　遺物　軒平瓦拓影及び実測図13（１：４）
図版95　遺物　軒平瓦拓影及び実測図14（１：４）
図版96　遺物　軒平瓦拓影及び実測図15（１：４）
図版97　遺物　軒平瓦拓影及び実測図16（１：４）
図版98　遺物　軒平瓦拓影及び実測図17（１：４）
図版99　遺物　軒平瓦拓影及び実測図18（１：４）
図版100　遺物　軒平瓦拓影及び実測図19（１：４）
図版101　遺物　軒平瓦拓影及び実測図20（１：４）
図版102　遺物　軒平瓦拓影及び実測図21（１：４）
図版103　遺物　軒平瓦拓影及び実測図22（１：４）
図版104　遺物　軒平瓦拓影及び実測図23（１：４）
図版105　遺物　鬼瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版106　遺物　鬼瓦実測図２（１：４）
図版107　遺物　道具瓦・平瓦拓影及び実測図（１：４）、刻印瓦拓影（１：１、１：４）
図版108　遺物　ヘラ記号瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版109　遺物　ヘラ記号瓦拓影及び実測図２（１：４）
図版110　遺物　ヘラ記号瓦拓影３、塼拓影及び実測図１（１：４）
図版111　遺物　塼拓影及び実測図２（１：４）
図版112　遺物　木製品実測図（１：４）
図版113　遺物　石製品実測図１（１：４）
図版114　遺物　石製品実測図２（１：４）
図版115　遺構　１　１区　Ⅱ－２期全景（西から）
　　２　１区　土坑1003土器出土状況（北から）
　　３　１区　井戸1007（北西から）
図版116　遺構　１　２区西　Ⅰ期全景（南西から）
　　２　２区東　Ⅰ期全景（南西から）
図版117　遺構　１　２区東　Ⅱ－１期全景（西から）
　　２　２区西　Ⅱ－１期東西溝（西南西から）
　　３　２区東　Ⅱ－１期東西溝（西から）
図版118　遺構　１　２区　井戸2100（南から）
　　２　２区　井戸2100細部（南西から）
　　３　２区　井戸2025検出状況（北東から）

4　２区　井戸2025（北から）
図版119　遺構　1　２区西　Ⅱ－２期全景（東から）
2　２区東　Ⅱ－２期全景（東から）
図版120　遺構　1　２区　溝2092護岸（西から）
2　２区　溝2090護岸（西から）
3　２区　土坑2168（北から）
4　２区　土坑2440（南から）
図版121　遺構　1　２区　瓦溜2355（北西から）
2　２区　瓦溜2355瓦出土状況（北西から）
3　２区　土坑2277（北から）
図版122　遺構　1　２区西　Ⅲ期・Ⅳ期全景（西から）
2　２区東　Ⅲ期・Ⅳ期全景（西から）
3　２区　柱列2057・2073（西から）
図版123　遺構　1　３a区　Ⅱ－２期全景（北から）
2　３a区　Ⅰ期全景（北から）
3　３a区　落込3020土器出土状況（西から）
図版124　遺構　1　３b区　全景（北から）
2　３b区　建物基礎3022（西から）
3　４区西調査区　Ⅱ－２期全景（北から）
図版125　遺構　1　４区西調査区　溝4009・4010（北から）
2　４区西調査区　井戸4070（西から）
3　４区北調査区　全景（東から）
4　４区北調査区　中央部全景（西から）
図版126　遺構　1　４区南調査区　全景（西から）
2　４区西調査区　Ⅲ期全景（北から）
3　５区　Ⅰ期全景（北から）
図版127　遺構　1　５区　Ⅱ－１期全景（北から）
2　５区　溝5140補修状況（西から）
3　５区　井戸5032（南から）
図版128　遺構　1　５区　溝5115（北から）
2　５区　溝5115護岸（北北東から）
3　５区　井戸5090（南から）
4　５区　井戸5031（東から）
図版129　遺構　1　５区　土坑5147（北から）
2　５区　土坑5033（北から）

３　５区　Ⅲ期全景（北西から）
図版130　遺構　１　６・７区　Ⅰ期全景（北から）
２　６・７区　Ⅱ期全景（北西から）
図版131　遺構　１　６・７区　建物6110（北から）
２　６・７区　溝6156護岸（東から）
３　６・７区　Ⅲ期全景（北西から）
４　６・７区　井戸6047（東から）
図版132　遺構　１　８区　全景（北北東から）
２　８区　畔8007（北から）
３　８区　土坑8016（南から）
図版133　遺構　１　９区　全景（北東から）
２　９区　溝9006Ｂ護岸（東から）
３　９区　溝9006完掘状況（東から）
図版134　遺物　溝6170・流路2180・流路3019・土坑5191出土土器
図版135　遺物　井戸2025・土坑6100・溝2095・溝2094出土土器
図版136　遺物　溝4009・溝4010出土土器
図版137　遺物　溝5140東護岸出土土器
図版138　遺物　溝5135東護岸・溝5135西護岸・溝5135護岸補修出土土器
図版139　遺物　溝5135埋土・溝9006B出土土器
図版140　遺物　土坑1003・土坑6135出土土器
図版141　遺物　溝5115出土土器、その他輸入陶磁器
図版142　遺物　軒丸瓦１
図版143　遺物　軒丸瓦２
図版144　遺物　軒丸瓦３、軒平瓦１
図版145　遺物　軒平瓦２
図版146　遺物　軒平瓦３、鬼瓦、瓦刻印
図版147　遺物　土製品、木製品１
図版148　遺物　木製品２、石製品、金属製品

挿　図　目　次

図１　調査地位置図（１：5,000）　……　1
図２　３区調査前全景（南西から）　……　2
図３　４区調査前全景（東から）　……　2
図４　８区作業状況　……　2
図５　現地公開　……　2
図６　周辺調査位置図（１：3,000）　……　9
図７　基本層序（１：50）　……　15
図８　土製品実測図１（１：４）　……　55
図９　土製品実測図２（１：４、スタンプ拓影は１：２）　……　56
図10　土製品実測図３（１：４、刻印拓影は１：２）　……　57
図11　金属製品実測図（１：２、１：３）、銭貨拓影（１：２）　……　60
図12　遺構変遷図Ⅰ期（１：1,250）　……　63
図13　遺構変遷図Ⅱ－１期（１：800）　……　65
図14　遺構変遷図Ⅱ－２期（１：800）　……　67
図15　遺構変遷図Ⅲ期（１：800）　……　69
図16　遺構変遷図Ⅳ期（１：800）　……　71

表　目　次

表１　調査区一覧表　……　2
表２　関連年表　……　4
表３　周辺調査一覧表　……　10
表４　遺構概要表　……　16
表５　遺物概要表　……　38
表６　軒瓦遺構別出土数量表　……　48
表７　軒瓦文様・産地別出土数量表　……　50
表８　出土鉄滓一覧表　……　60

付　表　目　次

付表１　土器一覧表 …… 74
付表２　軒丸瓦観察表 …… 87
付表３　軒平瓦観察表 …… 98
付表４　鬼瓦・道具瓦・刻印瓦・ヘラ記号瓦観察表 …… 111
付表５　塼観察表 …… 116
付表６　土製品一覧表 …… 117
付表７　木製品一覧表 …… 118
付表８　石製品一覧表 …… 119
付表９　金属製品一覧表 …… 120

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

１．調査の概要

（１）調査経過（図１～５、図版１）

この調査は、京都市美術館の再整備事業に伴うものである。京都市美術館は、左京区岡崎円勝寺町に所在し、敷地は、平安時代後期に建立された「勝」の字をもつ６つの御願寺、通称六勝寺のうちの円勝寺と成勝寺の推定地である。円勝寺は天治二年（1125）に造営がはじまった待賢門院藤原璋子の御願寺、成勝寺は保延五年（1139）に金堂などの供養が行われた崇徳天皇の御願寺である。また、弥生時代から古墳時代の集落跡である岡崎遺跡の範囲にも含まれる。

京都市美術館の再整備に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）が試掘調査を実施し、平安時代の遺構面が良好に遺存していることが確認されたため、発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。調査は、2014年度から2017年度の４箇年度にわたって実施することが計画され、今回はその最終年度の第４期目にあたる。

今回の調査地は、京都市美術館本館の北側、東側、西側、本館内部の９箇所に分かれる。各調査

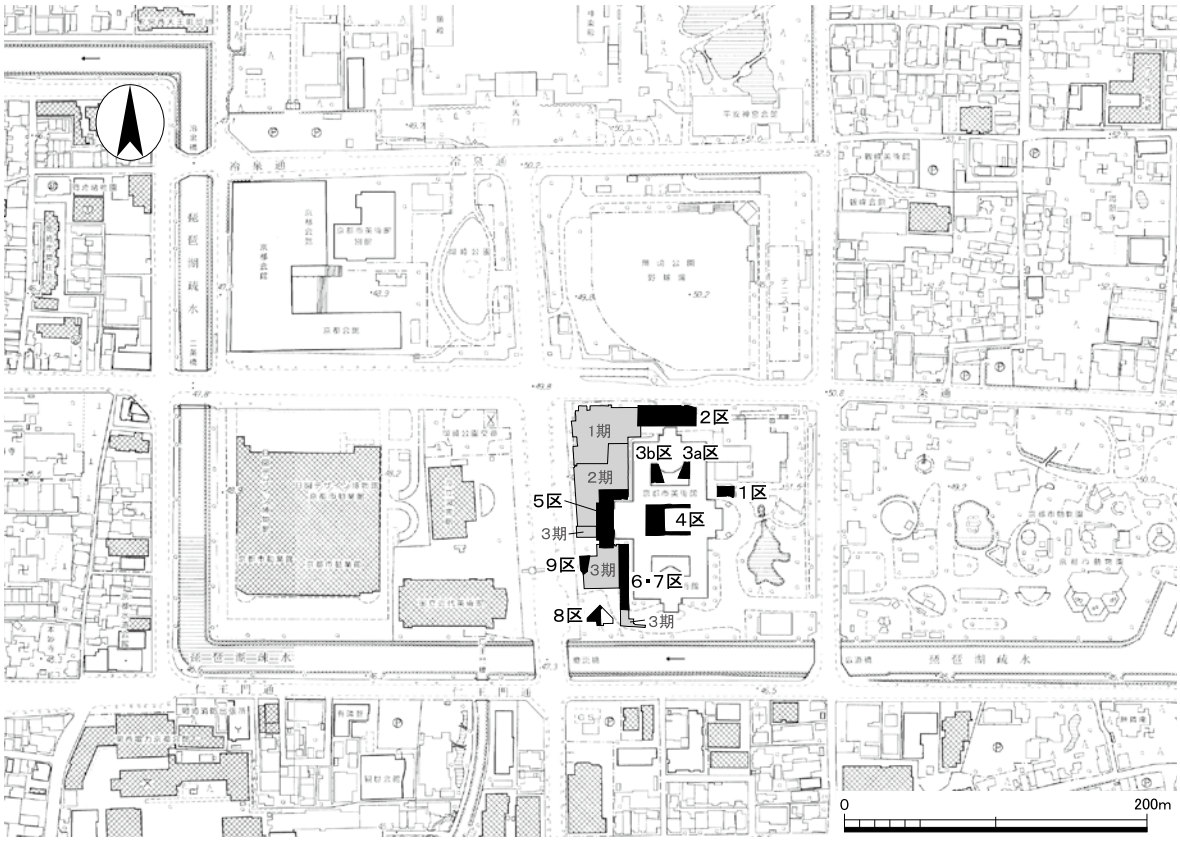


図１　調査地位置図（１：5,000）

図２　３区調査前全景（南西から）

図３　４区調査前全景（東から）

図４　８区作業状況

図５　現地公開

区の配置は図版１の通りである。なお、６区と７区については、当初別の調査区であったが、同時に調査可能となったため、６・７区とした。調査面積は、合計1907.5㎡である。2017年４月17日に調査を開始し、2018年２月24日に全ての調査を終了した。各調査区の調査面積、調査期間、調査担当者は表１にまとめた。調査の進展に伴い適宜、文化財保護課の検査指導を受け、検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授、立命館大学の木立雅朗教授の視察を受けた。

調査は、遺構面と遺構群の性格を鑑み、２面５時期に分けて行った。Ⅰ期が弥生時代から古墳時代、Ⅱ期が六勝寺存続期とされる平安時代から室町時代前期、Ⅲ期が六勝寺廃絶後の室町時代後期から近世である。Ⅱ期は、平安時代をⅡ－１期、鎌倉時代から室町時代前期をⅡ－２期に細分して調査を行った。また２・３・４区では、近代の遺構をⅣ期として調査した。調査中、2017年10月

表１　調査区一覧表

調査区	調査期間	面積(㎡)	担当者
1区	2017.4.17～5.22	71.9	柏田有香
2区	2017.4.24～7.3、9.11～12.1	511.3	柏田有香、辻　裕司、松永修平、鈴木康高、末次由紀恵
3区	2017.11.28～12.21	132.5	末次由紀恵、辻　裕司
4区	2017.8.2～9.15、10.23～11.8	312.8	松永修平、辻　裕司
5区	2017.12.12～2018.2.24	452.3	柏田有香、辻　裕司
6･7区	2017.7.18～8.30	246.6	柏田有香
8区	2017.8.23～9.21	127.5	柏田有香
9区	2017.10.30～12.1	52.6	辻　裕司、柏田有香

21日に２区の現地公開と京都市考古資料館主催の現地講座を開催し、成果の公表に努めた。

調査および報告書作成にあたり、以下の方々から御指導・御教示を得ました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）

網 伸也、石田潤一郎、伊藤淳史、上原真人、梶川敏夫、木立雅朗、國下多美樹、鈴木久男、竹本 晃、田島靖大、長宗繁一、西山良平、平尾政幸、吉川義彦、吉野秋二

（２）位置と環境

１）地理的環境

調査地は、京都盆地の北東部、鴨川と東山に挟まれた、白川扇状地上に位置する。白川扇状地は、その名の通り、比叡山と如意ヶ岳の間に端を発する白川の氾濫堆積物によって形成された扇状地である。現在の白川は、京都盆地北東部を東山の山裾に沿って南流し、調査地の東で琵琶湖疏水に合流し、さらに調査地南西で分岐して、四条通で鴨川に合流するが、近世以前は三条通の北を西に流れ、鴨川に合流していたとされる。白川の流域一帯は花崗岩地帯であり、風化花崗岩のいわゆる「白川砂」と呼ばれる氾濫堆積物が、流域一帯に厚く堆積する。その下層では約３万年前に堆積した姶良Ｔｎ（ＡＴ）火山灰層が確認されている。調査地周辺では、ＡＴ降灰直後から縄文時代晩期まで断続的に土砂の流入があったことが過去の調査で明らかとなっており[1)]、弥生時代には現在の地形に近い地盤が形成されていたものとみられ、地形は、大きくは北から南に、東から西に緩やかに傾斜する。

２）歴史的環境（表２）

前述した、白川扇状地の堆積層や、流路堆積層からは縄文時代の遺物が出土するものの、当地周辺で確実に人の居住が確認できるのは、弥生時代中期初頭である。その後、弥生時代から古墳時代を通じて集落が営まれており、北は現在の丸太町通、南は仁王門通のやや南、東は白川通、西は東大路通のやや西の、東西約1.2㎞、南北約0.7㎞の範囲が岡崎遺跡として遺跡指定されている。弥生時代中期の遺構は遺跡北西部に集中し、弥生時代後期になると、集落の中心が遺跡中央部に移動する。以後、遺跡中央部の複数の流路間の微高地を移動しながら、古墳時代後期まで集落が展開するが、７～８世紀の飛鳥・奈良時代の遺構・遺物は見つかっていない。

平安時代になると、調査地周辺は、平安京近郊にある景勝の地として尊ばれ、貴族の別業が営まれた。藤原家累代の別業白河殿がその代表である。白河殿は藤原良房から基経、忠平、道長、頼通と伝領され、延久六年（1074）の頼通没後、左大臣藤原師実に伝領されたが、師実は白河殿を承保二年（1075）に白河天皇に献上した。それを契機とし、まもなく白河天皇が法勝寺の造営を開始し、承暦元年（1077）に金堂や講堂、五大堂、阿弥陀堂などの落慶供養が行われている。その後、法勝寺周辺に次々と寺院や院御所が造営され、一帯が「白河」「白川」などと呼ばれるようになった。白河の寺院群のうち、寺名に「勝」の字をもつ６つの御願寺が、のちに「六勝寺」として並び称されるようになる。供養年順に、法勝寺・尊勝寺・最勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺がそれであ

表２　関連年表

時期	天皇	上皇	六勝寺					
			法勝寺	尊勝寺	最勝寺	円勝寺	成勝寺	延勝寺
平安中期	1072 白河		この頃、藤原氏が別業を営み白河院と号す〔栄華物語〕。 長元元年(1028)3.20藤原頼通が道長から譲られた白河院に移る〔左〕。 承保二年(1075)6.13藤原師実、別業を天皇に献上〔百〕。 承暦元年(1077)12.18金堂・講堂・五大堂・阿弥陀堂・僧房等供養〔法勝寺供養記〕。 同年12.24封戸施入される〔水〕。 承暦二年(1078)法勝寺で大乗会始修〔扶〕。 永保三年(1083)10.1九重塔・薬師堂・八角堂等供養〔扶〕。 応徳二年(1085)8.29常行堂供養〔後〕。					
平安後期	1086 堀河	1086 白河	寛治七年(1093)頃、常行堂内に御所あり〔中〕。					
	1107 鳥羽		天仁二年(1109)2.27北斗曼陀羅堂供養〔殿〕。	康和二年(1100)3.2尊勝寺造営開始の日時を勘申する〔中右記目録〕。 同年7.25法勝寺西隣仮屋で仏像造る〔為房卿記〕。 康和四年(1102)7.21金堂・講堂・東西塔・観音堂・五大堂等供養〔中〕。 康和五年(1103)3.11九条堂造営。 長治二年(1105)12.19准胝堂・阿弥陀堂・法華堂を供養〔中〕。	永久六年(1118)2.21尊勝寺東辺で造営始まる〔中〕。 元永元年(1118)12.17金堂・薬師堂・五大堂・塔・南大門等供養〔帝・百〕。			
	1123 崇徳		保安三年(1122)4.23小塔院(五寸塔三十万基)供養〔帝・百〕。		保安三年(1122)12.15から灌頂始まる〔伊呂波字類抄〕。	大治元年(1126)3.7三重塔、翌年1.12五重塔、同3.19に西塔供養〔中〕。 大治三年(1128)3.13金堂・五大堂等供養〔中・帝〕。 大治五年(1130)12.26御堂(六時堂)供養〔長〕。		
		1129 鳥羽		大治四年(1129)12.16御堂供養〔中・長・百〕。	大治四年(1129)3.16五大堂焼失〔長・百〕、翌年再建〔中・百〕。		保延五年(1139)10.26金堂・五大堂・観音堂・宝蔵・門等供養〔百・成勝寺供養式〕。	
	1141 近衛		保延六年(1140)11.14塔心礎修復〔百・醍醐雑寺記〕。				この頃、境内に政所・修理所が見られる〔成勝寺年中相折帳〕。	久安五年(1149)3.20金堂・塔・門・一字金輪堂等供養〔世〕。
	1155 後白河							
	1158 二条	1158 後白河						長寛元年(1163)近衛殿寝殿を移築して、阿弥陀堂とする〔百〕。
	1165 六条							
	1168 高倉		仁安二年(1167)6.16御所内の不動堂供養〔百〕、塔に落雷〔百〕。	仁安三年(1168)9.17建物修造〔兵〕。	嘉応年間(1169～71)薬師堂転倒〔百〕。		仁安三年(1168)3.25鐘楼焼失〔百〕。	仁安二年(1167)11.14西大門焼失〔百〕。
				承安四年(1174)8.6三昧僧坊一宇焼失〔玉・吉〕。	安元元年(1175)10.23薬師堂再建〔百〕。		治承元年(1177)8.22御八講あり〔玉〕。	

御所・寺院等			関連事項
寺院・神社	御所	周辺	
		延喜五年(905)東光寺境内が景勝地となる〔扶〕。 天禄三年(972)白河院が花の名所の第一となる〔本朝文粋〕。	
		この頃から白河の地割施工が開始されたと推定できる。	
	応徳元年(1084)11.1白河房で五壇法が修され、白河法皇が渡御〔後〕。		
寛治四年(1090)頃、園城寺の増誉が白川院造る〔後〕、その後聖護院と号す。	嘉保二年(1095)5.10覚円僧正の房舎の地に院御所(南殿)を造営、同年11.29御所に付属して蓮華蔵院供養〔中・百〕。 康和元年(1099)11.22上皇、白河僧正坊(白川院)に御幸〔中右記目録〕。	寛治五年(1091)2.11鴨東より山科を経て坂本日吉社への道筋を記す〔西園寺家記録〕。	1086 白河上皇院政開始。 1086 鳥羽殿新造、2年後に北殿新造。この頃鳥羽殿の地割が施工されたと推定できる。
康和五年(1103)3.11増誉が白河上皇の意を受け熊野神社を勧請する〔中〕。			
	嘉承二年(1107)6.25尊勝寺修理の間、方違えにより、堀河天皇内裏に渡御〔殿〕。 永久二年(1114)2.25蓮華蔵院造営、阿弥陀堂供養〔中〕。 永久三年(1115)11.2白河上皇白川阿弥陀堂御所に移徒(泉殿と号す)〔百〕。 永久五年(1117)3.12白川新御所内三重塔供養〔殿〕。 元永元年(1118)3白河北殿造営、同年7.10白河法皇渡御〔中〕。 保安三年(1122)南殿内塔供養〔百〕。 保安四年(1123)1.19法皇白河新御堂供養〔百〕。	永久二年(1114)11.30尊勝寺北側の橘頼里堂が焼失〔中〕。	
		大治二年(1127)白河の地割が神楽坂まで拡大された〔鯨珠記〕。	
大治四年(1129)証菩提院供養〔百〕。	大治四年(1129)頃、白河北殿拡充〔百〕。		1129 鳥羽上皇院政開始。
天承二年(1132)3.13得長寿院観音堂供養〔中〕。	大治五年(1130)6蓮華蔵院三重塔供養〔本〕。 天承元年(1131)南殿内御堂を蓮華蔵院とする〔中〕。 長承元年(1132)10.7北殿西側に宝荘厳院供養〔帝・中・百〕。 同年北殿に付属して東御所造営〔百〕。	保延元年(1135)8美福門院、宝荘厳院に遠江国初倉荘を寄進〔東寺百合文書〕。	
保延七年(1141)2.21歓喜光院御堂等供養〔百・元〕。 康治元年(1142)7.11金剛勝院(白川坊)供養〔世〕。	康治三年(1144)1.1白河押小路殿新造〔台〕。 天養元年(1144)5.9北殿焼失、同年10.26再建、鳥羽上皇遷御〔台〕。 久安二年(1146)蓮華蔵院で修二会あり〔台〕。	康治元年(1142)8.25白河御願寺等防水害のため鴨川整備〔世〕。 同年鴨川東に貴賤の邸宅進出のため東岸に堤防造営。	
仁平元年(1151)6.13福勝院阿弥陀堂等供養〔百〕。 仁平三年(1153)10金剛勝院焼亡、後再建〔世〕。 久寿元年(1154)10.21福勝院三重塔供養〔百〕。 久寿二年(1155)福勝院(白河御堂)護摩堂に高陽院を埋葬〔台〕。	仁平二年(1152)11.15金剛勝院院御所となる〔兵〕。 同年12.18宝生厳院・蓮華蔵院で百体阿弥陀仏供養〔山〕。 保元元年(1156)7.11保元の乱により白河北殿焼失〔兵〕。 保元三年(1158)1.10押小路殿鳥羽天皇皇后御所ともなる〔兵〕。		1154 鳥羽金剛心院造営。 1156 保元の乱。 1158 後白河上皇院政開始。 1161 法住寺殿造営、この頃から法住寺殿の地割が施工されたと推定できる。 1164 蓮華王院造営。 1167 平清盛太政大臣になる。
治承二年(1178)10.7源頼政、菩提院辺に一堂を建立する。			

時期	天皇	上皇	六勝寺					
			法勝寺	尊勝寺	最勝寺	円勝寺	成勝寺	延勝寺
鎌倉	1180 安徳 1183 後鳥羽		元暦二年(1185)7.9大地震により阿弥陀堂・金堂回廊・鐘楼・常行堂回廊・南大門・北門・中門等転倒、塔中破〔玉〕。	元暦二年(1185)講堂・五大堂・四面築地・西門が転倒。	元暦二年(1185)薬師堂の三面築地が転倒。	元暦二年(1185)地・中塔九輪破損。		
	1198 土御門	1198 後鳥羽			建久九年(1198)頃、金堂・南大門修造〔壬生家文書〕。	建久九年(1198)1.11修正会あり〔明〕。	文治二年(1186)6.29後白河上皇、成勝寺修造を諸国に課し、源頼朝が奉ずる〔吾〕、6御八講あり〔壬生家文書〕。	
	1210 順徳		承元二年(1208)5.15落雷の為塔焼亡〔百・猪隈関白記〕。 建暦三年(1213)4.26栄西により塔修復〔元・明〕。	健保二年(1214)8.10台風の為南大門倒壊〔百〕。 承久元年(1219)4.2西塔焼失〔皇帝紀抄〕。		承久元年(1219)金堂・塔3基焼失。	承久元年(1219)金堂・塔焼失。	承久元年(1219)金堂・塔焼失。
	1221 仲恭 1221 後堀河		安貞二年(1228)9.29正庁・宝蔵等焼失〔百〕。 宝治元年(1247)8.28阿弥陀堂焼失、建長五年(1253)12.3再建〔経俊卿記〕。 文永十年(1273)7.2薬師堂修造〔吉続記〕。	安貞元年(1227)閏3.19金堂転倒〔百〕。 寛喜三年(1231)8.1塔焼亡〔明・百〕。 貞永元年(1232)6.1宝蔵焼失〔百〕。 文永四年(1267)中門・二重楼門修造、正和三年(1314)2.14焼失〔花園天皇宸記〕。	正和三年(1314)2.14尊勝寺と共に焼失〔花園天皇宸記〕。 元弘元年(1331)8には青連院に付される〔華頂要略〕。	文暦元年(1234)頃、堂宇再建〔真経寺経裏文書〕。	仁治三年(1242)4.29御八講あり〔平戸記〕。 弘安十年(1287)7.19年貢納入〔美吉文書〕。	元仁二年(1225)9.2堂宇焼失〔百〕。鎌倉時代には寺領荘園あり。
室町			暦応五年(1342)3.20金堂・講堂・阿弥陀堂・塔等焼亡、これまで法勝寺御八講存続〔中院一品記〕。	元弘三年(1333)3.28南北朝の乱で全焼〔太平記〕。		延文三年(1358)11.18に年貢納入〔美吉文書〕。		
			応仁二年(1468)8.4五大堂等、応仁・文明の乱で焼亡・廃絶〔言継卿記〕。		応仁・文明の乱で廃寺〔京都坊目誌〕。	応仁・文明の乱で廃寺〔京都坊目誌〕。	応仁・文明の乱で廃寺〔京都坊目誌〕。	

略称　中：中右記、百：百練抄、吉：吉記、明：明月記、殿：殿歴、帝：帝王編年記、長：長秋記、玉：玉葉、山：山槐記、吾：吾妻鏡、元：元亨釈書、兵：兵範記、左：左経記、水：水左記、扶：扶桑略記、後：後二条師通記、台：台記、世：本朝世紀、碧：碧山日録

御所・寺院等			関連事項
寺院・神社	御所	周辺	
	元暦元年(1184)4.16押小路殿が後白河法皇御所となる〔吉〕。	寿永二年(1183)12.29春日河原に崇徳院と藤原頼長を祀る祠が建てられる〔吉〕。	
元暦二年(1185)1.8聖護院付近に仏所小路初見〔吉〕。 同年、得長寿院観音堂転倒、その後廃寺となる〔山・吉〕。	元暦二年(1185)大地震により被害を受ける〔玉〕。		1185 平氏滅ぶ。
	文治四年(1188)12.19押小路殿が一時、後白河法皇御所となる〔山〕。 建久三年(1192)蓮華蔵院で修二会あり〔壬生文書〕。		1192 後白河上皇崩御。源頼朝鎌倉幕府開く。 1198 後鳥羽上皇院政開始。
	承元元年(1207)7.28金剛勝院上皇御渡〔明〕。 同年11.23後鳥羽天皇最勝四天王院供養〔百〕。 承元二年(1208)7.19岡崎殿(御所)新造、上皇移る〔明・百〕。		1201 鳥羽殿南殿・北殿修理。
承久元年(1219)証菩提院焼失。	承久元年(1219)4.2白河殿辺りから出火〔百〕。 最勝四天王院焼亡〔百〕。		
承久三年(1221)4.18宝荘厳院堂舎焼亡〔中〕。	承久三年(1221)閏10.1蓮華蔵院塔焼亡〔日次記〕。 寛喜元年(1229)12.22蓮華蔵院塔・十一面堂焼亡〔明〕。		1221 承久の乱。
元亨元年(1321)頃、歓喜光院復興、その後御八講行われる〔薩戒記〕。			
	暦応二年(1340)4.15蓮華蔵院塔焼亡〔明〕。		1333 鎌倉幕府滅亡。 1336 室町幕府開始。
応永十九年(1412)義持聖護院渡御〔山科家礼記〕。			
応仁元年(1467)8.4歓喜光院、応仁・文明の乱で焼亡〔京都坊目誌〕。 応仁二年(1468)8.5聖護院・熊野社焼亡〔碧〕。			1467～1477 応仁・文明の乱。

※ 上村和直氏作成の年表を一部改変。

る。それぞれの供養年や、史料上存在した伽藍については表２の通りである。六勝寺ほか各寺院や院御所の位置や、白河の地割については、文献史料や地名・字名・発掘調査成果などから、古くから研究されてきたが、未だ不明な点が多い。六勝寺の中では、法勝寺・尊勝寺・最勝寺については、発掘調査成果からほぼその位置が確定しており、平安京の二条大路を東に延長した、二条大路末の突き当り、現在の京都市動物園からその北一帯にかけて法勝寺、法勝寺の西、二条大路末の北側、現在の京都ロームシアターの付近から北西にかけて尊勝寺、尊勝寺の東に最勝寺が位置する。調査地の京都市美術館は、「圓勝寺供養呪願文」（『本朝続文』）の「…　法勝最勝　蓮宮ト隣　…」の記載や周辺の発掘調査成果から、円勝寺の推定地となっており、円勝寺の西に成勝寺、成勝寺の西に延勝寺が推定されている。

六勝寺をはじめとする白河の建造物群は、度々、地震や失火、落雷の被害を受けるが、特に元暦二年（1185）の大地震では、法勝寺の塔をはじめとした主要堂宇や、尊勝寺・最勝寺・円勝寺の各堂宇が甚大な被害を受けている（表２参照）。また、承元二年（1208）には法勝寺の八角九重塔が落雷により焼亡し、その後、建暦三年（1213）に栄西により再建されている。承久元年（1219）には白河殿の辺りからの失火により、尊勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺・証菩提院の主要堂宇が焼失するという大災害に見舞われている。その後、再建や修造の記事が史料上に見えるものもあるが、13世紀後葉以降、史料上の記録は激減する。14世紀代も法勝寺を除けば、文献史料上の記録はわずかであり、白河の寺院群が衰退していたことを推測させ、『京都坊目誌』には、法勝寺をはじめ、最勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺・歓喜光院などが応仁の乱の兵火をきっかけに廃絶したと記されている。

その後、室町時代の末に、白河一帯が岡崎郷と称されるようになり、寛永年間には悲田院の乞士などが岡崎村領内に集住して悲田院村を形成した。『京都坊目誌』には、「悲田院の址　字円照地にあり」と記される。その他の江戸時代の土地利用については、発掘成果から、多くが田畑となっていたと推測されるが、江戸時代後期の窯道具や陶磁器類も複数の調査で一定量出土しており、調査地の南の粟田口三条を中心に栄えた粟田焼の窯が、調査地周辺まで展開していた可能性がある。

江戸時代末には、開国を迫る外国からの圧力によって、禁裏の存在意義が高まり、文久三年（1863）の将軍徳川家茂上洛や、元治元年（1864）の禁門の変を契機として、諸藩が多数の藩士を京都に集結させた。その結果、京市中の藩邸では藩士を収容できず、郊外に新たな土地を求めることとなり、岡崎周辺にも多数の藩邸が建てられた。慶応四年（1868）に描かれた「改正京町御絵図細見大成[2)]」では、調査地は「加州屋敷」と記されており、加賀前田藩邸が置かれたことがわかる。屋敷の範囲は、東は岡崎道、北は二条通、西は古川通付近、南は仁王門通付近で、京都市美術館敷地は加州屋敷の東半分にあたる。

明治維新後、藩邸は取り壊され田畑に戻るが、明治十八年（1885）から明治二十三年（1890）にかけて琵琶湖疏水が開削され、再び近隣の開発が進む。明治二十八年（1895）には、平安遷都千百年を記念して平安神宮が創設され、平安遷都一千百年紀年祭と第四回内国勧業博覧会が開催されている。明治三十六年（1903）には京都市紀念動物園、明治四十二年（1909）には京都府立図書館

が開館し、現在の京都市美術館の場所には、京都市における商品を社会に紹介し、販路の拡大を図る目的で、武田五一設計の京都商品陳列所[3)]が開所した。翌々年には、その南隣に京都第一勧業館が移設されるなど、岡崎地域一帯は、京都の文化ゾーンとして発展する。大正四年（1915）には、大正天皇の即位を記念して大典記念京都博覧会が岡崎公園で開催されている。

昭和三年（1928）には、昭和天皇の即位を祝う大礼記念京都大博覧会が開催され、その記念事業として計画された前田健二郎設計の大礼記念京都美術館が昭和八年（1933）に開館した。この美術館は、戦後、駐留軍に接収されたが、接収解除後の昭和二十七年（1952）に京都市美術館と改称し、現在に至る。

（３）周辺の調査（図６、表３）

古墳時代以前

調査地が位置する岡崎遺跡では、確実に集落が形成されると考えられる弥生時代より前の古環境や旧地形の復元、また現地形の形成過程を明らかにすることを目的とした調査が積極的に行われている。調査地周辺でも、調査７・12・13・25・30・31・32・33で姶良Ｔｎ（ＡＴ）火山灰層や、その他の火山灰層が確認されている。

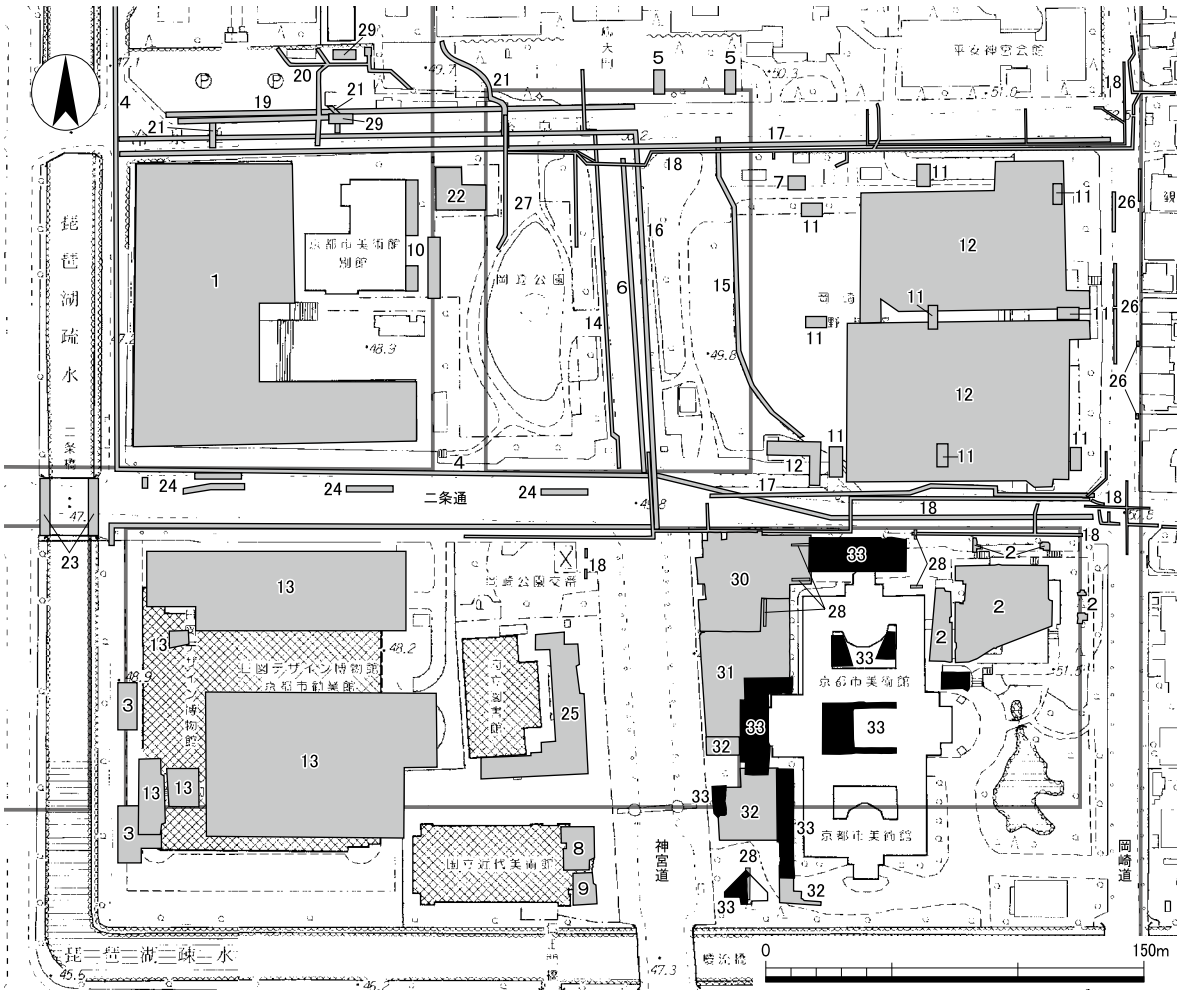


図６　周辺調査位置図（１：3,000）

表3　周辺調査一覧表

番号	推定地	調査方法	調査年度	調査組織	主要な遺構・遺物			文献
					古墳時代以前	平安～室町時代	江戸～明治時代	
1	尊勝寺跡	発掘	1959	奈文研	石器、須恵器	建物、雨落溝、土坑		「尊勝寺跡発掘調査報告」『奈良国立文化財研究所学報第十冊　平城京第一次飛鳥板葺宮跡発掘調査報告』 奈良国立文化財研究所　1961年
2	円勝寺跡	発掘	1970	円勝団	流路	東西柱列(掘立柱建物か)、礎石据付穴、南北溝、瓦溜、水受場	堀(江戸)、池(明治)	「円勝寺の発掘調査(上・下)」『仏教藝術』82・84号　毎日新聞社　1970・1972年
3	成勝寺	試掘	1974	六勝研		柱穴、道路跡、池跡		『延勝寺跡隣接地(勧業館構内)試掘調査中間報告』 六勝寺研究会　1974年
4	尊勝寺跡 二条大路末	立会	1976	研究所				『昭和51年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2008年
5	最勝寺跡	発掘	1976	保護課		東西築地、溝		「尊勝寺跡推定地　第Ⅲ次発掘調査概要」『六勝寺跡』京都市埋蔵文化財年次報告1976-Ⅱ　京都市文化観光局文化財保護課　1977年
6	最勝寺跡	立会	1979	研究所				『昭和53年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年
7	最勝寺跡	発掘	1982	研究所	火山灰層 (標高48m)			「最勝寺跡」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1983年
8	成勝寺跡	発掘	1983	研究所	サヌカイト無茎石鏃	南北溝(平安後期)、土坑、池状遺構　平安末から鎌倉の瓦多量		「成勝寺跡」『昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1984年
9	成勝寺跡	発掘	1983 ～ 1984	研究所		南北溝・井戸(平安後期)		「成勝寺跡」『昭和58年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1985年
10	尊勝寺跡	試掘	1988	研究所	古墳以前の土器	柱穴(平安)、瓦溜(中世)、整地層(平安後期)	柱穴、溝(江戸)	「尊勝寺跡・岡崎遺跡」『昭和63年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1993年
11	白河街区跡	試掘	1988	研究所	溝(弥生から古墳の土器多量)	整地層(平安)、東西溝(平安)	落込(江戸)	「最勝寺跡・岡崎遺跡」『昭和63年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1993年
12	白河街区跡	発掘	1991 ～ 1992	研究所	古墳2基(古墳後期)、自然流路・堰、AT火山灰層、U-Oki火山灰、K-Ah火山灰	東西方向地業跡・東西溝(平安後期)、南北溝、瓦溜4基、瓦集中部		「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1995年
13	成勝寺跡	発掘	1992	研究所	自然流路、竪穴建物2棟(古墳後期)、方形周溝墓10基(弥生～古墳)、AT火山灰層	井戸15基(11世紀後半～14世紀)、東西溝(平安後期～室町)、南北溝3条(平安後期)、土器溜(11世紀後半)	粟田焼関連窯道具(江戸後期)	「成勝寺跡」『平成4年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1995年
14	最勝寺跡・ 尊勝寺跡	立会	1994	研究所	流路状落込み(庄内～布留)	東西溝(平安後期・最勝寺)、東西溝(二条大路末北側溝か、平安後期)、土坑(平安後期)、東西溝(最勝寺北面道路南側溝か、平安末)、南北溝		「最勝寺跡・岡崎遺跡(94KS257)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』 京都市文化観光局　1995年
15	最勝寺跡	立会	1995	研究所		土坑7基(平安)、南北溝(最勝寺東限か、鎌倉)		「最勝寺跡・岡崎遺跡(94KS389)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成7年度』 京都市文化観光局　1996年
16	最勝寺跡・ 尊勝寺跡	立会	1995	研究所	溝(古墳初頭)、土坑、落込み(古墳時代、11世紀末に埋める)	東西溝(二条大路末南側溝か、平安後期)、土坑、建物地業(凝灰岩地覆石あり、礎石据え付け穴2基あり)・瓦溜・柱穴・土坑(平安後期)、南北溝・版築盛土(築地と内溝か)、河原石組列と溝、南北石組溝(建物雨落溝)、東西石組溝(建物雨落溝)、掘込地業と東西石列(建物基壇、11世紀後半～末)	井戸、土坑(江戸)、暗渠、瓦溜溝、柱穴(江戸)	「尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡(95KS62)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成7年度』 京都市文化観光局　1996年
17	最勝寺跡・ 尊勝寺跡	発掘	1995	研究所	流路	平安中期包含層、南北溝(車道西側溝)、南北溝(最勝寺東限か)、建物と雨落(最勝寺内)、築地と溝(最勝寺西限築地か)、路面・側溝、建物基壇4基と雨落溝(尊勝寺内)、瓦溜、土坑	井戸、柵列、土坑、柱穴、溝、瓦溜、流路(江戸)	「六勝寺跡・岡崎遺跡」『平成7年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1997年

番号	推定地	調査方法	調査年度	調査組織	主要な遺構・遺物			文献
					古墳時代以前	平安～室町時代	江戸～明治時代	
18	最勝寺跡・成勝寺跡・円勝寺跡	立会	1995	研究所		溝(二条大路末南側溝か)、南北溝(車道西側溝、東側溝か)、東西方向雨落溝、南北溝1条(最勝寺東限か)、東西溝(最勝寺北限か)、柱穴、土坑		「最勝寺・法勝寺・成勝寺(95KS226・229)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成8年度』 京都市文化市民局　1997年
19	尊勝寺跡	発掘	1996	研究所		瓦溜	路面(明治)	「六勝寺跡・岡崎遺跡」『平成8年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1998年
20	尊勝寺跡	立会・発掘	1996	研究所	遺物包含層(古墳初頭)	土坑・瓦溜、掘込地業・根石(平安後期)、土坑(鎌倉)	瓦溜(江戸)	「尊勝寺跡・最勝寺跡1」『平成8年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1998年
21	尊勝寺跡・最勝寺跡	立会・発掘	1996	研究所		雨落溝(平安後期)、瓦溜(平安後期)		「尊勝寺跡・最勝寺跡2」『平成8年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1998年
22	尊勝寺跡・最勝寺跡	立会	1996	研究所		路面(幅12m)、南北溝、土坑		「尊勝寺・最勝寺(96KS136)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成8年度』 京都市文化市民局　1997年
23	延勝寺跡	立会	1997	研究所	土坑、流路(古墳初頭)	土坑	土坑、耕作溝(江戸)	「岡崎遺跡・延勝寺跡(97KS82)」『京都市内遺跡立会調査概報　平成10年度』 京都市文化市民局　1999年
24	尊勝寺跡	試掘	1998	研究所	遺物包含層(弥生後期)	路面、土坑		「六勝寺跡」『平成9年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1999年
25	成勝寺跡	発掘	1998	府埋セ	竪穴建物1(庄内期)、竪穴建物5(古墳後期)、掘立柱建物(古墳後期)、湿地状遺構、AT火山灰層	掘立柱建物、井戸、土坑	土坑(江戸)	「成勝寺跡・岡崎遺跡」『京都府遺跡調査概報』第86冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　1999年
26	白河街区跡	発掘	2005	研究所	土坑(古墳初頭)	瓦溜3基(平安後期～鎌倉)、ピット、土坑	井戸、土坑(明治)	『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-9　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2005年
27	最勝寺跡	詳細分布	2013	保護課		園地か(平安後期)、東西溝(二条大路末南側溝か)		「最勝寺跡・岡崎遺跡(13KS124)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成25年度』 京都市文化市民局　2014年
28	円勝寺跡	試掘	2013	保護課	流路	石組雨落溝、礎石、整地層		『京都市内遺跡試掘調査報告　平成25年度』 京都市文化市民局　2014年
29	尊勝寺跡	詳細分布	2014	保護課				「尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡(14R117)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成26年度』 京都市文化市民局　2015年
30	円勝寺跡	発掘	2014	研究所	流路、溝、土坑、AT火山灰層	地業、東西溝、南北溝、井戸、柱列、柱穴、土坑	堀・橋・井戸・土坑(江戸)、柱列・土坑列(明治)	『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2014-13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年
31	円勝寺跡	発掘	2015	研究所	流路、護岸、AT火山灰層	掘立柱建物、柵、柱穴、井戸、土坑、南北溝、石組遺構	井戸、土坑、溝	『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2015-17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年
32	円勝寺跡	発掘	2016	研究所	流路、溝、AT火山灰層	南北溝、東西溝、掘立柱建物、柱穴、土坑	井戸、土坑、石組溝(江戸)	『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2016-17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2017年
33	円勝寺跡	発掘	2017	研究所	流路、溝、土坑、AT火山灰層	南北溝、東西溝、柱列、柱穴、井戸、土坑	井戸・土坑・溝(江戸)、窯道具(江戸)、建物基礎・柱列(明治)	本報告

※　調査組織の表記は以下の様に略した。
研究所：財団法人・公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所、奈文研：奈良国立文化財研究所、円勝団：円勝寺発掘調査団、六勝研：六勝寺研究会、保護課：京都市文化観光局・京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課、府埋セ：財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

その後、縄文時代晩期にかけて白川の氾濫堆積物によって扇状地が形成され、それを基盤層として集落が成立する。この扇状地内を北東から南西に流れる流路が複数検出されており、その内、最も規模が大きいと考えられる流路が美術館北側の調査11・12・17、美術館内の調査２・30・31・32・33、美術館西側の調査25などで検出されている。この流路は縄文時代後期から平安時代までの遺物を含み、存続期間も長かったと考えられる。岡崎遺跡に集落が確認される弥生時代中期前半の遺構は、流路を除くと遺跡北西部に集中しており、調査地周辺では見つかっていない。調査地周辺で居住の痕跡が確認できるのは弥生時代後期に入ってからで、調査13では方形周溝墓、調査32では人工的に開削されたと考えられる溝が見つかっている。続く古墳時代前期初頭の庄内式併行期にも調査13は墓域として継続し、その東の調査25では竪穴建物が検出されているほか、美術館内の調査30では、自然流路の西側で人工的に開削された溝から庄内式併行期の遺物が多量に出土している。古墳時代前期から中期の集落の中心は不明であるが、先述した美術館内を流れる流路からは当該期の遺物が多量に出土しており、流路を挟んで東と西に集落が存在したと推測される。古墳時代後期の遺構としては、調査12で円墳２基が見つかっているほか、調査13・25では複数の竪穴建物が検出されている。

平安時代から室町時代

平安時代の遺構としては、中期の遺構が最も古く、今調査地北側の二条通で実施された調査17で中期の遺物包含層、今回の調査33でも最も北側の２区で中期の遺物包含層や落込が検出されている。

白河の開発が本格化する平安時代後期から六勝寺が存続したとされる室町時代前期までの遺構は、全域で確認されている。

尊勝寺推定地の京都ロームシアター周辺の調査では、調査１で礎石建物やそれに伴う雨落溝、調査10で整地層や柱穴、調査16で建物地業や雨落溝・瓦溜・土坑など、調査17で建物基壇と雨落溝、調査19で瓦溜など多数の建物関連遺構が検出されている。

尊勝寺の東の最勝寺推定地では、調査５・14・18で最勝寺北限に関わる可能性のある東西溝や築地跡、調査15・17・18で最勝寺東限の可能性のある南北溝が検出されている。調査17では、最勝寺西限の可能性のある築地盛土と溝、建物と雨落溝がみつかっている。

尊勝寺と最勝寺の間と推定される調査22では、幅約12ｍの路面状の遺構が検出されている。また、二条通の調査24でも、路面状の遺構が見つかっているほか、調査14では二条大路末北側溝の可能性がある東西溝が見つかっている。

調査前は、最勝寺もしくは円勝寺の推定地であった岡崎グラウンドでの調査11・12では、二条大路末の北側溝の可能性のある東西溝とそれと平行する礫敷の地業跡が検出され、築地が存在した可能性が指摘されているが、その北側では平安時代の遺構は検出されず、寺院であった可能性は低いとされている。

成勝寺推定地の京都市勧業館みやこめっせの調査では、調査13で多数の井戸や溝が検出されているが、寺院に関連すると考えられる遺構は検出されていない。その東の京都府立図書館の調査25

でも井戸や小規模な掘立柱建物が検出されているのみである。

円勝寺推定地の京都市美術館の調査では、調査２で東西掘立柱列、礎石据付穴列、大規模な瓦溜などが検出されている。また、今回の京都市美術館改修に伴う一連の調査30～33では、屈曲して連続する大規模な東西溝と南北溝、多数の井戸、掘立柱建物などが検出されているが、寺院の主要堂宇と推定できる遺構は検出されていない。

江戸時代から明治時代

室町時代後期から江戸時代の耕作に関連する溝は、多くの調査で見つかっている。調査２・30では、加州屋敷の北端と考えられる東西方向の堀や橋脚の礎石と考えられる遺構が見つかっているほか、調査32でも加州屋敷に関連する可能性のある切石組みの東西溝が検出されている。また、調査13と今回の調査33などでは、粟田焼関連と考えられる窯道具や陶磁器が多数出土している。

明治時代の遺構としては、平安神宮西の駐車場の調査19で路面、京都市美術館敷地内の調査２で池跡、同じく美術館内の調査30・33で内国勧業博覧会に関連する可能性のある東西柱列、調査33で京都商品陳列所の建物基礎が検出されている。

註

１）「付章１　放射性炭素年代測定」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2017年

２）京都市オープンポータルサイト　https://data.city.kyoto.lg.jp/　で閲覧可能。

３）大正十年（1921）に京都市商品陳列所、大正十五年（1926）に京都市工芸館、昭和四年（1929）に京都市商品陳列館に改称。昭和六年（1931）に大礼記念京都美術館建設のため解体撤去。

引用・参考文献

福山敏男「六勝寺の位置について」『美術史学』第81・82号　1943年（『日本建築史研究』墨水書房　1968年に再録）

福山敏男「白河院と法勝寺の歴史」『法勝寺跡　京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅱ』京都市文化観光局　1975年

福山敏男「円勝寺の歴史の概要」『寺院建築の研究』（下）　中央公論美術出版　1983年

杉山信三『六勝寺と白河御所』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1991年

京都市編『史料　京都の歴史　第８巻　左京区』平凡社　1985年

上村和直「院政と白河」『平安京提要』角川書店　1984年

上村和直「２．調査地の位置と環境」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年

『文化財発掘Ⅲ－激動の幕末と京大キャンパス－』京都大学総合博物館平成28年度特別展リーフレット　2017年

２．遺　　構

（１）基本層序（図７）

全調査区を比較すると、流路や溝に削平されていない箇所での基盤層上面の標高は、最も北に位置する２区北東部が約48.6ｍと最も高く、次いで美術館本館内と東側に位置する１区・３区・４区が48.2～48.3ｍとほぼ平坦で、本館西側の５区→６・７区→８区→９区の順に低くなる。このことから、美術館敷地内での旧地形は、東が高く、西に低くなることがわかる。

１区　１区の現地表面の標高は、約49.3ｍである。地表下約1.0ｍまでが近現代盛土、その下に近代の整地層が約0.05ｍ堆積する。それを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は約48.25ｍで、調査区内での高低差は小さい。基盤層上面で調査を行い、Ⅱ－２期の遺構を検出した。

２区　２区の現地表面の標高は、約49.5ｍである。地表下約1.3ｍまでが近現代盛土、調査区西半ではその下が弥生時代から古墳時代の遺物を含む流路2180の堆積土となる。流路の堆積土を除去すると基盤層となる。調査区南西部では、流路堆積土の上面に11世紀代の遺物を含む整地層が約0.05ｍ堆積する。調査区東半では、近現代盛土層の下に中近世の耕作土が約0.25ｍ堆積する。その下に13世紀代の遺物を含む整地層が約0.1ｍ堆積し、それを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は、東から西へ低くなり、調査区東端では約48.6ｍ、調査区西端では流路2180に削平されて約47.5ｍとなる。基盤層上面でⅠ期とⅡ－１期、11世紀と13世紀の整地層上面でⅡ－２期、Ⅲ期、Ⅳ期の遺構を検出した。

３区　３区の現地表面の標高は、約49.4ｍである。３a区は、地表下約0.9ｍまでが近現代盛土層、その下に11～13世紀の遺物包含層が0.5～0.8ｍ堆積する。その下が、弥生時代から古墳時代の遺物を含む流路3019の堆積土となる。流路の堆積土を除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は、南西部では約48.2ｍ、北東部では流路3019に削平されて約47.2ｍとなる。基盤層上面でⅠ期、遺物包含層上面および基盤層上面でⅡ－２期とⅢ期の遺構を検出した。３b区は、地表下1.1～1.7ｍまでが近現代の盛土層、その下に13世紀の遺物包含層が約0.5ｍ堆積する。それを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は約48.0ｍで、調査区内では平坦である。基盤層上面でⅡ－２期とⅣ期の遺構を検出した。

４区　４区の現地表面の標高は約50.0ｍである。地表下約1.2ｍまでが近現代盛土、その下に中近世の耕作土が約0.35ｍ堆積する。その下には、北調査区西半のみ13世紀の遺物包含層が約0.2ｍ堆積するが、他は基盤層となる。基盤層上面の標高は、北調査区東端で約48.3ｍ、西調査区南端では約47.8ｍで、北東から南西へ低くなる。基盤層上面で、Ⅱ－１・２期とⅢ期、中近世の耕作土上面でⅣ期の遺構を検出した。

５区　５区の現地表面の標高は約47.8ｍである。地表下約0.4ｍまでが近現代盛土、その下に中近世の耕作土が約0.45ｍ堆積する。その下は、調査区西半では13世紀の遺物を含む整地層が0.2～0.6ｍ堆積し、さらにその下が弥生時代から古墳時代の遺物を含む流路5200の堆積土となる。流路

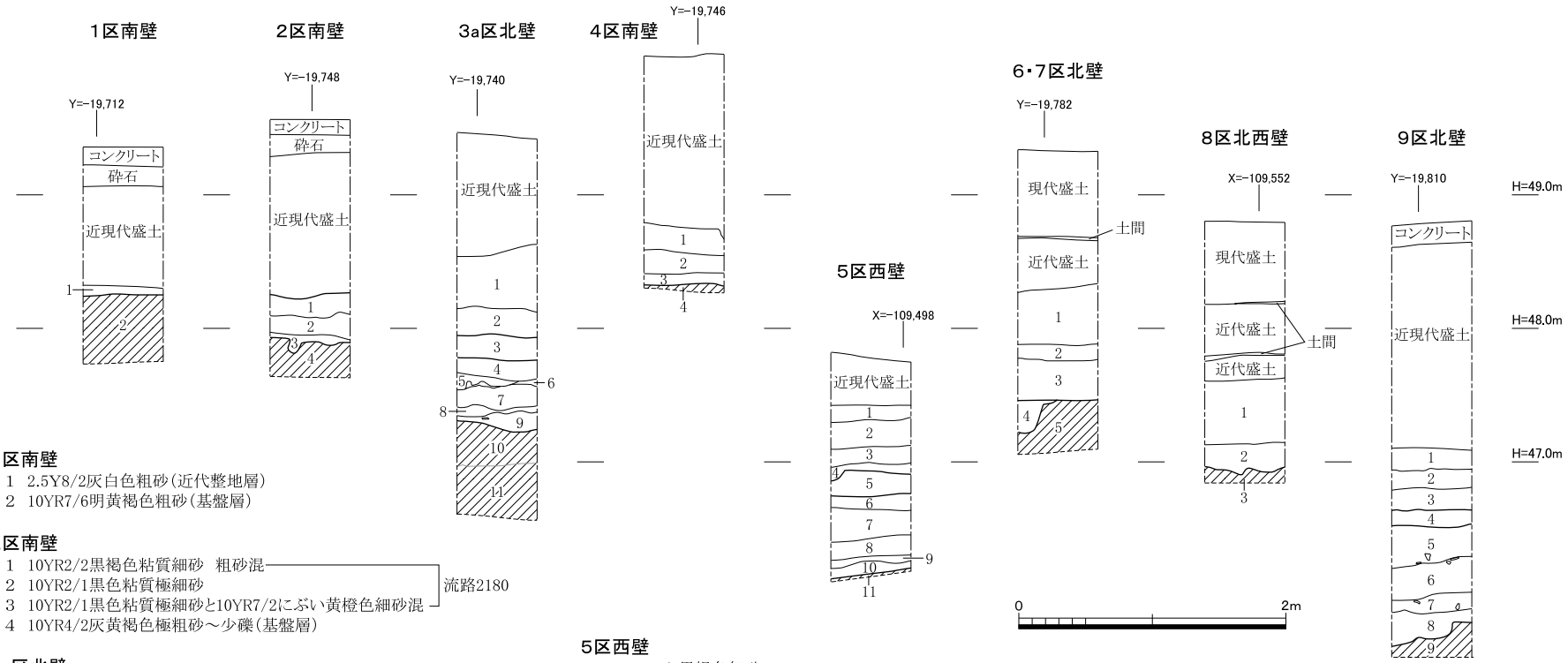


図7　基本層序（1：50）

1区南壁

1　2.5Y8/2灰白色粗砂（近代整地層）
2　10YR7/6明黄褐色粗砂（基盤層）

2区南壁

1　10YR2/2黒褐色粘質細砂　粗砂混
2　10YR2/1黒色粘質極細砂
3　10YR2/1黒色粘質極細砂と10YR7/2にぶい黄橙色細砂混
　　流路2180
4　10YR4/2灰黄褐色極粗砂～少礫（基盤層）

3a区北壁

1　10YR3/2黒褐色シルト～細砂
2　10YR3/3暗褐色シルト～細砂
　　12～13世紀遺物包含層
3　10YR3/2黒褐色シルト～細砂（11世紀遺物包含層）
4　10YR2/2黒褐色粘土～シルト
5　10YR5/3にぶい黄褐色細砂～中砂
6　10YR2/1黒色粘土～シルト
7　10YR2/2黒褐色細砂　10YR3/2細砂ブロック多量
8　10YR1.7/1黒色シルト～細砂
9　10YR3/2黒褐色シルト～細砂
　　流路3019
10　10YR4/3にぶい黄褐色中砂～粗砂
11　10YR4/3にぶい黄褐色粗砂
　　基盤層

4区南壁

1　10YR3/2黒褐色細砂　粗砂細礫多量
2　10YR3/2黒褐色シルト～細砂　粗砂細礫多量
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　細砂ブロック含む
　　中近世耕作土
4　10YR5/3にぶい黄褐色～10YR7/3にぶい黄橙色細礫φ0.2～0.5㎝（基盤層）

5区西壁

1　10YR3/1黒褐色細砂
2　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂
3　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　ブロック土少量
4　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　ブロック土多量
　　中近世耕作土
5　10YR2/1黒色細砂～粗砂　土器片多　固く締まる（13世紀整地層）
6　10YR2/1黒色細砂　粗砂中量
7　10YR2/2黒褐色粘質極粗砂　粗砂少
8　10YR3/1黒褐色粘質シルト～極細砂
9　10YR5/6黄褐色細砂
10　2.5Y3/2黒褐色粘質シルト
　　流路5200
11　10YR6/6明黄褐色粗砂（基盤層）

6・7区北壁

1　10YR2/2黒褐色細砂～中砂　小礫混（幕末盛土か）
2　10YR3/1黒褐色細砂　粗砂混
3　10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
　　中近世耕作土
4　10YR4/2灰黄褐色中砂（耕作溝）
5　10YR5/8黄褐色粗砂（基盤層）

8区北西壁

1　10YR3/2黒褐色細砂～中砂　小礫少量
2　10YR4/3にぶい黄褐色細砂
　　中近世耕作土
3　10YR5/4にぶい黄褐色粗砂（基盤層）

9区北壁

1　10YR4/2灰黄褐色細砂　粗砂混
2　10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
3　10YR5/2にぶい黄褐色粘質細砂
　　中近世耕作土
4　10YR3/3暗黒褐色細砂～粗砂（15世紀遺物包含層）
5　10YR3/1黒褐色細砂　極粗砂～小礫・土器片多量
6　10YR2/1黒色細砂～中砂　極粗砂混、瓦多量
7　2.5Y3/1黒褐色中砂　φ1～5㎝の礫・瓦多量
8　2.5Y5/3黄褐色極粗砂　φ1～5㎝の礫・瓦多量
　　（溝9006）
9　粗砂・シルト・細砂の互層（基盤層）

表４　遺構概要表

時代	当報告書での時期区分		遺構							
			1区	2区	3区	4区	5区	6・7区	8区	9区
弥生～古墳時代	Ⅰ期	弥生～古墳時代		流路2180	流路3019、落込3020		土坑5191～5193、流路5200、落込5190	溝6170		
平安時代	Ⅱ-1期	平安時代中期		落込2480						
		平安時代後期		溝2093～2095、柱列2294、柱穴群、井戸2025・2100、土坑2141・2156・2157・2160・2280・2378・2380～2382・2388・2404・2487、落込2150		土坑4090・4091・4101・4111・4119、柱穴群	溝5140、柱穴群、土坑5089・5091・5159・5202、井戸5032	建物6110、柱穴6107・6127・6158、柱穴群、土坑6100・6150・6151・6161	柱穴8013、土坑8016	溝9006C、土坑9008・9009、落込9007
鎌倉時代	Ⅱ-2期	鎌倉時代	井戸1007、土坑1001～1005	溝2090・2092、柱列2069・2313、柱穴2084、柱穴群、土坑2015・2020・2021・2066・2071・2086・2096・2117・2167・2168・2174・2277・2324・2363・2354・2389・2421・2427・2440、瓦溜2355	土坑3003・3004・3009～3011・3018、柱穴群	溝4009・4010・4055・4056、柱列4074・4089、柱穴群、井戸4070、土坑4060・4064・4066・4067・4118	溝5135、柱列5139、柱穴群、土坑5025・5035・5036・5100・5101・5129・5145・5146・5147・5157・5154、井戸5031・5090、曲物5150	土坑6079・6135・6136、溝6155・6156、柱穴群		溝9006B
室町時代		室町時代前期					溝5115			溝9006A
	Ⅲ期	室町時代後期		溝2050・2051・2070・2187、土坑2089、耕作溝群	耕作溝群	耕作溝群	溝5028、落込5126、土坑5033、耕作溝群	土坑6080、耕作溝群	畔8007、溝8001・8002・8005・8006・8008・8009・8010・8014、土坑8003・8015・8018	耕作溝群
江戸時代		江戸時代		耕作溝群	耕作溝群	南北大溝群	耕作溝群	耕作溝群、南北大溝群、井戸6047		耕作溝群
明治時代	Ⅳ期	明治時代		柱列2057・2073	建物基礎3022	建物基礎4120				

堆積土を除去すると基盤層となる。調査区東半は、耕作土直下が基盤層となる。基盤層上面の標高は、北東部で約47.65ｍ、南西部では約46.7ｍで北東から南西に低くなる。基盤層上面でⅠ期とⅡ－１期、13世紀整地層上面でⅡ－２期とⅢ期の遺構を検出した。

６・７区　６・７区の現地表面の標高は約49.3ｍである。地表下約1.0ｍまでが近現代盛土、その下に、幕末の整地層の可能性がある層が約0.4ｍ堆積する。さらにその下に中近世の耕作土が約0.4ｍ堆積する。それを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は北端で約47.4ｍ、南端では約47.15ｍで、北から南に低くなる。基盤層上面で、Ⅰ期、Ⅱ－１・２期、Ⅲ期の遺構を検出した。

８区　８区の現地表面の標高は約48.8ｍである。地表下約1.2ｍまでが近現代盛土、その下に中近世の耕作土が約0.65ｍ堆積する。それを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は約47.0ｍで、調査区内での高低差は小さい。基盤層上面でⅡ－１期とⅢ期の遺構を検出した。

９区　９区の現地表面の標高は約48.8ｍである。地表下約1.7ｍまでが近現代盛土、その下に中近世の耕作土が約0.5ｍ堆積する。その下に15世紀の遺物包含層が0.1～0.2ｍ堆積する。調査区北半ではその下が溝9006埋土となり、その埋土を除去すると基盤層となる。調査区南半は遺物包含層の下が基盤層となる。基盤層上面の標高は、南側で約46.8ｍ、北側は溝9006に削平されて約45.4ｍとなる。基盤層上面でⅡ－１・２期、15世紀遺物包含層上面でⅢ期の遺構を検出した。

以下に、調査区ごとに各時期の遺構の概要を述べる。

（２）１区の遺構（図版２・115）

１）１区の概要

美術館本館の東側、旧収蔵庫の南側に位置する調査区である。既存建物基礎や埋設管による撹乱が著しく、遺構面の遺存状況は悪い。調査は基盤層上面で行い、Ⅱ－２期の遺構を検出した。主要な遺構には、多量の土器が出土した土坑群と方形縦板組と思われる井戸1007がある。他の期に該当する遺構は確認できなかった。

２）Ⅱ－２期の遺構

土坑1001（図版２）　調査区西部で検出した。平面形は不整円形で、径約1.8ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土から13世紀前半代の遺物が少量出土した。

土坑1002　調査区南西隅で検出した。西半は調査区外へ延びる。検出規模は、東西約0.55ｍ、南北約1.6ｍで、深さは約0.45ｍある。埋土から13世紀前半代の遺物が少量出土した。

土坑1003（図版２・115）　調査区中央で検出した。平面形は不整形で、北は撹乱を受け、南は調査区端で立ち上がる。検出規模は、南北約3.3ｍ、東西約2.4ｍで、深さは約0.5ｍある。埋土から13世紀前半代の多量の土器と少量の瓦、金属製品などが出土した。

土坑1004　調査区中央で検出した。平面形は不整円形で、東西約1.1ｍ、南北約0.7ｍ、深さは約0.3ｍある。埋土から13世紀前半代の遺物が出土した。

土坑1005（図版２）　調査区中央で検出した。不整形な土坑で、土坑1003・1004に削平される。

検出規模は、東西約1.1ｍ、南北約2.2ｍで、深さは約0.65ｍある。埋土から13世紀前半代の遺物が出土した。

以上の土坑1001～1005は、重複するものもあるが、埋土や出土土器の時期が類似しており、連続して掘削された可能性が高い。

井戸1007（図版115）　調査区中央南壁際で検出した。南半は調査区外へ延びる。掘形の平面形は隅丸方形で、東西約1.2ｍ、南北0.6ｍ以上、深さは約0.9ｍある。井筒は方形で、一辺約0.6ｍある。下部に木質の痕跡があり、方形縦板組の井戸と考えられる。井戸底部では、径約0.35ｍ、高さ約0.3ｍの曲物を据えた水溜の痕跡を確認した。曲物底部の標高は47.05ｍである。掘形埋土から13世紀前半代の遺物が出土した。

（３）２区の遺構

１）２区の概要

美術館本館の北側、美術館第１期調査区の東側に位置する調査区である。遺構の遺存状況は良好で、基盤層上面でⅠ期とⅡ－１期、11世紀の整地層上面でⅡ－２期、Ⅲ期、Ⅳ期の調査を行った。主要な遺構には、Ⅰ期の古墳時代以前の自然流路2180、Ⅱ－１期の他調査区では出土していない10世紀代の遺物が出土した落込2480、方形縦板組の井戸２基（井戸2025・2100）、Ⅱ－１・２期に継続して掘りなおされた東西溝（溝2090・2092・2093・2094・2095）、Ⅱ－２期の瓦が多量に出土した瓦溜2355などがある。

２）Ⅰ期の遺構（図版３・116）

流路2180　調査区西約４/５で検出した自然流路で、第１期調査の湿地460と同遺構である。東肩は南北に直線的に延びる。北東から南西に緩やかに下がり、Y＝－19,760ライン付近で一度立ち上がって、北北東から南南西に延びる幅約５ｍの島状の高まりとなり、再び西に下がる。島状高まりの肩部は凹凸が激しい。北東部では深さ約0.5ｍ、底面の標高は約47.7ｍ、南西部では深さ約0.65ｍ、底面の標高は約47.3ｍである。埋土は大きく３層に分かれ、中層（図版７の南壁42層）からは弥生時代後期から古墳時代後期の土器、上層（41層）からは平安時代中期の土器が出土した。下層からは遺物は出土しなかった。

３）Ⅱ－１期の遺構（巻頭図版１、図版４・117）

溝2093・2094・2095（図版８・117）　調査区北端で検出した東西方向の溝である。後述する第Ⅱ－２期の溝2090・2092に先行して掘削された溝で、第１期調査の溝627・628に繋がる。平断面観察と出土遺物の時期から見て、溝2095→溝2094→溝2093の順に新しく掘りなおされたと考えられる。

溝2093は、北肩を溝2092に削平される。検出長約37.5ｍ、検出幅1.5～2.0ｍ、深さは約0.2ｍある。底面の標高は東端で48.5ｍ、西端では47.8ｍで、東から西に低くなる。西半では、溝の南肩で

杭が打ち込まれた痕跡を確認した。杭の間隔は密である。埋土下層は流水堆積で、盛り上がる様に堆積する箇所も見られた。埋土から12世紀後葉の遺物が出土した。

溝2094は、溝2092と2093に両肩を削平される。検出長約37.5ｍ、検出幅1.0～2.2ｍ、深さは0.25～0.3ｍある。底面の標高は東端で47.9ｍ、西端では47.55ｍで、東から西に低くなる。埋土下層は流水堆積である。西端では、溝底で水流によるものと思われるポットホールを多数検出した。埋土から12世紀中葉の遺物が出土した。

溝2095は、溝2093に削平され、調査区東端と西端で南肩を検出したのみである。検出長約37.5ｍ、検出幅0.1～0.7ｍ、深さは0.15～0.2ｍある。底面の標高は東端で約48.5ｍ、西端では約47.8ｍで、東から西に低くなる。埋土下層は流水堆積である。埋土から11世紀後半代の遺物が出土した。

柱列2294（図版９）　調査区東半、溝2093の南で検出した東西方向の掘立柱列である。９基の柱穴を検出した。検出長は約10.8ｍある。柱間は0.6～2.1ｍの不等間である。方位は西に対して北へ約1.5度振れる。柱列を構成する柱穴の平面形は円形で、径0.3～0.4ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。柱痕跡から推測される柱径は0.1～0.15ｍある。東側の柱2397は柱掘形が確認できず、礎石状の平坦な石が据わる。各柱穴埋土から11世紀後半代の遺物が出土した。

柱穴群　調査区南半、東西溝の南側では多数の柱穴を検出したが、建物として復元できるものはなかった。柱穴の平面形は円形ないしは楕円形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.35ｍある。地下式礎石や平瓦を据えるものもある。各柱穴の埋土からは12世紀代の遺物が出土した。

土坑2380・2381・2382・2388（図版９）　調査区北東部、溝2094の底部で東西に並ぶ土坑群を検出した。明瞭な柱痕跡が確認できなかったため土坑としたが、柱穴もしくは礎石据え付け穴の可能性がある。西から土坑2388・2380・2381・2382が並ぶ。土坑間の間隔は3.0～4.0ｍある。

西端の土坑2388は、平面形は円形で、径約1.0ｍ、深さは約0.3ｍある。底に径0.1～0.45ｍの石が、平坦面を上に向けて据わる。地下式礎石の可能性がある。

土坑2380は、平面形は楕円形で、長径約0.7ｍ、深さは約0.35ｍある。底に約0.3ｍ四方の板材が据わる。礎板の可能性がある。

土坑2381は、平面形は円形で、約0.7ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土に径0.05～0.1ｍの礫や瓦が詰まる。

土坑2382は、平面形は隅丸方形で、一辺0.9～1.0ｍ、深さは約0.2ｍある。すべての土坑から12世紀代の遺物が出土した。

土坑2378（図版10）　調査区東端で検出した。平面形は歪な隅丸方形で、東西約1.55ｍ、南北約1.3ｍ、深さは約1.0ｍある。壁は抉れ、断面形は袋状になる。埋土から12世紀代の遺物が出土した。

土坑2404（図版10）　調査区東端、土坑2378の南で検出した。平面形は隅丸長方形で、西肩がなだらかに立ち上がる２段落ちの形状を呈する。東西約2.2ｍ、南北約1.3ｍ、深さは約0.8ｍある。埋土から12世紀代の遺物が出土した。

土坑2141　調査区西端で検出した。平面形は円形で、径約0.95ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土に

径0.1～0.2ｍの礫が詰まる。10YR4/2灰黄褐色細砂に10YR2/1黒色シルトブロックが多量に混じる。12世紀代の遺物が出土した。

土坑2160　調査区西半で検出した。平面形は円形で、径約0.9ｍ、深さは約0.8ｍある。底部に長径0.5ｍの板材が２枚重なって据わる。樹種は、下の板材がスギ、上の板材がスダジイである。埋土は10YR4/1褐灰色細砂で、12世紀代の遺物が出土した。

土坑2156　調査区西端で検出した。平面形は不整形で、北は溝2095に削平され、南は撹乱を受ける。残存規模は、東西約1.5ｍ、南北約2.5ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は10YR3/2黒褐色細砂～中砂に10YR2/1黒色シルトブロックが混じる。11世紀後半の遺物が出土した。

土坑2157　調査区西端で検出した。西半を土坑2156に削平される。平面形は円形で、径約1.5ｍ、深さは約1.1ｍある。断面形状は擂鉢状を呈する。埋土は10YR3/1黒褐色細砂で、11世紀後半の遺物が出土した。

土坑2280　調査区東半で検出した。平面形は楕円形で、長径約1.1ｍ、短径約0.9ｍ、深さは約0.15ｍある。埋土は2.5Y3/1黒褐色細砂で、12世紀代の遺物が出土した。

土坑2487　調査区東半で検出した。平面形は不整形で、西側は削平される。残存規模は、東西約1.25ｍ、南北約1.15ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は2.5Y3/1黒褐色細砂～粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。

井戸2100（図版11・118）　調査区中央南端で検出した方形縦板横桟組の井戸である。掘形の平面形は南北に長い楕円形で、東西約1.55ｍ、南北約2.1ｍ、深さは約1.6ｍある。井筒は掘形の北寄りに位置し、一辺約0.9ｍあり、縦板は高さ約1.0ｍ残存する。一辺に幅0.15～0.2ｍの縦板を５枚並べ、外側に２～３枚を重ねて補強する。縦板の下部には、ほぼ同じ高さの位置に方形の孔が開いており、水を湧きやすくするためと考えられる。縦板の樹種は、外側に重ねたものは全てスギ、内側の表装の板材は22枚中17枚がモミ属、残り６枚がスギである。横桟は３段分が遺存し、隅柱と枘組する。隅柱の下には径0.3～0.4ｍの石が平坦面を上にして据わる。横桟と隅柱の樹種は全てスギである。井戸底には、直径約0.35ｍ、高さ約0.2ｍの曲物が据わる。曲物底面の標高は約46.5ｍである。曲物の樹種はスギである。掘形からは11世紀後葉の土器類、埋土からは11世紀後半から12世紀中葉の土器類が出土した。

井戸2025（図版11・118）　調査区中央西寄りで検出した方形縦板横桟組の井戸である。掘形の平面形は方形で、一辺約1.4ｍ、深さは約1.3ｍある。井筒は掘形の北東寄りに位置し、一辺約0.75ｍあり、縦板は高さ約0.7ｍ残存する。一辺に幅0.1～0.2ｍの縦板を４～5枚並べる。縦板の樹種は全てスギである。横桟は２段分が遺存し、隅柱と枘組する。横桟と隅柱の樹種も全てスギである。底には、直径約0.5ｍの曲物が据わり、曲物の周囲には径0.1～0.3ｍの礫が詰まる。曲物底面の標高は46.85ｍである。曲物の樹種はスギである。井戸の埋土上層は黄褐色粘質極細砂の非常に固く締まるブロック土（断面図６層）を多用し、強固に埋め戻されている。掘形や埋土から12世紀中葉の土器類や瓦などが出土した。

落込2150　調査区南西部で検出した不整形な落込である。11世紀後半代の遺物を含む整地層を

除去して検出した。東西約9.0ｍ、南北約7.0ｍの範囲に拡がる。深さは約0.1ｍある。埋土は10YR2/2黒色細砂に粗砂が混じる。埋土から11世紀後葉の遺物が出土した。流路2180の凹みを埋めた、整地と一連の遺構の可能性がある。

落込2480　調査区中央部南半で検出した不整形な落込である。11世紀後半代の遺物を含む整地層を除去して検出した。東西約12.0ｍ、南北約6.5ｍの範囲に拡がる。南は調査区外へ続く。深さは最深で約0.25ｍある。埋土は図版７の南壁36～39層で、10世紀後半の遺物がまとまって出土した。

４）Ⅱ－２期の遺構（図版５・119）

溝2090・2092（図版８・120）　調査区北端で検出した東西方向の溝である。Ⅱ－１期の溝2093・2094・2095に続いて掘りなおされた溝で、第１期調査の溝627・628に繋がる。平断面観察と出土遺物の時期から見て、溝2092→溝2090の順に新しく掘りなおされたと考えられる。

溝2092は、北肩を溝2090に削平される。検出長約37.0ｍ、検出幅1.0～2.0ｍ、深さは0.4～0.55ｍある。底面の標高は東端で48.0ｍ、西端では47.5ｍで、東から西に低くなる。調査区中央部では、一部で径0.15～0.3ｍの礫を混ぜて固く締めた土で護岸を行った痕跡を確認した（図版８のＡ－Ａ’ライン12～14層）。埋土は底から２/３～４/５までが流水堆積層である。埋土から12世紀後葉から13世紀前葉の土器類や瓦などが多量に出土した。

溝2090は、北肩は調査区外にあり、南肩のみを検出した。検出長約32.0ｍ、検出幅0.5～1.0ｍ、深さは0.1～0.5ｍある。溝底は調査区外にあるため、底面の標高は不明であるが、検出底の標高は東端が約48.15ｍ、西端が約47.6ｍで、東から西に低くなる。西端では石積みの護岸を検出した（図版８）。長辺0.15～0.45ｍの石を横にして積む。石積みは最大で４段分遺存する。埋土下層は流水堆積である。埋土から13世紀中葉から14世紀前葉の土器類や瓦が出土した。

柱列2069・2313（図版12）　調査区北半、溝2090の南で検出した東西柱列である。柱列2069と2313は、間が途切れ、柱間も異なるが、ほぼ同じライン上に位置することから、同じ柱列である可能性がある。

柱列2069は、15基の柱穴を検出した。検出長は約14.0ｍある。柱間は0.4～1.6ｍの不等間である。方位は西に対して北へ約0.5度振れる。柱列を構成する柱穴の平面形は円形のものや不整形なものがある。径0.2～0.6ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。柱痕跡が確認できるものから推測される柱径は0.1～0.2ｍある。各柱穴の埋土から13世紀代の遺物が出土した。

柱列2313は、８基の柱穴を確認した。検出長は約13.6ｍある。柱間は0.4～4.8ｍの不等間である。方位は西に対して北へ約１度振れる。柱列を構成する柱穴の平面形は円形ないしは楕円形で、長径0.2～0.8ｍ、深さ0.05～0.6ｍある。柱2295は地下式礎石が、柱2266は平瓦が平坦面を上に向けて据わる。柱痕跡が確認できるものから推測される柱径は0.1～0.2ｍある。各柱穴の埋土から13世紀代の遺物が出土した。

柱穴2122　調査区西半で検出した。平面形は円形で径約3.5ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土は

10YR3/4暗褐色細砂～粗砂で、径0.1～0.15ｍの石を含む。そのうち１点は叩石であった。

柱穴群　調査区南半、柱列2069・2313の南側では多数の柱穴を検出したが、建物として復元できるものはなかった。柱穴の平面形は円形ないしは楕円形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.6ｍある。地下式礎石をもつものや、平瓦重ねて据えるものもある。各柱穴の埋土からは13世紀代の遺物が出土した。

土坑2440（図版10・120）　調査区東半で検出した。平面形は隅丸方形で、東西約1.3ｍ、南北約1.6ｍ、深さは約0.65ｍある。底部中央が径約0.55ｍの円形に約0.1ｍ窪む。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑2324（図版10）　調査区中央南端で検出した。平面形は不整形な隅丸長方形で、南北約1.7ｍ、東西約1.2ｍ、深さは約0.3ｍある。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑2066（図版13）　調査区西端で検出した。平面形は楕円形で、長径約2.1ｍ、短径約1.0ｍ、深さは約0.6ｍある。南側が浅く、断面形は２段に落ちる形状を呈する。北側の深い部分の底に、長径約0.45ｍの板材が据わり、柱穴の抜き取り穴の可能性がある。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

柱穴2084・土坑2086（図版13）　調査区中央西寄りで検出した。柱穴2084が土坑2086を削平する。柱穴2084は、掘形の平面形は円形で、径約0.6ｍ、深さは約0.2ｍある。中央に径約0.15ｍの柱が据わり、その下に平瓦が敷かれる。土坑2086は、平面形は不整形で、長径約1.35ｍ、短径約0.6ｍ、深さは約0.4ｍある。先述した土坑2066と同様、南側が浅く、断面形は２段に落ちる形状を呈する。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑2354（図版13）　調査区東半北寄りで検出した。平面形は隅丸長方形で、長径約1.55ｍ、短径約0.5ｍ、深さは約0.7ｍある。北側が浅く、断面形は２段に落ちる形状を呈する。南側の深い部分の底には径約0.3ｍの石が２石据わる。柱穴の抜き取り穴の可能性がある。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑2421（図版13）　調査区東端で検出した。平面形は隅丸長方形で、長径約1.3ｍ、短径約0.45ｍ、深さは約0.6ｍある。北側がやや深く、その部分に径約0.2ｍの石が重なって据わる。柱穴の抜き取り穴の可能性がある。埋土から12～13世紀代の遺物が出土した。

土坑2277（図版13・121）　調査区南東部で検出した。平面形は楕円形で、長径約2.0ｍ、短径約0.6ｍ、深さは約0.35ｍある。埋土から13世紀代の土器や瓦が多量に出土した。

土坑2168（図版13・120）　調査区西半で検出した。木槨をもつ土坑である。掘形の平面形は長方形で、長径約1.5ｍ、短径約1.0ｍ、深さは約0.45ｍある。掘形底部をさらに一段掘り窪め、底部に長さ約0.6ｍ、幅約0.2ｍの板材を並べる。壁にも板材の痕跡が認められる。木槨部は長径約1.1ｍ、短径約0.65ｍで、深さ約0.05ｍ分が遺存する。板材の樹種はスギである。埋土から13世紀後半の遺物が出土した。

土坑2096・2071（図版14）　調査区西端で検出した。土坑2096が土坑2071を削平する。土坑2096は、掘形の平面形は円形で、径約0.4ｍ、深さは約0.15ｍある。長径約0.4ｍの石が平坦面を上

にして据わる。礎石の可能性がある。土坑2071は、平面形は楕円形で、長径約0.55ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土上位に径0.1～0.3ｍの礫が混じる。

土坑2174（図版14）　調査区西端で検出した。南東部は削平を受けるが、平面形は隅丸方形と推測される。径約1.1ｍ、深さは約0.5ｍある。底部に径約0.5ｍの石が据わり、その上に長さ約0.45ｍの板材が載る。

土坑2117（図版14）　調査区西半で検出した。土坑2168の肩を削平する。平面形は隅丸長方形で、長径約1.0ｍ、短径約0.7ｍ、深さは約0.45ｍある。埋土中位に径約0.25ｍの石が平坦面を上にして据わり、さらにその上位に径0.1～0.2ｍの礫や瓦片が詰まる。埋土から13世紀中葉の遺物が出土した。

土坑2167　調査区西半で検出した。土坑2117に削平される。平面形は隅丸長方形で、長径約1.65ｍ、短径約1.0ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土は10YR3/1黒褐色極細砂～細砂で炭が微量に混じる。13世紀中葉の遺物が出土した。

土坑2015　調査区西半で検出した。平面形は隅丸長方形で、長径約1.5ｍ、短径約1.0ｍ、深さは約0.25ｍある。埋土は2.5Y3/2黒褐色細砂～粗砂で炭が微量に混じる。14世紀前半の遺物が出土した。

土坑2020　調査区西半で検出した。平面形は隅丸長方形で、長径1.15ｍ、短径0.9ｍ、深さは約0.5ｍある。底部から長さ約0.5ｍの板材が出土した。埋土は10YR3/2黒褐色細砂～中砂である。14世紀代の土器や鉄滓、瓦が出土した。

土坑2021　調査区西半で検出した。平面形は不整形で、長径約1.25ｍ、短径約0.8ｍ、深さは約0.5ｍある。埋土は10YR3/3暗褐色細砂～中砂で、径0.05～0.15ｍの礫や瓦が多量に混じる。

土坑2363　調査区東半で検出した。西半は撹乱を受ける。残存規模は、東西約0.7ｍ、南北約1.1ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土は10YR3/3暗褐色細砂～粗砂で、瓦類が出土した。

土坑2427　調査区南東隅で検出した。南半は調査区外へ延びる。平面形は円形と推測され、径約1.1ｍ、深さは約0.6ｍある。埋土は図版７の南壁29～33層である。上層から瓦が多量に出土した。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑2389　調査区中央北半で検出した。平面形は不整形で、長径約1.0ｍ、短径約0.7ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は2.5Y3/1黒褐色極細砂で、12世紀代の瓦が出土した。

瓦溜2355（図版14・121）　調査区南東隅で検出した。東と南は調査区外へ延びる。平面形は隅丸長方形と推測され、検出規模は東西約2.6ｍ、南北約6.7ｍ、深さは0.2～0.4ｍある。壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。埋土には瓦片が多量に混じる。断面観察（図版７の東壁と南壁）から、瓦が多量に混じる土を南から北に入れていったことがわかる。土質の締まりは良くない。瓦片とともに13世紀前葉の土器が出土した。

５）Ⅲ期の遺構（図版６・122）

溝2187　調査区東端で検出した南北方向の溝である。南は調査区外へ延びる。北は調査区端で

東に屈曲し、Ｌ字状になる。検出長は約13.5ｍ、幅0.3～0.5ｍ、深さは約0.2ｍある。この溝を境に、東側が盛土により一段高くなっており、断面観察では溝2187の東側で２時期の畔状の高まりを確認した（図版７の南壁10・12層）。この溝が耕作地の敷地境の溝である可能性がある。

耕作溝群　調査区全域で、耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて南北方向の溝が新しい傾向にある。方位は全て北に対して東へ振れる。検出面での幅は0.1～0.7ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。調査区東半で検出した溝2192の北端には、12世紀の軒瓦２枚と平瓦１枚の計３枚が並べて据えられていた。他の溝からは15世紀後半から18世紀の土器類が少量出土した。

溝2050・2051　調査区西半で検出した。南北方向の並行する溝である。南は調査区外へ延びる。検出規模は、溝2050が幅約0.9ｍ、検出長約4.0ｍ、深さは約0.1ｍある。溝2051は、幅約0.7ｍ、検出長約3.3ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土はいずれも10YR4/3にぶい黄褐色中～粗砂で、瓦が少量出土した。

溝2070　調査区北西部で検出した東西方向の溝である。西は調査区外へ延びる。最大幅約1.1ｍ、検出長約9.5ｍ、深さは約0.15ｍある。埋土は2.5Y3/2黒褐色細砂～粗砂で、瓦が少量出土した。

土坑2089　調査区北西部で検出した。平面形は隅丸方形で、径約2.6ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土は2.5Y3/2黒褐色細砂で、径0.1～0.5ｍの礫と瓦を多量に含む。

６）Ⅳ期の遺構

柱列2057・2073（図版15・16・122）　調査区南半で、平行する東西方向の柱列を検出した。北が柱列2073、南が柱列2057である。両柱列間の距離は約4.0ｍある。美術館第１期調査検出の柱列21と柱列22の東側延長部分にあたる。

柱列2073は、掘立柱列で、19基の柱穴を確認した。検出長は約36.5ｍある。柱間は約1.8ｍ（６尺）の等間で、方位は西に対して北へ約3.5度振れる。柱穴の掘形は円形ないしは不整円形で、径0.3～0.6ｍ、深さは0.1～0.9ｍある。柱痕跡が遺存するものもあり、そこから推測される柱径は約0.15ｍである。埋土から19世紀後半の遺物が出土した。

柱列2057は、掘立柱列と考えられ、13基の柱穴を確認した。検出長は約23.2ｍある。柱間は約1.8ｍの等間で、方位は西に対して北へ約3.5度振れる。柱穴の掘形は円形ないしは隅丸方形で、径0.45～0.6ｍ、深さは0.3～0.6ｍある。柱痕跡が確認できるのは東側の柱穴2221と2260の２基のみで、他は柱の抜き取りが行われたと考えられる。いずれの柱穴にも径0.05～0.3ｍの礫が詰まる。柱に根巻きしていたものと推測される。埋土から19世紀後半の遺物が出土した。

この柱列2057・2073は、掘形埋土や、柱抜き取りの有無に差異はあるものの、平行しており柱間も共通であることから一連の遺構と考えられる。

（４）３区の遺構

１）３区の概要

美術館本館の北中庭に位置する調査区である。２箇所の調査区に分かれ、東側の調査区を３a区、西側の調査区を３b区とした。いずれの調査区も明治時代の勧業館建設時の掘削による撹乱が著しく、遺構面の遺存状況は良くない。３a区では、基盤層上面でⅠ期、13世紀の遺物包含層上面ならびに基盤層上面でⅡ－２期とⅢ期の調査を行った。３b区では、基盤層上面でⅡ－２期とⅣ期の調査を行った。主要な遺構には、３a区Ⅰ期の古墳時代以前の流路3019、３b区Ⅳ期の明治時代の建物基礎3022などがある。

２）Ⅰ期の遺構（図版17・123）

流路3019　３a区で検出した流路である。２区の流路2180と同遺構と考えられる。調査区南端で西肩を検出した。東肩は調査区外にある。検出規模は、東西約5.5ｍ、南北約9.0ｍで、深さは約0.3～0.5ｍある。底面の標高は北端で47.25ｍ、南端では47.3ｍで、北がやや低い。埋土は、古墳時代の土器が出土した上層と、遺物が出土しない下層の大きく２時期にわかれる。下層埋土上面では、庄内式併行期の遺物を含む落込み3020を検出した。その上に上層埋土が堆積する。上層埋土には、ブロック土と土器片を多量に含むラミナが見られない層が確認でき（図版19の北壁東壁10・11・14～17層）、杭が打ち込まれていることなどから、人為的に護岸を行っていた可能性が高い。

落込3020（図版20・123）　３a区の南東隅、流路3019下層上面で検出した南西から北東に下がる落込である。西肩は後世の土坑3011に削平され、北肩と南肩は撹乱を受ける。東は調査区外へ延びる。断面で確認できた検出規模は、東西約2.2ｍ、南北約2.3ｍあり、深さは約0.9ｍある。埋土は３層にわかれ、上層から庄内式併行期の土器片がまとまって出土した。

３）Ⅱ－２期の遺構（図版17・18・123）

遺物包含層　３a区の北東隅で検出した。南西側は撹乱を受け、高まり状で検出した。また、断面観察で、調査区南端にも遺存していたことを確認した。上層（図版19の北壁東壁５～７層）から12世紀末から13世紀の鎌倉時代、下層（８層）から11世紀の平安時代の遺物が出土した。

土坑3003（図版21）　３b区の南東隅で検出した。西肩は撹乱を受ける。平面形は隅丸長方形で、長径約2.15ｍ、短径約0.95ｍ、深さは約0.45ｍある。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。13世紀代の遺物が出土した。

土坑3004（図版21）　３b区の南端で検出した。東と南は撹乱を受ける。平面形は隅丸長方形と推測され、残存規模は、長径約1.9ｍ、短径約0.6ｍ、深さは約0.5ｍある。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。埋土から13世紀代の遺物が少量出土した。

土坑3009（図版20）　３a区中央で検出した。平面形は歪な円形で。長径約0.75ｍ、深さは約0.45ｍある。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。13世紀代の遺物が少量出土した。

土坑3010（図版20）　３a区南端で検出した。平面形は円形で、径約0.9ｍ、深さは約0.25ｍある。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。埋土から13世紀末から14世紀前葉の遺物が出土した。

土坑3011・3018（図版20）　３a区南端で検出した。土坑3011は、北東部を土坑3010に削平され南は撹乱を受ける。平面形は楕円形と推測され、残存規模は、長径約1.15ｍ、短径約0.7ｍ、深さは約0.65ｍある。埋土から13世紀代の遺物が出土した。土坑3018は、大半を土坑3011に削平され西肩部のみ残存する。平面形は円形と推測され、残存規模は、径約0.55ｍ、深さは約0.25ｍある。

柱穴群　３a区南端で複数の柱穴を検出した。建物として復元できるものはなかった。平面形は円形で、径0.2～0.45ｍ、深さは0.2～0.4ｍある。

４）Ⅲ期の遺構（図版17）

耕作溝群　３a区の南西隅で、耕作に伴う溝を検出した。全て南北方向の溝で、複数が重複関係にある。溝の幅は0.1～0.45ｍ、深さは0.15～0.3ｍある。出土遺物が少なく明確な時期は不明だが、室町時代の耕作溝の可能性がある。

５）Ⅳ期の遺構（図版18・124）

建物基礎3022（図版21・124）　３b区で、明治時代に建てられた京都市商品陳列所のコンクリート基礎を検出した。コンクリート基礎の厚さは0.6～0.7ｍある。また、コンクリートが除かれた部分では、杭基礎を検出した。木杭は密な間隔でＡＴ火山灰層より深いところまで打ち込み、杭の頭を地表面から約0.4ｍ出して、その隙間を栗石で詰めて固める。その上にコンクリートを流し込み、基礎を構築している。木杭の樹種は松材で、長さはコンクリート下面から1.85ｍ以上あることを確認したが、それ以上は安全面から掘削できず、全長は不明である。

（５）４区の遺構

１）４区の概要

美術館本館大陳列室内の調査区である。調査区は逆コの字状になり、便宜的に西側の大調査区を西調査区、西調査区から東に細く伸びる調査区を北調査区、南調査区とした。明治時代の建物基礎や既存埋設管による撹乱が著しく、遺構面の遺存状況は良くない。遺構は全て基盤層上面で検出し、Ⅱ－１・２期、Ⅲ期、Ⅳ期の調査を行った。主要な遺構には、Ⅱ－２期の方形井戸4070や土取り穴と思われる土坑群、Ⅳ期の明治時代の建物基礎4120がある。

２）Ⅱ－１期の遺構（図版22）

土坑4090・4091　西調査区南端で検出した。土坑が南北に２基並ぶ。北側の土坑4090は、平面形は隅丸長方形で、長径約1.0ｍ、短径約0.4ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土は2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂～粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。南側の土坑4091は、平面形は歪な楕円形で、長径約1.5ｍ、短径約0.4ｍ、深さは約0.25ｍある。埋土は土坑4090と同様の2.5Y3/3暗オリーブ褐色

細砂～粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。

土坑4101・4111　北調査区中央で検出した。土坑4101が土坑4111を削平する。土坑4101は、北半は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と推測され、検出規模は、長径1.0ｍ、短径0.15ｍ、深さは約0.55ｍある。埋土は10YR3/4暗褐色粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。土坑4111は、平面形は隅丸方形と推測され、径約0.8ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は10YR3/3暗褐色粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。

土坑4119　北調査区西側で検出した。南半は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と推測され、検出規模は長径約0.65ｍ、深さは約0.3ｍある。埋土は図版26の北調査区南壁14・15層で、12世紀代の遺物が出土した。

柱穴群　西調査区で２基、北調査区で５基の柱穴を検出した。建物として復元できるものはなかった。柱穴の平面形は円形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.35ｍある。埋土から12世紀代の遺物が出土した。

３）Ⅱ－２期の遺構（図版23・124）

溝4009・4010・4055・4056（図版27・125）　西調査区中央で検出した南北溝である。溝4009と溝4010は平行する。南側で検出した溝4055は、溝4009・4010いずれかの南延長部分である可能性が高いが、確定できないため別番号とした。いずれも水の流れた痕跡は確認できず、溝埋没後に同じ場所に後述する柱列4074が構築されていることから、何らかの区画溝である可能性が考えられる。

溝4009は、北は調査区外へ延び、南は撹乱を受ける。検出長は約9.0ｍ、幅0.15～0.5ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。底面は凹凸があり、標高は北端で約47.3ｍ、中位で約47.75ｍ、南端で約47.65ｍである。埋土から多量の土師器皿が出土した。完形のものも多い。時期は13世紀前葉である。

溝4010は、北・南ともに撹乱を受ける。検出長は約6.4ｍ、幅0.3～0.7ｍ、深さは0.15～0.25ｍある。底面は凹凸があり、標高は北端で約47.6ｍ、南端で約47.75ｍある。埋土から多量の土師器皿が出土した。時期は13世紀前葉である。

溝4055は、北・南ともに撹乱を受ける。検出長は約3.3ｍ、幅0.2～0.6ｍ、深さは0.1～0.2ｍある。底面の標高は北端で約47.6ｍ、南端で約47.65ｍである。埋土から多量の土師器皿が出土した。時期は13世紀前葉である。

溝4056は、溝4055の東に位置する南北溝で、北・南ともに撹乱を受ける。検出長は約305ｍ、幅約0.2ｍ、深さは約0.1ｍある。底面の標高は北端・南端ともに約47.75ｍである。埋土から13世紀代の遺物が出土した。

柱列4074（図版28）　西調査区中央で検出した南北方向の柱列である。溝4009埋没後に構築されている。６基の柱穴を確認した。検出長は約3.6ｍ、柱間は0.3～1.2ｍで不等間である。方位は北に対して東へ約２度振れる。柱穴の掘形平面形は隅丸方形ないしは不整円形で、径0.25～0.4ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。柱痕跡は確認できず、埋土上層に径0.1～0.2ｍの石や瓦が据えられている

ものもある。各柱穴から13世紀代の遺物が出土した。

柱列4089（図版28）　西調査区東半で検出した南北方向の柱列である。柱穴３基分を検出した。検出長は約3.6ｍ、柱間は約1.8ｍの等間である。方位は北に対して東へ約２度振れる。柱穴の掘形平面形は隅丸方形で、径0.2～0.25ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。柱痕跡は確認できなかった。柱列4074と平行し、関連する区画の柱列の可能性がある。

柱穴群　西調査区と北調査区で多数の柱穴を検出した。建物として復元できるものはなかった。柱穴掘形の平面形は円形ないしは隅丸方形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.35ｍある。地下式礎石をもつものも少数ある。各柱穴の埋土から13世紀代の遺物が出土した。

井戸4070（図版28・125）　西調査区中央南寄りで検出した。方形の下段横板組、上段瓦と石組の井戸である。南肩は近代基礎に削平される。掘形の平面形は隅丸方形で、残存規模は、東西約1.7ｍ、南北約1.45ｍ、深さは約1.5ｍある。底面の標高は約46.1ｍである。井筒は、下段は径0.1～0.2ｍの石を用いた石組の内側に横板を組む。横板は幅約0.2ｍで、４枚分を確認した。横板の遺存状態は不良である。上段は瓦と石組で、丸瓦と径0.1～0.2ｍの石を交互に積み上げて井筒とする。掘形から13世紀中葉、埋土から14世紀前葉までの遺物が出土した。

土坑4060・4064・4066・4067　西調査区南半で検出した平面形が不整形な土坑群である。連続して掘削されたと考えられ、重複関係は明瞭でない。土坑群の範囲は南側調査区外へ延びるが、検出範囲は東西約3.5ｍ、南北約3.5ｍある。深さは0.4～0.6ｍある。壁が抉られており、砂を採取するための土坑群の可能性がある。各土坑埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑4078　西調査区北東部で検出した。四方を撹乱され、残存規模は、東西約0.55、南北約0.9ｍ、深さは約0.5ｍある。埋土は10YR2/2黒褐色粗砂で、13世紀代の遺物が出土した。

土坑4118　北調査区西端で検出した。北と南は調査区外へ延びる。検出規模は、東西約2.5ｍ、南北約0.5ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は図版26の北調査区南壁11・12層で、13世紀代の遺物が出土した。

４）Ⅲ期の遺構（図版24・26）

耕作溝群　西調査区の西半と北調査区の東半で耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて南北方向の溝が新しい傾向にある。方位は全て北に対して東に振れる。検出面での幅は0.1～0.6ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。15世紀後半から19世紀の遺物が少量出土した。西調査区中央では東西方向の杭列を検出した。耕作に伴うものである可能性がある。

南北大溝群　南調査区で検出した。検出長は約0.5ｍ、検出面での幅は0.5～1.0ｍ、深さは0.1～0.25ｍある。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がり、断面形は方形である。埋土は図版26の南壁７・８層で、19世紀代の遺物が出土した。美術館３期調査２区でも同様の南北大溝群が検出されている。

５）Ⅳ期の遺構（巻頭図版５、図版25）

建物基礎4120（巻頭図版６）　西調査区全域で、煉瓦とコンクリートで構築された建物基礎を検出した。明治四十二年（1909）に建てられた京都市商品陳列所の基礎で、現在の京都市美術館本館の設計図と重ね合わせた図面（巻頭図版７）から推測すると、「Ｉ」字状の建物の南側部分の基礎と考えられる。

掘形に栗石を敷き、その上に型枠を組みコンクリートを流し込んだものと考えられる。３区で検出した栗石の下の杭基礎は検出できていない。コンクリート基礎の厚さは、確認できたところで0.35～0.7ｍある。コンクリートは、混和剤として径0.05～0.1ｍの円礫や砂粒が多量に混じる粗いものである。コンクリートの上に煉瓦積みが残るものがある。煉瓦は階段状に積まれ、最大で８段分残る。煉瓦の積み方は、長手積みを基本とするようであるが、小口積みの箇所や、打ち欠いた煉瓦を間に詰める箇所もあり、一律ではない。煉瓦は、確認できたもの全てに５本線を花形に配した刻印があり、堺煉瓦株式会社製のものである。

（６）５区の遺構

１）５区の概要

美術館本館西側の正面玄関部分の調査区である。調査区の北側は第２期調査区、西側は第２期調査区と第３期調査１区、南側は第３期調査２区と接する。遺構面の遺存状況は良好である。基盤層上面でＩ期、基盤層および流路堆積土上面でⅡ－１期、基盤層および13世紀の整地層上面でⅡ－２期、Ⅲ期の調査を行った。主要な遺構には、Ｉ期の古墳時代以前の流路5200、Ⅱ－１・２期に継続して掘りなおされた南北溝（溝5115・溝5135・溝5140）などがある。

２）Ｉ期の遺構（図版29・126）

流路5200　調査区全域で検出した自然流路である。第１期調査の湿地460、第２期調査の流路1100、第３期調査の流路1126と同遺構である。今調査区での検出範囲は、東西約15.0ｍ、南北約30.0ｍ、深さは東肩の基盤層上面を基準にすると約1.2ｍある。底面の標高は、調査区北端で約46.7ｍ、南西端では約46.2ｍで、北東から南西へ低くなる。埋土上層に弥生時代から古墳時代の遺物が微量混じる。下層からは遺物は出土しなかった。

土坑5191・5192・5193　調査区北半で検出した。流路5200埋土上面から掘削された土坑群である。

土坑5191は、平面形は不整形で、南北約2.0ｍ、東西約1.5ｍ、深さは約0.15ｍある。埋土は2.5Y2/1黒色シルト～細砂で、弥生時代から古墳時代の土器が出土した。

土坑5192は、平面形は円形で、径約1.0ｍ、深さは約0.25ｍある。埋土は2.5Y2/1黒色シルト～細砂で、古墳時代の土器が出土した。

土坑5193は、平面形は隅丸方形で、径約0.8ｍ、深さは約0.25ｍある。埋土は2.5Y2/1黒色シルト～細砂で、古墳時代の土器が出土した。

落込5190　調査区北端で検出した。北は調査区外へ延びる。検出範囲は、東西約9.0ｍ、南北約8.0ｍ、深さは約0.15ｍある。埋土は2.5Y2/1黒色シルト～細砂に2.5Y3/1黒褐色粘質シルトブロックが多量に混じる。流路5200最上層を人為的に埋めたものと考えられる。埋土から古墳時代の遺物が出土した。

３）Ⅱ－１期の遺構（図版30・127）

溝5140（図版34・35・127）　調査区西寄りで検出した南北方向の溝である。後述する溝5135・5115に先行する溝で、第１期調査の溝327、第２期調査の溝900、第３期調査の溝2220Ｃと同一遺構である。

今調査区での検出長は、約35.0ｍ、幅3.5～4.5ｍ、深さは0.65～1.1ｍある。底面の標高は北端で約46.5ｍ、南端では45.9ｍで、北から南に低くなる。調査時にも湧水があり、水は北から南に流れていた。基本的には素掘りであったとみられるが、調査区中央部では、東肩を石で護岸して補修する。溝が西に緩く湾曲する場所にあたり、流水の攻撃面となることから補修したものと考えられる。流水堆積層（図版34のＢ－Ｂ’ライン32～34層）の上に土を盛り（30・31層）、径0.1～0.5ｍの石を弓状に並べ（図版35・127）て、さらに土で覆う（図版34のＢ－Ｂ’ライン26～28層）。調査区南端では、西肩付近に杭が打ち込まれており、これも護岸の意図があった可能性がある。流水堆積層、東肩護岸土からはともに12世紀後半代の遺物が出土した。

井戸5032（図版35・127）　調査区中央東寄りで検出した。掘形の平面形は隅丸方形で、東西約1.4ｍ、南北約1.5ｍ、深さは約1.1ｍある。井筒は確認できなかったが、掘形南東部から径0.1～0.3ｍの石が出土した。構築材であった可能性がある。底には、直径約0.3ｍ、高さ約0.2ｍの曲物が据わる。曲物底面の標高は約46.0ｍである。曲物の周囲には径0.1～0.3ｍの石が敷かれる。埋土から12世紀中葉の遺物が出土した。

土坑5089　調査区北東隅で検出した。平面形は隅丸方形で、径約1.1ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粗砂で、12世紀代の遺物が出土した。

土坑5159　調査区南西部で検出した。西半は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形で、径約0.6ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は図版33の32・33層で、径0.1～0.2ｍの礫が多量に混じる。12世紀代の遺物が出土した。

土坑5202　調査区南西部西壁際で検出した。西半は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形で、径約0.8ｍ、深さは約0.5ｍある。埋土は図版33の25～27層である。

土坑5091（図版35）　調査区北東隅で検出した。平面形は不整形で、径約1.6ｍ、深さは約0.7ｍある。埋土から11世紀代の遺物が出土した。

柱穴群　調査区北部を中心に、柱穴を検出した。建物としてのまとまりを捉えられるものはなかった。掘形の平面形は円形または隅丸方形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。埋土から12世紀代の遺物が出土した。

４）Ⅱ－２期の遺構（巻頭図版２、図版31）

溝5135（巻頭図版３・４、図版34・36・37）　調査区西寄りで検出した南北方向の溝である。Ⅱ－１期の溝5140を護岸して改修した溝で、第１期調査の溝327新、第２期調査の溝840、第３期調査の溝2220Ｂと同一遺構である。

検出長は約35.0ｍ、幅は護岸内法で0.4～0.7ｍ、深さは0.5～1.0ｍある。底面の標高は北端で約46.6ｍ、南端では約46.0ｍで、北から南へ低くなる。護岸は、調査区南端のX=－109,504ライン付近で東西方向に目地を通した石積みがみられ（図版34のＣ－Ｃ'ライン）、その東西目地を境に北と南で護岸状況が異なる。東西目地より北では、東護岸は径0.2～0.5ｍの石を横使いして並べ、最大２段積みし、石の間には径0.05ｍの礫を詰め、裏込めにも瓦と礫を詰める。西護岸は径0.05～0.1ｍの礫と土で固める。東西目地より南では、東護岸・西護岸ともに瓦と礫を用いて厚く裏込めし、径0.2～0.5ｍの石を横使いして並べる。この溝5135の護岸は、一度大規模に補修される。東護岸は、元の護岸石の前面に木杭を密に打ち込み、元の護岸石と杭との間に径0.2～0.6ｍの石と径0.05～0.1ｍの礫、瓦などを差し込んで固め、補強する。西護岸は、元の護岸に礫と瓦を混ぜた厚さ0.3～0.4ｍの土を盛って固める。調査区南半では、補修の段階で溝の中央に曲物5150が据えられる。曲物の直径は約0.3ｍ、高さは約0.18ｍあり、周囲を径0.1～0.2ｍの礫で固める。

溝5135の護岸土からは13世紀前葉から中葉、護岸補修土からは13世紀後葉、補修後埋土からは13世紀後葉から14世紀中葉の遺物が出土した。また、護岸土や埋土からは土製品や木製品、石製品、鉄滓なども多量に出土している。

溝5115（図版38・128）　調査区西寄りで検出した南北方向の溝である。溝5135を踏襲する溝で、第３期調査の溝2220Ａと同遺構である。検出長は約33.8ｍ、幅1.6～3.1ｍ、深さは0.4～0.8ｍある。底面の標高は北端で約46.8ｍ、南端では46.2ｍで、北から南へ低くなる。調査区北側では素掘り溝であるが、中央から南は東岸を護岸する。土を盛って杭を打ち込み、杭に竹を絡ませて固める。南端では杭列のみを確認した。護岸土や埋土から14世紀後葉から15世紀前葉の遺物が出土した。

井戸5031（図版39・128）　調査区中央部東寄りで検出した。平面形は隅丸方形で、東西約1.5ｍ、南北約1.6ｍ、深さは約1.1ｍある。底面の標高は46.15ｍである。断面形は袋状で、井筒は確認できなかった。14世紀前半代の遺物が出土した。

井戸5090（図版39・128）　調査区北東部で検出した。作り替えを行ったとみられ、井筒に用いられた石の重複関係から、南側が古く、北側が新しく作り替えた井戸と考えられる。掘形の平面形は隅丸長方形で、南北約2.4ｍ、東西約1.7ｍ、深さは南側が約1.1ｍ、北側が約1.0ｍある。南側の旧井戸は、南東部のみ径0.1～0.3ｍの石を用いた井筒の石組が残る。北側の新井戸の井筒は方形石組で、径0.1～0.35ｍの石を小口積みする。裏込めには径0.05～0.2ｍの石と瓦が用いられる。底部には、径約0.3ｍ、高さ約0.2ｍの曲物が据わる。曲物底部の標高は約46.4ｍである。新井戸の石組内から14世紀前半代の遺物、新井戸の掘形から13世紀後半代の遺物が出土した。

柱列5139（図版39）　調査区南西隅で検出した南北方向の礎石建柱列である。礎石５基を検出

した。検出長は約2.9ｍある。方位は北に対して西へ約2.5度振れる。柱間は0.35～1.3ｍあり不等間である。柱掘形の平面形は不整形で、長径0.35～0.6ｍ、深さは0.05～0.2ｍある。長径0.2～0.3ｍの石が平坦面を上にして据わる。各掘形埋土から13世紀代の遺物が出土した。

柱穴群　調査区北部を中心に、多数の柱穴を検出した。建物としてのまとまりを捉えられるものはなかった。平面形は円形で、径0.2～0.4ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。柱痕跡が残るものや地下式礎石をもつものもある。各柱の埋土から13世紀代の遺物が出土した。

土坑5145・5146　調査区南西隅で検出した。土坑5145は、平面形は楕円形で、長径約0.9ｍ、深さは約ある。埋土は2.5Y3/1黒褐色細砂で、13世紀代の遺物が出土した。土坑5146は、西半は調査区外へ延びる。平面形は円形と推測され、径約0.6ｍ、深さは約0.45ｍある。埋土は2.5Y4/1黄灰色細砂で、13世紀代の土器類が出土した。

土坑5147（図版39・129）　調査区南西隅で検出した。土坑5145・5146に削平を受ける。平面形は円形で、径約1.0ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土から13世紀代の土器類とともに、箸などの木製品がまとまって出土した。

土坑5025　調査区中央東壁際で検出した。東は調査区外へ延びる。検出規模は、東西約0.6ｍ、南北約2.2ｍ、深さは約0.6ｍある。埋土は2.5Y4/1黄灰色細砂で、瓦類が多量に出土した。

土坑5129・5154　調査区中央西壁際で検出した。いずれも溝5135の西肩に削平される。土坑5129は、平面形は楕円形で、長径約1.5ｍ、深さは約0.35ｍある。埋土は図版34のＢ－Ｂ’ライン８～10層で、13世紀代の遺物が出土した。土坑5154は、平面形は楕円形で、長径約1.5ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土は図版34のＢ－Ｂ’ライン11層で、13世紀代の遺物が出土した。

土坑5035・5036　調査区北半で検出した南北に並ぶ土坑である。いずれも平面形は楕円形で、底部に石が据わり、柱穴の可能性もある。

土坑5035は、長径約1.5ｍ、深さは約0.2ｍある。底部東端で径約0.2ｍの２石の石が重なって出土した。埋土は10YR2/2黒褐色細砂～中砂で、13世紀代の土器片を多量含む。土坑5036は、長径約1.5ｍ、深さは約0.2ｍある。底部東端で、長径約0.4ｍ、深さ約0.05ｍの掘形の中に径約0.2ｍの石が据わった状態で出土した。埋土は土坑5035と同質で、土器片を多量に含む。

土坑5100　調査区北半で検出した。平面形は楕円形で、長径約1.7ｍ、短径約1.15ｍ、深さは約0.35ｍある。埋土は10YR3/1黒褐色細砂～中砂で、14世紀代の遺物が出土した。

土坑5101　調査区北半で検出した。東は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形で、検出規模は東西約2.0ｍ、南北約2.8ｍ、深さは約0.3ｍある。埋土は10YR3/1黒褐色細砂～中砂で、小礫と13世紀代の土器片を多量含む。

土坑5157　調査区北端で検出した。北半は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と推測され、残存径は約0.8ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は10YR3/1黒褐色細砂～粗砂で、13世紀代の遺物が出土した。

５）Ⅲ期の遺構（図版32・129）

溝5028　調査区西寄りで検出した南北方向の溝である。Ⅱ－２期の溝5115を踏襲する溝で、第１期調査の溝326、第２期調査の溝440、第３期調査の溝2212と同遺構である。

検出長は約34.5ｍ、幅0.8～1.4ｍ、深さは0.15～0.4ｍある。底面の標高は北端で47.0ｍ、南端では46.6ｍあり、北から南へ低くなる。埋土から15世紀後半から16世紀前半の遺物が出土した。

土坑5033（図版39・129）　調査区中央東寄りで検出した。平面形は南北に長い楕円形で、長径約2.9ｍ、短径約1.1ｍ、深さは約0.15ｍある。埋土から15世紀代の土器類や鉄滓が出土した。

落込5126　調査区全域で検出した南北に延びる落込である。Ⅱ期の溝5135・5115の東肩部にあたり、東から西に緩やかに下がる。深さは最大で約0.2ｍある。埋土から15世紀代の遺物が出土した。耕作地化に伴って整地を行った可能性がある。

耕作溝群　調査区全域で耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて南北方向の溝が新しい傾向にある。検出面での幅は0.1～0.5ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。15世紀後半から19世紀の遺物が少量出土した。

（７）６・７区の遺構

１）６・７区の概要

美術館本館西側の調査区で、第３期調査２・３区と繋がる。遺構面の遺存状況は良好であった。基盤層上面でⅠ期、Ⅱ－１・２期、Ⅲ期の調査を行った。主要な遺構には、Ⅰ期の弥生時代の溝6170、Ⅱ－２期の東西溝（溝6155・6156）などがある。

２）Ⅰ期の遺構（図版40・130）

溝6170（図版43）　調査区南半で検出した東南東から西北西へ延びる溝である。第３期調査の溝2250と同遺構である。今調査区での検出長は約5.0ｍ、幅1.3～1.6ｍ、深さは約0.7ｍある。底面の標高は東端で46.7ｍ、西端では46.6ｍあり、東から西へ低くなる。埋土下層は流水堆積層で、上層は人為的に埋め戻された土と考えられる。上層から弥生時代後期の土器が出土した。

３）Ⅱ－１期の遺構（図版40・130）

建物6110（図版43・131）　調査区南半で検出した掘立柱建物である。南北２間、東西１間分を検出した。東西棟の建物と考えられる。柱間は、桁行が約1.8ｍ、梁行が約2.4ｍである。柱穴の掘形は円形ないしは隅丸方形で、径0.4～0.55ｍ、深さは0.1～0.45ｍある。柱痕跡から推測される柱径は0.1～0.15ｍある。時期を確定できる遺物は出土しなかった。

柱穴6107・6127　調査区南半西壁際で検出した。いずれも西半は調査区外へ延びる。柱穴6107の平面形は円形で、径約0.5ｍ、深さは約0.4ｍある。底に地下式礎石が据わる。柱穴6127の平面形は円形で、径約0.25ｍ、深さは約0.25ｍある。底に地下式礎石が据わる。両柱穴の埋土から11世紀後半代の遺物が出土した。

柱穴群　調査区北端で柱穴を複数検出した。建物としてのまとまりを捉えられるものはなかった。柱穴の平面形は円形で、径0.25～0.4ｍ、深さは0.2～0.4ｍある。地下式礎石をもつものもある。柱穴群のうちの、柱穴6158からは11世紀後半の土器片が出土した。他は、12世紀代の土器片が微量出土した。

土坑6150・6151　調査区北半で検出した。いずれも東・西ともに調査区外へ延び、平面形は不整形で、底部は凹凸があり、壁面は抉られている。

土坑6150は溝状で、検出長は約4.5ｍ、幅約1.3ｍ、深さは0.6～1.05ｍある。埋土は図版42の22～25層である。土坑6151は、検出長約4.0ｍ、最大幅約1.5ｍ、深さは0.4～0.8ｍある。埋土は図版42の26～32層である。第３期調査２区の北東部土坑群と連続する土坑群であり、壁が抉られていることや、平面での重複関係が不明瞭なことなどから、白川砂を採取するための土取り穴の可能性が考えられる。

土坑6161　調査区北半で検出した。南を土坑6150に削平される。平面形は円形で、径約0.55ｍ、深さは約0.4ｍある。埋土は10YR3/1黒褐色細砂～粗砂で炭化物が多量に混じる。11世紀後半の遺物が出土した。

土坑6100（図版44）　調査区南半で検出した。西は調査区外へ延びる。平面形は円形で、径約0.95ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土には11世紀後半の土器片が多量に混じる。

４）Ⅱ－２期の遺構（図版41・130）

溝6155・6156（図版131）　調査区北半で検出した東西方向の溝で、第３期調査２区の溝2240の東延長部にあたる。溝6155が溝2240Ａと、溝6156が溝2240Ｂと同遺構である。

溝6156は、北肩を溝6155に削平される。検出長は約3.5ｍ、残存幅は0.7～1.0ｍ、深さは0.3～0.4ｍある。底面の標高は東端で46.7ｍ、西端で約46.6ｍで、東から西に低くなる。南肩部は護岸される。南肩に沿って、幅約0.9ｍ、深さ約0.3ｍの溝状に掘り下げ、土と礫、土器・瓦を用いて版築状に埋め、上面を叩き締める。

溝6155は、検出長約3.0ｍ、幅5.5ｍ、深さは0.3～0.4ｍある。底面の標高は東端で46.8ｍ、西端では46.65ｍで、東から西へ低くなる。下層は流水堆積層である。北肩は礫と土で固めて護岸する。

溝6156の南護岸からは13世紀後葉、埋土からは13世紀末から14世紀前葉、溝6155からは14世紀代の遺物が出土した。

土坑6079・6135・6136（図版44）　調査区北端で検出した。３基の土坑が東西に並ぶ。いずれも壁が抉られ、断面形が袋状になる。

東から、土坑6135の平面形は楕円形で、長径約1.05ｍ、深さは約0.6ｍある。土坑6136の平面形は隅丸長方形で、長径約1.2ｍ、短径約0.7ｍ、深さは約0.55ｍある。土坑6079の平面形は隅丸長方形で、長径約1.4ｍ、短径約0.7ｍ、深さは約0.45ｍある。いずれの土坑からも14世紀代の遺物が出土した。

柱穴群　調査区南半を中心に、多数の柱穴を検出した。建物としてのまとまりを捉えられるもの

はなかった。柱穴の平面形は円形ないしは隅丸方形で、径0.2～0.6ｍ、深さは0.1～0.45ｍある。地下式礎石をもつものもある。遺物が出土せず多く、時期を特定できないものも多い。

５）Ⅲ期の遺構（図版41・131）

耕作溝群　調査区全域で耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて南北方向の溝が新しい傾向にある。検出面での幅は0.1～0.6ｍ、深さは0.1～0.5ｍある。

南北大溝群　調査区中央部で検出した。南北方向の幅の広い溝で、４区と第３期調査２区でも同様の遺構を多数検出している。検出面での幅は0.8～1.0ｍ、深さは0.2～0.3ｍある。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がり、断面形は方形である。19世紀代の遺物が出土した。

井戸6047（図版44・131）　調査区中央で検出した。下段が桶、上段が石組の円形井戸である。掘形の平面形は円形で、径約1.1ｍ、深さは約1.55ｍある。底面の標高は約45.7ｍである。下段の桶は、径約0.7ｍ、高さは約0.4ｍある。上段の石組は、高さ約1.2ｍ分が遺存する。石組の内径は約0.65ｍある。石材は長径0.1～0.2ｍの花崗岩系と砂岩系の石が主体で、チャートが少量混じる。19世紀の遺物が出土した。

土坑6080　調査区北半で検出した。平面形は隅丸方形で、径約1.4ｍ、深さは約0.2ｍある。埋土は2.5Y4/1暗灰黄色中～粗砂で、19世紀代の遺物が少量出土した。

（８）８区の遺構

１）８区の概要

美術館本館南西部に位置する調査区である。東半は工事掘削深度が遺構面に達しないため、西半のみ遺構面まで掘り下げて調査を行った。基盤層上面でⅡ－１期とⅢ期の調査を行った。主要な遺構には、Ⅲ期の南北方向の畔8007などがある。

２）Ⅱ－１期の遺構（図版45・132）

柱穴8013（図版47）　調査区北端で検出した。平面形は円形で、径約0.4ｍ、深さは約0.2ｍある。柱痕跡から推測される柱径は約0.1ｍある。遺物は出土せず、時期は不明である。

土坑8016（図版47・132）　調査区南半で検出した。平面形は円形で、径約0.55ｍ、深さは約0.75ｍある。掘形下半の壁に径0.05～0.1ｍの礫が貼り付く。埋土から11世紀後半代の土器が出土した。

３）Ⅲ期の遺構（図版45・132）

畔8007・溝8008・8009・8010・8012（図版47・132）　調査区東半で検出した。南北方向の畔とその下層に掘削された南北溝群で、一連の遺構群である可能性がある。溝8008・8009・8010・8012は、幅0.2～0.5ｍ、深さ0.05～0.15ｍある。埋土には礫と瓦が詰まる。この南北溝群の

上に黄橙色細砂が薄く敷かれ、上面は固く締まり、土間状になる。第３期調査２区でも、この畔8007を北側に延長したところで畔2185とその上面の礫敷を検出しており、繋がる可能性がある。溝埋土と畔8007構築土からは15世紀後半代の遺物が出土した。

溝8001・8002　調査区西端で検出した南北方向の溝である。

溝8001の検出長は約1.7ｍ、深さは約0.1ｍある。底面の標高は北端で46.85ｍ、南端では46.95ｍで、南から北に低くなる。溝8002の検出長は約2.5ｍ、深さは約0.6ｍある。底面の標高は北端で約46.5ｍ、南端では約46.4ｍで、北から南に低くなる。いずれも流水の痕跡は確認できなかった。埋土から15世紀代の遺物が出土した。

溝8005　調査区東半で検出した。畔8007に平行する南北方向の溝である。検出長は約9.5ｍ、幅0.4～0.5ｍ、深さは約0.25ｍある。埋土は固く締まり、礫が詰まる。15世紀代の遺物が出土した。

溝8006　調査区東半で検出した。南北方向の溝で、溝8005に削平される。検出長は約10.05ｍ、幅約2.7ｍ、深さは0.25～0.35ｍある。底面は平坦で、流水の痕跡は確認できなかった。埋土から15世紀代の遺物が出土した。

溝8014　溝8006の底部で検出した南北方向の溝である。検出長は約5.5ｍ、幅0.3～0.9ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。底面は北から南に低くなるが、流水の痕跡は確認できなかった。

土坑8003　調査区西半で検出した。平面形は隅丸方形で、長径0.6ｍ、深さは約0.2ｍある。

土坑8015　調査区北東部で検出した。溝8006・8014に削平され、北は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と推測され、検出規模は東西約1.9ｍ、南北約1.6ｍ、深さは約1.55ｍある。埋土から15世紀代の遺物が微量出土した。

土坑8017　調査区西半で検出した。北は調査区外へ延びる。平面形は不整形で、長径約1.0ｍ、深さは約0.3ｍある。15世紀代の遺物が出土した。

土坑8018　調査区西半で検出した。北は調査区外へ延びる。平面形は隅丸長方形で、長径約1.5ｍ、短径約0.6ｍ、深さは約0.25ｍある。15世紀代の遺物が出土した。

（９）９区の遺構

１）９区の概要

美術館敷地西端の調査区で、第３期調査２区と繋がる。遺構面の遺存状況は良好である。基盤層上面でⅡ－１・２期、Ⅲ期の調査を行った。主要な遺構には、継続して掘りなおされた東西方向の溝（溝9006Ａ・Ｂ・Ｃ）などがある。

２）Ⅱ－１期の遺構（図版48・133）

溝9006Ｃ　調査区北半で検出した東西方向の溝である。後述する溝9006Ａ・Ｂに先行する溝で、第３期調査の溝2230Ｃと同遺構である。北肩は調査区外へ延びる。今調査区での検出長は約4.5ｍ、幅4.0～5.0ｍ、深さは0.8～0.9ｍある。底面の標高は東端で約45.4ｍ、西端では約45.3ｍで、東から西に低くなる。下層は流水堆積で、底面と肩部は水流による凹凸が著しい。下層から12世紀

後半代の遺物が出土した。

土坑9008・9009（図版50）　調査区北端、溝9006Ｃの北肩部で検出した。２基の土坑が東西に並ぶ。土坑間の距離は心々で約1.6ｍある。西側の土坑9008の平面形は歪な円形で、長径約1.0ｍ、深さは約0.1ｍある。径0.1～0.25ｍの礫や瓦が詰まる。土坑9009の平面形は隅丸長方形で、長径約1.0ｍ、深さは約0.1ｍある。径0.1～0.3ｍの礫や瓦が詰まる。両土坑から12世紀後半代の遺物が出土した。礎石据え付け穴の可能性も考えられる。

落込9007　調査区南半で検出した。平面形は不整形で、検出規模は東西約4.0ｍ、南北約3.2ｍ、深さは最深で0.55ｍある。埋土から11世紀代の遺物が出土した。地形の窪みを埋めた整地土の可能性がある。

３）Ⅱ－２期の遺構（図版48・133）

溝9006Ａ・Ｂ　調査区全域で検出した東西方向の溝である。Ⅱ－１期の溝9006Ｃを踏襲する溝で、溝9006Ｃ→9006Ｂ→9006Ａの順に変遷する。溝9006Ｂは第３期調査の溝2230Ｂ、溝9006Ａは溝2230Ａと同遺構である。

溝9006Ｂは、検出長約4.5ｍ、幅4.0～4.5ｍ、深さは0.9～1.1ｍある。底面の標高は東端で約45.45ｍ、西端では約45.3ｍで、東から西に低くなる。底面と南肩部は水流によると思われる凹凸が著しい。北肩・南肩ともに護岸を行っており、北肩は瓦を多量に混ぜた土で固める。南肩上部は礫を一部混ぜた土で固め、下部は板材を複数枚重ねて杭を打ち込み固定する。

溝9006Ａは、北肩は調査区外に延びる。今調査区での検出長は約4.5ｍ、幅約7.5ｍ、深さは約0.3ｍある。底面の標高は東端で約46.2ｍ、西端では46.0ｍで、東から西に低くなる。

溝9006Ｂからは13世紀中葉、溝9006Ａからは13世紀後葉から15世紀初頭の遺物が出土した。

４）Ⅲ期の遺構（図版48）

耕作溝群　調査区北西部で耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて東西方向のものが新しい傾向にある。検出面での幅は0.15～0.3ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。

３．遺　　物

（１）出土遺物の概要（表５）

調査では、整理コンテナにして383箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品、植物遺存体などがある。瓦類が約６割を占める。遺物の帰属時期は、弥生時代から明治時代の各時期のものがある。平安時代から鎌倉時代のものが約７割を占める。次いで室町時代の遺物が多く、弥生時代から古墳時代、江戸時代、明治時代の遺物は少量である。以下では、遺物種別に概要を述べる。各遺物の個別の詳細については、巻末の付表１～９にまとめた。

（２）土器類

１）弥生時代から古墳時代の土器

溝6170出土土器（図版51・134）　弥生土器壷・甕・高杯・器台が出土した。時期は弥生時代後期後葉[1)]である。

１は広口壷の口縁部である。端部を下方に拡張する。２・３は受け口状口縁甕である。２は口縁部が強く外反し、端部は内傾する面をもつ。断面の色調が黒褐色を呈し、近江からの搬入品と思われる。３も端部は内傾する面をもつが、口縁部の外反は弱く、色調も外面断面ともに同系色を呈す

表５　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
弥生時代～古墳時代	弥生土器、古式土師器、須恵器		弥生土器16点、古式土師器10点、須恵器７点：計33点		
平安時代	土師器、須恵器、山茶椀、白色土器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品		土師器262点、須恵器10点、灰釉陶器４点、山茶椀22点、白色土器10点、黒色土器４点、緑釉陶器１点、瓦器47点、焼締陶器７点、施釉陶器２点、輸入陶磁器55点、瓦類578点、塼10点、土製品29点、木製品38点、石製品34点、金属製品７点、銭貨３点：計1123点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、山茶椀、瓦器、白色土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品				
室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器				
江戸時代	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、金属製品、石製品		土製品５点、瓦類４点、銭貨１点：計10点		
明治時代	土製品、銭貨		土製品９点、銭貨１点：計10点		
合　計		470箱	1176点（75箱）	38箱	357箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より87箱多くなっている。

る在地産である。４は高杯の杯部である。深い皿型の杯部で口縁部は直線的に立ち上がる。５～７は高杯脚部である。いずれも中空で脚裾が明瞭な屈曲点をもって開くものである。６・７は上下２段に円形透かしを施す。

流路2180出土土器（図版51・134）　弥生土器甕・鉢・高杯、古式土師器甕・高杯・鍋・移動式竈、須恵器杯身・杯蓋・壷・甕・器台が出土した。弥生時代後期後葉から古墳時代後期までの土器が混在する。

８・９は弥生土器で、８は直口壷、９は受け口状口縁部甕である。10は古式土師器の甕口縁部である。端部内面を肥厚させる。11・12は弥生土器の甕底部である。11の外面はタタキ、12はハケのちナデである。いずれも外面に煤が付着する。13・14は有孔鉢の底部である。15は弥生土器の高杯脚部、16も円盤充填部が外れた高杯脚部と考えられ、脚柱部下半を加飾する。17は古式土師器の器台である。器壁は厚く、胎土にも砂粒を多量含み、粗製である。18は土師器の移動式竈の焚口周囲の庇部分と考えられる。内外面ともに煤が付着する。19は須恵器の杯身で受け部の立ち上がりは短い。TK10型式か[2)]。20は須恵器の器台の脚部と考えられる。

流路3019出土土器（図版51・134）　弥生土器壷・甕・高杯・器台、古式土師器壷・甕、須恵器杯身・杯蓋・壷・甕が出土した。弥生時代中期から古墳時代後期の土器が混在する。

21は弥生時代中期の壷底部と考えられる。全体的に摩滅が著しい。22・23は同一個体の古式土師器の壷体部と考えられる。外面に赤色顔料を塗布後、櫛描直線文と波状文、列点文で加飾する。24は古式土師器の高杯脚部である。胎土は精良である。25・26は須恵器杯蓋、27・28は須恵器杯身である。25はTK47型式、26・27はMT15型式、28はTK43型式か。

落込3020出土土器（図版51）　古式土師器壷・甕・高杯が出土した。時期は古墳時代前期である。

29は古式土師器のいわゆる布留式甕の口縁部である。30は受口状口縁甕である。口縁端部は水平な面をもつ。31は小型丸底壷である。器壁は厚く、胎土には砂粒を多量に含み、粗製である。32は高杯杯部で、椀型の杯部をもつものと考えられる。摩滅が著しいが、外面に短い単位のミガキが確認できる。

土坑5191出土土器（図版51・134）　古式土師器甕・高杯、須恵器高杯が出土した。時期は古墳時代中期である。

33は須恵器の無蓋高杯である。脚部に透かしはもたない。TK47型式か。

２）墨書土器（図版52）

墨書土器は９点出土した。34は土師器皿N[3)]である。時期は５Ａ段階。内面に墨書があるが、文字ではない[4)]。35は土師器皿Ｎである。時期は６Ａ段階。内外面に墨書がある。外面は文字ではない。内面は文字の可能性があるが判読不可。36は土師器皿Ｎである。時期は６Ａ段階か。内外面に墨書があるが、文字か不明。37は白色土器の皿である。内面に墨書がある。文字の可能性があるが、判読不可。38は山茶椀の椀である。底部外面に「万上」の墨書がある。吉祥句か[5)]。39は土師器鉢で

ある。体部外面に墨書があるが、文字ではない可能性がある。40は山茶椀の椀である。底部外面に「佛」の墨書がある。41は輸入白磁椀である。底部外面に「張」の墨書がある。42は輸入白磁皿である。底部外面に「上」の墨書がある。

３）平安時代から室町時代の土器

流路2180上層出土土器（図版52）　土師器皿、黒色土器椀、灰釉陶器椀・壷・緑釉陶器椀が出土した。３Ａ～３Ｂ段階に属する土器群である。土器以外では、瓦片が出土している。

43～45は土師器杯Ａである。44は口縁部に煤が付着する。46・47は土師器の羽釜である。48は内黒の黒色土器椀である。49は灰釉陶器壷の底部である。底部外面に赤色顔料が付着する。50は灰釉陶器皿である。内面底部と体部の境に浅い凹線がめぐる。灰釉は体部内外面にのみ施釉する。51は緑釉陶器椀である。削り出しの輪高台で、全面施釉する。52は須恵器小型壷である。

土坑2480出土土器（図版52）　土師器皿・鉢、須恵器杯Ｂ・甕・瓶子、黒色土器椀・灰釉陶器椀・緑釉陶器椀が出土した。３Ｂ段階に属する土器群である。

53・54は土師器皿Ａ、55～57は土師器杯Ａである。53・55は口縁部に煤が付着する。58・59は内黒の黒色土器椀である。断面三角形で低い高台がつく。60は白色土器の皿である。貼り付けの輪高台がつく。61は灰釉陶器椀である。いわゆる三日月高台をもち、体部にのみ施釉する。

土坑2156出土土器（図版53）　土師器皿、灰釉陶器椀が出土した。４Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に凝灰岩片、軒瓦が出土している。

62～65は土師器皿Ａである。口径は10.5㎝前後にまとまる。

土坑2157出土土器（図版53）　土師器皿が出土した。４Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦が出土している。

66は土師器Ａ、67・68は土師器皿Ｎである。

２区整地層出土土器（図版53）　土師器皿・鍋、須恵器壷・甕、灰釉陶器椀・壷、白色土器高杯、輸入白磁椀が出土した。４Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦、石製品が出土している。

69・70は土師器皿Ａである。71は土師器皿Ｎである。

落込2150出土土器（図版53）　土師器皿、須恵器壷・甕が出土した。４Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に瓦片が出土している。

出土した土器片は小片が多く、図化できたのは72の土師器皿Ａのみである。

井戸2100出土土器（図版53）　土師器皿・鍋、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜、焼締陶器甕、輸入白磁椀が出土した。すべて掘形から出土したもので、４Ｃ～５Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦、木製品、凝灰岩片が出土している。38の墨書土器は井戸2100木枠内から出土したものである。

73は土師器皿Ａ、74～79は土師器皿Ｎである。80は瓦器の小椀である。外面のみ炭素吸着し、黒色化する。

井戸2025出土土器（図版53・135）　土師器皿、須恵器鉢・甕、瓦器椀・盤・鉢、山茶椀の椀、輸入白磁椀、輸入褐釉陶器壷が出土した。５Ｂ～６Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦、土製品、石製品、金属製品、凝灰岩片、桃の種などが出土している。

81～88は土師器皿Ｎ、89は土師器皿Ndである。83・87は口縁部に煤が付着する。90は瓦器椀である。内面のみ炭素吸着する。内面の格子暗文部分が二次焼成により剥離する。91は輸入白磁の輪花皿である。

土坑6100出土土器（図版53・135）　多量の土師器皿が出土した。５Ａ段階に属する土器群である。土師器皿以外に瓦が微量出土している。34の墨書のある土師器皿も土坑6100から出土したものである。

92～96は土師器皿Ｎである。

土坑9008出土土器（図版53）　土師器皿、瓦器椀・羽釜、輸入白磁壷が出土した。５Ｂ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、鉄釘が出土している。

97～100は土師器皿Ｎである。101は輸入白磁壷の底部である。

溝2095出土土器（図版53・135）　土師器皿・羽釜、須恵器壷・甕・鉢、瓦器椀・羽釜が出土した。４Ｂ～４Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦が出土している。

土器類は小片で、図化できたのは102の須恵器片口鉢のみである。102は把手のつく片口鉢と考えられ、片口部外面は細かくヘラケズリする。全体に自然釉がかかる。

溝2094出土土器（図版53・135）　土師器皿・鉢・鍋、須恵器壷・甕・鉢、白色土器皿・高杯、瓦器椀・皿・羽釜・鍋、山茶椀の皿・椀、焼締陶器甕、輸入白磁皿・壷が出土した。５Ｂ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、鬼瓦、瓦、土製品、石製品などが出土している。40の墨書のある山茶椀の椀も溝2094から出土したものである。

103・104は土師器皿Ac、105～112は土師器皿Ｎである。113・114は土師器鉢でいずれも粘土紐接合痕が明瞭に残る。115は山茶椀の小皿で、底部は回転糸切り後、少量の粘土塊を貼り付けて低い高台とする。内面には自然釉が厚くかかる。116は山茶椀の小椀、117・118は山茶椀の椀である。117は体部内外面に灰釉がかかる。118は体部内面に薄く灰釉がかかる。119は瓦器皿、120は瓦器椀で、内面底部に連結輪状暗文を施す。121・122は輸入白磁椀である。

溝2093出土土器（図版54）　土師器皿・鉢・羽釜・鍋、須恵器甕・鉢、白色土器高杯、山茶椀の椀、瓦器椀・皿・羽釜・鍋・香炉、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・瓶が出土した。６Ａ段階に属する土器群である。土器類以外には軒瓦、瓦、土製品、釘などが出土している。

123～131は土師器皿Ｎである。このうち126は、胎土にクサリレキを多量に含み、底部外面をヘラケズリするなど、京都産土師器皿ではない特徴をもつ。132・133は山茶椀の椀である。132は無高台で、体部内面に灰釉がかかる。133は高台に籾殻痕がつき、無釉である。134は須恵器の鉢である。135は大和型の瓦器椀である。底部内面には連結輪状暗文が施される。136は瓦器皿で、内面に重ね焼きされた皿が貼り付く。137は瓦器香炉の脚と考えられる。外面はケズリで成形される。

溝2092出土土器（図版54）　土師器皿・羽釜、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、白色土器高杯・皿、

瓦器椀・羽釜・鍋・鉢、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・壷、輸入陶器盤が出土した。６Ａ～６Ｂ段階に属する土器群である。土器類外に軒瓦、瓦類、石製品、釘、鉄滓などが出土している。39の墨書のある土師器鉢も溝2092出土から出土したものである。

138は土師器皿Ac、139～141・143は土師器皿Ｎである。142は口縁部が直立気味に立ち上がり、白色精良系な胎土であり、他地域産か京都産でも皿Ｓ系統のものである可能性がある。144・145は土師器皿Ssである。146は土師器皿と考えられるが、貼り付け高台がつく。147・148は土師器の台付鉢である。いずれも粘土紐接合痕と指頭圧痕が明瞭に残る。147は大きな底部から口縁部が大きく開くタイプのものと考えられる。149は白色土器の皿である。底部は回転糸切りする。150は山茶椀の椀である。高台に籾殻痕がつく。151は須恵器の甕、152は須恵器鉢である。152の内面は使用により平滑になる。153・154は瓦器椀である。153は樟葉型、154は和泉型である。155は瓦器鉢、156は瓦器鍋である。157～161は輸入磁器で、157は青白磁の輪花皿、158は白磁皿、159は白磁椀、160は青白磁椀、161は初期龍泉窯系の青磁椀である。

溝4009出土土器（図版54・136）　土師器皿が多量に出土した。６Ａ～６Ｂ段階に属する土器群である。土師器以外には瓦片が少量出土している。

162～176は土師器皿Ｎである。162～166は小型、167～176は大型のものである。

溝4010出土土器（図版54・136）　多量の土師器皿と輸入磁器白磁片が微量出土した。６Ａ～６Ｂ段階に属する土器群である。土器類以外には、軒瓦、瓦類、石製品、鉄滓が出土している。

177は土師器皿Acである。178～182は土師器皿Ｎの小型のもの、183～186は土師器皿Ｎの大型のものである。

溝5140東護岸出土土器（図版55・137）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、白色土器皿・高杯・華瓶、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・皿・花瓶・壷・鉢・蓋、青白磁椀・皿・合子、輸入陶器褐釉盤・緑釉盤が出土した。５Ｂ～６Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦、土製品、石製品、鉄滓などが出土している。

187・188は土師器皿Acである。189～196は土師器皿Ｎである。195は胎土に多量のクサリレキを含み、他地域産の可能性がある。197は回転台成形による他地域産の土師器皿で、底部は回転糸切りする。198は土師器の鉢である。粘土紐接合痕が明瞭に残る。199～202は白色土器で、199は皿、200・201は高杯、202は華瓶と考えられる。203は須恵器の壷、204・205は山茶椀の小椀である。204は口縁端部に煤が付着する。206・207は山茶椀の椀である。206の高台接地部には煤が厚く付着する。207の底部内面は使用により平滑になる。高台は籾殻痕がつく。208～210は焼締陶器の鉢である。208は片口鉢で常滑産か。体部外面下部は回転ヘラケズリ、内面には自然釉がかかる。209は内面全体に赤色顔料が付着する。210の内面は使用により平滑になる。211は焼締陶器の常滑産甕である。口縁部内面と体部外面に自然釉がかかる。212～216は瓦器椀である。215のみ大和型、他は樟葉型と考えられる。212・213は小椀で、213のヘラミガキは省略される。217～218は輸入磁器である。217・218は白磁の壷蓋である。219は白磁の双耳花瓶、220は白磁壷である。221・222は合子の身で、221は青白磁、222は白磁である。223は白磁椀である。224は白磁皿で、

口縁部に煤が付着する。225は平底の白磁皿で、内面底部に草花文を施す。226は青白磁の皿である。内面底部に草花文を施す。

溝5140出土土器（図版55）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、白色土器皿・高杯、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢、焼締陶器甕、輸入白磁椀・皿・壷、輸入陶器緑彩盤・褐釉壷が出土した。６Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、石製品、凝灰岩片などが出土している。35の墨書のある土器も溝5140から出土したものである。

227は土師器皿Ａc、228～230は土師器皿Ｎである。231～233は土師器鉢で、いずれも粘土紐接合痕跡が明瞭に残る。232は口縁端部を内側に強く屈曲させる。234・25は白色土器の皿で、底部は回転糸切りする。236は山茶椀の小椀である。237は山茶椀の椀で、内面全体に赤色顔料が付着する。238は瓦器の皿である。内面底部にジグザグの暗文が施される。239は輸入陶器の褐釉壷である。240は輸入白磁椀である。

溝5135東護岸出土土器（図版56・138）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・鍋・盤、白色土器皿、焼締陶器甕、輸入白磁椀、輸入青磁椀、高麗青磁壷、輸入陶器灰釉壷が出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、木製品、石製品、鉄滓などが出土している。

241～247は土師器皿Ｎである。248は土師器皿Sc、249～251は土師器皿Ｓである。252は山茶椀の小皿である。253は山茶椀の片口皿で、内面底部に墨痕がつく。254は瓦器小椀である。口縁部のみ炭素吸着する。255は瓦器の輪花椀である。内面底部に花文の暗文が施される。256は大和型の瓦器椀である。257は瓦器の盤である。底部外面に籾殻痕がつく。258は焼締陶器の常滑産甕である。259は輸入陶器の灰釉壷である。260～262は輸入白磁椀、263は輸入青磁椀である。

溝5135西護岸出土土器（図版56・138）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・鍋・火鉢、白色土器皿・高杯、焼締陶器甕・鉢、輸入白磁椀、輸入青磁香炉、高麗青磁壷、輸入緑彩盤が出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、土製品、木製品、桃の種などが出土している。

264～266は土師器皿Ｎ、267は土師器皿Ndである。268は土師器皿Scである。269は山茶椀の小皿である。270は瓦器の輪花椀である。内面底部に花文の暗文が施される。271は用途不明の須恵器である。粘土紐を巻き上げて筒状にし、上部が細くなる。底部は回転糸切りする。形状は焼き物のケズリ作業の台とするシッタに似る。272は焼締陶器の鉢である。内面底部は使用により平滑になる。体部内面には自然釉が付着する。273は輸入白磁椀である。274は輸入白磁鉢で、内面に鉄絵が描かれる。

溝5135護岸補修出土土器（図版57・138）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の小皿・椀、瓦器椀・羽釜・鍋・盤・鉢、白色土器高杯、焼締陶器甕、施釉陶器皿、輸入白磁椀・皿・花瓶、輸入青白磁皿、輸入青磁椀・皿、輸入褐釉壷が出土した。７Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦、土製品、石製品などが出土している。

275～281は土師器皿Ｎである。282・283は土師器皿Sc、284～289は土師器皿Ｓである。290は

須恵器の甕である。二次焼成を受ける。291は山茶椀の小皿である。292～295は瓦器椀である。いずれも無高台で、ヘラミガキは省略される。292・293・295は口縁部端部のみ炭素吸着する。296は瓦器の鉢である。297は瓦器の壷である。内面は板ナデし、下部は指頭圧痕が明瞭に残る。298は輸入青白磁小皿である。内面底部に花文が陽刻される。299は輸入白磁の双耳花瓶である。

溝5135埋土出土土器（図版57・58・139）　土師器皿、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢・火鉢・ミニチュア羽釜、白色土器高杯・皿、焼締陶器甕・擂鉢、施釉陶器椀・皿、輸入白磁椀・壷・合子、輸入青白磁合子、輸入青磁椀・杯、高麗青磁壷、輸入褐釉壷が出土した。７Ａ～７Ｃ段階に属する土器群である。土器類外に軒瓦、瓦類、土製品、石製品、木製品などが出土している。

300～310は土師器皿Ｎである。300は胎土にクサリレキを多量含み、309は口縁部が直立気味に立ち上がる形状から他地域産の可能性がある。311～316は土師器皿Scである。318・319は土師器皿Ss、317・320～326は土師器皿Ｓである。327・328は無高台の瓦器椀である。ヘラミガキは省略され、口縁部のみ炭素吸着する。329は樟葉型の瓦器椀である。330は瓦器の鉢である。331は瓦器の三足付皿である。内面に煤が付着する。332は瓦器のミニチュア羽釜である。333は瓦器鍋の把手である。上面に暗文が施される。334は瓦器の火鉢である。菊花文のスタンプが３個一組で押捺される。335は焼締陶器の壷である。二次焼成を受ける。336～338は山茶椀の椀である。336・337の高台には籾殻痕がつく。339は施釉陶器の卸目皿である。内面に灰釉がかかる。340は輸入白磁椀である。341は輸入青磁杯である。342は輸入青磁椀で、底部内面に魚文が陽刻される。

溝9006Ｃ出土土器（図版58）　土師器皿・鉢・羽釜、須恵器甕・鉢・鍋、瓦器鍋・羽釜、輸入白磁椀、褐釉鉢が出土した。６Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、土製品、石製品、木製品、鉄滓などが出土している。

343～346は土師器皿Ｎである。347・348は土師器の羽釜である。349は須恵器の鍋で、縦耳が付く。縦耳の石鍋の形状に似る。350は輸入白磁椀である。

溝9006Ｂ出土土器（図版58・139）　土師器皿・鉢・羽釜、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢・盤、焼締陶器甕・鉢、輸入白磁椀・壷、青白磁皿、青磁椀、輸入陶器緑彩盤、灰釉鉢が出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、石製品、木製品が出土している。

351～355は土師器皿Ｎである。356・357は土師器皿Sc、358～361は土師器皿Ｓである。359は口縁部に煤が付着する。362は土師器の羽釜である。363は瓦器鍋である。364は瓦器火鉢で円形の火窓がつく。外面に菊花文のスタンプが押捺される。365は輸入陶器の灰釉鉢、366は輸入白磁皿である。

土坑1003出土土器（図版59・140）　土師器皿、須恵器鉢・壷、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・盤、白色土器高杯、焼締陶器甕、輸入白磁椀・壷、青白磁合子、青磁椀が出土した。６Ｂ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、金属製品、釘、鉄滓が出土している。

367～386は土師器皿Ｎである。口径が小さく器高が高い375・376は類例の少ないタイプであ

る。387・388は土師器皿Sc、389～392は土師器皿Ss、393～396は土師器皿Ｓである。397は瓦器の片口鉢である。398は瓦器の小椀、399は樟葉型の瓦器椀である。400は瓦器鍋、401は瓦器羽釜である。402は白色土器高杯、403は須恵器甕である。404は須恵器もしくは輸入陶器の壷と考えられる。外面に自然釉がかかり、文様が線刻される。405は輸入青白磁の合子蓋である。

瓦溜2355出土土器（図版59）　土師器皿・鉢、須恵器甕・壷・鉢、瓦器鍋、輸入白磁椀・皿、青磁椀が出土した。６Ｂ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、多量の瓦類、土製品、釘などが出土している。

406～411は土師器皿Ｎである。410は胎土にクサリレキを多量に含み、他地域産の可能性がある。412は土師器皿Sc、413・414は土師器皿Ｓである。415は輸入白磁皿である。

井戸4070出土土器（図版59）　土師器皿・甕、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器羽釜・鍋・鉢・盤、焼締陶器甕、輸入白磁壷が出土した。６Ｂ～６Ｃ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、石製品、凝灰岩、壁土などが出土している。

416・417は土師器皿Ｎである。418は土師器皿Ssである。419は輸入白磁壷である。

土坑3010出土土器（図版59）　土師器皿、瓦器羽釜、焼締陶器甕、輸入青磁皿が出土した。時期は７Ａ段階か。土器類以外に石製品が出土している。

420～424は土師器皿Ｎである。424は胎土にクサリレキを含み、他地域産の可能性がある。425は土師器皿Ｓである。

土坑6135出土土器（図版59・140）　土師器皿、須恵器甕、瓦器火鉢・鉢が出土した。土器類以外に石製品が出土している。

426は瓦器の鉢である。427は瓦器の三足付盤である。完形に近い。

溝5115出土土器（図版60・141）　土師器皿・鉢・羽釜、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢・甕・盤、焼締陶器甕・壷・擂鉢、施釉陶器皿・壷・椀、輸入白磁椀・壷・合子・水注・蓋、青白磁椀、青磁椀、褐釉壷・盤、高麗青磁壷が出土した。７Ｃ～８Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、土製品、石製品、木製品、鉄滓などが出土している。

428・429は土師器皿Shである。430・431は土師器皿Ｎ、432は土師器皿Ｓである。430～432は口縁部に煤が付着する。433は用途不明の台状の瓦器である。平坦な上面と外面には太い単位のヘラミガキを密に施す。内面はナデで仕上げある。434は瓦器の盤である。鍔がめぐり、鍔より上部と内面は炭素吸着する。鍔より下の外面は粗いヘラミガキを施す。435は瓦器鍋、436は土師器羽釜である。437は施釉陶器の華瓶である。鉄釉がかかる。438は輸入青磁皿である。439は輸入白磁皿である。

溝9006Ａ出土土器（図版60）　土師器皿、山茶椀の椀、瓦器羽釜・鍋、焼締陶器甕、輸入白磁椀、青磁椀が出土した。７Ｃ～８Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類、石製品、木製品が出土している。

440は土師器皿Nh、441は土師器皿Ｎ、442は土師器皿Ｓである。441は口縁部に煤が付着する。

溝5028出土土器（図版60）　土師器皿・鉢、須恵器甕・鉢、山茶椀の椀、瓦器羽釜・鍋・甕、焼

締陶器擂鉢・甕、施釉陶器壷・椀、輸入白磁椀・壷、青白磁合子、青磁椀が出土した。９Ａ段階に属する土器群である。土器類以外に軒瓦、瓦類が出土している。

443は土師器皿Sh、444・445は土師器皿Ｓである。446は輸入白磁の耳付き壷の肩部かと考えられる。残存上部にのみ釉薬がかかる。

その他輸入陶磁器（図版60・141）　447～449は輸入施釉陶器の盤である。２区の溝2090・2092の近接した場所から破片がまとまって出土しており、同一個体の可能性がある。底部外面を除く内外面に緑釉がかかり、内面には陰刻で文様が描かれる。450・451は輸入施釉陶器の壷である。出土地の溝5140と溝9006は一連の溝と考えられる遺構で、450・451は同一個体の可能性がある。これ以外に同一個体の可能性のある破片が溝5140から２点、溝9006から２点しているほか、溝5140と連続する第３期調査の溝2220・2230からも破片が出土している[6)]。外面に白泥を塗り、線刻で花文を描き、緑釉をかけている。内面にも緑釉がかかる。452～457は高麗青磁の鉄絵瓶である。出土地の溝5135、溝9006、溝5115は一連の溝と考えられる遺構で、457のみ５区の土坑5165出土ではあるが、胎土や釉薬の色調、厚みなどから見て、全て同一個体の可能性が高いと考える。第３期調査の溝2220・2230からも同一個体とみられる破片が２点出土しており、参考資料として掲載した。

（３）瓦　類

今回の調査では、遺物整理箱約240箱分の瓦類が出土した。瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・道具瓦・丸瓦・平瓦と、刻印やヘラ記号を施した丸瓦・平瓦、塼などである。軒瓦の内訳は、軒丸瓦818点、軒平瓦657点、総数1475点である。鬼瓦の出土点数は26点、道具瓦８点、刻印押捺の丸瓦１点・平瓦12点、ヘラ描きの丸瓦91点・平瓦79点、塼19点である。

なお、個々の瓦類の詳細については、付表２～５に掲載した[7)]。

１）軒瓦（図版61～104・142～146）

ⅰ．軒瓦の出土遺構（表６）

遺構別の軒瓦の出土数は、表６の通りである。

溝2094から107点、溝2093から82点、溝2092から177点、溝2090・掘形から64点、溝5140・東護岸から267点、溝5135関連遺構から231点、溝9006Ｂから65点出土した。これらの溝から出土した軒瓦が全体に占める割合は約７割を占め、特に５区の溝5140と溝5135関連遺構から大量の瓦が出土した。

溝以外の遺構では、瓦溜2355から64点と多い。

ⅱ．瓦当文様の分類（表７）

軒丸瓦　軒丸瓦は、瓦当文様により分類すると243種668点、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが150点ある。瓦当文様は、蓮華文・蓮華巴文・巴文・唐草文・重圏文・形象文・文字文に大別できる。

蓮華文は152種421点出土し、複弁蓮華文74種208点・単弁蓮華文74種166点・単復混合蓮華文

４種10点、その他の蓮華文37点に分類できる。さらに、中房・蓮弁・間弁の形状及び外区の有無などにより細分できる。

蓮華巴文は４種11点出土し、内区の巴文の形状、外区の文様により分類できる。

巴文は76種224点出土し、巴文の巻き込み方向により右巻き巴文と左巻き巴文に分かれ、巴文の単位数、頭部・尾部の接続方法、及び外区の有無などにより分類できる。さらに形状により細分できる。

唐草文は１種１点出土した。重圏文は１種１点出土した。形象文は５種７点出土し、塔文と鳥文などがある。塔文は宝塔と五輪塔に分けられ、さらに形状により細分できる。文字文は３種３点出土し、文字の形状により細分できる。

種類ごとの点数は、瓦97・214が13点、瓦120が12点、瓦43・67・108が11点、瓦45が10点、瓦41・66・94が７点、瓦36・68・96・144・219が６点で、他は１種５点以下と少ない。

型式としては、播磨産複弁蓮華文瓦１～４（円勝寺１次調査〔上原1972〕ER001型式）が10点、山城産複弁蓮華文瓦41～44（尊勝寺23型式）が23点、山城産単弁蓮華文瓦45（尊勝寺64型式）が10点、山城産単弁蓮華文瓦66～68（尊勝寺86型式）が24点、播磨産複弁蓮華文瓦93～100（尊勝寺44・45型式）が48点、播磨産複弁蓮華文瓦108（尊勝寺９型式）が11点、播磨産単弁蓮華文瓦119・120が17点、山城産三巴文瓦214が13点、産地不明複弁蓮華文瓦230・240が14点である。

軒平瓦　軒平瓦は、瓦当文様により分類すると284種562点、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが95点ある。瓦当文様は、唐草文・宝相華文・半裁花文・花文・剣頭文・剣巴文・連巴文・幾何学文・雁行文・形象文・文字文に分類できる。

唐草文は229種470点出土し、外行唐草文・内行唐草文・偏行唐草文などに分類できる。さらに、中心文の形・有無、唐草の形状及び外区の有無・形状などにより細分できる。

外行唐草文は156種352点、内行唐草文は８種17点、偏行唐草文は45種73点、その他の唐草文は20種28点出土した。

宝相華文は５種７点出土し、華文の形状により細分できる。半裁花文は７種12点出土し、花文の形状により細分できる。花文は１種１点出土した。剣頭文は15種40点出土し、陽刻のものと陰刻のものに分かれ形状により細分できる。剣巴文は６種６点出土し、形状により細分できる。連巴文は５種６点出土し、形状により細分できる。幾何学文は10種14点出土し、形状により細分できる。雁行文は２種２点出土し、形状により細分できる。形象文は１種１点出土し、塔文がある。文字文は３種３点出土し、文字の形態により細分できる。

種類ごとの点数は、瓦284が20点、瓦431が19点、瓦275・279が12点、瓦437が11点、瓦296・404・411が７点、瓦256・302・406が６点と多いが、他は１種５点以下と少ない。

型式としては、播磨産外行・偏行唐草文瓦256～261（尊勝寺151型式）が13点、山城産外行唐草文瓦275（尊勝寺147型式）が12点、山城産外行唐草文瓦279（尊勝寺272型式）が12点、山城産外行唐草文瓦284（尊勝寺171型式）が20点、播磨産外行唐草文瓦348～351（尊勝寺242型式）が12点、播磨産外行唐草文瓦354～362（円勝寺ER134・124型式）が21点、丹波産外行唐草文瓦

表６　軒瓦遺構別出土数量表

調査区	遺構の時期	遺構名	11世紀中葉以前	11世紀後葉～12世紀		12世紀代		13世紀代		16世紀以降	時期不明		計
			軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	
1区	Ⅱ-2期	土坑1003				1	1				1	1	4
		土坑1005					1						1
	その他	重機掘削中								1			1
2区	Ⅱ-1期	溝2095		1		3	1						5
		溝2094		4	2	50	36	1			8	6	107
		溝2093・2094				1							1
		溝2093	1	3	1	35	28	1	1		11	1	82
		井戸2100				4	1				1	2	8
		井戸2025		2		5					2	1	10
		土坑2156				2							2
		土坑2157				1					1		2
		土坑2280				1							1
		土坑2380				1							1
		土坑2388				1							1
		土坑2404				1							1
		土坑2487				2							2
		柱穴2294(柱列2294)				1							1
		柱穴群				1	2					2	5
	Ⅱ-2期	溝2092		4	3	89	56		1		16	8	177
		溝2092護岸					1				1	1	3
		溝2092と溝5140				1							1
		溝2093と溝5140			1								1
		溝2090	1	1	3	16	15	2			6	1	45
		溝2090掘形				9	7				1	2	19
		土坑2015						1					1
		土坑2020					1						1
		土坑2021		1									1
		土坑2066				1							1
		土坑2067				4					1		5
		土坑2086				2	1						3
		土坑2089				2	2						4
		土坑2117				2	1						3
		土坑2427				1	2						3
		土抗2324				1					1		2
		土坑2363				1							1
		土坑2389		1		2	2						5
		土坑2440		1									1
		瓦溜2355		1	1	9	13	12	7		18	3	64
		柱穴2101(柱列2069)									1		1
		柱穴2069(柱列2069)				1							1
		柱穴群				2	2						4
	Ⅲ期	溝2050		1				1					2
		溝2070				1	3					1	5
		溝2187(耕作溝)				1					1		2
		溝2197(耕作溝)	1		1								2
		耕作溝群				3	2				3		8
	Ⅳ期	柱穴2040					1						1
		柱穴2060(柱列2057)								1			1
	その他	遺構検出中		2		7	2					1	12
		掘下げ			1	1	1						3
		撹乱				1							1
		断割			1	5	1				1	2	10
		写真清掃中					1						1
		重機掘削中		1		14	10	1	3		2	1	32
		あげ土				3	1						4
3区	その他	撹乱					1						1
4区	Ⅱ-2期	溝4010		1	2								3
		溝4055									1		1
		溝4056					1						1

調査区	遺構の時期	遺構名	11世紀中葉以前	11世紀後葉～12世紀		12世紀代		13世紀代		16世紀以降	時期不明		計
			軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	
4区	Ⅱ-2期	溝4118					1						1
		土坑4066				1	1						2
		土坑4067				1					1		2
		井戸4070				1	2	1					4
		井戸4070掘形				1	2	2					5
	Ⅲ期	耕作溝群		1			1						2
	その他	撹乱				2	1						3
5区	Ⅱ-1期	溝5140		2	2	41	43				14	4	106
		溝5140東護岸		3	9	66	66				13	3	160
		溝5140東護岸と溝5140					1						1
		溝5140東護岸と溝5115				1							1
		溝5140と溝5135補修後					1						1
		土坑5089									1		1
		井戸5032				2					1		3
	Ⅱ-2期	13c整地		1		4	5						10
		溝5115				15	20	2	1		5	3	46
		溝5135補修後	1	1	4	32	22	2	1		3	6	71
		溝5135補修後埋土			2	15	19				3	3	42
		溝5135埋土				3	2				1		6
		溝5135東護岸		2	3	17	22	1			4	3	52
		溝5135西護岸		2	2	12	12				2	1	31
		溝5135護岸補修		1	1	6	14	2			2	2	29
		溝5135東護岸と溝5140東護岸		1		2							3
		溝5135補修後と井戸5090				1							1
		土坑5157					2						2
		土坑5165				1	2				1		4
		井戸5090				1	3				1		5
	Ⅲ期	溝5028		1		7	9		1		4		22
		溝5103					1						1
		耕作溝群					1						1
		落込5126		1		6	5					3	15
		高まり5017				2	1						3
	その他	遺構検出中		1		1	1				1		4
		掘下げ				2							2
		撹乱				3	1				2	1	7
		重機掘削中		1	2	7	7		1	1	2	2	23
6・7区	Ⅱ-1期	溝6150		1									1
		土坑6151					4					1	5
		柱穴群					1						1
	Ⅱ-2期	溝6156	1			1					1	1	4
	Ⅲ期	土坑6080										1	1
	その他	重機掘削中			1		1						2
8区	Ⅲ期	溝8002				1							1
		溝8005					1	1					2
		溝8006						1					1
		溝8005・8006				1	2						3
		溝8010					1					1	2
		畔8007					1						1
	その他	撹乱				1							1
9区	Ⅱ-1期	溝9006C		2		8	4				1	2	17
		土坑9008		1	1								2
		土坑9009				1							1
	Ⅱ-2期	溝9006B		3	3	26	22	2			4	5	65
		溝9006A			1	1	4				1	2	9
	Ⅲ期	15c整地		1		5	3						9
		南方口 褐色砂泥									1		1
	その他	清掃中				1							1
		表採					1						1
計			5	50	47	589	509	33	16	3	146	77	1475

表７　軒瓦文様・産地別出土数量表

時期	種類	文様	山城	播磨	丹波	大和	讃岐	和泉	河内	備前	産地不明	計	
11世紀中葉以前	軒平瓦	外行唐草文	1			1						2	5
		偏行唐草文				2						2	
		宝相華文	1									1	
11世紀後葉～12世紀	軒丸瓦	複弁蓮華文		11		16				1	1	29	50
		単弁蓮華文		3		2	2				9	16	
		単複混合弁				1						1	
		蓮華文									1	1	
		文字文				3						3	
	軒平瓦	外行唐草文		28	7	1					1	37	47
		内行唐草文	2								1	3	
		偏行唐草文		2		2						4	
		文字文				3						3	
12世紀代	軒丸瓦	複弁蓮華文	53	100	2						5	160	589
		単弁蓮華文	88	39	11			6			4	148	
		単複混合弁	9									9	
		蓮華文	18	6							9	33	
		蓮華巴文	10						1			11	
		巴文	194	11							2	207	
		唐草文									1	1	
		形象文	2					5				7	
		重圏文		1								1	
		文様不明	10	2								12	
	軒平瓦	外行唐草文	72	146	67	2	2				12	301	509
		内行唐草文	12	1	1							14	
		偏行唐草文	49	13	1						4	67	
		唐草文	8	9							9	26	
		宝相華文	2	4								6	
		花文	1									1	
		半裁花文	8	1			2				1	12	
		剣頭文	37									37	
		剣巴文	4									4	
		連巴文	5	1								6	
		雁行文	2									2	
		幾何学文	10									10	
		文様不明	10	4	8						1	23	
13世紀代	軒丸瓦	複弁蓮華文	1								18	19	33
		単弁蓮華文									2	2	
		巴文	4								7	11	
		文様不明									1	1	
	軒平瓦	外行唐草文									9	9	16
		唐草文	1									1	
		剣頭文	2								1	3	
		剣巴文	2									2	
		形象文									1	1	
16世紀以降	軒平瓦	外行唐草文									3	3	3
時期不明	軒丸瓦	蓮華文									3	3	146
		巴文									6	6	
		文様不明									137	137	
	軒平瓦	唐草文									1	1	77
		幾何学文									4	4	
		文様不明									72	72	
計			618	382	97	33	6	11	1	1	326	1475	

431～436（円勝寺ER117・118型式）が38点、丹波産外行唐草文瓦437（円勝寺ER108型式）が11点と多い。

ⅲ．軒瓦の時期（表６）

軒瓦の時期は、瓦当文様や成形手法、及び同笵・同文瓦の出土した遺跡の年代などから判断できる。時期は、①平安時代中期後半（11世紀中葉以前）、②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）、③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）と、④鎌倉時代（13世紀代）以降に分けられるが、時期が不明なものも少なくない。

①平安時代中期後半（11世紀中葉以前）

平安時代中期後半（11世紀中葉以前）と推定した軒瓦の内、10世紀代は軒平瓦１点、11世紀中葉は軒平瓦４点出土した。溝5135・溝6156・溝2093・溝2090･溝2197から出土した。

同笵・同文瓦は、平安宮内裏・民部省・円勝寺・興福寺などで確認した。

②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）

平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）と推定した軒瓦の内、11世紀後葉とした軒瓦は軒丸瓦36点・軒平瓦24点・計60点、11世紀後葉から12世紀とした軒瓦は、軒丸瓦14点・軒平瓦23点・計37点出土した

溝5135関連遺構・溝5140関連遺構などから出土した。

同笵・同文瓦は、法勝寺金堂・法勝寺園池・法勝寺塔、円勝寺１次調査、最勝寺推定地、平安宮真言院、法成寺、薬師寺・興福寺などで確認した。

③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）

平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦589点・軒平瓦509点、計1098点出土した。

溝2092関連遺構・溝2094関連遺構・溝5135関連遺構・溝5140関連遺構などから多量に出土した。

当該期の軒瓦は、尊勝寺・鳥羽殿金剛心院・御室法金剛院・法住寺殿などの出土瓦と比較し、時期を12世紀前葉・中葉・後葉に特定できるものもあるが、現段階では詳細な時期区分は難しい。

④鎌倉時代（13世紀代）以降

鎌倉時代（13世紀代）以降と推定した軒瓦は、軒丸瓦33点・軒平瓦19点（16世紀以降３点含む）、計52点出土した。

瓦溜2355・５区溝239関連遺構・井戸4070などから出土した。

同笵・同文瓦は、法勝寺・亀山殿・大覚寺・常盤仲ノ町遺跡・醍醐寺大智院・東大寺などで確認した。

ⅳ．軒瓦の産地（表７）

出土瓦類の生産地は、同笵瓦･同文瓦の出土した生産遺跡･周辺遺跡、及び瓦当文様系譜や成形技法の特徴などから判断した。産地は、山城・播磨・丹波・大和・讃岐・和泉などと推定できるが、産地が不明なものも少なくない。

山城国　山城産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦389点・軒平瓦229点、計618点出土した。

瓦244・245は小野窯で同笵瓦を確認した。瓦45・46・55・275・284・334・505は栗栖野窯で同笵瓦を確認した。瓦34・37・277・299・300・325・504・508は栗栖野窯で同文瓦を確認した。瓦29は南ノ庄田窯で同笵瓦を確認した。瓦297・337は南ノ庄田窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦30～33・35・36・38～44・47～54・56～83・158～222・228・238・240～242、軒平瓦246・276・278～283・285～296・298・301～324・326～336・338・480～503・506・507・509・510・519・520・522は、山城産と推定した。

播磨国　播磨産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦173点・軒平瓦209点、計382点出土した。

軒丸瓦２・３・５・６・105・111・114・116・120、軒平瓦341・344・353・363・364・386・404は神出窯で同文瓦を確認した。軒丸瓦89・93・95・96・98・103・108・109・111・118～122・124・223·225・227、軒平瓦346・349・355・356・360・364·374・377・384・387・390・392・393・399・403・404・406・416・429・430は林崎三本松窯で同文瓦を確認した。軒平瓦390は魚橋窯で同文瓦を確認した。軒丸瓦84・86・108・110・223、軒平瓦343・346・372・380・391・416・420・421は久留美窯で同文瓦を確認した。軒丸瓦88、軒平瓦376・414は平井窯で同文瓦を確認した。軒丸瓦107は跡部窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦１・４・７・85・87・90・92・94・97・99～102・104・106・112・113・115・117・123・125～134・224・226、軒平瓦247～261、339・340・342・345・347・348・350～352・354・357～359・361・362・365～371・373・375・378・379・381～383・385・388・389・394～398・400～402・405・407～413・415・417～419・422～428・511は播磨産と推定した。

丹波国　丹波産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦13点・軒平瓦84点、計97点出土した。

軒平瓦431・433は篠窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦135～143、軒平瓦262～265・432・134～453は丹波産と推定した。

大和国　大和産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦22点・軒平瓦11点、計33点出土した。

大和産と推定できる軒瓦は、生産窯は確認していないが、軒丸瓦８～22、軒平瓦266～272・457は、瓦当文様系譜・成形技法などから大和産と推定した。

讃岐国　讃岐産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦２点・軒平瓦４点、計６点出土した。

軒丸瓦23は如意輪寺窯、軒平瓦454は西村窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒平瓦455・456は讃岐産と推定した。

和泉国　和泉産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦11点出土した。

和泉産と推定できる軒瓦は、生産窯は確認していないが、軒丸瓦144～147は、瓦当文様系譜・成形技法などから和泉産と推定した。

河内国　河内産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦１点出土した。

軒丸瓦161は、向山窯で同文瓦を確認した

備前国　備前産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦１点出土した。

備前産と推定できる軒瓦は、生産窯は確認していないが、軒丸瓦24は、瓦当文様系譜・成形技法などから備前産と推定した。

ｖ．軒瓦の分析

①平安時代中期後半（11世紀中葉以前）

平安時代中期後半（11世紀中葉以前）と推定した軒瓦は、軒平瓦５点で、全出土軒瓦の0.3％である。山城産と大和産があり、山城産のものは小野窯である。

当該期の軒瓦は、白河地域の円勝寺３次調査〔CB２〕で軒平瓦１点（瓦113）、円勝寺４次調査〔CB３〕で軒丸瓦４点（瓦１～３）・軒平瓦４点（瓦131・132）、法勝寺回廊下層〔上村ほか1987〕、最勝寺推定地〔内田ほか1995〕で出土した。白河地域以外では平安宮で出土した。

当該瓦は、法勝寺回廊下層で出土したことから、法勝寺造営前の藤原氏別業（白河院）の建物所用瓦と推定した〔上村ほか1987〕。白河地域内では他の地域で確認されておらず、当地域で使用されたもの、または白河院所用瓦が隣接地に投棄されたと推定できる。

②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）

平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）と推定した軒瓦は、軒丸瓦50点・軒平瓦47点で、全出土軒瓦の７％を占める。産地別の割合は、山城２点（２％）、播磨44点（45％）、丹波７点（７％）、讃岐２点（２％）、大和28点（29％）、備前１点（１％）、不明13点である。播磨産が約半数を占め、大和産がつづき、他は少ない。

当該期の軒瓦は、白河地域内の法勝寺域内及び隣接地で確認し、同笵・同文瓦が円勝寺（１～４次調査）、法勝寺金堂・園池、最勝寺推定地などで出土した。特に、播磨産軒丸瓦１～４（神出丸2401型式）と軒平瓦247・249のグループは法勝寺金堂地域、大和産軒丸瓦20～22と軒平瓦270～272のグループは法勝寺塔地域でまとまって出土した。

当該期の軒瓦は、円勝寺１次調査〔上原1972〕で軒丸瓦202点・軒平瓦140点中、軒丸瓦42点・軒平瓦９点で15％を占める。２次調査〔CB１〕では軒丸瓦363点・軒平瓦278点中、軒丸瓦19点・軒平瓦10点で５％を占める。３次調査〔CB２〕では軒丸瓦225点・軒平瓦181点中、軒丸瓦20点・軒平瓦10点で７％を占める。４次調査〔CB３〕では軒丸瓦297点・軒平瓦308点中、軒丸瓦22点・軒平瓦29点で８％を占める。今回調査の出土比率は、２～４次調査と同様で、１次調査に比べるとやや低い。

当該瓦は、白河地域内では法勝寺と近接地でしか確認されておらず、文献史料と考え合わせ、法勝寺創建時の所用瓦が、隣接地に投棄された結果と推定される[9)]。

③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）

平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦589点・軒平瓦509点で、全出土軒瓦の74％を占める。

産地別の割合は、山城604点（55％）、播磨338点（31％）、丹波90点（８％）、讃岐４点（0.4％）、大和２点（0.2％）、和泉11点（１％）、河内１点（0.1％）、不明48点である。山城産と播磨産の比

率は、軒丸瓦では384点：159点、軒平瓦では220点：179点と、山城産の占める割合がいずれも播磨産よりやや多い。丹波産は少なく、他は極少量である。

山城産軒瓦では、複弁蓮華文瓦41～44（尊勝寺23型式）・単弁蓮華文瓦66～68（尊勝寺86型式）と外行唐草文瓦275・284（尊勝寺147・171型式）のグループがまとまり、巴文162～222・剣頭文480～492のグループが比較的まとまる。

播磨産軒瓦では、播磨産複弁蓮華文瓦93～100（尊勝寺44・45型式）と、播磨産外行唐草文瓦354～362（円勝寺ER134・124型式、林崎三本松窯NH44型式）がまとまる。丹波産では、外行唐草文瓦431～436（円勝寺ER117・118型式）がまとまる。

④鎌倉時代（13世紀代）

鎌倉時代（13世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦33点・軒平瓦16点で、全出土軒瓦の３％を占める。山城産が10点で、他は産地不明である。

当該期の軒瓦は、白河地域内では法勝寺・尊勝寺域などで出土した。白河地域以外では、亀山殿・大覚寺・常盤仲ノ町遺跡などで出土した。

軒丸瓦230～232と軒平瓦512～516のグループが、法勝寺地域でややまとまって出土した。

文献史料と考え合わせ、法勝寺建暦年間（1211～1213）再建の所用瓦が、隣接地に投棄された可能性が高い。

２）鬼瓦・道具瓦（図版105・106・146、付表４）

鬼瓦は26点出土した。文様は、いずれも鬼面文で、全て笵型を使用して成形する。時期は、瓦539が江戸時代以降であるが、他は平安時代後期（12世紀）と推定できる。産地は、瓦533～538が播磨産と推定でき、瓦534・535は林崎三本松窯、瓦537は神出窯産と推定できる。他は山城産と推定できる。道具瓦は8点出土した。時期や産地は不明である。瓦540は雁振瓦。

３）刻印押捺瓦・ヘラ記号瓦（図版107～110・146、付表４）

刻印押捺瓦は、丸瓦１点、平瓦12点出土した。時期は、平安時代後期（12世紀）と鎌倉時代（13世紀）と推定できる。瓦543・544は五輪塔文を押捺したもので、法勝寺などで出土している。瓦549は万富窯産と推定できる。

ヘラ記号瓦は、丸瓦91点、平瓦79点出土した。軒瓦の中にもヘラ記号を施した瓦が多数認められる。時期は、平安時代後期（12世紀）と推定でき、山城産と播磨産のものが見られる。

４）塼（図版111、付表５）

塼は19点出土した。塼２は敷塼、塼１・３・６は長方形塼と推定できる。塼４は心材用の塼で中央に孔を設ける。時期は、平安時代後期（12世紀代）から中世と推定できる。

（４）土製品（図８～10、図版147、付表６）

土製品には、土１～29までの平安時代から室町時代のものと考えられる土製円塔・鞴羽口・型・円盤状土製品・硯・炉壁と、土30～43までの江戸時代から明治時代の窯道具・型・インク瓶・煉瓦がある。掲載遺物の出土遺構や詳細は付表６にまとめた。

土１～22は土製円塔である。土製円塔は25点出土したが、その内、遺存状況の良好な22点を図化した。全て型作りと考えられ、鍔部分から円塔部にかけて粘土収縮痕がみられ、布目が残る。土１～18は表面に緑釉がかかるか、かかっていた痕跡が確認できるものである。胎土も白色精良なも

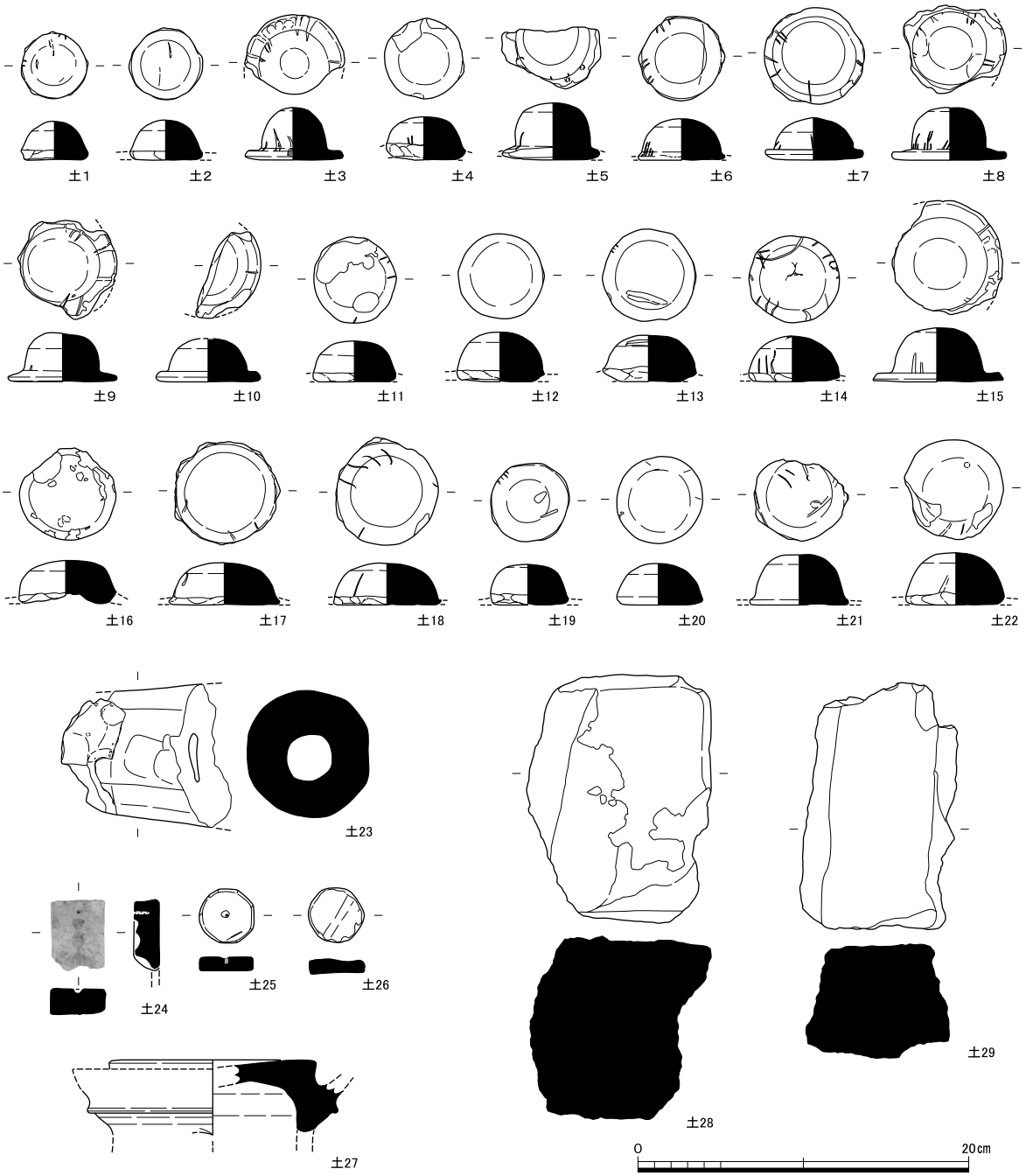


図８　土製品実測図１（１：４）

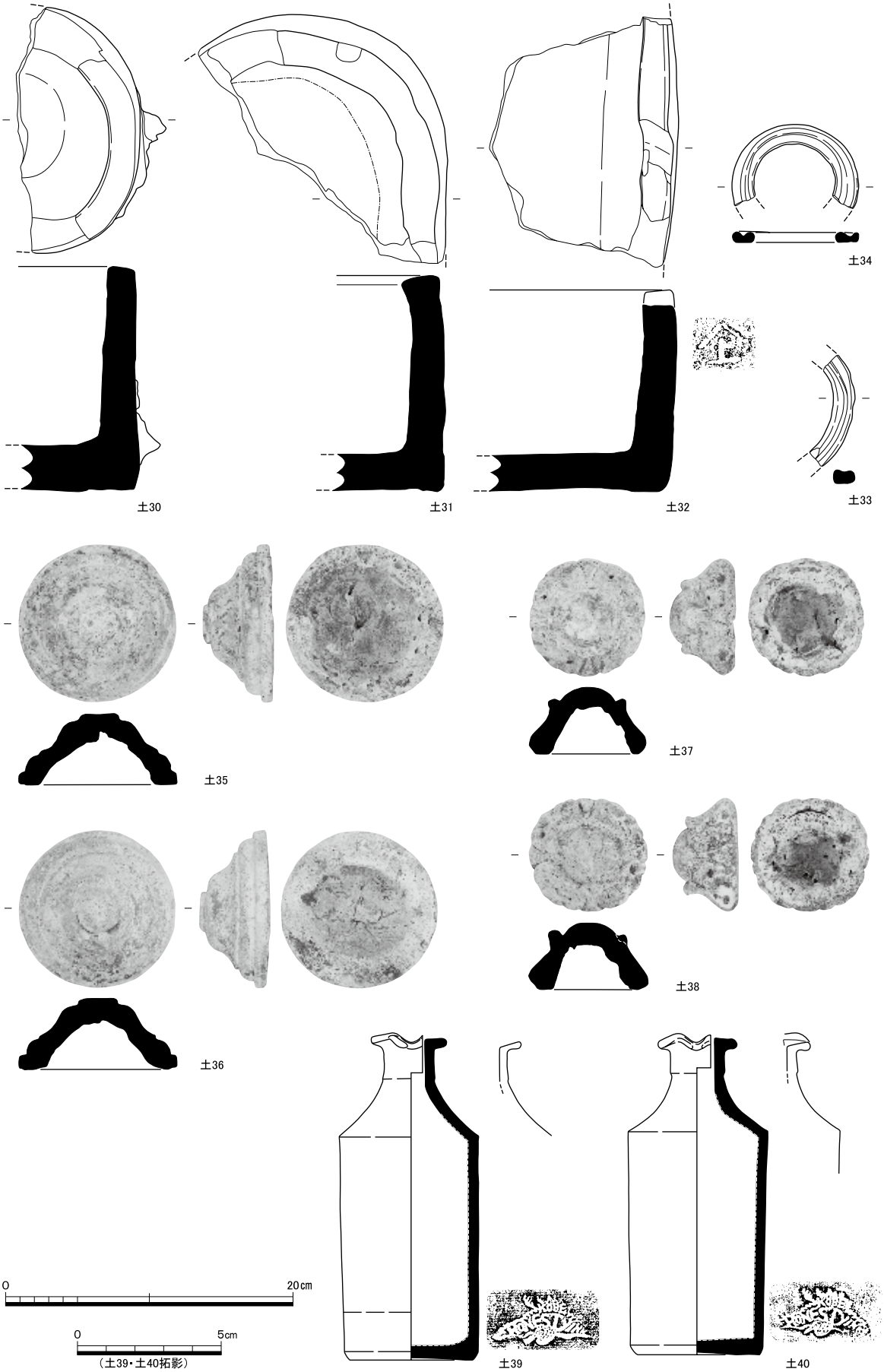


図９　土製品実測図２（１：４、スタンプ拓影は１：２）

のが多い。土19～22は釉薬がかかっていた痕跡が認められず、胎土も黄橙色系で砂粒が多く混じりやや粗い。

土23は鞴羽口である。第３期調査では４点出土したが、今調査ではこの１点のみが出土した。心棒作りで、外面はナデで仕上げる。基部に溶解した鉄分が付着する。孔部分は被熱により赤変する。

土24は装飾品の型と考えられる。上部に貫通しない穿孔があり、雄型と組み合わせて使う雌型と考えられる。

土25・26は円盤状土製品である。いずれも扁平で、直径約3.3㎝、厚さ0.9㎝とほぼ同じ大きさであるが、土25は土師質で、一方の中央に貫通しない穿孔がある。土26は須恵質で、周囲を打ち欠いた痕跡がある。

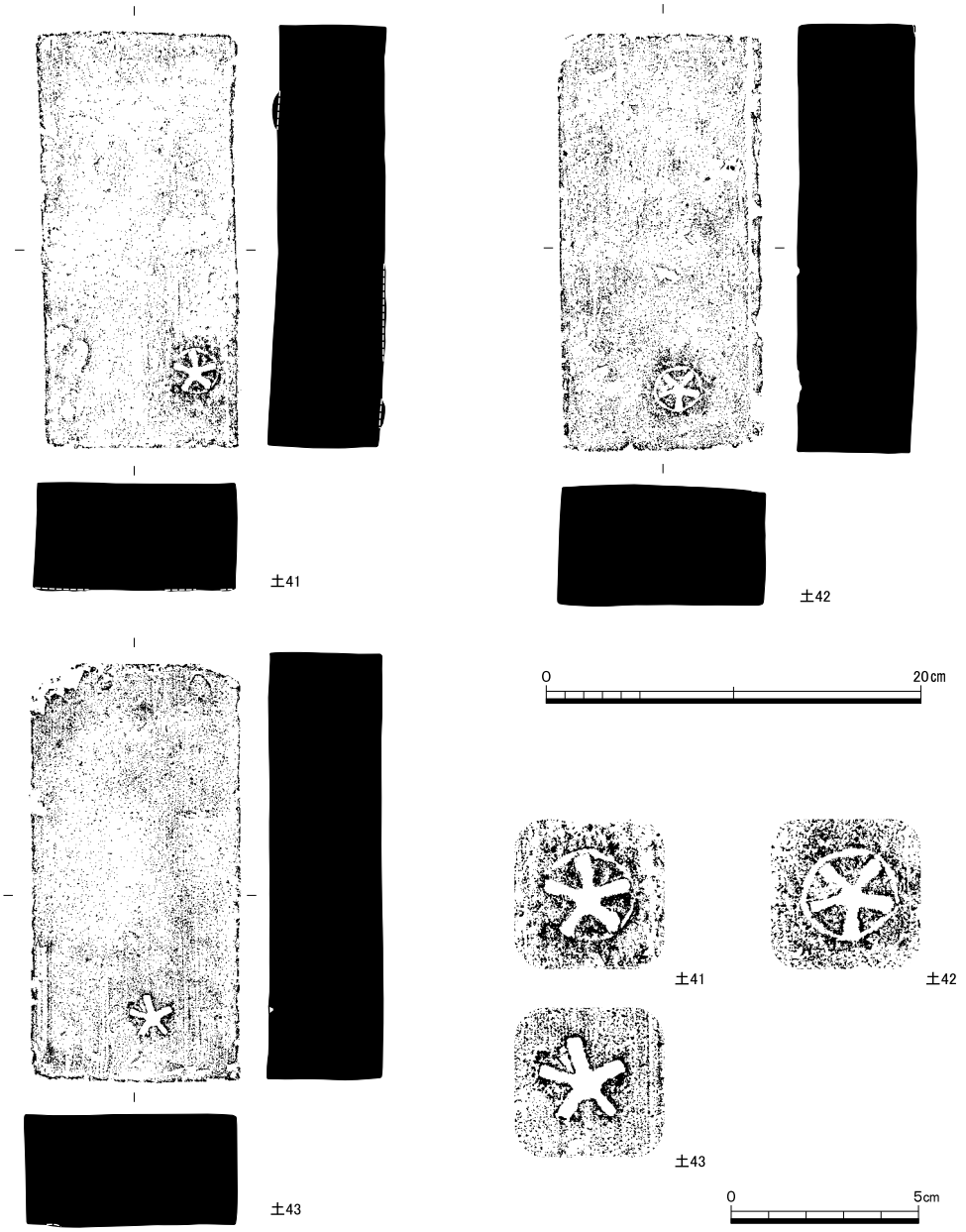


図10　土製品実測図３（１：４、刻印拓影は１：２）

土27は須恵質の円面硯である。陸部から海部にかけて自然釉が付着する。陸部は使用により平滑になる。脚部には透かしが入る。

土28・29は炉壁と考えられる。いずれも胎土は、径１～４㎝の砂粒を多量に含み粗い。土28は加工面が４面残り、外面全面に煤が付着する。土29は加工面が２面残り、加工面のみ被熱により赤変する。

土30～34は江戸時代の窯道具である。窯道具は、４区の近代盛土の重機掘削中にまとまって出土した。土30～32は匣鉢で、土30は丸形平底で外面に厚く自然釉薬がかかり、粘土塊が付着する。土31は隅丸角型平底で、外面には自然釉が厚くかかり、口縁端部と底部内面に白泥が塗られる。土32も隅丸角型平底の匣鉢の一部と考えられ、口縁端部に半円形の空気穴が１箇所残る。外面に山形の下に「上」の刻印がある。土33・34は輪トチンである。いずれも手捏成形の扁平なもので、中央に溝がはしる。

土35～38は装飾品の型と考えられる。全て２区の近代盛土の重機掘削中に出土した。土35と36、土37と38がそれぞれ同形状である。型作りで、いずれも凹部は指押さえ痕、粘土収縮痕が明瞭に残ることから、利用面は凸面で、雄型ではないかと考えた。土37・38には周縁に貫通する孔が多数あり、鉄釘状のものが刺さった状態の孔もある。

土39・40はインク瓶である。２区近代盛土の重機掘削中に出土した。「HONESTYINK」の文字をあしらったイグアナのスタンプが体部外面下部に押される。外国製か。

土41～43は京都市商品陳列所の基礎に使用された煉瓦である。大きさにはばらつきがある。いずれも手抜き成型によるものである。全て５本線を花形に配置した刻印がある堺煉瓦株式会社製のものである。刻印には〇縁が付くものと付かないものがある。

（５）木製品（図版112・147・148、付表7）

木製品には、漆器椀や部材、櫛、下駄、箸、火付け木、籌木、曲物底板、叩き棒などがある。５区の溝5135・5140、９区の溝9006から出土したものが多い。箸や火付け木、籌木と考えられる棒状の木製品は大量に出土したが、そのうち遺存状態の良好なものを図化した。掲載遺物の出土遺構や詳細は付表７にまとめた。

木１は漆器鉢である。内外面ともに黒漆塗りの地に朱漆で松丸文が密に描かれる。木２は漆器椀で、黒漆塗りの地に内面に朱漆で文様が描かれる。木３・４は建築部材と考えられるものである。木３は２箇所の穿孔、木４は方形の繰り抜きがある。木５は横櫛である。背は丸みをもち、歯の間隔は密で79枚が残る。木６は下駄である。前孔と右後孔が残る。木７は毬杖の毬、木８は匙である。木９は札状の木製品で両端は丸みをもつ。木10・11は栓と考えられる。木10には穿孔がある。木12は板状で下部に穿孔があり、檜扇の可能性がある。木13は用途不明の板状製品で、先端が三角形状になる。木14は建築部材と考えられ、上部の孔に木釘が刺さる。木15も建築部材と考えられ、断面長方形に加工した後、隅に抉りを入れる。

木16～23は箸である。いずれも丁寧に面取りし、両端を尖らせる。木24～30は火付け木で先端

に焦げ跡が残る。棒状のものと板状のものがある。木24は長大で、周囲を丁寧に面取りすることから、転用材の可能性がある。木31～33は籌木と考えられる薄い板状の木製品である。木34は円形の板状製品で、蓋の可能性がある。木35～37は曲物の底板である。木38は方形に加工された材に柄が付く。地盤などを叩き締めるための棒と考えられる。

（６）石製品（図版113・114・148、付表８）

石製品には、滑石製石鍋とその転用品、硯、砥石、叩石などがある。石鍋は転用品も含めると、破片数で87点出土した。砥石は破片数で50点出土した。いずれも全調査区から出土しているが、５区からの出土量が特に多い。石鍋と砥石は依存状態の良好なものを図化した。掲載遺物の出土遺構や詳細は付表８にまとめた。

石１～３は滑石製石鍋である。石１・２は鍔のあるもの、石３は縦耳のものである。石１は煤が付着せず、使用した痕跡が確認できない。石２・３は外面全面に煤が付着する。

石４～20は滑石製石鍋の転用品と考えられる。石４～14は温石に転用された可能性のあるものである。石４～８・10・11は穿孔がある。石９は二次加工面が不定方向に３面確認でき、転用品を切り出した残存部位の可能性がある。石10・11は大型である。石12は内面を削り直し、器壁を薄くする。石13は鍔部分を削り落とす。石14は台形状に加工され、内面は丁寧に磨かれる。石15は硯に転用されたものと考えられる。長方形に切り出され、中心が楕円形に凹む。海部と考えられる凹み部分は使用により平滑になる。石16は砥石に転用されたものと考えられる。裏面に擦痕が確認できる。石17は石鍋を円形に切り出し、中央に突起をつくる。用途は不明。石18は紡錘車に転用されたものか。石19は石鍋を舟形に切り出すが用途は不明。石20は硯に転用されたものである。

石21～23は硯である。いずれも粘板岩製で、石23は縁部分に上下に貫通する穿孔がある。

石24～33は砥石である。石24～28は白色頁岩系の仕上げ砥石である。石29は青黒色粘板岩系の中砥石で、表面に凹みがある。石30は凝灰岩系の中砥石、石31は砂岩の粗砥石である。石32は青黒色頁岩系で中砥石か。石33は砂岩系の大型置き砥石である。

石34は叩石と考えられ、先端に敲打痕がある。石材は斑レイ岩である。

（７）金属製品（図11、表８、図版148、付表９）

金属製品には、飾金具類、刀状鉄製品、楔状鉄製品、椀形滓、鉄滓、鉄釘、銭貨などがある。掲載遺物の出土遺構や詳細は付表９にまとめた。

金１・２は飾金具である。金１は薄い銅板に金メッキを施す[9)]。金が一部残る。中央に穿孔がある。金２は薄い銅板を花形に加工する。中央に穿孔がある。金３は銅製の環状金具である。金４は、形状は鞘に納まった刀子状を呈するが、柄部分と鞘部分が一体に鉄でつくられており、鞘状部分の内部は空洞であることから、刀子模造品の可能性がある。鞘状部分の根本には細い繊維質の紐が巻き付けられている。金５は楔状の鉄製品である。断面形は方形で、先端を尖らせる。上部の外面に一部木質が付着する。金６・７は椀形滓である。これ以外に、鉄滓が多数出土した。出土地と重量

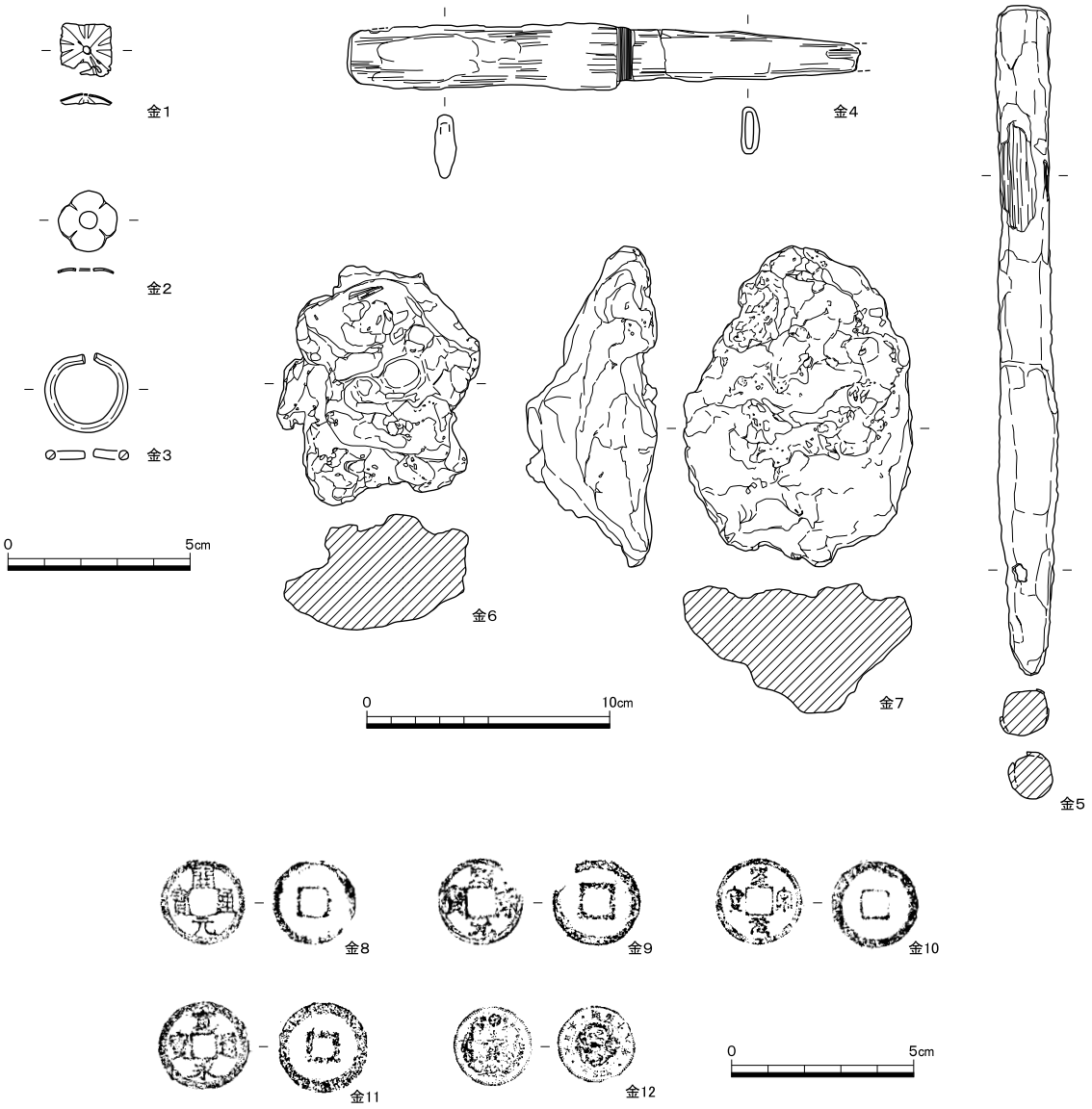


図11　金属製品実測図（１：２、１：３）、銭貨拓影（１：２）

表８　出土鉄滓一覧表

No.	遺　構	重量(g)	No.	遺　構	重量(g)	No.	遺　構	重量(g)
鉄滓1	土坑1003	31.7	鉄滓12	溝2090	33.1	鉄滓23	溝5140	17.4
鉄滓2	溝2094	81.4	鉄滓13	溝2090	68.8	鉄滓24	溝5140東護岸	17.7
鉄滓3	溝2093	17.9	鉄滓14	土坑2250	133.7	鉄滓25	溝5140東護岸	22.9
鉄滓4	溝2092	7.3	鉄滓15	溝2050	12.7	鉄滓26	溝5135東護岸	16.9
鉄滓5	溝2092	299.5	鉄滓16	2区整地層掘下げ	48.5	鉄滓27	土坑5035	15.6
鉄滓6	溝2092	99.6	鉄滓17	溝4009	10.7	鉄滓28	溝5028	78.7
鉄滓7	溝2092	41.6	鉄滓18	溝4010	149.0	鉄滓29	土坑5033	21.2
鉄滓8	溝2092	35.1	鉄滓19	溝4024	38.5	鉄滓30	溝9006C	87.6
鉄滓9	溝2092	25.0	鉄滓20	5区遺構検出中	10.0	鉄滓31	溝9006C	23.9
鉄滓10	溝2090	7.5	鉄滓21	5区遺構検出中	22.2	鉄滓32	9区室町整地層	111.8
鉄滓11	溝2090	9.7	鉄滓22	5区遺構検出中	71.6	鉄滓33	9区室町整地層	71.5
						計		1,740.3

は表８にまとめた。合計1,740ｇを超える。３区と６・７区を除く調査区から出土している。２区の東西溝（溝2090～2094）からの出土が多い。鉄釘も100点以上出土しているが、鉄滓と同様、２区の東西溝と５区の南北溝（溝5135・5140）からの出土量が多い。

金８～12は銭貨である。金８は唐銭、金９・10は北宋銭である。金11は寛永通寶、金12は半銭銅貨で、明治十八年の刻印がある。

註

１）　弥生土器の時期は、森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年－近畿編Ⅱ－』木耳社　1990年を参考にした。

２）　須恵器の型式は、田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981年に拠った。

３）　平安時代以降の土師器皿の型式・年代については、平尾政幸「土師器再考」『洛史　研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年発行予定に準拠する。

750年　840年　930年　1020年　1110年　1170年　1260年　1350年　1410年　1500年　1590年　1680年　1740年　1800年　1860年

1			2			3			4			5		6			7			8		9			10			11			12		13		14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	A	B

その他土器類の参考文献は、中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995年、太宰府市教育委員会編『太宰府市の文化財　第49集　大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会　2000年、『角川　日本陶磁大辞典』角川書店　2002年

４）　墨書土器の釈読は、京都大学の西山良平名誉教授、京都産業大学の吉野秋二教授、大阪大谷大学の竹本 晃講師から御教示を得た。

５）　大阪大谷大学の竹本 晃講師から御教示を得た。

６）　『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2017年の図版35－416

７）　観察表の記載は、京都市美術館第１期から第３期調査報告書と一部異なるが、今回の観察表で改訂しておく。「（３）瓦類」の〔　〕内の文献は、「付表２～４　瓦観察表の参考文献一覧」と対応。

８）　上原真人「瀬戸内海を渡ってきた瓦」『大阪湾をめぐる文化の流れ－もの・ひと・みち－』帝塚山考古学研究所　1987年

９）　蛍光Ｘ線分析による。分析は龍谷大学の北野信彦教授に依頼し、結果について御教示を得た。

４．ま と め

（１）遺構の変遷とその性格について

今回の調査では、９箇所の調査区で２面５時期の調査を行い、弥生時代から明治時代までの遺構を多数検出した。今調査は、４箇年度にわたって実施した京都市美術館再整備工事に伴う発掘調査の最終年度の第４期調査にあたる。ここではまず、第１期から第４期調査の成果[1)]をまとめ、各時期の遺構の変遷を見ていきたい。

１）Ⅰ期（弥生時代から古墳時代）（図12）

今回の調査では、２区で流路2180、３区で流路3019、５区で流路5200を検出した。これらの流路は、第１期湿地460、第２期流路1100、第３期流路1126と同遺構である。この流路は、美術館北東の岡崎グラウンドの1991年度調査（表３－調査12）や美術館敷地東側の1970年度調査（調査２）、美術館西側の府立図書館の1998年度調査（調査25）などでも検出されており、岡崎遺跡中心部を北東から南西に流れる流路の一部と考えられる。

今回調査した部分からは、弥生時代後期から古墳時代後期の遺物が少量出土したが、過去の調査では縄文時代後期から平安時代後期までの遺物が出土しており、長く開口していたと推測される。また、今調査３区では、古墳時代に護岸を施した跡が見つかり、第２期調査でも自然木と杭で土留めした護岸1215が東岸で検出されている。1991年度調査でも木製品の未成品が貯木されたような状態で見つかるなど、一時的に人工的に管理されていたと考えられる。第１期調査では、西肩部から弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が多量に出土しており、流路の西側に集落が存在した可能性が高い。また、第２期調査でも、流路の両岸から弥生時代後期から古墳時代後期の土器が多量に出土しており、今回の３区での遺構・遺物の出土状況と合わせると、流路の南東側にも集落が展開していたと推測される。また、第２期調査時の出土遺物を見ると、弥生時代後期の土器の中に、装飾が施された壷・器台・高杯のセットが複数含まれることや、古墳時代中期の須恵器では有蓋高杯や無蓋高杯の出土割合が高いことなどから、水辺で祭祀的な行為が行われていた可能性も考えられる。1991年度調査では流路の西側で古墳が２基検出されており、墓域となった時期もあったようである。

この流路の北西では、第１期調査で、北から南西方向に延びる弧状の溝459が検出されている。断面形状から人工的に開削された溝と考えられ、埋土下層からは古墳時代初頭（庄内式併行期）の土器がまとまって出土した。自然流路とその西に展開する集落とを区切る溝と推測される。さらに、第３期調査２区でも人工的に開削されたと考えられる溝2250が検出され、今調査６・７区ではその東延長分の溝6170を検出した。弥生時代後期後半の遺物が出土し、この溝の南側に当該時期の集落が存在したと考えられる。

以上のように、今回の一連の調査では、竪穴建物等は見つからなかったが、その他の遺構や遺物

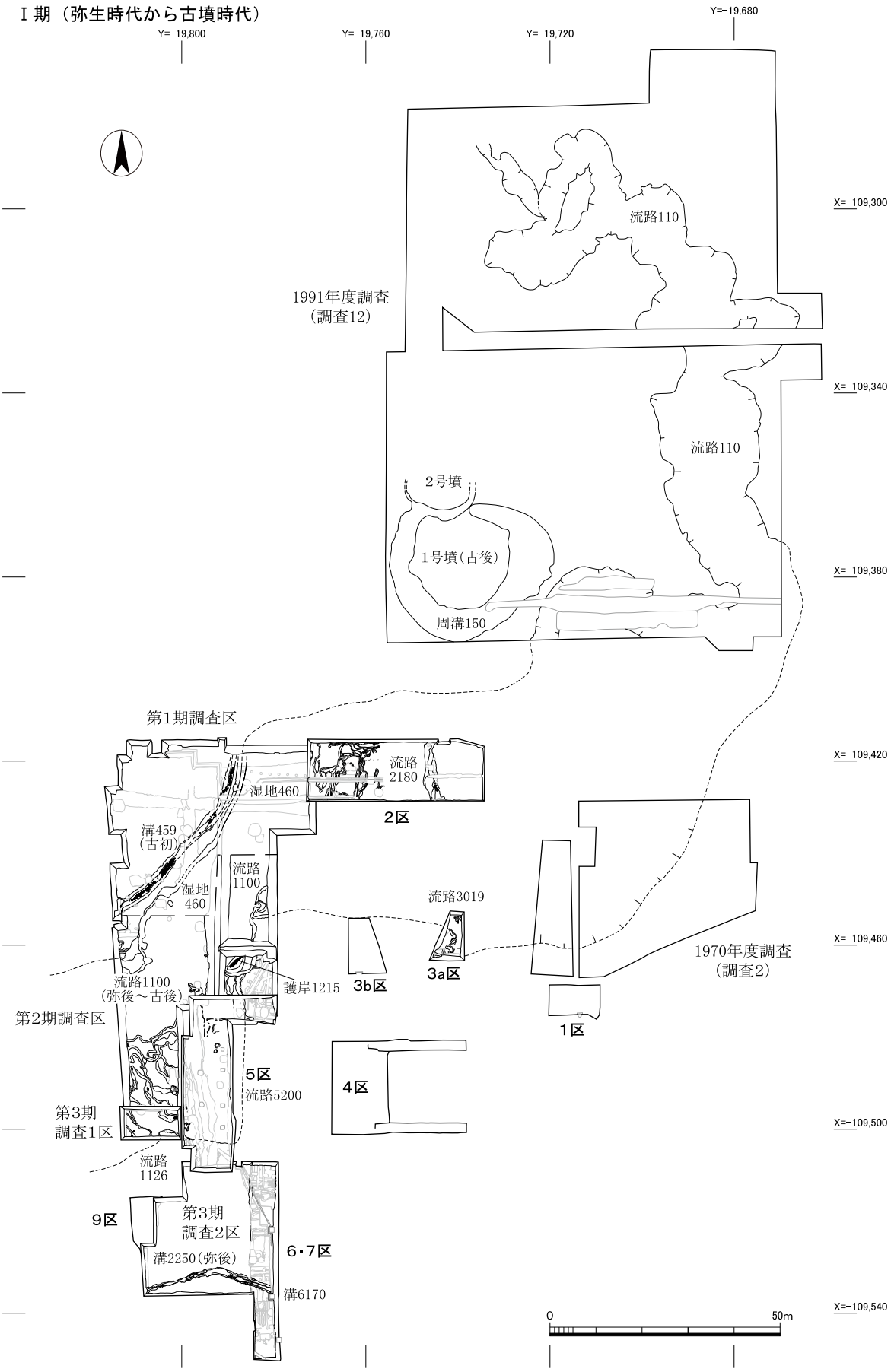


図12　遺構変遷図Ⅰ期（1：1,250）

の出土状況から、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて、流路の北西、南東、さらに南側と少なくとも３箇所に時期の異なる集落が展開していたことが判明した。このことは、岡崎遺跡の集落変遷を考える上で大きな成果である。さらに、第１期、第２期調査では多量の弥生土器や古式土師器が出土し、その中には河内や近江といった他地域産の土器や、播磨の影響を受けた土器などが多数含まれることから、岡崎遺跡が鴨川左岸の拠点的な集落であったことも明瞭となった。

２）Ⅱ－１期（平安時代）（図13）

今回の調査では、最も北側の調査区である２区で平安時代中期の10世紀後半代の遺物を含む落込2480を検出した。また、同じ２区Ⅰ期の流路2180の上層からも10世紀代の遺物が出土し、その他の遺構にも混入して中期の遺物が複数含まれていた。第１期から第３期調査区、第４期調査の他調査区では当該時期の遺構・遺物の出土は極めて少ないが、美術館北側の二条通で実施された1995年度の調査（表３－調査17）では平安時代中期の遺物包含層が検出されており、今調査２区を南限としてその北側に10世紀代の遺構が存在した可能性が高いと考えられる。藤原家累代の別業があったとされる中期の様相は、これまでほとんど分かっておらず、今回の調査成果が、様相解明の手掛かりの一端となる可能性がある。

さらに２区では、流路最上層を埋めたと考えられる11世紀後葉の遺物を含む落込2150、11世紀代の遺物を含む整地層を確認した。整地層上面から11世紀後葉の遺物を含む東西溝2095、井戸2100が掘削されており、法勝寺造営と同時期に二条大路末に面したこの場所も整備されたと推測される。東西溝2095は、西側の第１期調査区北側で南に屈曲して同じく11世紀後葉の遺物が出土した南北溝302、第２期調査の南北溝1000と連続すると考えられる。溝2095は12世紀代に溝2094→溝2093と掘り直され、第１期溝627・628へと続き、南へ屈曲して南北溝となり、さらに第３期調査２区で西に屈曲する。今回の調査では５区で南北溝の間を埋める溝5140、９区で南側東西溝の西側延長部分の溝9006Ｃを検出した。つまり、今回の調査で２区溝2094・2093→第１期溝627・628→第１期溝327→第２期溝900→５区溝5140→第３期溝2220Ｃ→９区溝9006Ｃという、約178ｍにわたるクランクする溝の様相を明らかにすることができたことになる。また、美術館西側のみやこめっせ建設時の調査（表３－13）でも同様の東西溝が検出されており、９区の東西溝がさらに西側に300ｍ以上続く可能性が高い。第３期調査の報告書において、この一連の溝は、北東から南西に低くなる地形を生かした形で水を排水する白河街区の基幹排水路と想定したが、今回の調査の２・５・９区でさらにそれを裏付ける成果が得られたことは大きく、さらに２区の成果により、南北溝だけでなく東西溝も含めて11世紀後葉に開削されたことが明確となった。この一連の溝は続くⅡ－２期にも掘り直され、長く維持されることになる。Ⅱ－１期の段階では、基本的には素掘り溝であったようであるが、今調査２区や５区では一部に杭や土を用いた護岸状堆積が確認でき、５区では石を用いた補修を行っていることも判明した。また、この溝に沿って小規模な柱穴が並ぶ箇所があり、板塀あるいは柵で区画されていた可能性がある。さらに、今調査２区では溝2094中に東西に並ぶ礎石据え付け穴の可能性のある東西土坑列、９区では溝9006Ｃの北側で同

Ⅱ－１期（平安時代）

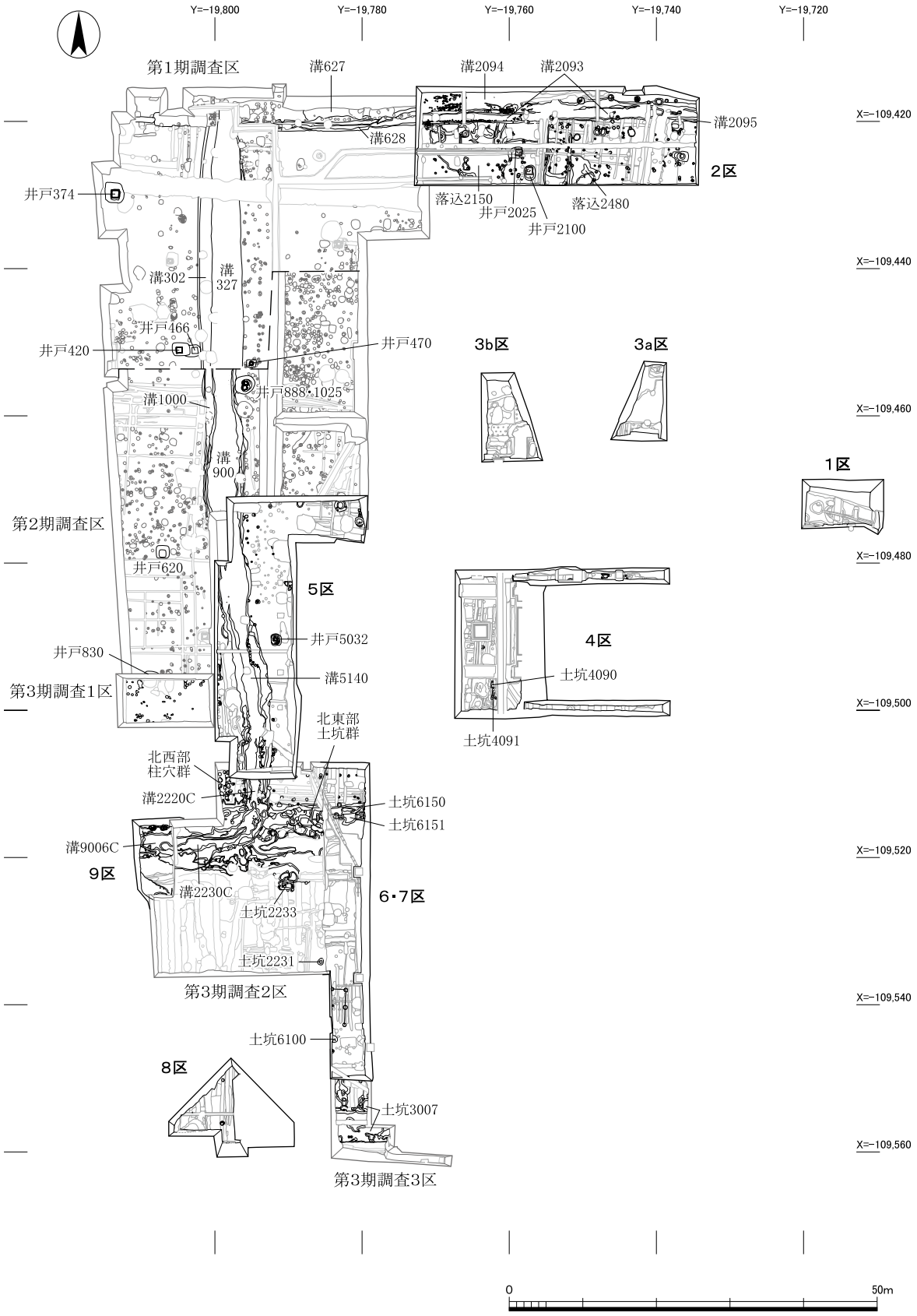


図13　遺構変遷図Ⅱ－１期（１：800）

じく礎石据え付け穴の可能性がある土坑２基を確認しており、橋が架けられていた可能性も考えられる。一連の溝からは、多量の瓦類や土器類、土製品、石製品、金属製品が出土している。

その他、この時期の遺構としては第１期から第４期までを合わせて11基の井戸、多数の小規模な柱穴を検出している。また、南側に位置する第３期調査２区の北東部土坑群やそれに続く今調査６・７区の土坑6150・6151、第３期調査３区の土坑3007は、土取り穴と考えられ、白河街区の寺院造営に関わる遺構である可能性がある。

３）Ⅱ－２期（鎌倉時代から室町時代前期）（図14）

今回の調査では、２区で前時期の東西溝を踏襲する溝2090・2092を検出した。溝2092→溝2090と掘り直されており、石組み護岸が施された溝2090は14世紀前葉に埋まる。この東西溝は、西で第１期溝327新と接続し南北溝となって、第２期溝840→今調査５区溝5135→第３期溝2220Ｂと続き、西に屈曲して東西溝第３期溝2230Ｂ→今調査９区溝9006Ｂとなり、Ⅱ－１期のクランクする溝を踏襲する。今調査５区で検出した溝5135は、Ⅱ－１期の溝5140の両岸を埋めて石で護岸するが、同様の護岸は第２期溝840、第３期溝2220Ｂでも確認しており、その時期は13世紀第２四半期と考えられる。また、第２・３期調査区や今調査２区や５区では、同時期に溝の両岸の平坦部を整地して嵩上げしていることも判明し、13世紀前葉に当地一帯が大規模に再整備されたことが明確となった。さらに、この時期には、第３期溝2220Ｂの東に東西溝2240が掘削され、東側からも溝2220Ｂに水を流していたことが判明していたが、今調査６・７区で、溝2240の東側延長部分である溝6155・6156を検出し、その成果を裏付けることができた。また、５区溝5135と第３期溝2220Ｂは13世紀後葉にも大規模な補修が行われ、その後14世紀末頃に規模を縮小した５区溝5115、第３期溝2220・2230Ａ、９区溝9006Ａに作り替えられる。この溝は15世紀前葉に埋まり、その後南北溝だけが次のⅢ期に踏襲される。

その他、この時期の主要な遺構としては、第１期から第４期までを合わせて９基の井戸、多数の小規模な柱穴を検出している。また、今調査２区では法勝寺所用瓦などを含む瓦溜2355、１区では多量の土師器が投棄された土坑群、４区では多量の土師器で埋まる溝群などが検出された。これら遺構の時期は、南北溝が大規模に再整備されたのと同じ、13世紀前半代に集中する。

また、今調査の出土遺物の組成を見ると、第１期から第３期までと同様の、多種多様の土器類、多量の瓦類、鞴羽口、赤色顔料、箸や籌木などの多量の木製品、砥石や石鍋などの石製品、装飾金具類などが見られることに加えて、新たに炉壁や鉄滓、釘、土製の型などが出土した。第３期調査報告書において、鍋・釜などの瓦器の煮沸具の出土比率が高いことや実用木製品の多さから、多数の人が生活したことが窺え、土器類の中に漆や赤色顔料の付着する道具類が含まれること、鞴羽口や寺院の塗料となる赤色顔料が出土していること、小規模な柱穴からなる建物や多数の井戸が存在することなどから、当地に寺院や院御所の修理やその後の維持管理を行う工房施設群の存在とそれに携わる工人の居住を想定したが、今調査で炉壁や多量の鉄滓などが出土したことでその可能性は高まったと考えられる。出土瓦をみても、今回の第４期調査では1475点の軒瓦が出土し、第

Ⅱ－２期（鎌倉時代から室町時代前期）

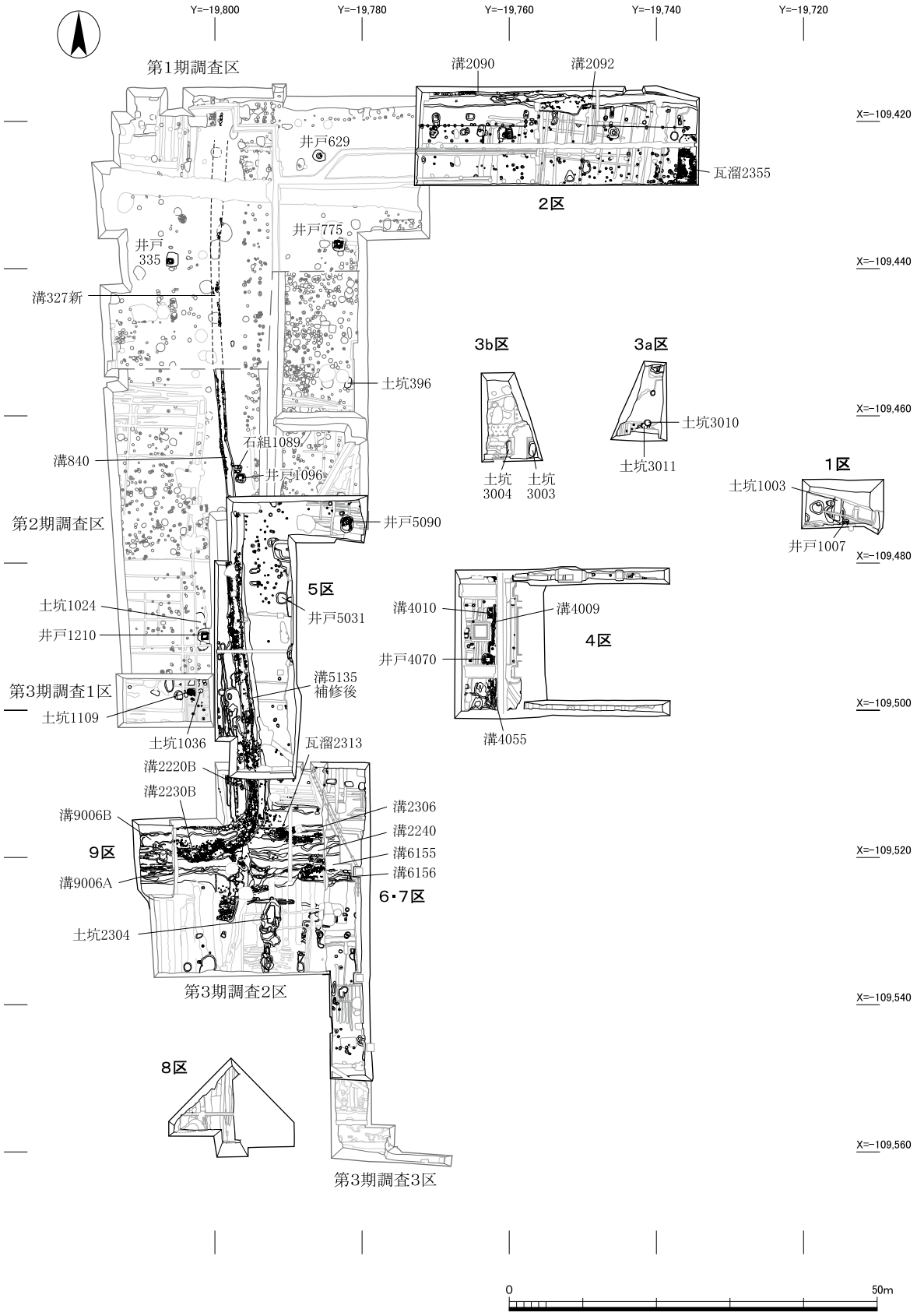


図14　遺構変遷図Ⅱ－２期（１：800）

１期から第４期調査を合わせると、3121点もの軒瓦が出土しているが、産地、時期、型式は多岐にわたり、白河の近隣寺院群や平安京などから出土する軒瓦の集合体であり、特定の寺院の所用瓦を示す出土状況ではない。出土地もクランクする一連の溝埋土、あるいは溝の護岸裏込めからの出土が多くを占め、廃瓦を投棄もしくは転用したと考えられる。瓦溜などから出土したものには、二次的に火を受けたものも多く見受けられた。こうした瓦の出土傾向も、当地が白河の寺院群全体の維持管理や再整備に関わる施設群が置かれた場所であることの裏付けとなろう。

さらに、今調査では、美術館敷地東側の１区や中央部の３・４区でも調査を行ったが、西側調査区と同様の井戸や小規模な柱穴群を検出し、多量の生活雑器が出土したことからみて、工房施設群は美術館の敷地全域に広がっていた可能性が高いと考えられる。この施設群の設置の時期については、遺構と遺物の組成を見ると、Ⅱ－１期の段階ですでに同傾向にあることから、11世紀後葉、つまり法勝寺造営を契機として、西に隣接するこの地に置かれた可能性を考えたい。また、Ⅱ－２期での大規模な再整備の契機については、12世紀末から13世紀前葉に白河の寺院群で相次いだ地震や失火、落雷などの災害が関連していると考えられる。第１章２の歴史的環境でも触れたが、法勝寺・尊勝寺・最勝寺・円勝寺の主要堂宇が被害を受けた元暦二年（1185）の大地震[2)]、法勝寺八角九重塔が焼亡した承元二年（1208）の落雷と建暦三年（1213）の再建、尊勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺・証菩提院の主要堂舎が焼失した承久元年（1219）の白河殿付近からの失火などがそれに該当し、それらの災害の後処理や復興のため、工房施設群が再整備されたのではないかと推測される。

４）Ⅲ期（室町時代後期から江戸時代）（図15）

今回の調査では、５区で南北溝5028を検出した。この溝は、第１期溝326、第２期溝440、第３期溝2212と同遺構で、Ⅱ－２期までの南北溝を踏襲し、15世紀後半から16世紀前半に埋まる。Ⅱ－２期まではクランクする溝であったが、今調査２区ではこの時期の東西溝は確認できていない。調査区外の北側に位置する可能性は残る。南側では西に屈曲せず南に延び、第３期溝2209・2218、今調査８区の溝8009・8010・8012に繋がると考えられる。この溝は15世紀後半に埋められた後、その上に上面が礫敷の第３期畔2185、今調査８区畔8007が構築される。第２期調査南壁断面や今調査５区の北端でも畔の痕跡が確認されている。以上のことから、11世紀に開削された南北溝が15世紀まで踏襲され、それが白河の寺院群が廃絶したとされる応仁の乱後に埋められたが、その後も畔として残り、土地境として16世紀まで機能し続けたことが判明した。畔の東西では、多数の耕作溝が検出され、最も古いものは15世紀代の遺物出土することから、寺院群の衰退とともに耕作地に移行したと考えられる。それ以後、16世紀から19世紀中葉までの主要な遺構は耕作溝のみであり、近世を通して耕作地であったと推測される。ただし、遺構は検出されていないものの、今調査４区の近代盛土中から匣鉢や輪トチンといった窯道具とともに江戸時代後期の陶磁器がまとまって出土している。みやこめっせ建設時の調査（表３－13）でも同様の遺物が出土しており、調査地の南の粟田口三条付近を中心として栄えた粟田焼の窯が、この付近まで展開し存在した可能

Ⅲ期（室町時代後期から江戸時代）

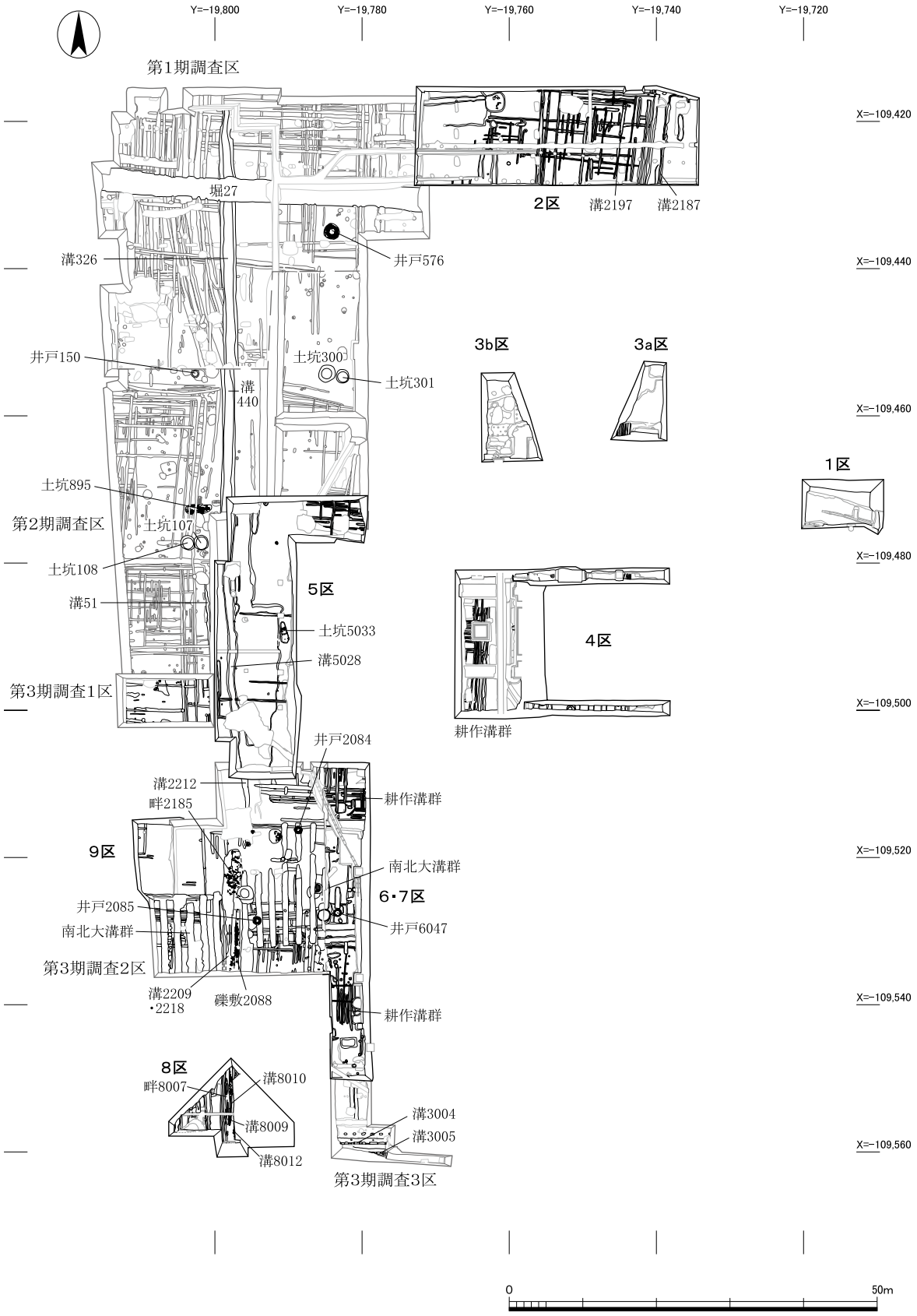


図15　遺構変遷図Ⅲ期（1：800）

性がある。

その後、19世紀後半になって、加州屋敷に関連すると考えられる遺構が構築される。第１期堀27は加州屋敷の北限の堀と考えられており、その他、第１期井戸576、第３期井戸2084・2085、今調査６・７区井戸6047などの小型の円形石組井戸や、第３期３区の切石組みの溝3004・3005も同時期の遺構である。また、今調査４区と６・７区、第３期２区で検出された南北大溝群も用途は不明であるが、同時期の遺物が多量に出土しており、加州屋敷に関連するものと推測される。加州屋敷については、慶応元年（1865）と慶応二年（1866）の「京都新御屋敷絵図[3)]」が現存するが、敷地を囲う堀と門、馬場や御殿地などの大まかな位置が記されたもので、内部の詳細は不明であり、今回の発掘調査成果は、敷地の正確な範囲や内部の具体的な様相を解明する手掛かりとなるものと考えられる。

５）Ⅳ期（明治時代）（図16）

前記の加州屋敷に関連すると思われる遺構は、敷地南側の第３期調査区や今調査６・７区では、明治十八年（1885）に始まった琵琶湖疎水の掘削に伴うと考えられる厚い砂で覆われる。その後、それに合わせて美術館の敷地全体が整地され嵩上げされて、現在の地形に近い状態になったと推測される。今回の調査では、２区で並行する東西方向の柱列2073・2057を検出した。これは第１期柱列21・22と同遺構である。柱穴から煉瓦が出土することから明治時代以降の遺構と考えられ、第１期調査時には、明治二十八年（1895）に当地で開催された第四回内国勧業博覧会に関連する遺構の可能性が指摘されている。しかしながら、第四回内国勧業博覧会の絵図[4)]では、博覧会の建物群は平安神宮の南に正方位に近い形で整然と並ぶ様子が描かれており、大きく振れをもつこの柱列が博覧会に関連するものかは再検討する必要がある。第１期調査ではこの柱列の南でも東西方向の並行する土坑列が検出されており、こちらは正方位に近いが、性格は不明である。

今回の調査では、３区と４区でコンクリートと煉瓦で構築された建物基礎を検出した。これは、明治四十三年（1910）建造の京都商品陳列所の建物基礎と考えられる。京都商品陳列所は、武田五一の建築設計によるもので、関西では初めての鉄筋コンクリート造（ＲＣ構造）建築物であり、日本でも最初期の例の一つと評価されている[5)]。現在の京都市美術館建築時に解体撤去されたとみられていたが、今回の調査で、多くの基礎が埋め残されていることが判明し、その位置や構築材、構造に関しての情報が得られたことは、日本の近代建築史にとっても、美術館の歴史を考える上でも重要な成果である。

また、今回の調査では、装飾品の型や外国製のものと思われるインク瓶、煉瓦、銭貨など多種多用な近代の遺物も出土した。内国勧業博覧会の開催や商品陳列所の設置、２度の即位記念の博覧会の開催、京都美術館の開館から現在に至るまで、京都の文化の中心としてあり続けた近現代の調査地の歴史を物語る遺物として評価したい。

Ⅳ期（明治時代）

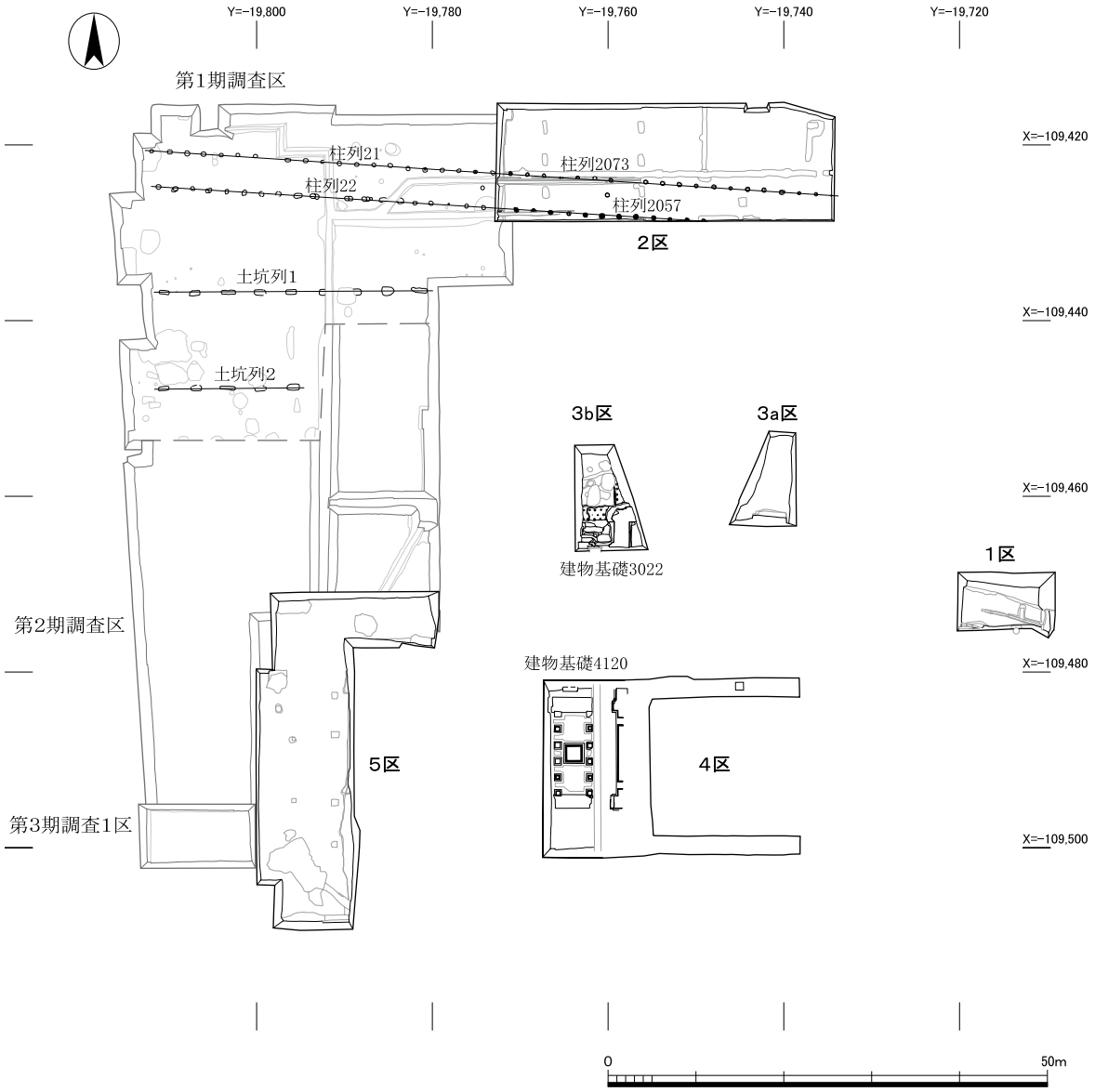


図16　遺構変遷図Ⅳ期（1：800）

（２）円勝寺の位置について

調査地である京都市美術館の敷地は、文献史料や考古学的な検討から、六勝寺の中の一つ、円勝寺の有力候補地とされてきた[6)]。しかしながら、前述したように、４箇年度にわたる発掘調査の結果、当地には院政期を通して、白河の寺院群を維持管理するための工房施設群が置かれた可能性が高いことが明らかとなった。宮都や寺院を造営、また維持管理していくために、工房施設群の存在は必要不可欠であるが、そうした施設の存在は文献史料には表れ難く、平安京や鳥羽離宮、白河街区などでも、瓦窯を除けば、実態はよくわかっていなかった。そうした中、今回の一連の調査による発見はその実態を知る上で、極めて重要な成果と言えよう。

一方で、では円勝寺はどこに存在したのかという問題が浮上する。円勝寺には、史料から金堂をはじめ、３基の塔・五大堂・九間飛甍・六時堂・二階門・西面門・鐘楼など多数の堂宇が存在したとされ[7)]、その配置を考慮すれば、１町規模かそれ以上の敷地が必要になると考えられる。今回の調査では、それらの建物地業や礎石列などの痕跡は検出されず、美術館敷地の北東部で実施された調査（表３－２）でも、瓦廃棄土坑や掘立柱列などが検出されているのみであり、工房施設群の存在を抜きにしても、当地に円勝寺の存在を求めることは考古学的には難しい。

円勝寺が当地に比定された大きな根拠の一つが、大治三年（1128）三月十三日の『円勝寺供養呪願文[8)]』の中の「…　法勝最勝　蓮宮ト隣　…」との記述で、法勝寺と最勝寺の隣を占めると解釈できる。法勝寺については、文献史料と考古学的成果の両面から位置が確定しており、現在の京都市動物園からその北側一帯にひろがる。最勝寺についても同様に、文献と考古学の両面から、京都ロームシアターの東、平安神宮の南の地である説が有力である。その両寺院に隣接する地となると、京都市美術館とその北側の岡崎グラウンドのいずれかとなるが、岡崎グラウンドの発掘調査（表３－12）では、二条大路末の北側溝の可能性のある溝とそれに平行する礫敷の築地地業と想定される遺構が検出されたものの、その北側では院政期の遺構が検出されなかったことから、寺院跡であることが否定され、その結果、もう一つの候補地であった京都市美術館が最有力候補とされた経緯がある。しかし、今回の調査で、美術館の敷地も寺院跡ではない可能性が高まったことから、円勝寺の所在地を別の場所に求める必要がある。結論から述べれば、その位置を明らかにするには、考古学的成果を積み重ねていくしか方法はないと考えられる。その要因の一つに、円勝寺は、六勝寺の他の寺院よりも位置を示す文献史料が少ないことが挙げられる。円勝寺の創建期に近いものに限れば、先述した『円勝寺供養呪願文』と、大治三年（1128）十月の『白河法皇八幡一切経供養願文[9)]』の中の「白河の傍、建五重塔一基、三重塔二基、・・」という円勝寺の三基の塔のことを記した記述、また、大治五年（1130）十二月二十六日の『長秋記』の「自二条東行至円勝寺西門、」の記述の３点に限られる。塔の位置が白河に近いとの記述からは、美術館のさらに南の本来の白河の流れに近い場所に位置したと推測することも可能である。また、14世紀中葉の史料を元に、円勝寺の位置を鴨川に接する二条大路末の北側に比定する説もある[10)]が、いずれの場所も発掘調査事例がほぼ無く、今後、調査が実施されることを期待する。

また、円勝寺以外の六勝寺の寺院についても、法勝寺・尊勝寺・最勝寺はその位置がほぼ特定できているものの、成勝寺と延勝寺については未だ不明な点が多い。成勝寺については、みやこめっせが有力候補地とされるが、発掘調査（表３－13）では、今回の調査と同様に多数の井戸と溝が検出されたのみで、伽藍に相当する遺構は検出されていない。成勝寺の西に位置したとされる延勝寺も調査事例が少なく、位置を確定するには至っていない。円勝寺だけでなく、他寺院の配置や白河街区の地割についても、今後慎重な検討を重ねていく必要がある。

註

１）　第１期から第３期調査については、以下の各報告書を参照のこと。調査面数や時期の分け方に相違があるが、第４期調査終了後に、各調査の主要遺構の帰属面や時期について再検討を行い、今回報告するⅠ期からⅣ期の変遷に再構成した。

第１期：『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年

第２期：『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年

第３期：『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2017年

２）　出典については、第１章の表２関連年表を参照。

３）　金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵

４）　『地図で読む　京都・岡崎年代史』京都岡崎魅力づくり推進協議会　2012年を参照。

５）　中根淳「建築構造物の過去・現在・未来」『コンクリート工学』37－1　日本コンクリート工学会　1999年

６）　福山敏男「六勝寺の位置について」『美術史学』第81・82号　1943年（『日本建築史研究』墨水書房1968年に再録）、杉山信三『六勝寺と白河御所』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1991年、上村和直「院政と白河」『平安京提要』角川書店　1984年、梶川敏夫『よみがえる古代京都の風景－復元イラストから見る古代の京都』三星印刷商事株式会社　2016年など。

７）　福山敏男「円勝寺の歴史の概要」『寺院建築の研究』（下）　中央公論美術出版　1983年

８）　『本朝続文粋』巻第十二巻

９）　前掲註８に同じ。

10）　百瀬正恒「平安京の外京,白河の都市空間－院政期における「宗教都市」の建設－」『鎌倉時代の考古学』高志書院　2006年

付表１　土器一覧表

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
1	弥生土器	壷	溝6170	13.4	(3.7)		20	10YR7/3にぶい黄橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート	
2	弥生土器	甕	溝6170	15.6	(4.0)		30	10YR7/3にぶい黄橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート	搬入品
3	弥生土器	甕	溝6170	15.2	(4.7)		80	7.5YR7/6橙色 φ2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
4	弥生土器	壷	溝6170	23.1	(4.0)		口縁部10	7.5YR7/4にぶい橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート	
5	弥生土器	高杯	溝6170		(8.5)		脚柱部40	7.5YR8/4浅黄橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母	
6	弥生土器	高杯	溝6170		(1.4)	12.1	脚部75	10YR7/2にぶい黄橙色 4mm以下の長石・石英・チャート	穿孔10箇所
7	弥生土器	高杯	溝6170		(11.3)	12.6	脚部80	10YR7/3にぶい黄橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母	穿孔4箇所
8	弥生土器	壷	流路2180	10.2	(3.7)		5	10YR7/2にぶい黄橙色 φ3mm以下の長石・石英・チャート	
9	弥生土器	甕	流路2180	15.0	(3.5)		5	10YR8/2灰白色 φ3mm以下の長石・石英・チャート	
10	古式土師器	甕	流路2180	17.6	(6.5)		5	5YR6/6橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
11	弥生土器	甕	流路2180		(1.9)	4.0	5	10YR7/4にぶい黄橙色 φ3mm以下の長石・石英・チャート	
12	弥生土器	甕	流路2180		(3.9)	4.0	10	10YR7/3にぶい黄橙色 φ3mm以下の長石・石英・チャート	
13	弥生土器	鉢	流路2180		(1.7)	3.2	5	10YR8/2灰白色 φ2.5mm以下の長石・石英・チャート	有孔鉢
14	弥生土器	鉢	流路2180		(2.8)	4.6	5	7.5YR8/4浅黄橙色 φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒	有孔鉢
15	弥生土器	高杯	流路2180		(7.5)		脚柱部30	7.5YR8/2灰白色 φ2mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
16	弥生土器	高杯	流路2180		(6.5)		脚柱部30	7.5YR8/4浅黄橙色 φ2mm以下の長石・石英・チャート	
17	古式土師器	器台	流路2180	7.2	7.4	6.6	50	7.5YR7/4にぶい橙色 φ5mm以下の長石・石英・チャート・雲母	
18	古式土師器	竈	流路2180	縦(9.8)	横(10.6)	厚(6.5)	15	7.5YR5/4にぶい褐色 φ6mm以下の長石・石英・チャート	
19	須恵器	杯身	流路2180	13.5	(3.7)		15	N5/0灰色	
20	須恵器	器台	流路2180		(10.0)		10	N5/0灰色	
21	弥生土器	壷	流路3019		(3.2)	9.0	底部90	10YR5/3にぶい黄褐色 φ4mm以下の長石・石英・チャート	
22	古式土師器	壷	流路3019		(6.9)		小片	10YR7/3にぶい黄橙色	赤彩
23	古式土師器	壷	流路3019		(5.7)		小片	10YR7/3にぶい黄橙色	22と同一個体
24	古式土師器	高杯	流路3019		(6.1)	11.4	脚部40	5YR7/6橙色	
25	須恵器	杯蓋	流路3019	11.3	4.5		35	N5/0灰色	
26	須恵器	杯蓋	流路3019	12.6	(3.4)		20	N4/0灰色	
27	須恵器	杯身	流路3019	12.2	4.1		100	N4/0灰色	
28	須恵器	杯身	流路3019	10.2	(3.3)		20	N5/0灰色	
29	古式土師器	甕	落込3020	14.8	(3.0)		15	10YR7/3にぶい黄橙色	
30	古式土師器	甕	落込3020	17.9	(4.2)		10	7.5YR7/4にぶい橙色	
31	古式土師器	小型 丸底壷	落込3020		(5.5)		60	7.5YR6/4にぶい橙色	
32	古式土師器	高杯	落込3020		(4.2)		25	10YR7/2にぶい黄橙色	
33	須恵器	高杯	土坑5191	12.5	9.2	8.1	80	5B5/1青灰色	
34	土師器	皿N	土坑6100	9.6	1.8		85	10YR8/2灰白色	墨書
35	土師器	皿N	溝5140	10.0	1.4		20	10YR7/2にぶい黄橙色	両面墨書
36	土師器	皿N	5区遺構 検出中	9.6	1.2		15	10YR8/2灰白色	両面墨書

※（ ）は残存数値

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
37	白色土器	皿	土坑5031		(1.6)		破片	10YR8/2灰白色	墨書
38	山茶椀	椀	井戸2100 木枠内		(1.4)	3.7	底部100	10YR7/3にぶい黄橙色	墨書
39	土師器	鉢	溝2092		(7.6)		体部25	10YR8/3浅黄橙色	墨書
40	山茶椀	椀	溝2094		(2.6)	6.6	底部60	N7/0灰白色	墨書
41	輸入白磁	椀	溝5028		(2.3)	6.7	底部80	胎土:2.5Y8/0灰白色　釉:5Y6/2灰オリーブ色	墨書
42	輸入白磁	皿	2区耕作溝		(1.0)	3.0	底部65	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:2.5Y8/2灰白色	墨書
43	土師器	杯A	流路2180 上層	14.6	2.0		5	7.5YR8/4浅黄橙色	
44	土師器	杯A	流路2180 上層	15.0	1.7		10	7.5YR7/3にぶい橙色	煤付着
45	土師器	杯A	流路2180 上層	15.8	2.4		10	10YTR7/4にぶい黄橙色	
46	土師器	羽釜	流路2180 上層	21.0	(7.4)		10	7.5YR7/3にぶい橙色	
47	土師器	羽釜	流路2180 上層	29.8	(6.1)		10	7.5YR6/4にぶい橙色	
48	黒色土器	椀	流路2180 上層		(1.6)	8.3	20	胎土:7.5YR6/4にぶい橙色　表面:N3/0暗灰色	
49	灰釉陶器	壷	流路2180 上層		(2.4)	8.8	15	2.5Y8/1灰白色	
50	灰釉陶器	皿	流路2180 上層		(2.5)	8.0	20	2.5Y8/1灰白色	
51	緑釉陶器	椀	流路2180 上層		(2.7)	9.4	15	胎土:5Y7/1灰白色　釉:7.5Y6/3オリーブ黄色	
52	須恵器	壷	流路2180 上層		(8.2)	3.7	90	N3/0暗灰色	
53	土師器	皿A	土坑2480	12.8	1.1		5	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
54	土師器	皿A	土坑2480	14.0	1.6		5	10YR7/4にぶい黄橙色	
55	土師器	杯A	土坑2480	14.2	2.1		5	10YR8/2灰白色	煤付着
56	土師器	杯A	土坑2480	14.5	1.9		5	10YR8/2灰白色	
57	土師器	杯A	土坑2480	15.0	0.9		5	2.5Y8/3淡黄色	
58	黒色土器	椀	土坑2480	9.0	0.9		10	N3/0暗灰色	
59	黒色土器	椀	土坑2480	9.2	0.9		10	N3/0暗灰色	
60	白色土器	椀	土坑2480	7.0	1.2		5	2.5Y8/1灰白色	
61	灰釉陶器	椀	土坑2480	9.0	1.2		5	2.5Y8/1灰白色	
62	土師器	皿A	土坑2156	10.2	1.2		20	2.5Y8/2灰白色	
63	土師器	皿A	土坑2156	10.4	0.7		10	10YR8/3浅黄橙色	
64	土師器	皿A	土坑2156	10.4	1.2		10	10YR8/2灰白色	
65	土師器	皿A	土坑2156	10.6	1.9		40	2.5Y8/3淡黄色	
66	土師器	皿A	土坑2157	9.0	1.5		25	7.5YR8/4浅黄橙色	
67	土師器	皿N	土坑2157	14.4	2.3		10	10YR8/2灰白色	
68	土師器	皿N	土坑2157	15.3	2.4		20	10YR8/1灰白色	
69	土師器	皿A	2区整地層	9.3	(1.2)		10	10YR8/2灰白色	
70	土師器	皿A	2区整地層	9.4	(1.4)		10	10YR8/2灰白色	
71	土師器	皿N	2区整地層	9.8	1.6		90	10YR8/3浅黄橙色	
72	土師器	皿A	落込2150	9.6	1.9		75	10YR8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
73	土師器	皿A	井戸2100	8.0	1.1		10	2.5Y8/2灰白色	
74	土師器	皿N	井戸2100	9.0	1.6		20	10YR8/2灰白色	
75	土師器	皿N	井戸2100	9.0	1.8		35	2.5Y7/2灰黄色	
76	土師器	皿N	井戸2100	10.4	1.7		5	7.5YR8/4浅黄橙色	
77	土師器	皿N	井戸2100	11.2	1.8		5	10YR7/3にぶい黄橙色	
78	土師器	皿N	井戸2100	13.4	2.0		5	7.5YR8/2灰白	
79	土師器	皿N	井戸2100	15.8	2.3		5	10YR7/3にぶい黄橙色	
80	瓦器	椀	井戸2100	8.3	2.6		30	胎土:10YR8/1灰白色　表面:N4/0灰色	
81	土師器	皿N	井戸2025	8.6	1.7		25	7.5Y6/4にぶい橙色	
82	土師器	皿N	井戸2025	9.0	1.8		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
83	土師器	皿N	井戸2025	9.2	1.7		25	10YR6/2灰黄褐色	煤付着
84	土師器	皿N	井戸2025	9.3	1.7		90	7.5YR7/4にぶい橙色	
85	土師器	皿N	井戸2025	9.6	1.6		25	10YR7/4にぶい黄橙色	
86	土師器	皿N	井戸2025	10.0	1.6		20	10YR8/3浅黄橙色	
87	土師器	皿N	井戸2025	10.6	2.0		25	7.5YR7/4にぶい橙色	煤付着
88	土師器	皿N	井戸2025	13.0	2.8		15	10YR8/2灰白色	
89	土師器	皿Nd	井戸2025	13.6	3.3		100	10YR8/3浅黄橙色	
90	黒色土器	椀	井戸2025	13.4	4.5	5.6	20	胎土:10YR8/2灰白色　表面:10YR3/1黒褐色	
91	輸入白磁	皿	井戸2025	11.4	2.1		10	胎土:N9/0白色　釉:7.5GY8/1明緑灰色	
92	土師器	皿N	土坑6100	9.8	1.7		25	10YR8/4浅黄橙色	
93	土師器	皿N	土坑6100	9.9	1.7		70	10YR8/4浅黄橙色	
94	土師器	皿N	土坑6100	10.5	(2.4)		20	10YR8/4浅黄橙色	
95	土師器	皿N	土坑6100	15.2	2.8		25	10YR8/4浅黄橙色	
96	土師器	皿N	土坑6100	17.4	3.5		60	10YR8/4浅黄橙色	
97	土師器	皿N	土坑9008	8.8	1.4		35	10YR7/2にぶい黄橙色	
98	土師器	皿N	土坑9008	9.4	1.5		30	10YR8/3浅黄橙色	
99	土師器	皿N	土坑9008	13.4	2.5		25	10YR8/3浅黄橙色	
100	土師器	皿N	土坑9008	15.5	2.8		15	10YR8/3浅黄橙色	
101	輸入白磁	壷	土坑9008		(5.0)	9.0	底部15	胎土N8/1灰白色　釉:5Y7/2灰白色	
102	灰釉陶器	片口鉢	溝2095		(5.1)		破片	胎土:7.5YR5/2褐灰色　釉:5Y6/2灰オリーブ色	
103	土師器	皿Ac	溝2094	8.8	1.3		25	10YR8/3浅黄橙色	
104	土師器	皿Ac	溝2094	9.1	1.2		55	7.5Y8/3浅黄橙色	
105	土師器	皿N	溝2094	9.0	1.6		45	10YR7/3にぶい黄橙色	
106	土師器	皿N	溝2094	9.2	1.7		95	10YR7/6明黄褐色	
107	土師器	皿N	溝2094	9.4	1.8		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
108	土師器	皿N	溝2094	9.6	2.0		35	7.5YR5/6明褐色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
109	土師器	皿N	溝2094	13.8	2.5		25	内:10YR8/3浅黄橙色　外:10YR7/3にぶい黄橙色	
110	土師器	皿N	溝2094	14.0	3.0		80	10YR8/4浅黄橙色	煤付着
111	土師器	皿N	溝2094	14.1	2.8		80	10YR7/4にぶい黄橙色	
112	土師器	皿N	溝2094	15.0	2.8		25	10YR8/4浅黄橙色	
113	土師器	鉢	溝2094		(7.8)	7.3	底部のみ	10YR7/1灰白色	
114	土師器	鉢	溝2094	19.7	(4.3)		口縁部25	10YR8/1灰白色～7/1灰白色	
115	山茶椀	小皿	溝2094	7.0	2.1		70	内:N6/0灰色　外:10YR6/1褐灰色	
116	山茶椀	小椀	溝2094	7.6	2.9	3.3	75	N7/0灰白色	
117	山茶椀	椀	溝2094		(3.0)	7.5	底部100	N7/0灰白色	
118	山茶椀	椀	溝2094		(3.6)	7.7	50	N8/0灰白色	
119	瓦器	皿	溝2094	9.0	1.6		25	内:N6/0灰色～7/0灰白色　外:N4/0灰色	
120	瓦器	椀	溝2094		(1.3)	4.8	50	N6/0灰色～N5/0灰色	
121	輸入白磁	椀	溝2094	15.4	(3.2)		20	7.5Y8/1灰白色	
122	輸入白磁	椀	溝2094		(2.5)	6.2	50	胎土:7.5Y8/2灰白色　釉:7.5Y8/1灰白色	
123	土師器	皿N	溝2093	8.5	1.5		40	10YR7/3にぶい黄橙色	
124	土師器	皿N	溝2093	8.7	1.7		40	10YR8/2灰白色	
125	土師器	皿N	溝2093	9.0	1.7		40	10YR7/4にぶい黄橙色	
126	土師器	皿N	溝2093	10.3	2.0		25	7.5YR6/4にぶい橙色　クサリレキ多い	他地域産
127	土師器	皿N	溝2093	11.4	1.8		20	10YR8/3浅黄橙色	
128	土師器	皿N	溝2093	12.9	2.0		30	7.5YR7/6橙色	
129	土師器	皿N	溝2093	13.8	2.4		20	10YR8/3浅黄橙色	
130	土師器	皿N	溝2093	13.8	2.1		30	10YR7/4にぶい黄橙色	
131	土師器	皿N	溝2093	14.6	2.5		30	10YR7/4にぶい黄橙色	
132	山茶椀	椀	溝2093		(2.0)	6.6	30	5Y7/1灰白色	
133	山茶椀	椀	溝2093		(4.0)	5.8	60	2.5Y6/1黄灰色	
134	須恵器	鉢	溝2093	20.0	6.0		20	N5/0灰色	
135	瓦器	椀	溝2093	15.0	3.5		30	N3/0暗灰色	
136	瓦器	皿	溝2093	8.6	0.9		90	内:10YR8/0灰白色　外:N4/0灰色	
137	瓦器	香炉脚	溝2093		(6.5)		10	胎土:10YR7/2にぶい黄橙色　表面:10YR4/1褐灰色	
138	土師器	皿Ac	溝2092	8.0	1.2		25	10YR7/3にぶい黄橙色	
139	土師器	皿N	溝2092	8.4	1.7		30	10YR7/3にぶい黄橙色	
140	土師器	皿N	溝2092	9.0	1.0		30	10YR7/2にぶい黄橙色	
141	土師器	皿N	溝2092	11.8	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
142	土師器	皿	溝2092	12.6	2.2		20	7.5YR8/3浅黄橙色	
143	土師器	皿N	溝2092	12.9	2.1		80	10YR7/3にぶい黄橙色	
144	土師器	皿Ss	溝2092	8.4	1.2		20	10YR8/3浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
145	土師器	皿Ss	溝2092	9.0	1.5		25	2.5Y8/2灰白色	
146	土師器	皿	溝2092		(1.1)	4.2	底部75	10YR8/3浅黄橙色	高台杯
147	土師器	台付鉢	溝2092		(3.3)	10.0	底部70	内:10YR7/3にぶい黄橙色　外:10YR6/2灰黄褐色	
148	土師器	台付鉢	溝2092		(4.8)	9.0	底部60	2.5Y6/2灰黄色 φ7mm以下の長石・石英・チャート	
149	白色土器	皿	溝2092		(1.7)	4.1	25	10YR8/2灰白色	
150	山茶椀	椀	溝2092		(2.1)	7.6	20	2.5Y7/1灰白色	
151	須恵器	甕	溝2092	38.0	(7.0)		口縁部20	5Y6/1灰色	
152	須恵器	鉢	溝2092	12.2	(8.2)		15	10YR6/2灰黄褐色	
153	瓦器	椀	溝2092	15.1	(4.7)		25	N3/0暗灰色	
154	瓦器	椀	溝2092	16.0	(3.6)		20	N4/0灰色	
155	瓦器	鉢	溝2092	22.4	(6.2)		20	N4/0灰色	
156	瓦器	鍋	溝2092	26.4	(8.9)		20	2.5Y5/1黄灰色	
157	輸入青白磁	皿	溝2092	8.0	1.6	2.8	20	胎土:N9/0白色　釉:10GY8/1明緑灰色	
158	輸入青白磁	皿	溝2092		(1.4)	3.3	60	胎土:5Y8/1灰白色　釉:5Y7/4浅黄色	
159	輸入青白磁	椀	溝2092		(3.5)	7.4	15	胎土:N8/0灰白色　釉:N7/0灰白色	
160	輸入青白磁	皿	溝2092		(1.5)	3.6	30	胎土:N9/0白色　釉:10GY8/1明緑灰色	
161	輸入青白磁	椀	溝2092	16.4	(3.7)		5	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5Y5/2灰オリーブ色	
162	土師器	皿N	溝4009	8.4	1.4		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
163	土師器	皿N	溝4009	9.0	1.3		90	10YR7/4にぶい黄橙色	
164	土師器	皿N	溝4009	9.0	1.6		90	10YR7/3にぶい黄橙色	
165	土師器	皿N	溝4009	9.0	1.9		80	10YR7/3にぶい黄橙色	
166	土師器	皿N	溝4009	9.2	1.6		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
167	土師器	皿N	溝4009	12.4	2.5		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
168	土師器	皿N	溝4009	13.0	2.5		60	10YR7/4にぶい黄橙色	
169	土師器	皿N	溝4009	13.2	2.4		95	10YR7/4にぶい黄橙色	
170	土師器	皿N	溝4009	13.2	2.5		45	7.5YR7/4にぶい橙色	
171	土師器	皿N	溝4009	13.6	2.9		90	10YR8/3浅黄橙色	
172	土師器	皿N	溝4009	13.8	2.2		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
173	土師器	皿N	溝4009	14.2	2.4		95	10YR7/3にぶい黄橙色	
174	土師器	皿N	溝4009	14.2	2.8		80	10YR7/4にぶい黄橙色	
175	土師器	皿N	溝4009	14.3	2.1		30	7.5YR7/6橙色	
176	土師器	皿N	溝4009	14.8	2.3		25	10YR7/4にぶい黄橙色	
177	土師器	皿Ac	溝4010	7.4	1.4		90	10YR8/4浅黄橙色	
178	土師器	皿N	溝4010	8.8	1.7		70	10YR8/4浅黄橙色	
179	土師器	皿N	溝4010	8.8	1.7		80	10YR8/4浅黄橙色	
180	土師器	皿N	溝4010	8.9	1.5		95	10YR8/3浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
181	土師器	皿N	溝4010	8.9	1.5		100	内:7.5YR8/2灰白色　外:10YR8/2灰白色	
182	土師器	皿N	溝4010	9.0	1.7		95	10YR8/4浅黄橙色	
183	土師器	皿N	溝4010	13.6	2.3		25	10YR8/3浅黄橙色	
184	土師器	皿N	溝4010	14.1	2.6			7.5YR7/4にぶい橙色	
185	土師器	皿N	溝4010	14.2	2.7		100	10YR8/4浅黄橙色	
186	土師器	皿N	溝4010	14.2	2.9		100	10YR8/3浅黄橙色	
187	土師器	皿Ac	溝5140 東護岸	7.6	1.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	
188	土師器	皿Ac	溝5140 東護岸	8.0	1.1		30	2.5Y7/2灰黄色	
189	土師器	皿N	溝5140 東護岸	9.7	1.8		100	10YR8/4浅黄橙色	
190	土師器	皿N	溝5140 東護岸	9.9	1.5		100	10YR7/2にぶい黄橙色	
191	土師器	皿N	溝5140 東護岸	13.6	2.5		75	10YR7/2にぶい黄橙色	
192	土師器	皿N	溝5140 東護岸	13.7	2.6		25	10YR8/3浅黄橙色	
193	土師器	皿N	溝5140 東護岸	13.8	2.7		35	10YR7/2にぶい黄橙色	
194	土師器	皿N	溝5140 東護岸	14.0	3.1		25	10YR8/3浅黄橙色	
195	土師器	皿N	溝5140 東護岸	14.1	2.3		65	内:7.5YR7/3～7/4にぶい橙色　外:7.5YR8/2灰白色	他地域産か
196	土師器	皿N	溝5140 東護岸	14.4	2.6		25	10YR8/4浅黄橙色	
197	土師器	皿	溝5140 東護岸		(1.5)	5.5	底部75	7.5YR7/3にぶい橙色	
198	土師器	鉢	溝5140 東護岸	15.5	(4.7)		25	10YR8/3浅黄橙色	
199	白色土器	皿	溝5140 東護岸	7.8	1.5		100	2.5Y8/1灰白色	
200	白色土器	高杯	溝5140 東護岸		(11.0)			10YR8/3浅黄橙色	
201	白色土器	高杯	溝5140 東護岸		(2.3)	11.8		2.5Y8/2灰白色	
202	白色土器	華瓶	溝5140 東護岸		(7.0)	幅4.2		10YR8/2灰白色	
203	須恵器	壷	溝5140 東護岸	11.6	(5.9)		口縁部25	N4/0灰色	
204	山茶椀	小皿	溝5140 東護岸	7.5	2.0		100	7.5YR7/1明褐灰色	煤付着
205	山茶椀	小皿	溝5140 東護岸	7.2	2.1		80	N8/0灰白色	
206	山茶椀	椀	溝5140 東護岸		2.5	8.9	底部のみ	N7/0灰白色	高台に煤付着
207	山茶椀	椀	溝5140 東護岸	14.5	4.9			内:N6/0灰色　外:5Y7/1灰白色	
208	焼締陶器	鉢	溝5140 東護岸	24.2	8.9	8.8	30	7.5YR5/1褐灰色　自然釉:7.5Y4/2灰オリーブ色	常滑産
209	焼締陶器	鉢	溝5140 東護岸		(8.9)	15.3	底部55	N7/0灰白色	赤色顔料付着
210	焼締陶器	鉢	溝5140 東護岸		(7.2)	15.7	底部30	N8/0灰白色	
211	焼締陶器	甕	溝5140 東護岸		(8.1)		5	胎土10YR8/2灰白色　外:7.5YR3/2黒褐色	常滑産
212	瓦器	椀	溝5140 東護岸	7.3	2.6			N3/0暗灰色	
213	瓦器	椀	溝5140 東護岸	8.9	(2.5)			N3/0暗灰色	
214	瓦器	椀	溝5140 東護岸	14.3	4.9		15	N3/0暗灰色	
215	瓦器	椀	溝5140 東護岸	14.4	4.6		底部100	N3/0暗灰色	
216	瓦器	椀	溝5140 東護岸	15.4	5.0		90	N3/0暗灰色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
217	輸入白磁	蓋	溝5140 東護岸	6.6	0.8		40	胎土10YR7/4にぶい黄橙色　釉:5Y7/2灰白色	
218	輸入白磁	蓋	溝5140 東護岸	6.4	1.7		80	胎土2.5YR4/6赤褐色～7.5YR7/1明褐灰色 釉:7.5Y7/1灰白色	
219	輸入白磁	花瓶	溝5140 東護岸		(6.2)			10YR8/1灰白色	
220	輸入白磁	壷	溝5140 東護岸	10.7	(5.4)		口縁部30	5Y6/2灰オリーブ色	
221	輸入白磁	合子	溝5140 東護岸		2.0	4.5	30	胎土N6/0灰色　釉:7.5GY8/1明緑灰色	
222	輸入白磁	合子	溝5140 東護岸	4.7	2.3	4.3	55	10YR8/1灰白色	
223	輸入白磁	椀	溝5140 東護岸	15.2	(4.6)		30	7.5Y8/1灰白色	
224	輸入白磁	皿	溝5140 東護岸	8.9	2.5		45	7.5Y7/1灰白色	煤付着
225	輸入白磁	皿	溝5140 東護岸		(0.8)	4.4	45	7.5Y8/1灰白色	陰刻
226	輸入青白磁	皿	溝5140 東護岸		0.9	3.0	30	10GY8/1明緑灰色	
227	土師器	皿Ac	溝5140	8.8	1.3		30	10YR8/2灰白色	
228	土師器	皿N	溝5140	9.3	1.8		60	7.5YR7/4にぶい橙色7.5YR6/1褐灰色	
229	土師器	皿N	溝5140	13.0	2.9		25	10YR8/2灰白色	
230	土師器	皿N	溝5140	15.0	2.5		30	10YR8/2灰白色	
231	土師器	鉢	溝5140	26.6	(6.3)		10	胎土:10YR3/1黒褐色　外:10YR8/2灰白色	
232	土師器	鉢	溝5140	28.0	(7.0)		10	胎土:10YR4/1褐灰色　外:7.5YR8/4浅黄橙色	
233	土師器	鉢	溝5140		(3.0)	9.0	底部のみ	胎土:10YR3/1黒褐色　外:10YR8/2灰白色	
234	白色土器	皿	溝5140	7.9	1.6		35	2.5Y8/2灰白色	
235	白色土器	皿	溝5140	8.6	1.7		40	2.5Y8/2灰白色	
236	山茶椀	小椀	溝5140	9.8	3.0	4.0	40	5Y7/1灰白色	
237	山茶椀	椀	溝5140		(5.0)	7.0	30	2.5Y7/1灰白色	赤色顔料付着
238	瓦器	皿	溝5140	9.4	1.5		40	N3/0暗灰	
239	輸入陶器 褐釉	壷	溝5140	10.0	(7.1)		10	胎土7.5YR5/3にぶい褐色　釉:10YR3/3暗褐色	
240	輸入白磁	椀	溝5140		(3.9)	6.6	50	胎土2.5Y8/1灰白色　釉:2.5GY灰白色	
241	土師器	皿N	溝5135 東護岸	8.7	1.8		50	10YR7/2にぶい黄橙色	
242	土師器	皿N	溝5135 東護岸	8.8	1.4		30	10YR8/2灰白色	
243	土師器	皿N	溝5135 東護岸	9.0	1.6		30	10YR8/2灰白色	
244	土師器	皿N	溝5135 東護岸	9.2	1.7		30	10YR7/2にぶい黄橙色	
245	土師器	皿N	溝5135 東護岸	12.8	2.2		20	10YR8/2灰白色	
246	土師器	皿N	溝5135 東護岸	13.0	2.2		20	10YR8/2灰白色	
247	土師器	皿N	溝5135 東護岸	13.8	2.1		20	10YR8/2灰白色	
248	土師器	皿Sc	溝5135 東護岸	5.3	1.2		100	10YR8/1灰白色	
249	土師器	皿S	溝5135 東護岸	10.8	2.6		20	10YR8/2灰白色	
250	土師器	皿S	溝5135 東護岸	11.3	(2.8)		20	10YR8/1灰白色	
251	土師器	皿S	溝5135 東護岸	13.0	3.3		85	10YR8/1灰白色	
252	山茶椀	小皿	溝5135 東護岸	7.5	2.0	4.0	85	N7/0灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
253	山茶椀	片口皿	溝5135 東護岸	8.0	1.7	3.6	65	2.5Y6/2灰黄色	内面墨痕
254	瓦器	小椀	溝5135 東護岸	6.7	2.0	2.8	35	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
255	瓦器	椀	溝5135 東護岸	10.2	6.0	3.0	40	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
256	瓦器	椀	溝5135 東護岸	11.4	(4.2)		25	胎土:N5/0灰色～N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
257	瓦器	盤	溝5135 東護岸	36.7	8.0		20	N4/0灰色	
258	焼締陶器	甕	溝5135 東護岸	21.6	(5.4)		口縁部20	7.5YR5/2褐灰色	常滑産
259	輸入陶器	壷	溝5135 東護岸	14.0		9.0	口縁部25 底部25	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5YR7/3にぶい橙色	
260	輸入白磁	椀	溝5135 東護岸		(3.1)	5.9	底部100	胎土:5Y8/1灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
261	輸入白磁	椀	溝5135 東護岸		(4.2)	6.0	底部85	胎土:5Y8/1灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
262	輸入白磁	壷	溝5135 東護岸		(6.2)	5.6	底部100	胎土N8/0灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
263	輸入青磁	椀	溝5135 東護岸		(3.3)	5.2	底部100	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5YR7/3にぶい橙色	
264	土師器	皿N	溝5135 西護岸	8.1	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
265	土師器	皿N	溝5135 西護岸	9.6	1.6		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
266	土師器	皿N	溝5135 西護岸	12.3	(1.9)		15	7.5YR7/4にぶい橙色	
267	土師器	皿Nd	溝5135 西護岸	13.5	(3.1)		15	10YR7/2にぶい黄橙色	
268	土師器	皿Sc	溝5135 西護岸	6.4	1.1		100	2.5Y8/1灰白色	
269	山茶椀	小皿	溝5135 西護岸	7.8	2.4	4.0	25	N8/0灰白色	
270	瓦器	椀	溝5135 西護岸	10.8	3.5			胎土:N8/0灰白色　表面:N4/0灰色	
271	須恵器	脚か	溝5135 西護岸		(6.7)	7.4		N6/0灰色	
272	焼締陶器	鉢	溝5135 西護岸	13.0	(1.1)		15	2.5Y7/1灰白色	
273	輸入白磁	椀	溝5135 西護岸		(3.0)	6.7	25	胎土N8/1灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
274	輸入白磁	鉢	溝5135 西護岸	24.6	(5.1)		10	胎土N8/1灰白色　釉:5Y7/2灰白色	鉄絵
275	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	7.7	1.6		50	10YR7/2にぶい黄橙色	
276	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	8.2	1.5		50	10YR7/3にぶい黄橙色	
277	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	8.1	1.5		95	10YR7/2にぶい黄橙色	
278	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	11.1	2.1		35	7.5YR7/4にぶい橙色	
279	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	11.1	(2.1)		20	10YR7/3にぶい黄橙色	
280	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	11.5	(1.9)		20	10YR7/3にぶい黄橙色	
281	土師器	皿N	溝5135 護岸補修	12.0	1.9		20	7.5YR7/4にぶい橙色	
282	土師器	皿Sc	溝5135 護岸補修	4.6	0.9		55	10YR8/2灰白色	
283	土師器	皿Sc	溝5135 護岸補修	4.8	0.9		60	10YR8/2灰白色	
284	土師器	皿S	溝5135 護岸補修	7.0	1.9		25	10YR7/2にぶい黄橙色	
285	土師器	皿S	溝5135 護岸補修	7.8	1.9		35	10YR8/2灰白色	
286	土師器	皿S	溝5135 護岸補修	8.2	2.0		75	10YR8/2灰白色	
287	土師器	皿S	溝5135 護岸補修	8.5	(1.7)		25	10YR8/2灰白色	
288	土師器	皿S	溝5135 護岸補修	11.7	(2.7)		20	10YR8/3浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
289	土師器	Ⅲ類S	溝5135護岸補修	11.8	(3.1)		20	10YR8/2灰白色	
290	須恵器	甕	溝5135護岸補修	31.2	(23.1)		20	2.5Y4/1黄灰色	
291	山茶椀	小皿	溝5135護岸補修	7.8	1.6	4.8	80	N7/0灰白色	
292	瓦器	椀	溝5135護岸補修	10.5	3.2		100	胎土:2.5Y8/1灰白色　表面:2.5Y3/1黒褐色	
293	瓦器	椀	溝5135護岸補修	10.8	(2.9)		35	胎土:2.5Y8/1灰白色　表面:2.5Y3/1黒褐色	
294	瓦器	椀	溝5135護岸補修	11.2	3.0		25	N4/0灰色	
295	瓦器	椀	溝5135護岸補修	11.2	3.2		20	胎土:2.5Y8/1灰白色　表面:2.5Y3/1黒褐色	
296	瓦器	鉢	溝5135護岸補修	17.2	(6.0)		25	胎土:2.5Y7/1灰白色　表面:N4/0灰色	
297	瓦器	壷	溝5135護岸補修		(16.4)	9.8	50	N4/0灰色	
298	輸入青白磁	小皿	溝5135護岸補修	6.6	1.4	2.3	20	胎土:N8/0灰白色　釉:10GY8/1明緑灰色	
299	輸入白磁	花瓶	溝5135護岸補修	8.8	(7.0)		口縁部75	胎土:7.5Y8/1灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	
300	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	6.8	1.4		40	10YR8/2灰白色	他地域産か
301	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	8.0	1.3		70	2.5Y8/2灰白色	
302	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	8.2	1.1		100	2.5Y7/1灰白色～2.5Y5/1黄灰色	煤付着
303	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	7.9	(1.4)		15	5YR7/4にぶい橙色	
304	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	9.0	2.1		90	2.5Y8/1灰白色	煤付着
305	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	9.1	(2.0)		20	7.5YR8/4浅黄橙色	
306	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	11.6	2.0		30	10YR8/3浅黄橙色	
307	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	12.0	2.0		55	10YR8/3浅黄橙色	
308	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	12.0	2.2		35	10YR8/3浅黄橙色	
309	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	12.4	2.0		15	10YR8/3浅黄橙色	他地域産か
310	土師器	Ⅲ類N	溝5135埋土	13.8	2.2		20	2.5Y8/2灰白色	
311	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	4.0	0.9		100	10YR8/3浅黄橙色	
312	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	4.1	0.9		100	2.5Y8/1灰白色	
313	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	4.8	1.0		85	2.5Y8/1灰白色	
314	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	4.9	1.0		100	2.5Y8/1灰白色	
315	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	5.0	1.1		35	2.5Y8/1灰白色	
316	土師器	Ⅲ類Sc	溝5135埋土	5.0	0.9		25	2.5Y8/1灰白色	
317	土師器	Ⅲ類Ss	溝5135埋土	7.0	1.9		60	2.5Y8/1灰白色	
318	土師器	Ⅲ類Ss	溝5135埋土	8.4	1.4		50	2.5Y8/2灰白色	
319	土師器	Ⅲ類	溝5135埋土	10.0	1.8		45	10YR8/2灰白色	
320	土師器	Ⅲ類S	溝5135埋土	12.2	2.7		35	10YR8/1灰白色	
321	土師器	Ⅲ類S	溝5135埋土	12.2	(2.8)		25	2.5Y8/1灰白色	
322	土師器	Ⅲ類S	溝5135埋土	12.4	(2.7)		15	2.5Y8/1灰白色	
323	土師器	Ⅲ類S	溝5135埋土	12.6	2.7		25	10YR8/2灰白色	
324	土師器	Ⅲ類S	溝5135埋土	13.2	2.9		80	10YR8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
325	土師器	皿S	溝5135埋土	13.2	(3.4)		25	10YR8/1灰白色	
326	土師器	皿S	溝5135埋土	13.4	2.8		25	10YR8/2灰白色	
327	瓦器	椀	溝5135埋土	11.4	3.2		100	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
328	瓦器	椀	溝5135埋土	12.0	3.2		45	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
329	瓦器	椀	溝5135埋土	13.0	(3.7)		20	胎土:N8/0灰白色　表面:N4/0灰色	
330	瓦器	鉢	溝5135埋土	12.8	(4.5)		25	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
331	瓦器	三足付皿	溝5135埋土	9.4	3.4		25	胎土:5Y6/1灰色　表面:5Y7/1灰白色	煤付着
332	瓦器	ミニチュア羽釜	溝5135埋土	4.1	(4.2)		30	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
333	瓦器	把手	溝5135埋土	高(2.0)	長(10.5)	幅(4.7)	80	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
334	瓦器	火鉢	溝5135埋土		(6.8)		破片	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
335	焼締陶器	壷	溝5135埋土		(11.2)	12.4	底部75	内:10YR5/1褐灰色　外:N5/0灰色	2次焼成
336	山茶椀	椀	溝5135埋土		(2.2)	6.6	底部50	2.5Y7/1灰白色	
337	山茶椀	椀	溝5135埋土		(2.7)	5.3	底部100	2.5Y7/1灰白色	
338	山茶椀	椀	溝5135埋土		(2.4)	6.8	底部60	2.5Y7/1灰白色	
339	施釉陶器	卸目皿	溝5135埋土	14.8	4.5		20	胎土:2.5Y7/1灰白色　釉:2.5Y6/3にぶい黄色	
340	輸入白磁	椀	溝5135埋土		(3.7)	5.7	底部100	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:2.5Y7/2灰黄色	
341	輸入青磁	杯	溝5135埋土	13.6	3.5	5.8	25	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5GY7/1明緑灰色	
342	輸入青磁	皿？	溝5135埋土		(1.5)	8.0	底部35	胎土:N8/0灰白色　釉:10GY7/1明緑灰色	
343	土師器	皿N	溝9006C	9.2	1.7		65	7.5YR7/4にぶい橙色	
344	土師器	皿N	溝9006C	14.1	2.4		20	7.5YR7/4にぶい橙色	
345	土師器	皿N	溝9006C	14.4	2.6		15	2.5Y8/2灰白色	
346	土師器	皿N	溝9006C	15.0	2.1		20	10YR8/3浅黄橙色	
347	土師器	羽釜	溝9006C	21.4	(7.9)		10	10YR7/4にぶい黄橙色	
348	土師器	羽釜	溝9006C	27.0	(12.3)		15	10YR7/3にぶい黄橙色	
349	須恵器	耳付鍋	溝9006C	19.6	(6.6)		10	N5/0灰色	
350	輸入白磁	椀	溝9006C	17.0	(4.7)		15	胎土5Y7/1灰白色　釉:5Y7/2灰白色	
351	土師器	皿N	溝9006B	8.5	1.5		55	10YR8/3浅黄橙色	
352	土師器	皿N	溝9006B	8.6	1.3		100	2.5Y8/2灰白色	
353	土師器	皿N	溝9006B	8.8	1.4		35	7.5YR7/4にぶい橙色～10YR8/4浅黄橙色	
354	土師器	皿N	溝9006B	11.4	2.1		85	7.5YR8/3浅黄橙色	
355	土師器	皿N	溝9006B	11.1	2.7		15	10YR8/3浅黄橙色	
356	土師器	皿Sc	溝9006B	4.0	1.1		45	10YR8/2灰白色	
357	土師器	皿Sc	溝9006B	3.6	0.9		90	2.5Y8/2灰白色	
358	土師器	皿S	溝9006B	10.7	3.0		45	2.5Y8/1灰白色	
359	土師器	皿S	溝9006B	12.1	3.4		50	2.5Y8/1灰白色	煤付着
360	土師器	皿S	溝9006B	12.4	3.0		30	2.5Y8/1灰白色～N7/0灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
361	土師器	Ⅲ類S	溝9006B	12.5	3.0		30	10YR8/2灰白色	
362	土師器	羽釜	溝9006B	24.8	(4.5)		15	10YR7/2にぶい黄橙色	
363	瓦器	鍋	溝9006B	25.5	(0.8)		25	胎土:N5/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
364	瓦器	火鉢	溝9006B		(6.6)		破片	胎土:5Y7/1灰白色　表面:N3/0暗灰色	
365	輸入陶器	鉢	溝9006B	24.2	(2.1)		8	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5YR6/2灰オリーブ色	
366	輸入白磁	Ⅲ類	溝9006B	9.6	1.8	5.2	30	胎土N8/0灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
367	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.3	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
368	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.4	1.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
369	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.5	1.2		100	7.5YR7/4にぶい橙色	
370	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.5	1.1		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
371	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.5	1.6		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
372	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.6	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
373	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.7	1.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
374	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.9	1.4		95	7.5YR7/6橙色	
375	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	7.3	2.1		25	10YR7/4にぶい黄橙色	
376	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	8.1	2.1		25	10YR7/4にぶい黄橙色	
377	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	11.8	2.2		95	10YR7/3にぶい黄橙色	
378	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	11.9	2.1		70	7.5YR7/4にぶい橙色	
379	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.5	2.4		98	7.5YR8/4浅黄橙色	
380	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.6	2.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	
381	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.7	2.2		75	7.5YR8/4浅黄橙色	
382	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.7	2.4		85	7.5YR7/4にぶい橙色	
383	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.7	2.4		90	10YR7/4にぶい黄橙色	
384	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	12.8	2.3		85	7.5YR8/4浅黄橙色	
385	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	13.1	2.2		80	10YR7/3にぶい黄橙色	
386	土師器	Ⅲ類N	土坑1003	13.1	1.8		95	10YR7/3にぶい黄橙色	
387	土師器	Ⅲ類Sc	土坑1003	6.2	1.3		100	2.5Y8/2灰白色	
388	土師器	Ⅲ類Sc	土坑1003	7.6	1.8		100	10YR8/2灰白色	
389	土師器	Ⅲ類Ss	土坑1003	8.7	1.6		100	7.5Y8/2灰白色	
390	土師器	Ⅲ類Ss	土坑1003	8.8	1.8		95	10YR8/1灰白色	
391	土師器	Ⅲ類Ss	土坑1003	9.1	1.5		95	10YR8/2灰白色	
392	土師器	Ⅲ類Ss	土坑1003	9.8	1.6		100	10YR8/2灰白色	煤付着
393	土師器	Ⅲ類S	土坑1003	10.0	2.8		25	10YR8/2灰白色	
394	土師器	Ⅲ類S	土坑1003	11.1	3.0		55	10YR8/2灰白色	
395	土師器	Ⅲ類S	土坑1003	12.4	3.6		45	10YR8/2灰白色	
396	土師器	Ⅲ類S	土坑1003	12.6	3.7		25	10YR8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
397	瓦器	片口鉢	土坑1003	11.2	(4.1)		35	2.5Y8/2灰白色	
398	瓦器	小椀	土坑1003	7.8	2.3	4.0	40	N4/0灰色	
399	瓦器	椀	土坑1003	12.8	(3.8)		20	5Y5/1灰色	
400	瓦器	鍋	土坑1003	21.0	9.4		90	2.5Y5/1黄灰色	
401	瓦器	羽釜	土坑1003	16.1	(10.2)		35	2.5Y5/1黄灰色	
402	白色土器	高杯	土坑1003	8.7	(18.3)		脚柱部75	10YR8/2灰白色	
403	須恵器	甕	土坑1003	35.2	(7.7)		口縁部20	N5/0灰色	
404	須恵器か	壷	土坑1003		(3.4)		小片	N7/0灰白色	線刻文様
405	輸入青白磁	合子蓋	土坑1003	6.1	1.8		25	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:7.5GY8/1明緑灰色	
406	土師器	皿N	瓦溜2355	8.0	1.5		30	10YR8/3浅黄橙色	煤付着
407	土師器	皿N	瓦溜2355	8.2	1.5		25	7.5YR7/4にぶい橙色	煤付着
408	土師器	皿N	瓦溜2355	8.7	1.7		20	10YR7/3にぶい黄橙色	
409	土師器	皿N	瓦溜2355	7.8	1.8		25	10YR8/3浅黄橙色	
410	土師器	皿N	瓦溜2355	10.0	1.5		15	5YR6/6橙色	他地域産か
411	土師器	皿	瓦溜2355	13.6	2.5		15	7.5YR7/4にぶい橙色	
412	土師器	皿Sc	瓦溜2355	6.6	1.0		15	10YR8/2灰白色	
413	土師器	皿S	瓦溜2355	10.2	2.4		10	2.5Y8/2灰白色	
414	土師器	皿S	瓦溜2355	13.0	3.3		95	2.5Y8/2灰白色	
415	輸入白磁	皿	瓦溜2355	10.0	1.9		10	胎土:5Y8/1灰白色　釉:5Y7/1灰白色	
416	土師器	皿N	井戸4070	8.9	1.7		40	10YR7/3にぶい黄橙色	
417	土師器	皿N	井戸4070	8.9	1.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色	
418	土師器	皿Ss	井戸4070	10.0	1.8		20	2.5Y8/1灰白色	
419	輸入白磁	壷	井戸4070	11.8	(6.1)		5～10	5Y6/2灰オリーブ	
420	土師器	皿N	土坑3010	7.8	1.5		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
421	土師器	皿N	土坑3010	8.0	1.4		95	7.5YR7/4にぶい橙色	
422	土師器	皿N	土坑3010	10.2	2.0		25	10YR7/4にぶい黄橙色	
423	土師器	皿N	土坑3010	11.0	2.1		20	10YR7/4にぶい黄橙色	
424	土師器	皿N	土坑3010	11.2	2.3		25	10YR7/3にぶい黄橙色	
425	土師器	皿S	土坑3010	12.8	(3.0)		25	10YR8/3浅黄橙色	
426	瓦器	鉢	土坑6135	21.7	(6.3)		30	N4/0灰色	
427	瓦器	三足盤	土坑6135	20.0	7.6		80	N4/0灰色	
428	土師器	皿Sh	溝5115	6.7	2.1		95	2.5Y8/2灰白色	
429	土師器	皿Sh	溝5115	6.8	1.9		25	10YR8/2灰白色	
430	土師器	皿N	溝5115	7.7	1.5		85	10YR7/3にぶい黄橙色	煤付着
431	土師器	皿N	溝5115	8.7	(2.0)		35	7.5YR7/3にぶい橙色	煤付着
432	土師器	皿S	溝5115	9.4	(1.8)		25	2.5Y7/2灰黄色	煤付着

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調胎土	備考
433	瓦器	不明	溝5115	11.6	(2.8)		60	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
434	瓦器	火鉢か	溝5115		4.9		小片	胎土:10YR8/2灰白色　表面:N4/0灰色	
435	瓦器	鍋	溝5115	24.8	(6.9)		20	N5/0灰色	
436	土師器	羽釜	溝5115	22.6	85.6)		口縁部20	2.5Y7/2灰黄色	
437	施釉陶器	華瓶	溝5115		(7.8)		体部70	胎土:5Y8/1灰白色　釉:5Y4/2灰オリーブ	鉄釉
438	輸入青磁	皿	溝5115		(2.0)	3.4	底部90	胎土:5Y7/1灰白色　釉:5Y5/3灰オリーブ	
439	輸入白磁	皿	溝5115	8.4	2.8	4.6	70	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5Y7/1灰白色	
440	土師器	皿Nh	溝9006A	7.4	1.6		40	10YR7/4にぶい黄橙色	
441	土師器	皿N	溝9006A	9.4	1.7		50	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
442	土師器	皿S	溝9006A	10.6	3.1		45	2.5Y8/1灰白色	
443	土師器	皿Sh	溝5028	6.6	1.8		100	10YR8/2灰白色	
444	土師器	皿S	溝5028	16.4	(3.4)		20	10YR8/1灰白色	
445	土師器	皿S	溝5028	16.6	(3.7)		20	10YR8/2灰白色	
446	輸入白磁	壷	溝5028		(5.0)		10	胎土:2.5Y8/2灰白色　釉:5Y7/3浅黄色	
447	輸入 施釉陶器	盤	溝2090		(3.0)		5	胎土:7.5YR6/1褐灰色　釉:緑色	
448	輸入 施釉陶器	盤	溝2092		(1.6)		5	胎土:10YR6/1褐灰色　釉:緑色	
449	輸入 施釉陶器	盤	溝2090		(1.4)		小片	胎土:10YR6/1褐灰色　釉:緑色	他、3点出土
450	輸入 施釉陶器	壷	溝5140		(8.0)		10	胎土:5YR6/2灰オリーブ色　釉:緑色	他、2点出土
451	輸入 施釉陶器	壷	溝9006B		(7.2)		10	胎土:5YR5/4にぶい赤褐色　釉:緑色	他、2点出土
452	輸入 高麗青磁	瓶	溝5135埋土		(3.9)		小片	胎土:N7/0灰白色　釉:5Y5/2灰オリーブ色	
453	輸入 高麗青磁	瓶	溝5135 東護岸		(3.2)		小片	胎土:N7/0灰白色　釉:5Y5/2灰オリーブ色	
454	輸入 高麗青磁	瓶	溝5135 護岸補修		(3.8)		小片	胎土:N7/0灰白色　釉:5Y5/2灰オリーブ色	
455	輸入 高麗青磁	瓶	15c整地		(3.4)		小片	胎土:N7/0灰白色　釉:5Y5/2灰オリーブ色	
456	輸入 高麗青磁	瓶	溝5028		(4.7)		小片	胎土:N7/0灰白色　釉:5Y5/2灰オリーブ色	
457	輸入 高麗青磁	瓶	土坑5165		(4.5)		小片	胎土:2.5Y8/0灰白色　釉:5Y6/2灰オリーブ色	

付表２　軒丸瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦1	複弁8弁蓮華文。圏線中房で内向き突起あり。1＋8。弁端は山形、間弁は独立、輪郭線あり。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。丸瓦接合位置低い。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。	溝9006C、溝5140東護岸、計2点。
瓦2	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。中房径8.8㎝。弁端は山形。間弁は独立、輪郭線あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。接合面に溝あり。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺池(上原1975)図20-1、円勝寺(CB2)瓦1、円勝寺(上原1972)ER001Aと同笵。神出窯(纐纈2018)丸2401と同文。	溝5135補修後、溝5135東護岸、落込5126、溝2090、2区検出中、計5点。
瓦3	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。連弁は山形。間弁は独立、輪郭線あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。丸瓦接合位置低い。	11世紀後葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦1、神出窯(纐纈2018)丸1401bと同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦4	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。連弁は山形。間弁は独立、弁周縁と接する。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦、中央やや凹む。	11世紀後葉。播磨産。円勝寺(CB3)瓦6、円勝寺(上原1972)ER001Cと同笵。	溝4010、溝5140東護岸、計2点。
瓦5	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。圏線中房。間弁は連続。	瓦当成形不明。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦5、円勝寺(上原1972)ER017、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。神出窯(纐纈2018)丸2001と同文。	5区重機掘削中、計1点。
瓦6	単弁16弁蓮華文。圏線、1＋5。蓮弁は独立。間弁は三角形。外区は界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺(市埋文1996)387、円勝寺(CB3)瓦8と同笵。神出窯(纐纈2018)丸0101と同文。	土坑2389、溝5135補修後、計2点。
瓦7	単弁16弁蓮華文。圏線、1＋5。蓮弁は接する。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。丸瓦接合位置低い。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。円勝寺(市埋文1996)490、円勝寺(CB2)瓦4と同文。	溝2094、計1点。
瓦8	複弁5弁蓮華文。圏線中房、1＋5。間弁は連続。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	11世紀後葉。大和産。円勝寺(上原1972)ER007、円勝寺(CB1)瓦11と同笵。	井戸2025、計2点。
瓦9	複弁8弁蓮華文。花形凸中房、1＋8。回りに蕋あり。蓮弁は接する。外区に界線あり。周縁は直立縁で、上面に密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。円勝寺(上原1972)ER006、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。平安宮真言院(梶川1977)4、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸E6と同文。	土坑2440、溝5135東護岸、計2点。
瓦10	複弁8弁蓮華文。花形凸中房、1＋4。回りに蕋あり。蓮弁は接する。外区に界線あり。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	11世紀後葉。大和産。最勝寺推定地(内田ほか1995)2と同笵。円宗寺(市埋文1997)72、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸E5と同文。	土坑2021、溝9006B、計2点。
瓦11	瓦10と同文で、蓮弁が細い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。白河勧業館(市埋文1996)512、円宗寺(市埋文1997)73と同文。	溝2092、計1点。
瓦12	複弁蓮華文。間弁は連続。外区界線、密な珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。興福寺(藪中1991)Ⅵ丸A10と類似。	溝2095、計1点。
瓦13	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。間弁は独立。輪郭線あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦、中央やや凹む。	11世紀後葉。大和産。円勝寺(CB2)瓦7、薬師寺(山崎1987)Fig.36-56と同文。	溝2093、溝2092、溝5135補修後、溝9006B、計4点。
瓦14	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋5。間弁は独立。輪郭線あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	11世紀後葉。大和産。円勝寺(CB3)瓦14、円勝寺(上原1972)ER021、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸A4と同文。	溝2094、計1点。
瓦15	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。間弁は独立。蓮弁輪郭が周縁となる。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	11世紀後葉。大和産。平安宮真言院(梶川ほか1976)図22-5、円勝寺(CB2)瓦6、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸A1と同文。	瓦溜2355、計1点。
瓦16	複弁8弁蓮華文。凸中房で圏線あり、1＋6。蓮弁に輪郭線あり。間弁楔形。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	11世紀後葉。大和産。興福寺(藪中1991)Ⅵ丸C4、薬師寺(山崎1987)Fig39-58と同文。	土坑9008、溝9006C、計2点。
瓦17	単弁4弁蓮華文。圏線中房、1＋8、蓮弁は接し、子葉は楕円形。外区界線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	11世紀後葉。大和産。円宗寺(市埋文1997)73、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸J2と同文。	溝4024、計1点。
瓦18	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8、蓮弁は接し、子葉は楕円形。外区界線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。尊勝寺(奈文研1961)85型式、平安京左京二条二坊十町(網1990)4、薬師寺(山崎1987)fig38-87と同文。	溝5028、計1点。
瓦19	単弁4弁・複弁4弁交互蓮華文。凸面、蓮子は環状で1＋4。回りに蕋あり。蓮弁は接する。外区界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	11世紀後葉。大和産。円勝寺(上原1972)ER024、円勝寺(CB2)瓦8、薬師寺(山崎1987)Fig38-81と同文。	溝2092、計1点。
瓦20	内区に梵字「アーク」を配す。外区界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ケズリ、裏面平坦。接合面に刺突施す。	11世紀後葉。大和産。最勝寺推定地(内田ほか1995)同笵。	2区遺構検出中、計1点。
瓦21	瓦20と同文、外区界線なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。法勝寺塔(柏田2011)A類と同笵。興福寺北円堂(今井2012)4と同文。	溝2093、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦22	内区に梵字「アーク」を配す。文字は左右逆字。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(上原1972)ER048、円勝寺(CB1)瓦6と同笵。興福寺中金堂中門(山崎1999)図21-9と同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦23	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。間弁は独立。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。 丸瓦接合位置低い。側面横ケズリ、裏面やや盛り上がる。	11世紀。讃岐産。 法勝寺(上原1975)図20-12、如意輪寺窯(香川県1983)130と同文。	溝2094、溝2092、計2点。
瓦24	複弁6弁蓮華文。圏線中房で中央盛り上がる。蓮子1＋4＋8。蓮弁は独立、間弁は独立。外区なし。周縁は素文直立縁。	筒型一本造り成形。 瓦当裏面絞りなしの布目痕跡あり。周縁は貼付。	11世紀。備前産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。 円勝寺(CB1)瓦8、備前国分寺(宇垣2009)図154-87と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦25	複弁8弁蓮華文。凸中房、周囲に圏線。弁区一段高い。蓮弁の返り強い。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	11～12世紀。産地不明。 白河勧業館(市埋文1996)513、円勝寺(CB1)瓦90と同文。	溝2050、計1点。
瓦26	単弁7弁蓮華文。凹中房、1＋6。間弁は独立。外区に密な珠文。瓦当面笵キズあり。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	11～12世紀。産地不明。 尊勝寺観音堂(森下1987)図27-2と同文。	15c整地、計1点。
瓦27	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋5。間弁は連続。外区は1段下がり、密な珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	11～12世紀後葉。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦10と同笵。 円勝寺(上原1972)ER028と同文。	溝2093、2区重機掘削、溝9006B、溝5140、溝6150、計5点。
瓦28	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋5。蓮弁は盛り上がり、独立。間弁なし。外区は1段下がり、珠文19。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ケズリ、裏面下半横方向ケズリ、裏面平坦。	11～12世紀。産地不明。 円勝寺(上原1972)ER027型式、円勝寺(CB3)瓦19と同笵。尊勝寺(奈文研1961)66型式と類似。	溝5135東護岸+溝5140東護岸、5区遺構検出中、溝5140、計3点。
瓦29	複弁6弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁・子葉は線状。間弁なし。外区に界線・珠文12個・圏線。周縁は素文直立縁。笵キズ多い。	瓦当溝付丸瓦挿入成形。 側面下半横ケズリ、裏面盛り上がり。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦13、尊勝寺(奈文研1961)5型式、南ノ庄田窯(市埋文1996)139と同笵。	溝5140東護岸(2)、落込5126、溝8005+溝8006、計4点。
瓦30	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁・子葉・間弁は線状。外区に界線・珠文16・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面平坦溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB2)瓦16と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)6型式と同文。	溝5135、落込5126、計2点。
瓦31	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁・子葉・間弁は線状。外区に界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面やや盛り上がる。	12世紀前葉。山城産。 平安京左京北辺四坊(加納2004)92-3と同笵。	柱穴2371、土坑9009、計2点。
瓦32	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁・子葉・間弁は線状。外区に界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。瓦31より珠文小さい。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。山城産。 平安京左京三条二坊十町(加納2008)瓦32と同笵。	溝5115、溝9006C、計2点。
瓦33	複弁7弁蓮華文。圏線中房、1＋5。間弁は独立。外区に界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面坦丸瓦貼付成形。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)7型式、円勝寺(CB2)瓦18と同笵。	溝2094、計1点。
瓦34	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁接し、間弁なし。外区は界線・珠文16・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦14と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)8型式、栗栖野窯(市埋文1996)56と同文。	溝2093、土坑2067、撹乱、計3点。
瓦35	瓦34と同笵で笵キズあり。瓦当面楕円形。	瓦34と同様。	瓦34と同様。	溝2094、計2点。
瓦36	複弁6弁蓮華文。凸中房、1＋5。蓮弁は接し、弁端盛り上がる。間弁なし。外区界線・珠文12・圏線。周縁は素文直立縁。笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面横ケズリ、裏面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦12、尊勝寺(奈文研1961)31型式と同文。	溝2094(2)、土坑2086、溝2092、溝5135補修後、溝5135東護岸、計6点。
瓦37	複弁8蓮弁蓮華文。凸中房で圏線あり、1＋5。蓮弁は離れ、弁端に間弁接する。弁端に珠文を配する。外区は界線。周縁は素文直立縁。瓦当面に笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半・裏面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(上原1972)ER002、栗栖野窯(市埋文1996)57と同文。	溝2090、溝2092、溝2094、溝5135補修後埋土、計4点。
瓦38	複弁9弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮子ハート形。蓮弁は剣頭状。間弁は独立。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 醍醐寺大智院(杉山ほか1976)04型と同文。	土坑2089、溝5115、計2点。
瓦39	複弁9弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮子ハート形。蓮弁は剣頭状。間弁は独立。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 最勝寺(内田ほか1995)、尊勝寺(奈文研1961)20型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦40	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)23型式に類似。	溝2092、計1点。
瓦41	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接する、間弁は連続。子葉尖る。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦24と同文。 尊勝寺(奈文研1961)23型式。	溝2092護岸、溝2092(3)、溝2094、溝2095、13c整地、計7点。
瓦42	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。中房大きい。蓮弁は接する、間弁は連続。子葉尖る。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦25と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)23型式。	土坑2427、溝2090、溝2092、2区西壁断割、計4点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦43	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接する、間弁は連続。子葉短い。外区なし。周縁は素文直立縁。弁区に2本笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦23、尊勝寺(奈文研1961)23B型式と同笵。	井戸2025、2区重機掘削中、第2-1面整地層掘下げ、溝2092護岸、溝2092(2)、溝2094、土坑2388、溝5135東護岸、溝5135西護岸、溝5140、計11点。
瓦44	瓦43と同文で、子葉短い。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)23型式。	溝2092、計1点。
瓦45	単弁9弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁に輪郭線あり。間弁は連続。外区は珠文9。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面下半横ケズリ、裏面下半ケズリ	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦18、尊勝寺(奈文研1961)64型式、栗栖野窯(吉村1993)図23-14と同笵。	溝2092(2)、2区重機掘削中、溝2094(2)、井戸4070、撹乱、溝5115、溝5135護岸補修、溝5140東護岸、計10点。
瓦46	単弁10弁蓮華文。圏線中房、蓮子不明。蓮弁輪郭線あり。間弁は連続。外区珠文は大7・小2。周縁は素文直立縁。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半・裏面下半横ケズリ。丸瓦凸面縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦21、円勝寺(上原1972)ER038型式、栗栖野窯(市埋文1996)122と同笵。	溝2094、柱穴2152、土坑2163、溝5140、計4点。
瓦47	単弁12弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁は連続。外区粗い珠文6。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半・裏面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)60型式、栢杜堂(清野1974)P型式と同文。	溝5028、計1点。
瓦48	単弁10弁蓮華文。凸中房、0＋3。蓮弁は接し、間弁は連続。外区珠文9。周縁は素文直立縁。	裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半・裏面下半ケズリ、裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)61型式と同笵。	土坑2280、溝2092(2)、溝2094、溝5135補修後、計5点。
瓦49	瓦48と同文で、単弁12弁。蓮弁短く、幅狭い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半・裏面下半横ケズリ。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦19と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)61型式。	溝2092(2)、溝2094、土坑2067、計4点。
瓦50	単弁10弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁は接し、間弁は連続。外区珠文8。周縁は素文直立縁。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面下半横ケズリ。裏面オサエ、平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦24と同笵。	溝2094、計1点。
瓦51	単弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁は接し、間弁は連続。周縁なし。	瓦当成形不明。側面下半横ケズリ、裏面オサエ、平坦。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。
瓦52	単弁4弁蓮華文。蓮子は円形1個。弁はアーモンド形で、基部凸線で連結する。間弁は独立。外区は木瓜形の界線・密な珠文23。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。山城産。 法住寺殿(網ほか2011)図55-35と同笵。	溝2094、溝5115、計2点。
瓦53	瓦52と同文で、間弁T字形で、小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。山城産。 平安京右京六条一坊(平尾ほか2002)瓦24と同笵。	土坑2117、計1点。
瓦54	瓦52と同文で、珠文は楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。山城産。	溝2092、計1点。
瓦55	単弁10弁蓮華文。圏線中房、蓮子なし。間弁は連続。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦38、栗栖野窯(北田1986)図版11-6と同笵。	溝2090、計1点。
瓦56	単弁10弁蓮華文。凸中房、1＋5。蓮弁方形で不揃い、輪郭線あり。蓮弁接する。外区に界線2重。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。 白河(市埋文1996)553と同笵。 円勝寺(上原1972)ER036型式。	土坑2157、計1点。
瓦57	単弁8弁蓮華文。平坦中房、1＋5。蓮弁長方形で不揃い、輪郭線あり。間弁独立。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦31と同笵。	溝5135護岸補修、2区あげ土、計2点。
瓦58	単弁12弁蓮華文。凸中房、1＋4。間弁三角形で、独立。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面オサエ、盛り上がる。	12世紀。山城産。 平安京左京二条四坊十五町(柏田ほか2015)瓦2と同笵。円勝寺(上原1972)ER037と同文。	溝2092、溝5140、計2点。
瓦59	単弁16弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁接する、間弁なし。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半横ケズリ、裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。	溝2187、溝5140東護岸、溝5115、溝9006B、計4点。
瓦60	単弁18弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁輪郭線あり。間弁は連続。 外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 白河(市埋文1996)514と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)88型式と同文。	溝2095、計1点。
瓦61	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋0。蓮弁輪郭線あり。間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦32と同笵。 白河南殿(堀内1981)1と同文。	溝2092、計1点。
瓦62	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁は連続。子葉尖る。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦26と同笵。	溝2094、溝5135補修後、計2点。
瓦63	単弁13弁蓮華文。凸中房、蓮子なし。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。側面下半・裏面下半横ケズリ。裏面中央やや凹む。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦41と同笵。	土坑6151、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦64	単弁6弁蓮華文。凹中房、蓮子なし。蓮弁は接し、間弁連続。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)83型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦65	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 円勝寺(上原1972)ER033、最勝寺(内田ほか1995)と同笵。	溝5140、計1点。
瓦66	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は剣頭状で、子葉あり。蓮弁盛り上がる。間弁なし。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦36、尊勝寺(奈文研1961)86型式と同文。	溝2092、溝2090、土坑2086、土坑2324、2区撹乱、溝5135補修後、溝5140、計7点。
瓦67	瓦66と同文で、蓮弁大きく、文様上面平坦。蓮弁と周縁の間の対象位置に線鋸歯文2単位あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦36と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)86型式と同文。	溝2092、土坑2066、溝2093(2)、溝2094(2)、溝5028、溝5140、溝5140東護岸、溝9006B(2)、計11点。
瓦68	瓦67と同文で、蓮弁短い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦35、円勝寺(上原1972)ER044型式、法勝寺(上村ほか1987)図版13-14と同笵。	井戸2025、溝2092(2)、溝5135補修後、溝9006B、溝9006C、計6点。
瓦69	瓦67と同文で、子葉なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。	溝2092(2)、溝9006C、計3点。
瓦70	単弁蓮華文。中房不明。蓮弁は剣頭状で、子葉尖る。間弁周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)87型式と同文。	溝2093、検出中、計2点。
瓦71	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。 瓦当裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦47、尊勝寺(奈文研1961)81型式と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦72	単弁蓮華文。圏線中房、蓮子不明。蓮弁は接し、鎬あり。間弁周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦42と同笵。	2区断割、溝5135補修後埋土、計2点。
瓦73	単弁7弁蓮華文で間弁1箇所なし。圏線中房、1＋4。凸線2・突起2を配す。間弁は独立。蓮弁輪郭周縁に接する。周縁は素文直立縁。	成形不明。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦45、尊勝寺(奈文研1961)82型式と同笵。	溝2090、溝2092、溝2093、計3点。
瓦74	単弁8弁蓮華文。凸中房、連子なし、周囲に蕋あり。間弁なし。外区1段下がり密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。 勧修寺(平方ほか1991)8と同文。	溝2092、計1点。
瓦75	単弁8弁蓮華文。凸中房、連子なし、周囲に蕋あり。間弁なし。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦37と同笵。鳥羽田中殿2次(杉山ほか1975)図6-3と同文。	井戸5032、計1点。
瓦76	単弁9弁蓮華文。凹中房、1＋8か、周囲に蕋あり。蓮弁は接し、間弁なし。周縁との間に輻線あり。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。側面縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)96A型式と同文。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦77	瓦76と同文で、蓮弁と周縁間に輻線なし。	瓦当成形不明。	12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)95型式と同文。	2区検出中、計1点。
瓦78	単弁蓮華文。蓮弁は接し、間弁なし。周縁との間に輻線あり。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。	土坑2030、計1点。
瓦79	単弁5弁・複弁5弁交互蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接する。外区に界線・珠文11・圏線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。瓦当面楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 側面下半横ケズリ、裏面平坦やや盛り上がる。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦46と同笵。	柱穴2294、溝2093、溝2094、溝5140東護岸、計4点。
瓦80	単弁6弁・複弁6弁交互蓮華文。凹中房で4箇所内向き突起あり、1＋4。単複弁共に子葉あり。間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当成形不明。裏面やや盛り上がる。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦44、尊勝寺(奈文研1961)18型式と同笵。	溝5140東護岸、溝5135護岸補修、計2点。
瓦81	複弁7・単弁2混合蓮華文。圏線中房で内向き突起あり、1＋4。蓮弁は独立、弁端盛り上がる。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB3)瓦29、尊勝寺(奈文研1961)41B型式と同笵。	溝2093・2094、2区重機掘削、溝5140東護岸、計3点。
瓦82	形象文。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀。山城産。	溝2093、計1点。
瓦83	鳥文。外区に界線。周縁は素文直立縁。文様は金剛心院出土金銅製金具鴛鴦に類似。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5028、計1点。
瓦84	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。間弁は連続。外区に珠文・2重圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)35型式と同文。久留美窯柳谷2号窯(池田1999)NM1aと同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦85	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。間弁は連続。外区に珠文25・圏線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦49、法勝寺塔(柏田2011)図80-瓦21と同笵。	溝2094、5区整地層掘下げ、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦86	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦50と同笵。久留美柳谷2号窯(池田1999)NM1bと同文。	溝5135、計1点。
瓦87	瓦86と同笵で、笵キズ進行。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦88	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋6。中房周囲に蕋あり。蓮弁に子葉3本あり。外区に界線・楕円形の珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦52と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)93型式、平井E1窯(中村1990)図版22-8と同文。	溝2092、溝2092、計2点。
瓦89	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4、周囲に蕋あり。間弁は連続し先端が水滴形となる。外区に珠文28。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦48と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)024型式、林崎三本松窯(池田2017)NM32と同文。	溝2090、溝5135補修後、溝5115(2)、計4点。
瓦90	複弁8弁蓮華文。凸中房で中央凹む。1＋5。周囲に蕋あり。間弁は連続。外区に界線・密な珠文32。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦47と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)25型式と同文。	落込5126、計1点。
瓦91	瓦90と同文で、周辺蓮子水滴形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)27型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦92	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 側面ハケ痕跡、裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 法勝寺北方(近藤2005)図62-517、円勝寺(上原1972)ER004と同文。	瓦溜2355、溝5135東護岸(2)、溝9006A、計4点。
瓦93	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。中房径(8.4)cm、界線径(13.4)cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)44型式、林崎三本松窯(池田2017)NM10Aと同文。	溝2094、井戸2100、計2点。
瓦94	瓦93と同文で、径小さい。中房径6.8cm、界線径12.5cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦60と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)44型式と同文。	溝5140東護岸+溝5115、溝5135補修後+井戸5090、溝5135補修後埋土、溝5140東護岸、土坑5165、土坑2117、溝9006B、計7点。
瓦95	瓦93と同文で、径さらに小さい。中房径(6.2)cm、界線径(12.0)cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦61、尊勝寺(奈文研1961)44型式、林崎三本松窯(池田2017)NM09Aと同文。	溝5135補修後、溝5135西護岸、溝9006C、計3点。
瓦96	複弁6弁蓮華文。凸中房、1＋6。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。中房径5.7cm、界線径10.0cm。	瓦当成形不明。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦66と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45A型式、林崎三本松窯(池田2017)NM10Cと同文。	溝5135、溝5135西護岸、溝5135東護岸、溝5140東護岸(3)、計6点。
瓦97	複弁6弁蓮華文。凸中房で縁部に圏線あり、1＋6。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。中房径6.1cm、界線径10.7cm。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦65と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45B型式と同文。	溝2092(2)、溝2090、溝2094、溝5135補修後、溝5135護岸補修、溝5140(3)、溝5140東護岸、溝5028、溝5129、溝6156、計13点。
瓦98	瓦97と同文で、径小さい。中房径5.2cm、界線径10.0cm。	瓦当裏面平坦溝付丸瓦挿入成形。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦67と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45B型式、林崎三本松窯(池田2017)NM10Cと同文。	溝2092、溝2093、溝5140東護岸、溝9006C(2)、計5点。
瓦99	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。外区に界線。中房径(7.6)cm、界線径(14.2)cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦54と同文。	溝5140東護岸、溝5135東護岸+溝5140東護岸、15c整地、計3点。
瓦100	瓦99と同文で、径小さい。中房径(6.8)cm、界線径(13.3)cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。	溝5140東護岸(2)、2区重機掘削、計3点。
瓦101	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋5。蓮弁は接し、間弁は連続。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦62と同文。	溝5028、溝5140、溝5135補修後埋土、計3点。
瓦102	複弁8弁蓮華文。凹中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦69と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)46型式と同文。	土坑1003、溝2094、落込5126、計3点。
瓦103	瓦102と同文で、径小さい。	同上	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦68と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)46型式、林崎三本松窯(池田2017)NM7Aaと同文。	溝5135補修後埋土、溝9006B、計2点。
瓦104	複弁8弁蓮華文。凹中房、1＋7。周囲に密な蕋あり。間弁は連続し先端が水滴形となる。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦50と同笵。尊勝寺(奈文研1961)052A型式と同文。	溝9006B、計1点。
瓦105	瓦104と同文で、径大きい。	瓦当成形不明。 裏面中央凹む。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)52B型式、神出窯(纐纈2018)丸1502型式と同文。	重機掘削中、計1点。
瓦106	瓦104と同文で、三角形の間弁・鎬あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。	溝2093、溝2094、井戸2025、計3点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦107	瓦104と同文で、径大きい。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦49と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)053型式、跡部窯(池田1999)NM6と同文。	2区重機掘削中、計1点。
瓦108	複弁8弁蓮華文。凹中房で中央盛り上がる。1＋6。蓮弁子葉部凹む。間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦で、中央リング状に凹むものあり。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦54、法金剛院(小松ほか1998)図54-4と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)9型式、林崎三本松窯(池田2017)NM01、久留美大池窯(池田1999)NM4と同文。	溝2092、溝2094、井戸4070、溝5135補修後(2)、溝5140、溝5140東護岸(4)、 5区整地層掘下げ、計11点。
瓦109	複弁13弁蓮華文。圏線中房で内向突起5箇所突起あり、周囲に圏線。蓮子1＋5。間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦72と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)22型式、林崎三本松窯(池田2017)NM34と同文。	溝2092、溝2094、2区重機掘削中(2)、溝9006C、 計5点。
瓦110	複弁8弁蓮華文。凸中房で中央凹む、1＋7。周囲に密な蕋あり。蓮弁は接し、間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面中央部盛り上がる。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)28型式、久留美柳谷窯(池田1999)NM9、与呂木窯と同文。	溝5115、4区撹乱、計2点。
瓦111	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋6。周囲に蕋あり。蓮弁は接し、間弁は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面平坦溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。播磨産。 法住寺殿(青山1984)NM29類、林崎三本松窯(池田2017)NM24Db、神出窯(纐纈2018)丸2201型式と同文。	溝2092、計1点。
瓦112	複弁8弁蓮華文。凹中房、1＋6。蓮弁子葉部凹む。間弁は独立。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。	溝2092、計1点。
瓦113	複弁6弁蓮華文。凸中房、1＋5。周囲に蕋あり。蓮弁は接し、弁端周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(上村1981)図版4-1と同笵。	2区あげ土、計1点。
瓦114	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋6。蓮弁は接する。外区は界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER034A、神出窯(纐纈2018)丸0305型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦115	単弁24弁蓮華文。凸中房、1＋4。周囲凹み、蕋あり。蓮弁は線状で界線に接する。外区に珠文・圏線。珠文は楕円形。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦79と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)92型式、法金剛院(中谷1970)図53-6と同文。	溝2093、計1点。
瓦116	瓦114と同文で、外区圏線なし。	瓦当成形不明。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)69型式、円勝寺(上原1972)9ER034B、神出窯(纐纈2018)丸0303型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦117	単弁4弁蓮華文。半球状珠文1。蓮弁は柳葉状、弁端界線に接する。間弁は独立。外区に界線・珠文。界線は木瓜形で4箇所切れる。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。播磨産。 最勝光院(上村2013)瓦79と同笵。	溝2090、計1点。
瓦118	単弁8蓮弁蓮華文。圏線中房、1＋4。間弁は連続。蓮弁端に鎬あり。外区に珠文。珠文は3個1単位で4単位。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 最勝寺(内田ほか1995)と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NM03Aと同文。	溝5135補修後、溝9006B、 計2点。
瓦119	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋5。弁端切り込む。間弁なし。外区は界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦80と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NM12Aと同文。	溝2093、溝5140、 溝5140東護岸(3)、計5点。
瓦120	瓦119と同文で、外区界線なし。	瓦当裏面平坦溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦81と同笵。 鳥羽金剛心院(前田2002)HM3A、林崎三本松窯(池田2017)NM13、神出窯(池田1998)NM5と同文。	溝5135東護岸、5区重機掘削、溝5135西護岸(2)、 溝5135補修後、溝5140東護岸(3)、溝5140、溝9006B(2)、溝9006C、計12点。
瓦121	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8、周囲に蕋あり。間弁基部が水滴状になる。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦84と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)55型式、林崎三本松窯(池田2017)NM35Aと同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦122	瓦121と同文で、径小さい。	瓦当成形不明。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦77と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)54型式、法金剛院(小松ほか1998)図52-10、林崎三本松窯(池田2017)NM35Bと同文。	2区重機掘削、溝5135補修後、溝5140東護岸、計3点。
瓦123	単弁8弁蓮華文。圏線中房で中央盛り上がる。1＋5。蓮弁は接し、間弁は連続。蓮弁基部に半円形凹みあり。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。貼付前に溝あり。裏面やや盛り上がる、接合位置低い。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)73A型式、法勝寺(市埋文1996)398と同文。	溝5115、溝2093、計2点。
瓦124	単弁8弁蓮華文。凸中房で中央やや盛り上がる、周囲溝あり、1＋6＋8。弁端切り込む。外区なし。周縁は内斜し、素文。	瓦当成形不明。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦73と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)47型式、林崎三本松窯(池田2017)NM08と同文。	溝5135東護岸、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦125	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は接し、間弁は連続。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。播磨産。	土坑2487、計1点。
瓦126	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は接し、間弁は連続。弁端に鎬あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦127	単弁蓮華文。凸中房で周囲に溝あり。蓮弁は単独で、間弁は連続。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦55と同文。尊勝寺(奈文研1961)11型式と同文。	5区重機掘削中、計1点。
瓦128	単弁蓮華文。凸中房で周囲に溝あり。蓮弁は単独で、間弁連続。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。播磨産。円勝寺(CB1)瓦56と同文。	土坑2389、計1点。
瓦129	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は接し、間弁は連続。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。播磨産。法勝寺(市埋文1996)397と同文。	溝5140、計1点。
瓦130	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は接し、間弁は連続。蓮弁は二つに分かれる。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、計1点
瓦131	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は楕円形。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。	溝5115、計1点。
瓦132	単弁蓮華文。圏線中房。蓮弁は接し、間弁は連続。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。播磨産。	溝9006、計1点。
瓦133	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4で凸線を配す。蓮弁は菱形で、間弁はY形。蓮弁・間弁周囲に輻線配す。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。円勝寺(CB1)瓦37と同笵。	溝5140、計1点。
瓦134	重圏文。圏線中房、1＋8。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀。播磨産。尊勝寺(奈文研1961)98型式、神出遺跡(春成2014)403と同文。	13c整地、計1点。
瓦135	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は接する。外区に界線・珠文・圏線。周縁なし。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB2)瓦81と同笵。尊勝寺(奈文研1961)1型式と同文。	土坑2404、計1点。
瓦136	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋5。蓮弁は上下2重で交互に配置。間弁は連続。外区に珠文22。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB2)瓦82と同笵。尊勝寺(奈文研1961)40型式と同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦137	単弁16弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は独立。間弁は三角形で独立。外区に界線・密な珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB3)瓦84と同文。円勝寺(上原1972)ER029A型式、丹波出雲神社(梅原1925)図版第33-5と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦138	単弁蓮華文。凸中房。蓮弁は独立、間弁は連続。外区に界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。丹波産。	溝2092、計2点。
瓦139	単弁16弁蓮華文。凸中房1＋4で、周囲に溝あり。上面に十字複線配す。蓮弁は独立。間弁は連続。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(上原1972)ER029C型式、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。	溝5135補修後、計1点。
瓦140	単弁16弁蓮華文。圏線中房、内部に＋と内向き突起4。蓮弁は独立。間弁は三角形で連続。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。平安宮真言院(梶川ほか1976)8と同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦141	単弁16弁蓮華文。平坦中房、十字複線・三角形4配す。蓮弁は独立。間弁も独立。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。白河(市埋文1996)565と同文。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦142	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。間弁は独立。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB1)瓦85、丹波出雲神社(梅原1925)図版第33-6と同笵。円勝寺(上原1972)ER030と同文。	溝2093、溝5140東護岸、溝5135補修後、溝5028、計4点。
瓦143	単弁6蓮弁蓮華文。凸中房、1＋6。蓮弁は三角形、弁端が界線に接する。外区界線。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。白河(市埋文1996)515、丹波出雲神社(梅原1925)図版第33-7と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦144	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋8、周囲に蕋あり。蓮弁は単独、間弁なし。外区界線あり。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。和泉産。円勝寺(CB1)瓦92と同笵。堺市法道寺(市本2001)と同文。	土坑4067、井戸5090、溝5140東護岸、溝5115、13c整地、溝9006B、計6点。
瓦145	宝塔文。塔頂は請花と宝珠。屋根は反りが大きく、上部に宝鎖あり。塔心は下膨れで、上方に斗拱あり。基部は蓮華座。外区は界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。和泉産。東大阪豊中遺跡(市本2001)と類似。	溝2246、計1点。
瓦146	宝塔文。塔頂は請花と宝珠。屋根は反りが大きく、輪郭線あり。塔心は楕円形。外区は界線。	瓦当成形不明。裏面平坦	12世紀。和泉産。	2区遺構検出中、計1点。
瓦147	五輪塔文。空輪は宝珠形。風輪は半円形。火輪は三角形。水輪は下膨れで、梵字「ア」を配す。地輪は長方形。外区は界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。和泉産。左京二条二坊三町(平田2003)図40-210、日置荘遺跡など(市本2001)と同文。	溝2092、溝2093、溝5135補修後、計3点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦148	複弁蓮華文。凸中房。蓮弁は接し、弁端が界線に接する。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。産地不明。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦149	複弁8弁蓮華文。半球状中房、蓮子不明。周囲に蕋。蓮弁は接し、間弁は水滴形・三角形。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面付丸瓦挿入成形。	12世紀。産地不明。 白河(持田ほか2013)K31と同文。	13c整地、計1点。
瓦150	複弁蓮華文。中房不明。周囲に圏線。蓮弁は接し、間弁は連続。外区に界線。周縁なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。接合位置低い。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5115、計1点。
瓦151	複弁蓮華文。中房不明。蓮弁は接する。外区なし。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。産地不明。	溝5140東護岸、計1点。
瓦152	複弁蓮華文。中房不明。蓮弁は上下2重で交互に配置。間弁は三角形で、周縁と接する。	成形不明。裏面平坦。	12世紀。産地不明。 円勝寺(CB3)瓦90と同文。	溝2092、計1点。
瓦153	単弁11弁蓮華文。凸中房、蓮子なし。蓮弁は単独。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦86と同笵。 最勝寺(梶川1997)図23-3と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦154	単弁11弁蓮華文。凸中房、1＋4＋8。周囲に溝あり。蓮弁は単独。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。丸瓦凸面接合面にヘラで格子施す。側面下半横ケズリ、裏面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。産地不明。 最勝寺(内田ほか1995)と同笵。	土抗2363、溝5140、計2点。
瓦155	単弁蓮華文。平坦中房。蓮弁は単独。外区に界線・粗い珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目。	12世紀代。産地不明。 平安宮西院(上村2003)図40-5、寺町旧域(上村2018)瓦8と同文。	溝9006B、計1点。
瓦156	蓮華文。圏線中房で内向突起あり。周囲に圏線あり。蓮弁は接する。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。産地不明。	溝2092、計1点。
瓦157	唐草文。圏線中房、1＋6。内区は周縁から内向きに唐草文が3箇所展開する。唐草は周縁内側に界線を加える。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。接合位置低い。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ナデ、裏面平坦。	12世紀。産地不明。 最勝寺(内田ほか1995)と同笵。 法勝寺(石田1947)10と同笵。	溝2092、計1点。
瓦158	蓮華巴文。内区は右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に単弁8弁蓮華文。蓮弁と周縁の間に輻線を配す。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦116、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)101型式と同文。	土坑2487、溝2092、溝2093、計3点。
瓦159	蓮華巴文。内区は右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に単弁8弁蓮華文。蓮弁と周縁の間に輻線を配す。輻線は瓦158より粗い。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)図41-1と同笵。尊勝寺(奈文研1961)101型式。	土坑2067、溝2093、溝2094(2)、溝5140東護岸、計5点。
瓦160	蓮華巴文。内区は右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は単弁18弁蓮華文、2重界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦88と同笵。	溝2094、溝9006B、計2点。
瓦161	蓮華巴文。圏線中房、左二巴文。巴頭部は離れ、尾部圏線に接する。蓮弁は接する。周縁は素文直立縁。中房径5.7㎝。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。河内産。 法勝寺金堂(京都市1976)図7-1、平等院(浜中ほか2003)NM033A、河内向山窯(江谷1985)と同文。	溝2092、計1点。
瓦162	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文14・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀中葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦93と同笵。 円宗寺(市埋文1997)図62-54と同文。	溝9006B、計1点。
瓦163	右巻三巴文。頭部は接し、尾部も互いに接する。外区に太い界線・珠文。珠文は楕円形。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、溝9006C、計2点。
瓦164	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦165	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。	溝2094、計1点。
瓦166	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接する。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135補修後、計1点。
瓦167	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。	溝2094、計1点。
瓦168	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、重機掘削中、計2点。
瓦169	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。巴文盛り上がり、上面平坦。外区に珠文22。周縁は素文直立縁。笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半・裏面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀中葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦95、栢杜遺跡(清野1974)h類と同笵。	溝2090、溝9006B、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦170	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区に珠文21。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135補修後(2)、5区重機掘削中、計3点。
瓦171	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区に珠文21。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦96と同笵。常盤仲ノ町遺跡(鈴木ほか1978)10と同文。	溝2092、溝5140東護岸、計2点。
瓦172	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区に珠文21。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計2点。
瓦173	右巻二巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当成形不明。側面上半から丸瓦凸面にかけて斜方向縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝9006B、計1点。
瓦174	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部も離れ段となる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦175	右巻三巴文。頭部は接し、尾部も接して界線となる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面縄タタキ、裏面平坦。丸瓦凸面縄タタキ、凹面布目、側面ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦97と同笵。	溝5140東護岸、計2点。
瓦176	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。外区に珠文21。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦94と同笵。尊勝寺(奈文研1961)119型式と同文。	溝2093、溝5140、計2点。
瓦177	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2240、計1点。
瓦178	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092+溝5140、計1点。
瓦179	右巻三巴文。頭部は接し、尾部は離れる。外区に珠文21。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面上半横縄タタキ、下半縦縄タタキ、裏面平坦。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縄タタキ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦98と同笵。	溝2091、計1点。
瓦180	瓦179と同文で、珠文小さい。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦181	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140、溝5135補修後、計2点。
瓦182	右巻三巴文。頭部は接し、尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀。山城産。	溝2094、5区遺構検出中、計2点。
瓦183	右巻二巴文。頭部は連結し、尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。巴文上面平坦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。平安京右京六条一坊五町(梅川1992)、尊勝寺(奈文研1961)111型式と同文。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦184	右巻二巴文。頭部は接し、尾部は離れる。外区に密な珠文。周縁は素文直立縁。巴文上面平坦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2094、計1点。
瓦185	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に2重界線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。平安京左京一条三坊九町(前田ほか1996)と同笵。鳥羽東殿(前田ほか1986)3と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦186	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。界線太い。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦118と同笵。栢杜円堂(清野1974)f類と同文。	溝5135東護岸、溝5140、溝5140東護岸、計3点。
瓦187	瓦186と同文で、径小さい。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦117と同笵。栢杜円堂(清野1974)c類と同文。	溝5140、溝5140東護岸、計2点。
瓦188	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140、計1点。
瓦189	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。周縁は素文直立縁。瓦当面楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。山城産。下鴨神社(近藤2016)図31-32と同文。	溝5140、溝5140東護岸、計2点。
瓦190	瓦189と同文で、巴の幅が広い。瓦当面楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。側面下半横ケズリ、裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2070、15c整地、計2点。
瓦191	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。瓦当面楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面やや盛り上がる。	12世紀。山城産。	溝2092、計2点。
瓦192	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。接合位置低い。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦93と同文。	土坑2067、溝2093、溝5140、溝9006B、計4点。
瓦193	瓦192と同文で、径やや大きい。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦92と同笵。	溝2093、瓦溜2355、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦194	瓦192と同文で、文様平坦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、溝2090、計2点。
瓦195	瓦192と同文で、径小さい。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦122と同笵。	溝2093、溝5135東護岸、溝9006B、計3点。
瓦196	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2091、計1点。
瓦197	瓦196と同文で、径小さい。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦198	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	2区西壁断割、溝2092、計2点。
瓦199	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦126と同笵。	溝2092、溝5140東護岸、溝5140、溝9006B、計4点。
瓦200	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135東護岸、計1点。
瓦201	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部も離れ周縁に接しない。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	2区あげ土、計1点。
瓦202	右巻三巴文。頭部は結合し、尾部は離れ周縁に接しない。周縁は素文直立縁。文様平坦。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面やや盛り上がる。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦132と同笵。鳥羽金剛心院(前田2002)KM12Aと同文。	2区重機掘削、溝5135補修後、溝5140(2)、溝5140東護岸、計5点。
瓦203	右巻三巴文。頭部は円形珠文で結合し、尾部は周縁に接する。周縁は素文直立縁。文様平坦。小型瓦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦204	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2093、溝2092、計2点。
瓦205	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦131と同笵。	溝2090、溝5140、溝5140東護岸、計3点。
瓦206	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。文様平坦。瓦当面笵キズ多い。瓦当面楕円形。小型瓦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135東護岸、計1点。
瓦207	瓦205と同文で、径小さい。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面上半横縄タタキ、下半縦縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦130と同笵。	井戸2025、溝2090、計2点。
瓦208	巴文。頭部・は尾部は離れる。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦209	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は界線に接する。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦210	左巻三巴文。頭部は接し、尾部は互いに接する。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	2区遺構検出中、計1点。
瓦211	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝2092、計2点。
瓦212	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦213	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。内区が1段下がる。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦214	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に珠文25。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。丸瓦凸面縦タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。	溝2092(5)、溝2093、溝2094(3)、土坑2380、重機掘削、溝5140東護岸、5区撹乱、計13点。
瓦215	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140、計2点。
瓦216	左巻三巴文。頭部は離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦217	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は界線に接する。外区に界線・珠文。界線と珠文は接する。	瓦当成形不明。裏面平坦。	12世紀。山城産。	5区重機掘削中、計1点。
瓦218	左巻二巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。側面下半縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦103と同笵。	溝5140東護岸、計1点。
瓦219	左巻二巴文。頭部は連結、尾部は離れる。外区に珠文20。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。6点中1点は瓦当側面縄タタキ、裏面平坦。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦105と同笵。	溝2092、溝5140東護岸、5区重機掘削中、溝5140(2)、15c整地、計6点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦220	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接する。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	溝5140、溝5140東護岸、計2点。
瓦221	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。山城産。	井戸5032、溝9006B、計2点。
瓦222	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀。山城産。	溝5135補修後(2)、溝5140、計3点。
瓦223	右巻三巴文。頭部は連結し、尾部は界線に接する。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。	裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。播磨産。法金剛院(小松ほか1998)5と同笵。尊勝寺(奈文研1961)147型式、金剛心院(前田2002)HM4A、林崎三本松窯(池田2017)、久留美窯(池田1999)NM12と同文。	溝2095、溝8002、溝9006B、計3点。
瓦224	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接して、界線となる。外区に界線・珠文30。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。尊勝寺(梶川ほか1977)SWA19と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦225	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。周縁は素文直立縁。	裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。法金剛院(小松ほか1998)52-9、林崎三本松窯(池田2017)NM46と同文。	土坑4066、計1点。
瓦226	左巻三巴文。頭部は連結し、尾部は界線に接する。外区に太い界線・珠文。周縁は素文直立縁。	裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀。播磨産。円勝寺(CB1)瓦144と同笵。尊勝寺(奈文研1961)146型式と同文。	溝2092、計1点。
瓦227	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接しない。外区に界線。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面盛り上がる。	12世紀。播磨産。林崎三本松窯(池田2017)NM43と同文。	溝2093、溝5135護岸補修、計2点。
瓦228	複弁4弁蓮華文。凸中房、「卍」字を配す。蓮弁は接する。間弁は連続。外区に界線・珠文8・圏線。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	13世紀。山城産。亀山殿(布川2005)99と同文。	溝9006B、計1点。
瓦229	複弁蓮華文。中房部分を押さえる。蓮弁は接する。間弁は連続。外区に珠文・太い圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀。産地不明。	瓦溜2355、計2点。
瓦230	複弁4弁蓮華文。凸中房、「九」字を配す。蓮弁は接する。間弁は連続。外区に珠文12・太い圏線。周縁は素文直立縁。「九」字3画目のハネが強い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀。産地不明。法勝寺(柏田2011)瓦38と同笵。	瓦溜2355、計3点。
瓦231	瓦230と同文で、中房の「九」字が異なる。3画目のハネが水平。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀。産地不明。円勝寺(CB3)瓦119と同笵。	瓦溜2355(3)、井戸4070、計4点。
瓦232	複弁8弁蓮華文。凹中房、「七」字を配す。周囲に蕋あり。蓮弁は独立。間弁なし。外区に界線・珠文・太い圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀。産地不明。法勝寺(高橋2012)図27-5と同笵。東大寺(平松2000)fig.117-408Cと同文。	溝2090、瓦溜2355、計2点。
瓦233	単弁8弁蓮華文。圏線中房、梵字「カーン」を配す。蓮弁は円形浮文で独立。外区に界線・珠文・圏線。珠文は2・3個1単位。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀。産地不明。円勝寺(CB1)瓦146と同笵。醍醐大智院(杉山ほか1976)第15図-21と同文。四天王寺(市本2001)図9と類似。	溝5135護岸補修、溝8006、計2点。
瓦234	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀以降。産地不明。尊勝寺(奈文研1961)149型式と同文。	溝9006B、計1点。
瓦235	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部も離れる。外区に珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平滑。	13世紀以降。産地不明。	2区重機掘削、計1点。
瓦236	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。丸瓦接合低い。	13世紀以降。産地不明。	溝2070、計1点。
瓦237	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。瓦当面に笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平滑。	13世紀以降。産地不明。	溝5135護岸補修、計2点。
瓦238	右巻三巴文。尾部は離れる。外区なし。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	13世紀。山城産。円勝寺(CB3)瓦125、亀山殿(近藤2015)75と同文。	井戸4070掘形、溝5028、計2点。
瓦239	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当成形不明。裏面平滑。	13世紀以降。産地不明。	溝5115、計1点。
瓦240	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	13世紀。山城産。大覚寺(上原1997)DKM14と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦241	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。小型瓦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	13世紀。山城産。	溝2093、計1点。
瓦242	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線。小型瓦。	瓦当成形不明。裏面平坦。	13世紀。山城産。	溝5115、計1点。
瓦243	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に界線。周縁は幅広く、素文直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	13世紀以降。産地不明。	溝2090、計1点。

付表３　軒平瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦244	外行3転唐草文。中心文は対向C字。唐草は複線で連続。外区界線・珠文。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。瓦当凹面横ケズリ、顎裏面ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	10世紀。山城産。 小野窯(吉崎2005)8類と同笵。 平安宮内裏(平博1977)388と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦245	宝相華文。中心文は下向き花文で、両側に花弁3単位配する。上側のみ太い界線あり。周縁なし。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。顎凸面横ナデ・裏面ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ケズリ、側面縦ケズリ。	11世紀中葉。山城産。 円勝寺(CB3)瓦131と同笵。 平安宮民部省(平博1977)33、小野窯(吉崎2005)13類と同文。	6・7区溝6156、計1点。
瓦246	内行4転唐草文。唐草は複線で連続。外区は界線・珠文。周縁は素文直立縁で、両端広い。瓦当面に笵キズあり。	曲線顎Ⅱ。成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面押さえ。平瓦凹面布目、凸面オサエ、側面縦ケズリ。	11～12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦133と同笵。法勝寺(市埋文1996)419、平安京左京三条三坊十二町(植山ほか1983)34図1と同文。	2区西壁断割、溝5135護岸補修、計2点。
瓦247	外行3転唐草文。中心文は背向C字で、「∧」で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に房あり。外区界線。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。瓦当上縁横ケズリ、顎凸面ナデ、裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦155と同笵。 法勝寺(市埋文1996)427と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦248	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に房あり。外区界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ナデ、裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦116と同笵。 法勝寺金堂(京都市1975)図14-5と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦249	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に蕾あり、外区の界線に接する。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当凹面布目、顎凸面横ナデ・裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦154と同笵。	溝2090、計1点。
瓦250	外行唐草文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ナデ、裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。	溝5135東護岸、計1点。
瓦251	外行唐草文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。瓦当凹面横ナデ、顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦188と同文。	溝2092、計1点。
瓦252	外行2転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ、顎凸面横ナデ、裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面平行叩き後横ナデ、側面縦ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 法勝寺北方(近藤2005)595と同笵。 円勝寺(上原1972)ER136と同文。	溝2090、溝5135補修後、溝5135西護岸、計3点。
瓦253	外行2転唐草文。中心文は背向C字で、上下∧で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に房あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅰ。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ、顎凸面から平瓦凸面縦ナデ。平瓦凹面布目、側面縦ケズリ。	11世紀後葉。播磨産。	溝4010、溝5135補修後、溝5140東護岸、溝9006A、計4点。
瓦254	外行3転唐草文。中心文は背向C字、下を「∪」で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に房あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	蹄顎。成形不明。瓦当上縁横ケズリ、顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	11世紀後葉。播磨産。	溝2197、溝5140東護岸、溝9006B(2)、計4点。
瓦255	外行3転唐草文。唐草は連続、分岐点に房あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面から平瓦凸面縦ケズリ。平瓦凹面布目、凸面縦ケズリ、側面縦ケズリ。	11世紀後葉。播磨産。	溝2094、溝2092、計2点。
瓦256	外行右3転・左2転唐草文。唐草は陰刻。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面に離れ砂大量付着。平瓦凹面にヘラ記号あり。	段顎。顎貼付成形。瓦当面凹面横ケズリ。顎凸面・裏面横ケズリ、平瓦凸面縦縄叩き。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦137、円勝寺(上原1972)ER147型式と同笵。	溝5135補修後埋土(3)、溝5140東護岸(3)、計6点。
瓦257	外行右2転・左3転唐草文。唐草は陰刻、連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ裏面縦ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦縄叩き。	11～12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦119、尊勝寺(奈文研1961)151D型式と同文。	溝2093+溝5140、溝5140東護岸、計2点。
瓦258	外行唐草文。唐草は陰刻、連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11～12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)151型式と同文。	溝9006B、計1点。
瓦259	外行唐草文。唐草は陰刻、連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面から裏面縦縄叩き、後縦ナデ。	11～12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)151型式と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦260	左偏行唐草文。唐草は陰刻、連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦縄叩き又は縦ナデ、側面縦ナデ。	11～12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)151A型式と同文。	溝5135・溝5140セクション③、計1点。
瓦261	瓦260と同笵で瓦当面ヘラ記号あり。	同上。	11～12世紀。播磨産。	5区重機掘削中、計1点。
瓦262	外行4転唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。	蹄顎。顎貼付成形。顎裏面横縄タタキ。	11～12世紀。丹波産。 出土地不詳(上原2010)図4-8と同文。	6・7区重機掘削中、計1点。
瓦263	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。上・下外区に界線・密な珠文・圏線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面斜縄タタキ。	11世紀後葉。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦152、最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-13と同笵。	瓦溜2355、溝2090、5区重機掘削中、計3点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦264	外行3転唐草文。中心文は背向C字、上下に水滴形配す。唐草文は分離。外区は界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	蹄顎。顎貼付成形。顎凸面から裏面横縄タタキ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ。	11世紀後葉。丹波産。 平安宮(市埋文1996)300と類似。	溝5135西護岸、溝2093、計2点。
瓦265	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草文は分離。外区は界線・密な珠文。界線両端は三角形。周縁は素文直立縁。	蹄顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面から平瓦凹面縦縄タタキ。	11世紀後葉。丹波産。	溝5135護岸補修、計1点。
瓦266	外行唐草文。唐草は分離。外区界線・珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当凹面横ケズリ、顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	11世紀中葉。大和産。 円勝寺(上原1972)ER109型式、興福寺(藪中1991)Ⅴ平C1型式と同文。	溝2093、計1点。
瓦267	外行2転唐草文。中心文はダルマ形・上向C字。唐草は連続、先端丸くなる。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(CB1)瓦157と同笵。 円勝寺(上原1972)ER135型式と同文。	溝5140、計1点。
瓦268	右6転偏行唐草文。唐草は連続。外区は界線・竹管押による連続する珠文。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。平瓦狭端面にヘラ描き2本線あり。	11世紀中葉。大和産。 所在地不明(市埋文1996)1385、興福寺南大門(森2010)29、興福寺(藪中1991)Ⅴ平A1型式と同文。	溝2197、溝2090、計2点。
瓦269	右6転偏行唐草文。唐草は連続、支葉分岐点に房あり。外区なし。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縦ナデ。	11～12世紀。大和産。 円勝寺(CB3)瓦144と同笵。 平安京左京二条二坊十町(網1990)22、興福寺(藪中1991)Ⅵ 平A1と同文。	2区掘下げ、溝4010、計2点。
瓦270	内区に梵字「キャ・カ・ラ・バ・ア」を配す。外区なし。周縁は素文直立縁。平瓦右側部に釘穴あり。円勝寺(CB2)瓦123、円勝寺(市埋文96)509、法勝寺塔瓦51などと同様。	曲線顎B。顎貼付成形。額凸面横ナデ、裏面・平瓦縦ナデ。	11～12世紀。大和産。 円勝寺(CB3)瓦147、法勝寺塔(柏田2011)瓦56(B類)、興福寺(藪中1991)Ⅵ平K1と同文。	溝2092、計1点。
瓦271	瓦270と同文で、文字が横長で太い。平瓦両側部に釘穴あり。	曲線顎Ⅰ。成形不明。額凸面から平瓦凸面縦ナデ。平瓦凹面布目、側面縦ナデ。	11～12世紀。大和産。 同上。	土坑9008、計1点。
瓦272	瓦270と同文で、文字が大きい。内区右端に三巴文の笵を押圧。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。額凸面横ナデ、裏面・平瓦縦ナデ。	11世紀後葉。大和産。	溝5140、計1点。
瓦273	内行3転唐草文。唐草は連続。外区は界線・密な珠文・圏線。上側のみ素文周縁あり。	曲線顎Ⅱ。成形不明。顎凹面布目、凸面横ケズリ、裏面ヨコナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	11～12世紀。産地不明。 円勝寺(CB3)瓦146と同笵。 円勝寺(上原1972)ER119型式、円勝寺(市埋文1996)502と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦274	外行唐草文。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。成形不明。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ	11～12世紀。産地不明。	溝2094、計1点。
瓦275	外行唐草文。左2転+右2転+左2転。中心文なし。唐草は連続。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。 瓦当上端横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦161、栗栖野窯(市埋文1996)82と同笵。尊勝寺(奈文研1961)147型式。	溝2094、溝2093(2)、井戸5090、溝5028(2)、溝5115、溝5135西護岸、溝5135東護岸、溝5140(2)、溝5140東護岸、計12点。
瓦276	外行2転唐草文。中心文は上向きC字並列。唐草は連続。外区界線。外区・周縁上側なし。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。 瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 尊勝寺(森下1987)第31図1と同文。	溝5140、計1点。
瓦277	外行3転唐草文。中心文は楕円形。唐草は連続。外区に太い界線。下側のみ周縁あり。	曲線顎。半折曲成形。 瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面横ケズリ・横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦127と同笵。尊勝寺(奈文研1961)161型式、栗栖野窯(吉村1993)図26-96と同文。	溝5140東護岸、溝5115、計2点。
瓦278	外行唐草文。唐草は連続。下側に外区界線・周縁あり。	曲線顎。半折曲成形。 瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2094、計1点。
瓦279	外行3転唐草文。中心文は3重半裁花文。唐草1転目が中心文と接し、他は分離。外区なし。下側に周縁あり。瓦当面に布目残存。	段顎。折曲成形。 顎凸面裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦154と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)272型式と同文。	溝2092(4)、溝2093(2)、土坑2089、柱穴2395、溝5135東護岸、溝5135補修後、溝5140東護岸(2)、計12点。
瓦280	瓦279と同文で、唐草は連続。瓦当面に布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦174と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)272型式と同文。	溝2093、溝2092、計2点。
瓦281	外行3転唐草文。中心文は縦線。唐草は連続。外区・周縁なし。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝5135補修後(2)、溝5135護岸補修、計3点。
瓦282	外行3転唐草文。中心文は4弁花文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦130と同文。	溝5135補修後埋土、柱穴2040、計2点。
瓦283	外行3転唐草文。中心文は外回転唐草。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦158と同文。 鳥羽田中殿(堀内ほか1986)8と同文。	15c整地、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦284	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦128、栗栖野窯(北田1986)図版13-8と同笵。尊勝寺(奈文研1961)171A型式と同文。	土坑2030、土坑2086、溝2092(2)、溝2093、溝2094、柱穴2494、落込5126、溝5140東護岸、溝5135補修後埋土(3)、溝5135西護岸、溝5135護岸補修、溝5135東護岸、土坑5157、溝8005、溝8006、溝9006B、溝9006B(2)、計20点。
瓦285	外行2転唐草文。中心文なし。唐草主茎は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縄タタキ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦134と同笵。	溝5140(4)、溝5140東護岸、溝5135補修後埋土、計6点。
瓦286	瓦285と同文で、支茎先端が曲がる。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縄タタキ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦132と同笵。尊勝寺(奈文研1961)181型式と同文。	溝9006B、計1点。
瓦287	瓦285と同文で、支茎形が異なる。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縄タタキ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦133と同笵。尊勝寺(上村ほか1994)図63-24と同文。	溝5140東護岸、計2点。
瓦288	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦289	外行3転唐草文。中心文は左巻き唐草。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面に布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦136と同笵。尊勝寺(奈文研1961)185型式と同文。	溝5140、計1点。
瓦290	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝5115、計1点。
瓦291	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135西護岸、計1点。
瓦292	外行3転唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面に布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。尊勝寺(奈文研1961)186型式と同文。	溝2092、溝2093、計2点。
瓦293	外行唐草文。唐草は連続。下・両脇周縁あり。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。	溝9006B、計1点。
瓦294	内行3転唐草文。唐草は分離。外区は界線・密な珠文・圏線。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。顎凸面・裏面横ケズリ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB3)瓦165と同笵。尊勝寺(奈文研1961)175型式と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦295	内行2転唐草文。中心上下に紡錘形配す。唐草は連続。外区は界線。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。平安京左京北辺四坊(加納2004)図96-15と同笵。円勝寺(上原1972)ER-133型式と同文。	溝2093、溝5135補修後、土坑5165、計3点。
瓦296	内行2転唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦140と同笵。法勝寺金堂(京都市1975)図13-2、塔(柏田2011)瓦65と同文。	溝2093、溝2094、溝5115、溝5135補修後、溝5140、溝5140東護岸、溝9006C、計7点。
瓦297	内行6転唐草文。唐草は連続。外区なし、周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズあり。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB3)瓦168と同笵。南ノ庄田窯(高1998)140と同文。	溝5140、計1点。
瓦298	右8転偏行唐草文。唐草は連続。周縁は直立縁で、上面に密な珠文を配す。	段顎。裏面平瓦貼付成形。瓦当上面横ナデ。顎凸面、裏面、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。鳥羽東殿(前田ほか1987)14と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦299	右偏行4転唐草文。唐草は連続。外区・周縁なし。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦142と同笵。尊勝寺(奈文研1961)195型式、栗栖野窯(吉村1993)87と同文。	溝2092(3)、溝2219、計4点。
瓦300	右4転偏行唐草文。唐草は連続。外区・周縁なし。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦146と同笵。尊勝寺(奈文研1961)196B型式、栗栖野窯(市埋文1996)87と同文。	土坑2089、溝5140東護岸、溝5135護岸補修、土坑6151、計4点。
瓦301	右辺行唐草文。。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦302	右3転偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦180と同笵。	溝2092(2)、溝2093、溝2094(3)、計6点。
瓦303	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2090、2区写真清掃中、計2点。
瓦304	右偏行3転唐草文。唐草は連続。外区・周縁なし。瓦当面布目残存。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦145と同笵。平安宮左京一条三坊九町(前田ほか1996)13と同文。	溝5140、計1点。
瓦305	右偏行3転唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、曲げ皺・布目あり。	12世紀。山城産。円勝寺(CB3)瓦173、法勝寺(上村ほか1987)図版17-45と同笵。	溝5140東護岸、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦306	右偏行6転唐草文。唐草は連続、端部紡錘形となる。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面に布目残存。瓦当上縁にヘラ記号あり。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦182と同笵。尊勝寺(奈文研1961)202型式と同文。	溝5140東護岸、計3点。
瓦307	右5転偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦181。尊勝寺(奈文研1972)209型式と同文。	溝5135補修後、溝5140東護岸、計2点。
瓦308	瓦307と同文で、枝茎多い。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB3)瓦171と同笵。尊勝寺(奈文研72)243型式と同文。	溝5140、計1点。
瓦309	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦310	右4転偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。尊勝寺(上村1990)25と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦311	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。	溝2093、計1点。
瓦312	瓦311と同文で、唐草が太い。瓦当面布目残存。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	溝2092、土坑2389、計1点。
瓦313	右4転偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。周縁上面に縄タタキ施す。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縄タタキ、裏面横ナデ+横ケズリ。周縁上面に縄タタキ施す。	12世紀。山城産。平安京右京六条一坊五町(梅川1992)635と同文。	溝5140、計2点。
瓦314	左3転偏行唐草文。唐草は陰刻で連続。下外区に凸線、周縁なし。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ケズリ＋オサエ縦ナデ。	12世紀。山城産。平安京左京一条三坊九町(南1993)17・21、鳥羽南殿(細谷1968)H3と同文。	溝5135護岸補修、溝5115、溝9006C、計3点。
瓦315	左偏行唐草文。唐草は連続。下側に外区圏線・周縁あり。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦316	左偏行唐草文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面横ケズリ+横ナデ。	12世紀。山城産。尊勝寺(奈文研1961)201型式と同文。	溝2092、計1点。
瓦317	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面に布目残存。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦318	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2094、計1点。
瓦319	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦320	左偏行唐草文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2093、計1点。
瓦321	左偏行唐草文。唐草は連続。外区・周縁なし。瓦当面布目残存。	薄顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(CB2)瓦135と同笵。尊勝寺(奈文研1961)203型式、平安京左京一条三坊九町(前田ほか1996)14と同文。	溝5140、計1点。
瓦322	左偏行唐草文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦323	左偏行3転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横縄タタキ、裏面横ナデ。曲げ皺あり。周縁上面に横縄タタキ施す。	12世紀。山城産。平安京右京六条一坊五町(梅川1992)図48-295と同笵。	溝5135護岸補修、溝5140東護岸、計2点。
瓦324	左偏行転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縄タタキ＋オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。平安京右京六条一坊(平尾ほか2002)瓦61と同笵。	溝5135東護岸、計1点。
瓦325	左偏行3転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。布は綾織り？を使用。	12世紀。山城産。円勝寺(CB1)瓦185、尊勝寺五大堂(上村1989)図4-10と同笵。栗栖野窯(市埋文1996)95と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦326	左偏行唐草文。唐草は陰刻で、分離。外区に界線。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面は平瓦凸面から縦縄タタキ。	12世紀。山城産。尊勝寺(奈文研1961)191型式と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦327	唐草文。唐草文は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。曲げ皺あり。布は綾織りのものを使用。	12世紀。山城産。	溝2093、計1点。
瓦328	唐草文。唐草文は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面斜縄タタキ。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦329	唐草文。唐草文は連続。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦330	唐草文。唐草文は連続。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦331	唐草文。唐草文は連続。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦332	花文は4単位。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 最勝光院(上村2013)433と同笵。	溝2092、計1点。
瓦333	花文は4単位。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 法金剛院(小松ほか1998)23と同文。	溝2092、計1点。
瓦334	半裁花文。花文は菱形、上下交互に配す。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦267、栗栖野窯(吉村1993)図27-106と同笵。 尊勝寺(梶川ほか1977)SWN27-b、栢杜堂(清野1974)J型式と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦335	半裁花文。中心文は縦線。花文3単位、上下交互に配す。外区に界線。周縁なし。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。曲げ皺あり。1点は顎凸面・裏面縦縄タタキ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦186と同笵。 法勝寺北方(近藤2005)図64-548と同文。	溝5140西護岸、 2区遺構検出中、溝2092、 溝2092護岸(2)、計5点。
瓦336	半裁花文。花文7単位、上下交互に配す。外区に界線。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面縦縄タタキ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦207と同笵。	溝2094、計1点。
瓦337	半裁花文。花文は3単位、上下交互に配す。花文の間に唐草配置。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 南ノ庄田瓦窯(高1998)144と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦338	花文。4弁花文と×を交互に配す。下・両側に周縁あり。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦339	外行唐草文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線・密な珠文。界線両端は三角形。周縁は素文直立縁で、両側幅広い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 神出遺跡(春成2014)393と類似。	溝5140東護岸、計1点。
瓦340	外行2転唐草文。中心文は背向C字、上を「∩」形で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦117と類似。	5区重機掘削中、計1点。
瓦341	外行3転唐草文。中心文は背向C字、上を「∧」形で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)232型式、神出窯(纐纈2018)平0202型式と同文。	溝5135補修後、 溝5135補修後埋土、 5区重機掘削中、計3点。
瓦342	外行唐草文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	5区重機掘削中、計1点。
瓦343	外行2転唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離、界線に接する。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)226型式、久留美窯(池田1999)NH16と同文。	溝2094、計1点。
瓦344	外行2転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。上外区に界線。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)229Aa型式、神出窯(纐纈2018)平2202型式と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦345	外行3転唐草文。中心文は背向C字。上に水滴形配す。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦151と同笵。	溝5135補修後、計1点。
瓦346	外行3転唐草文。中心文は上向C字並列。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦191と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)240型式、林崎三本松窯(池田2017)NH05、久留美窯(池田1999)NH2と同文。	5区重機掘削中、計1点。
瓦347	瓦346と同文で、笵上下縮小し、小型。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER141と同文。	溝5135東護岸、溝2092、 計2点。
瓦348	外行2転唐草文。中心文は下向C字並列。C字の上に∧を付ける。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	曲線顎で、Ⅰ又はⅡ。成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面から平瓦に縦ナデと、顎凸面横ナデ、裏面縦ナデがあり。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦167、尊勝寺(奈文研1961)242型式と同文。	溝5140東護岸、 5区重機掘削中、 溝2092(2)、計4点。
瓦349	瓦348と同文で、唐草短い。右端縮小。瓦当面に布目残存。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦211と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)242型式、林崎三本松窯(池田2017)NH-02と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦350	瓦348と同文で、唐草短い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)242C型式と同文。	溝2092、瓦溜2355、計2点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦351	瓦348と同文で、唐草短く。左端縮小。瓦当面に布目残存。	曲線顎Ⅱ。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(石井2015)188と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦352	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に房あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝9006A、計1点。
瓦353	瓦352と同文で、唐草形状異なる。小型。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦187と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)236型式、神出窯(纐纈2018)平0301型式と同文。	5区重機掘削中、溝2093、計2点。
瓦354	外行5転唐草文。中心花文が高く、尖る。唐草は連続、先端返りあり。外区に界線、周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦199と同笵。 円勝寺(上原1972)ER134型式と同文。	溝2093、溝5115、 溝5140東護岸、計3点。
瓦355	瓦354と同文で、中心文上側丸い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER134型式と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44Aaと同文。	溝5135東護岸、 溝5135補修後、計2点。
瓦356	瓦354と同文で、唐草は4転。中心文は丸くつぶれる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦190と同笵。 円勝寺(上原1972)ER134型式、林崎三本松窯(池田2017)NH44Caと同文。	溝5140東護岸、 溝5135東護岸、計2点。
瓦357	瓦354と同文で、唐草は3転。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦158と同笵。 円勝寺(上原1972)ER134型式と同文。	溝5140、 溝5135補修後埋土、計2点。
瓦358	外行4転唐草文。中心花文が高く尖る。唐草は連続、先端返りなし。外区に界線、周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER124型式と同文。	落込5126、溝5135補修後、溝2092、計3点。
瓦359	瓦358と同文で、唐草は4転。中心文丸く小さい。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦153と同笵。 円勝寺(上原1972)ER124型式、最勝寺(吉村1995)図28-23、法金剛院(中谷1970)第56図-28と同文。	溝9006B、土坑4118、 溝5140東護岸(2)、 溝5135補修後、計5点。
瓦360	瓦358と同文で、唐草は4転。中心文先端が尖る。	段顎。バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦154と同笵。 円勝寺(上原1972)ER124型式、林崎三本松窯(池田2017)NH44Bと同文。	溝5140東護岸、溝9006B、計2点。
瓦361	瓦358と同文で、唐草太い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER124型式と同文。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦362	瓦358と同文で、唐草界線に接する。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 同上。	溝5024、計1点。
瓦363	外行転唐草文。中心文は垂線。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 法勝寺北方(網2008)6と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)233型式、神出窯(妙見山1986)7と同文。	溝2090、計1点。
瓦364	瓦363と同文で、唐草先端形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)SR233B型式、神出窯(纐纈2018)平3101型式、林崎三本松窯(池田2017)NH01と同文。	柱穴2114、溝5135補修後、計2点。
瓦365	瓦363と同文で、唐草太い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)SR233C型式と同文。	溝2092、計1点。
瓦366	瓦363と同文で、唐草先端形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)233型式と同文。	瓦溜3255、計1点。
瓦367	瓦363と同文で、唐草形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 同上。	2区重機掘削中、計1点。
瓦368	瓦363と同文で、唐草形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 同上。	2区写真清掃中、計1点。
瓦369	瓦363と同文で、中心線＋となる。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 同上。	溝2093、計1点。
瓦370	外行10転唐草文。中心文は垂線。唐草は連続。外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 鳥羽勝光明院(前田ほか1979)32と同文。	溝9006B、計1点。
瓦371	外行唐草文。左側4転・右側3転。中心文は垂線。唐草主茎は直線的で連続、支茎は不定方向、外区の界線に接する。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦213と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)278型式と同文。	井戸5090、落込5126、 土坑5164、溝9006C、 計4点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦372	外行唐草文。右9転、左8転。中心文なし。唐草は連続。外区に界線。界線両端丸くなる。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)262型式、久留美窯(池田1999)NH15と同文。	溝2092、溝2094、計2点。
瓦373	外行3転唐草文。中心文は上向花文。唐草は連続。外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 法勝寺北方(近藤2005)592と同笵。	2区重機掘削中、溝2091、溝2094、計3点。
瓦374	外行4転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。下縁が広い	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦203と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH25と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦375	瓦374と同文で、右端縮小。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	土坑2427、計1点。
瓦376	外行4転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。下縁が広い	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 平井E15窯(中村1990)図版第24-1と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦377	外行6転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。下縁が広い。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(梶川ほか1977)SWN-50、林崎三本松窯(池田2017)NH24と同文。	溝5140、計1点。
瓦378	瓦377と同文。縮小型瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	2区重機掘削中、計1点。
瓦379	外行4転唐草文。中心文なし。唐草は連続、分岐点に房付く。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)259A型式と同文。	溝5135東護岸、溝5140、計2点。
瓦380	瓦379と同笵で、笵上下を縮小する。界線両端は丸くなる。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)259B型式、平安宮(市埋文1996)301、久留美窯(池田1999)NH14と同文。	溝2092、溝2093、溝2090、溝5140東護岸、計4点。
瓦381	唐草文。唐草は連続。外区界線。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5028、計1点。
瓦382	唐草文。唐草は連続。外区界線。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	柱穴6141、計1点。
瓦383	唐草文。唐草は連続。外区界線。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5135東護岸、計1点。
瓦384	外行2転唐草文。中心文背向C字、上下に水滴形配す。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦171と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)227型式、林崎三本松窯(池田2017)NH07と同文。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦385	外行2転唐草文。中心文は2重上向C字。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面両側幅狭まる。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦221、最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-7と同笵。	溝2092、土坑2117、溝5135護岸補修、計3点。
瓦386	外行2転唐草文。中心文は上向C字変形。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(家崎1988)40と同笵。 神出窯(纐纈2018)平2601a型式と同文。	溝5140東護岸、溝5140、計2点。
瓦387	瓦386と同文で、唐草形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 延勝寺(近藤2014)瓦23と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH-09と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦388	外行2転唐草文。中心文は下向C字。唐草は連続。唐草やや太い。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦219と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)253型式と同文。	溝9006A、計1点。
瓦389	外行2転唐草文。中心文は上向きC字。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。瓦当上縁横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)225型式と同文。	15c整地、計1点。
瓦390	外行2転唐草文。中心文は半裁花文。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 延勝寺(近藤2014)瓦24と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH43、魚橋窯(今里1980)第2図15と同文。	柱穴2360、計1点。
瓦391	外行唐草文。中心文は半裁花文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)270型式、久留美窯(池田1999)NH19と同文。	溝5140、計1点。
瓦392	外行3転唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦259と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH36と同文。	溝5028、溝2094、計2点。
瓦393	外行転唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦202と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH35と同文。	溝5135補修後、溝8005、溝8006、計2点。
瓦394	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀中葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦262と同笵。	溝5135補修後、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦395	外行唐草文。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦396	外行唐草文。中心文は垂線。唐草主茎は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦181と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)266型式と同文。	溝2093、溝2092、 溝5140(2)、計4点。
瓦397	外行4転唐草文。中心文は垂線。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 桂川河床(市埋文1996)1089と同文。	溝5140、計1点。
瓦398	外行唐草文。中心文は縦線。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝9006A、計1点。
瓦399	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面ナデ。	12世紀。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH30-Aと同文。	井戸4070掘形、計1点。
瓦400	外行3転唐草文。中心文なし、中心下に子葉配す。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦175と同笵。	溝5140東護岸(2)、 落込5126、溝5115、溝2094、 計5点。
瓦401	瓦400と同笵で、湾曲無く直線的となる。小型化する。	同上。	12世紀。播磨産。 同上	溝5140東護岸、計1点。
瓦402	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦258と同笵。	溝5140東護岸+溝5140、 溝2090、溝5135補修後埋土、溝5140(2)、計5点。
瓦403	外行唐草文。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦220と同笵。 鳥羽金剛心院(前田2002)NH3Aと同文。 林崎三本松窯(池田2017)NH31と類似。	溝5135西護岸、溝9006B、 計2点
瓦404	外行3転唐草文。中心文なし。中心下に水滴形配す。唐草は分離。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦174と同笵。 尊勝寺(奈文研19611)222型式、林崎三本松窯(池田2017)NH31、神出窯(池田1998)NH13と同文。	溝2092、土坑4066、 溝4024、溝5135東護岸、 溝5140東護岸、溝5140、 溝9006B、計7点。
瓦405	瓦404と同文で、唐草細い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦406	外行2転唐草文。中心は左巻き唐草、上に房あり。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦216と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH34Aと同文。	溝5135補修後埋土(2)、 5区遺構検出中、 溝5135護岸補修、溝5140、 溝5140東護岸、計6点。
瓦407	外行唐草文。中心は左巻き唐草。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦177と同笵。	溝2093、計1点。
瓦408	瓦407と同文で、左3転・右2転。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦216と同笵。 玉津田中遺跡(春成2014)482と類似。	溝5135東護岸、 溝5140東護岸、溝9006B、 計3点。
瓦409	瓦407と同文で、唐草の形状異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦217と同笵。	溝5115、溝5028、計2点。
瓦410	外行唐草文。中心は右巻き唐草。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦261と同笵。	溝5135補修後、溝5135東護岸、溝2094、計3点。
瓦411	外行唐草文。中心は右巻唐草。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦263と同笵。	溝5135東護岸、溝5135補修後、溝5135補修後埋土、溝5135西護岸(2)、溝5140東護岸、溝2094、計7点。
瓦412	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5135補修後、計1点。
瓦413	外行唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)189型式と同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦414	内行3転唐草文。唐草は連続。外区は界線・密な珠文。界線両端は三角形。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦235と同笵。平井E2号窯(中村1990) 図版第27-5～7と同文。	溝5140+溝5135補修後、 計1点。
瓦415	瓦298と同文。右8転偏行唐草文。唐草は連続。周縁は直立縁で、上面に密な珠文を配す。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)176B型式と同文。	溝5115、計1点。
瓦416	右偏行19転唐草文。唐草は連続。外区に界線、界線両端半円形。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦238、尊勝寺(奈文研1961)218型式、林崎三本松窯(池田2017)NNH171、久留美窯(池田1999)NH8と同笵。	土坑2427、溝2090、 溝2094、溝5135補修後、 溝5135東護岸、計5点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦417	瓦416と同文で、唐草巻大きい。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦418	右偏行唐草文。唐草は連続。枝茎多い。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)188型式と同文。	溝2093、計1点。
瓦419	右偏行唐草文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5135西護岸、 溝5135補修後、計2点。
瓦420	左偏行唐草文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(梶川ほか1977)SWN46、久留美窯(池田1999)NH11と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦421	左偏行9転唐草文。唐草は連続。内区に斜線配す。外区なし。周縁は素文直立縁。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦241と同笵。 久留美窯(池田1999)NH9と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦422	唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5135護岸補修、計1点。
瓦423	唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦424	唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5115、計1点。
瓦425	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦426	唐草文。唐草は連続。唐草は周縁に接する。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦427	唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦428	宝相華文。両側に花文2単位、間に唐草文配す。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB3)瓦234と同笵。	溝5140東護岸、溝5115、 15c整地、計3点。
瓦429	瓦428と同文で、唐草異なる。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦206と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH39Aaと同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦430	半裁花文。上下に配する。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。 平行宮朝堂院(平博1977)540、林崎三本松窯(池田2017)NH46Aと同文。	溝2092、計1点。
瓦431	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離。外区は界線・密な珠文。界線の両端は直線。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦244と同笵。 篠窯(安井1960)図97-8と同文。	土坑3002、2区重機掘削中、 溝2090、溝2092(7)、 溝2092護岸、溝2094(7)、 土坑2389、溝5115、計19点。
瓦432	外行3転唐草文。中心文は背向C字、上に水滴形、下にコンマ形配す。唐草は独立。外区に界線・密な珠文。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。顎凸面縦縄タタキ、裏面横縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦187、平安宮真言院(梶川ほか1976)図24-20と同笵。	溝5140(2)、土坑1003、 計3点。
瓦433	瓦432と同文で、唐草形状異なる。界線は両端三角形。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦243と同笵。 尊勝寺阿弥陀堂(上村1981)17、篠窯(安井1960)97図1と同文。	5区撹乱、溝5140東護岸、 溝2070、溝2092、 2区東側北半断割、計5点。
瓦434	瓦432と同文で、唐草形状異なる。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横縄タタキ。	12世紀。丹波産。 平安宮真言院(梶川ほか1976)19と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦435	瓦432と同文で、唐草形状異なる。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横縄タタキ。	12世紀。丹波産。	溝9006A、計1点。
瓦436	瓦432と同文で、唐草形状異なる。	蹄顎。折曲成形。顎凸面から裏面横縄タタキ。	12世紀。丹波産。	溝2094、計1点。
瓦437	外行3転唐草文。中心文は花文。唐草は両側のみ陰刻で、連続。外区は珠文、3個1単位。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。瓦当凸面斜縄叩き、裏面縦縄叩き。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB3)瓦242、円勝寺(上原1972)ER108型式と同笵。	溝2090(3)、2区重機掘削後精査中、溝2092、溝2094、 掘下げ、溝5140(2)、土坑5157、溝9006B、計11点。
瓦438	外行3転唐草文。中心文は花文。唐草は分離。外区に界線なし、珠文は3個1単位。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦248と同笵。 円勝寺(上原1972)ER144、法勝寺阿弥陀堂(高橋2012)図27-20と同文。	溝5135護岸補修、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦439	外行唐草文。中心文あり。唐草は連続。唐草端水玉状になる。外区に2重界線。周縁は素文直立縁。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。丹波産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同文。	溝2094、計1点。
瓦440	瓦439と同文で、唐草形状異なる。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面斜縄タタキ。	12世紀。丹波産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同文。	溝2093、計1点。
瓦441	外行5転唐草文。中心文なし。唐草は分離、支茎あり。唐草端水玉状。外区に2重界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦192と同笵。 円勝寺(上原1972)ER101型式、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦442	瓦441と同文で、唐草形状異なる。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB3)瓦243と同笵。 円勝寺(上原1972)ER101型式と同文。	溝5028、溝2092、計2点。
瓦443	瓦441と同文で、唐草形状異なる。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(上原1972)ER101型式と同文。	溝2094、計1点。
瓦444	瓦441と同文で、唐草連続。笵キズ多い。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ナデ。顎凸面縦縄タタキ、裏面斜縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB3)瓦244と同笵。 円勝寺(上原1972)ER101型式と同文。	溝5135護岸補修、計1点。
瓦445	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎裏面横縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(上原1972)ER123A型式と同文。	畔8007、溝2090、計2点。
瓦446	瓦445と同笵で、下界線を彫り加え、笵縮小。瓦当面笵キズ多い。	段顎。折曲成形。顎凸面縦縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦190、円勝寺(上原1972)ER123B型式、最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-11と同笵。	溝2090、溝2095、計2点。
瓦447	外行3転唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。瓦当面笵キズ多い。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦191と同笵。	溝5140、計1点。
瓦448	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。	土坑6151、計1点。
瓦449	外行唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離。外区に界線。	段顎。折曲成形。顎凸面縦縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。	溝2090、計1点。
瓦450	外行唐草文、左2転、右3転。中心文なし。唐草は連続、先端分かれる。外区は界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面縦横ケズリ、裏面斜縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB3)瓦248、尊勝寺(奈文研1961)150A型式と同文。	2区重機掘削中、溝5028、計2点。
瓦451	外行唐草文。中心文は縦線。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦252と同笵。	溝2094、計1点。
瓦452	内行3転唐草文。中心文は上下水滴形。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 法勝寺北方(近藤2005)596と同笵。	6.7区重機掘削中、計1点。
瓦453	右偏行唐草文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦196と同文。	5区重機掘削中、計1点。
瓦454	外行3転唐草文。中心文は半裁花文。唐草は連続する、分岐点に房あり。周縁は素文直立縁。	直線顎。瓦当成形不明。 瓦当上縁・下縁横ケズリ。平瓦凹面布目、凸面格子タタキ、側面縦ケズリ。	12世紀。讃岐産。 寺町旧域(上村2018)瓦35、西村2号窯(松本1986)と同文。	溝5115、計1点。
瓦455	瓦454と同文で、唐草形状異なる。右端縮小。	直線顎。瓦当成形不明。 平瓦凸面格子タタキ、側面ナデ縦ケズリ。	12世紀。讃岐産。 同上。	溝2093、計1点。
瓦456	半裁花文。上下交互に配す。外区なし。周縁は素文直立縁。	直線顎。瓦当成形不明。瓦当上縁横ケズリ。平瓦凹面布目、凸面縄タタキ、側面縦ケズリ。	12世紀。讃岐産。 円勝寺(CB2)瓦208と同笵。	溝5135補修後埋土、 溝5135、計2点。
瓦457	外行3転唐草文。中心文は上向きC字＋平行縦線。唐草は連続。外区界線は下側のみ。周縁は素文直立縁。	段顎・曲線顎。顎貼付成形。顎凸面ナデ、裏面ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。大和産。 平安京左京二条二坊十町(網1990)25、薬師寺(山崎1987)344と同文。	溝5140東護岸、高まり5017、計2点。
瓦458	外行唐草文。中心文は上向きC字。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	直線顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	12世紀。産地不明。 法勝寺塔(柏田2011)瓦82と同笵。 円勝寺(上原1972)ER112型式と類似。	溝5140、溝2093、計2点。
瓦459	外行3転唐草文。中心文は下向C字形。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。成形不明。顎凸面横ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2094、計1点。
瓦460	外行唐草文。中心文は下向きC字形の変形。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2094、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦461	外行唐草文。中心文は楕円形。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。成形不明。顎凸面横ナデ。平瓦凸面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	2区重機掘削中、計1点。
瓦462	外行5転唐草文。中心文は花文。唐草は分離、唐草先端ふくらむ。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ナデ。	12世紀。産地不明。 白河(市埋文1996)586と同文。	2区重機掘削中、計1点。
瓦463	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は分離、分岐点に花文。外区に界線。周縁は素文直立縁。	蹄顎。顎貼付成形。瓦当凹面布目、凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面に斜格子タタキ。	12世紀。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦266と同笵。	溝5115、計1点。
瓦464	瓦463と同文で、花文・唐草太い。	蹄顎。顎貼付成形。瓦当凹面布目、凸面・裏面横ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5135補修後埋土、計1点。
瓦465	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2094、計1点。
瓦466	外行唐草文。唐草は分離。外区に界線。周縁は素文直立縁。	直線顎。成形不明。顎凸面横ナデ。平瓦凸面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2093、計1点。
瓦467	外行唐草文。右8点・左6転。中心文は楕円形。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦ナデ、側面ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2092、計1点。
瓦468	外行4転唐草文。唐草は連続。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5140東護岸、計1点。
瓦469	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。顎凸面・下縁横ケズリ、裏面横ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。 円勝寺(CB2)瓦196と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦470	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面ナデ・糸切り、側面縦ケズリ。	12世紀。産地不明。 尊勝寺(奈文研1961)192型式と同文。	溝9006B、溝5135、計2点。
瓦471	瓦470と同文で、唐草形状異なる。	段顎。成形不明。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀。産地不明。 同上。	溝5140東護岸、計1点。
瓦472	唐草文。唐草は連続する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	直線顎。成形不明。瓦当凸面横ナデ裏面ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2090、計1点。
瓦473	唐草文。唐草は連続する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ・下縁縄タタキ、裏面ナデ。平瓦凹面布目・糸切り、凸面縦縄タタキ、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	土坑6151、計1点。
瓦474	唐草文。唐草は連続する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。成形不明。顎凸面ナデ、裏面ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5140東護岸、計1点。
瓦475	唐草文。唐草は分離する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面ナデ、裏面横ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2090、計1点。
瓦476	唐草文。唐草は連続する。周縁は素文直立縁。	直線顎。成形不明。瓦当上縁横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝2070、計1点。
瓦477	唐草文。唐草は連続する。外区に界線。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。成形不明。顎凸面ナデ。平瓦凸面ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5115、計1点。
瓦478	唐草文。主茎は波形。外区は界線。	段顎。成形不明。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5140東護岸、計1点。
瓦479	半裁花文。中央に1箇所、両端に4分の1を配す。瓦当両端が上がり、弧が強い。平瓦長さ8cmと短い。道具瓦か。平瓦凹面両側部にヘラ記号あり。	直線顎。成形不明。平瓦凹面横ケズリ、凸面横ナデ、側面縦ナデ、端面ナデ。	12世紀。産地不明。 成勝寺(網ほか1995)、平安京右京六条一坊(平尾2002)で文様は異なるが同形態の瓦出土。	溝5140、計1点。
瓦480	陽刻剣頭文。剣頭は単弁状で、垂直に配す。蓮弁は接しない。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 延勝寺(近藤2014)瓦32と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦481	陰刻剣頭文。剣頭は垂直に配す。上外区に界線あり。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	溝5140、計1点。
瓦482	陰刻剣頭文。剣頭は放射状に配す。鎬先端に∧を配す。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縄タタキ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝8005、計1点。
瓦483	陰刻剣頭文。剣頭は垂直に配す。右端笵縮小。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	瓦溜2355(2)、 2区重機掘削中、計3点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦484	瓦483と同文で、剣頭は垂直に配す。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	土坑2020、溝5135補修後埋土、計2点。
瓦485	瓦483と同文で、剣頭は放射状に配す。剣頭の幅広い。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦486	瓦483と同文で、剣頭は放射状に配す。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。
瓦487	瓦483と同文で、剣頭は放射状に配す。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縦ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。
瓦488	瓦483と同文で、剣頭は放射状に配す。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝5140、計1点。
瓦489	瓦483と同文で、剣頭は垂直に配す。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺・布目あり。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦490	瓦483と同文で、剣頭は放射状に配す。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2240、計1点。
瓦491	瓦483と同文で、剣頭は垂直に配す。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横オサエ。	12世紀。山城産。	井戸4070、計1点。
瓦492	瓦483と同文で、剣頭は垂直に配す。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縄タタキ・オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	井戸4070、計1点。
瓦493	陽刻剣巴文。中央に剣頭文、両側に右三巴文2単位配す。巴文頭部は離れ、尾部は接続して圏線となる。瓦当面布目残存。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦278と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)295A型式と同文。	溝2093、計1点。
瓦494	陰刻剣巴文。中央に右三巴文、両側に剣頭文3単位。巴文頭部は離れ、尾部は接続して圏線となる。剣頭文は垂直に配す。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦275と同文。	瓦溜2355、計1点。
瓦495	瓦494と同文で、巴文の形状が異なる。瓦当面布目残存。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。	溝9006B、計1点。
瓦496	陰刻剣巴文。左巴文と剣頭文2単位を交互に配す。巴文尾部は離れる。剣頭配置は垂直。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎裏面横ナデ、曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝9006B、計1点。
瓦497	連巴文。左右二巴文を4.5単位配す。巴文頭部は離れ、尾部は連結して圏線となる。巴文周縁に接する。瓦当面布目残存。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦279と同笵。 尊勝寺(上村1990)27と同文。	2区検出中、溝5028、計2点。
瓦498	連巴文。右三巴文配す。巴文頭部は離れ、尾部は連結して圏線となる。巴文周縁に接する。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、計1点。
瓦499	瓦498と同文。巴文尾部は離れる。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面横横ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135護岸補修、計1点。
瓦500	陰刻連巴文。右二巴文配す。巴文頭部は接し、尾部は離れる。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面横横ナデ。	12世紀。山城産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-10と同笵。	9区表採、計1点。
瓦501	巴幾何学文。右巻三巴文と＊を交互に配す。巴文頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦276と同笵。 東寺(引原1992)図48-16と同文。	2区あげ土、溝2092、計2点。
瓦502	瓦501と同文で、三巴文の形状が異なる。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2090、計1点。
瓦503	瓦501と同文で、三巴文の形状が異なる。	段顎。成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦504	雁巴文。雁行文・左三巴文を3単位交互に配す。巴文頭部・尾部は離れる。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦209と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)294型式、栗栖野窯(市埋文1980)104と同文。	溝5135東護岸、計1点。
瓦505	半裁雁行文。上下に3単位配する。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB1)瓦269、栗栖野窯(吉村1993)図26-98と同笵。 栢杜堂(清野1974)O型式と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦506	幾何学文。×を並列し、間に上下から突起あり。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、横ケズリ・斜縄タタキ。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)283型式と同文。	溝5140、計1点。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦507	斜格子文。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)284型式と同文。	溝9006B、計1点。
瓦508	幾何学文。×・縦線を並列する。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。 六角堂(平博1977)56、栗栖野(北田1986)67と同文。	溝5135西護岸、計1点。
瓦509	斜格子文。間に菱形を配す。周縁は素文直立縁。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ケズリ・ナデ。	12世紀、山城産。 尊勝寺北方(持田ほか2013)K35と同文。	溝2094、計1点。
瓦510	斜格子文。間に菱形を配す。周縁は素文直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)285型式、白河(伊藤ほか2016)I835と同文。	溝5135護岸補修、溝2094、計2点。
瓦511	陰刻連巴文。左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接して界線となる。周縁は素文直立縁。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀中葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦279と同笵。 鳥羽勝光明院(前田ほか1979)31と同文。	溝5140東護岸、計1点。
瓦512	外行唐草文。唐草は連続。外区は界線・粗い珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面側面縦ナデ。平瓦境に凹型台圧痕なし。	13世紀。産地不明。	瓦溜2355、計1点。
瓦513	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面横ナデ。裏面から平瓦凸面側面縦ナデ。平瓦凹面布目。	13世紀。産地不明。	瓦溜2355、計2点。
瓦514	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面側面縦ナデ。	13世紀。産地不明。 円勝寺(CB3)瓦295と同文。	瓦溜2355、計1点。
瓦515	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線・珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	13世紀。産地不明。	2区重機掘削中、瓦溜2355、計2点。
瓦516	外行唐草文。唐草は分離。外区に界線・粗い珠文。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面裏面横ナデ、平瓦凹面ナデ、凸面縦ナデ。	13世紀。産地不明。	瓦溜2355、計1点。
瓦517	外行唐草文。唐草は分離。上外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面・凸面横ナデ、側面縦ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀、産地不明。	溝5135補修後、計1点。
瓦518	外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。周縁は素文直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面裏面横ナデ。平瓦凹面平滑なナデ、凸面縦ケズリ、側面縦ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀以降。産地不明。	5区重機掘削中、計1点。
瓦519	陰刻剣頭文。配置は放射状。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀。山城産。 亀山殿(布川2005)103と同文。	2区重機掘削中、 計1点。
瓦520	陰刻剣巴文。配置は垂直。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀。山城産。 大覚寺(上原1997)DKH14と同文。	溝2092、計1点。
瓦521	陰刻剣頭文。剣頭は放射状に配す。	段顎。成形不明。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凹面なでて平滑。平瓦境に凹型台圧痕なし。	13世紀以降。産地不明。 常盤伸ノ町遺跡(鈴木ほか1978)4と同文。	2区重機掘削中、計1点。
瓦522	剣巴文。中央に右三巴文、両側に陰刻剣頭文4単位配す。巴文頭部・尾部は離れる。剣頭配置は垂直。瓦当面に布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀。山城産。 亀山殿(布川2005)117と同文。	溝2093、計1点。
瓦523	幾何学文。内区が1段高い。外区なし。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面ナデ。平瓦凹面布目・離れ砂、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	時期不明。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦301と同文。	溝5135西護岸、溝5135補修後埋土、溝9006A、 計3点
瓦524	幾何学文で、上を指で押さえる。周縁は素文直立縁。	曲線顎Ⅱ。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面縦ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135東護岸、計1点。
瓦525	宝塔文。単位不明。塔頂は請花と宝珠。屋根は傘形。塔身は円形で、「ア」を配す。周縁は素文直立縁。	段顎。折曲成形。顎凸面ナデ・裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。平瓦境に凹型台圧痕あり。	13世紀。産地不明。 法勝寺(市埋文1996)461と同文。	瓦溜2355、計1点。
瓦526	外行2転唐草文。中心文は三葉。唐草は分離。周縁は素文直立縁で、側が広い。瓦当面にキラコ付着。	段顎。瓦当成形不明。顎凸面裏面横ナデ。平瓦凹面平滑なナデ	16世紀以降。産地不明。	1区重機掘削中、計1点。
瓦527	外行2転唐草文。中心文不明。唐草は分離。周縁は素文直立縁で、側が広い。瓦当面にキラコ付着。	段顎。瓦当成形不明。 顎凸面裏面横ナデ。	16世紀以降。産地不明。	柱穴2060、計1点。

付表４　鬼瓦・道具瓦・刻印瓦・ヘラ記号瓦観察表

番号	種類	形状・文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦528	鬼瓦	上半部。内区一段下がる・外区は界線・珠文・圏線。裏面は平坦。	笵型による成形。側面縦ケズリ。裏面不定方向ナデ。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。
瓦529	鬼瓦	左足部。外区は界線・密な珠文・斜線。裏面は平坦。	笵型による成形。側面縦ナデ。刳り面縦ナデ。裏面不定方向ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135補修後、計1点。
瓦530	鬼瓦	右部。鼻・目玉・頬は突出する。裏面は平坦、固定装置なし。	笵型による成形。裏面ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135補修後、計1点。
瓦531	鬼瓦	右部。鼻・頬は突出する。上顎・歯あり。裏面は平坦、固定装置なし。	笵型による成形。側面ナデ。裏面不定方向ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(市埋文1996)510と類似。	落込5126、計1点。
瓦532	鬼瓦	右側部。眉毛右端部巻く。外区は界線・密な珠文。裏面は平坦。大型鬼瓦。	笵型による成形。裏面ナデ。	12世紀。産地不明。	溝5135西護岸、計1点。
瓦533	鬼瓦	左側部。顔面盛り上がる。外区は密な珠文・圏線。裏面は平坦で、中央部大きく刳りあり。	成形不明。側面縦ケズリ。裏面縦方向ナデ、刳り面ケズリ。	12世紀。播磨産。	溝2093、計1点。
瓦534	鬼瓦	上半部。眉毛放射状。額に3筋の横しわあり。外区は界線・珠文・圏線。裏面は平坦。	笵型による成形。側面縦ナデ。裏面不定方向ナデ。	12世紀中葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦239と同笵。鳥羽金剛心院(前田2002)94と同文。林崎三本松窯(池田2017)232と類似。	溝5115、計1点。
瓦535	鬼瓦	左側部。瓦534と同文で、珠文は小さい。裏面は平坦で、中央部凹む。	笵型による成形。側面縦ケズリ。裏面縦方向ケズリ。	12世紀中葉。播磨産。同上。	溝5140、計2点。
瓦536	鬼瓦	右上顎部。唇盛り上がる。下向き牙あり。裏面は凹凸あり。	笵型による成形。内刳り面ナデ。裏面ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦537	鬼瓦	目玉は円形で突出する。目の周囲に輪郭線巡る。眉間に縦凸線あり。外区界線あり。裏面は平坦、固定装置なし。	笵型による成形。側面縦ナデ。裏面縦方向ナデ。	12世紀。播磨産。円勝寺(CB2)瓦236と同笵。神出釜ノ口窯跡(纐纈2018)図179と類似。	溝5135東護岸、計1点。
瓦538	鬼瓦	上半部。目玉・眉毛は突出する。額は盛り上がる。外区は指頭圧痕。裏面は中央凹む、固定装置なし。笵キズ多い。	笵型による成形。側面縦ケズリ。裏面ナデ、中央強く縦方向ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140、計1点。
瓦539	鬼瓦	左側部。	粘土板貼り合わせ成形。文様部はヘラ彫り込み。表面はミガキを施し平滑。	16世紀以降。産地不明。	2区重機掘削中、計1点。
瓦540	雁振瓦		凸面ナデ。凹面布目。	時期不明。産地不明。	溝5135護岸補修、計1点。
瓦541	平瓦	凸面に文様の押捺あり。文様は不明。	凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。	12世紀。産地不明。	溝9006A、計1点。
瓦542	有段平瓦	凸面中央部に段を付加。	凸面縦縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。尊勝寺(梶川ほか1976)図17と同様。	溝9006B、計1点。
瓦543	刻印平瓦	凹面側部に刻印あり。陰刻五輪塔文を並列して押捺。水輪に梵字なし。	凸面ナデ、凹面糸切り痕跡、離れ砂付着。側面縦ケズリ。	13世紀。産地不明。円勝寺(CB3)瓦316、法勝寺(柏田2011)112と同文。	井戸5032、計1点。
瓦544	刻印平瓦	凹面に刻印あり。刻印は、陰刻五輪塔文を並列して押捺。水輪に梵字なし。	凸面ナデ、凹面ナデ、離れ砂付着。側面縦ケズリ。	13世紀。産地不明。法勝寺(市埋文1996)466と同文。	溝2093、計1点。
瓦545	刻印平瓦	凸面に刻印あり。刻印は不明。	凸面ナデ、凹面布目。	12世紀。山城産。	15c整地、計1点。
瓦546	刻印平瓦	凹面に刻印あり。刻印は、「○に×」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。	土坑2388、計1点。
瓦547	刻印平瓦	凹面に刻印あり。刻印は不明。	凸面縦縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。	溝5028、計1点。
瓦548	刻印平瓦	凹面に刻印あり。刻印は、隅丸長方形の内に沿って、隅丸長方形の枠(横幅1.4㎝)が巡り、中に「五」を陽刻。	凸面格子叩き、凹面縦ナデ。	13世紀。産地不明。	溝5135補修後、計1点。
瓦549	刻印平瓦	凹面狭端部中央に刻印あり。刻印は、隅丸長方形の内に沿って、隅丸長方形の枠(横幅2.0㎝)が巡り、中に「東大寺」を陽刻。	凸面ナデ、離れ砂付着。凹面縦ナデ。端面横ナデ。	13世紀。備前産。法勝寺北方(近藤2005)611と同笵。円勝寺(CB2)瓦228、万富窯(岡山県1980)第35図1-1と同文。	溝5135補修後、計1点。
瓦550	刻印丸瓦	玉縁部端面に刻印あり。刻印は、「○」を2重押捺。	丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135補修後、計1点。
瓦551	刻印平瓦	広端面中央に刻印あり。刻印は不明。	凸面ナデ・離れ砂付着、凹面ナデ、側面縦ケズリ。端面横ナデ。	13世紀以降。産地不明。	溝6154、計1点。
瓦552	刻印平瓦	狭端面中央刻印あり。刻印は、「⌒」。	凸面ナデ・離れ砂付着、凹面縦ナデ、側面縦ナデ、端面横ナデ。	13世紀以降。産地不明。	溝5135補修後(3)、土坑6173、計4点。

番号	種類	形状・文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦553	ヘラ記号 丸瓦	玉縁部凸面中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「＼」。	凸面ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。 玉縁部凸面横ナデ。	12世紀。山城産。	井戸4070掘形、 計1点。
瓦554	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「)(」。	凸面縦縄タタキ後ナデ、凹面布目、 側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦331と類似。	井戸4070掘形、 計1点。
瓦555	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「＝」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ。	12世紀。山城産。	井戸5090、計1点。
瓦556	ヘラ記号 丸瓦	凸面中央部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。	凸面縦縄タタキ、凹面糸切り痕跡+布 目、側面縦横ナデ。玉縁部	12世紀。産地不明。	溝5135東護岸、 計1点。
瓦557	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「キ」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ。	12世紀。山城産。	5区重機掘削中、 計1点。
瓦558	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、三日月形。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦326と類似。	井戸4070掘形、 計1点。
瓦559	ヘラ記号 丸瓦	玉縁部凸面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「≡」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ。玉縁凸面横ナデ。	12世紀。山城産。	土坑3017、計1点。
瓦560	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∧」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ。	12世紀。山城産。	溝5135西護岸、 計1点。
瓦561	ヘラ記号 丸瓦	玉縁部凸面右端にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ、玉縁部凸面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦325と類似。	5区重機掘削中、 計1点。
瓦562	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「××」。	凸面ナデ、凹面布目。	12世紀。山城産。	瓦溜2355、計1点。
瓦563	ヘラ記号 丸瓦	凸面狭端部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∨＼」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦 ケズリ。	12世紀。山城産。	溝5135護岸補修、 計1点。
瓦564	ヘラ記号 丸瓦	凹面狭端面部中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「≡」。	凸面縄タタキ後ナデ、凹面糸切り痕 跡+布目、側面縦ケズリ。	時期不明。産地不明。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦565	ヘラ記号 丸瓦	広端面中央にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。	凸面縄タタキ後ナデ、凹面糸切り痕 跡+布目、側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。	溝2092、計1点。
瓦566	ヘラ記号 丸瓦	凹面中央部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。	凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ケズ リ。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後埋土、 計1点。
瓦567	ヘラ記号 丸瓦	凹面狭端部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∈」。	凸面縦ナデ、凹面ナデ、側面縦ケズ リ。	12世紀。播磨産。	溝5135補修後、 計1点。
瓦568	ヘラ記号 平瓦	凹面中央側部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「⊃」。	凸面斜縄タタキ、凹面糸切り痕跡+離 れ砂、側面縦ケズリ。	時期不明。産地不明。	土坑5025、計1点。
瓦569	ヘラ記号 平瓦	凹面狭端部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。	凸面斜縄タタキ、凹面糸切り痕跡+離 れ砂、側面縦ケズリ。	時期不明。産地不明。	土坑5025、計1点。
瓦570	ヘラ記号 平瓦	平瓦広端面中央・凸面にヘラ記号記 入。ヘラ記号は、「＼」・「／」。	凸面糸切り痕跡+縦平行タタキ、凹面 布目、側面縦ケズリ。	12世紀。山城産。	溝5135補修後、 計1点。
瓦571	ヘラ記号 平瓦	凸面側部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「×」。中央部に穿孔あり。	凸面ナデ、凹面ナデ、側面縦ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135西護岸、 計1点。
瓦572	ヘラ記号 平瓦	凹面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は不明、文字か。	凸面縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦573	ヘラ記号 平瓦	凹面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は不明、文字か。	凸面縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。	溝9006B、計1点。
瓦574	ヘラ記号 平瓦	凹面端部にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「≠」。	凸面縄タタキ、凹面布目、端面横ナ デ。	12世紀。山城産。	溝5140、計1点。
瓦575	ヘラ記号 平瓦	凹面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「(」。	凸面ナデ、凹面ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦576	ヘラ記号 平瓦	面にヘラで文様施す。 斜格子+正格子。	凸面ナデ、凹面ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦577	ヘラ記号 平瓦	凹面狭端部右隅にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∨」。	凸面タタキ後ナデ、凹面縦ナデ、側 面縦ナデ、狭端面横ナデ。	12世紀。播磨産。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦578	ヘラ記号 平瓦	端面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「//」。	凸面縦縄タタキ、凹面離れ砂、端面 横ナデ。	12世紀。山城産。	溝5140東護岸、 計1点。
瓦579	ヘラ記号 平瓦	端面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「＼／」。	凸面縦縄タタキ、凹面離れ砂、端面 横ナデ。	12世紀。山城産。	溝5135護岸補修、 計1点。
瓦580	ヘラ記号 平瓦	端面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∧」。	凸面縦縄タタキ、凹面離れ砂、端面 横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦334と類似。	溝5135補修後埋土、 計1点。
瓦581	ヘラ記号 平瓦	端面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「∨」。	凸面縦縄タタキ、凹面糸切り痕跡、端 面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦335と類似。	瓦溜2355、計1点。
瓦582	ヘラ記号 平瓦	端面にヘラ記号記入。 ヘラ記号は、「／／／」。	凸面縦縄タタキ、凹面糸切り痕跡、端 面横ナデ。	12世紀。山城産。 円勝寺(CB3)瓦333と類似。	溝5140東護岸、 計1点。

付表２～４　瓦観察表の参考文献一覧

京都市美術館第１～３期調査

ＣＢ１：上村和直・李 銀眞「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13、同研究所、2015年

ＣＢ２：上村和直・松吉祐希「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17、同研究所、2016年

ＣＢ３：上村和直「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016－17、同研究所、2017年

あ

青山1984：青山 均「瓦塼類」『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校・法住寺殿跡遺跡調査会、1984年

網1990：網 伸也「平安京左京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報　平成元年度』京都市文化観光局、1990年

網ほか1995：網 伸也・会下和宏・桜井みどり「成勝寺跡」『平成４年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1995年

網ほか2011：網伸也・竜子正彦「法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成22年度、京都市文化市民局、2011年

家崎1988：家崎孝治「主要な出土遺物」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和62年度』京都市文化観光局、1988年

池田1998：池田征弘「瓦」『神出窯跡群』兵庫県文化財調査報告第171冊、兵庫県教育委員会、1998年

池田ほか1999：池田征弘・森内秀造『久留美・跡部窯跡群－山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告ＸＸＸ－』兵庫県文化財調査報告第186冊、兵庫県教育委員会、1999年

池田2017：池田征弘「瓦」『林崎三本松瓦窯跡群発掘調査報告書』明石市文化財調査報告書　第６冊、同教育委員会、2017年

石井2015：石井明日香「瓦類」『白河街区・尊勝寺跡・岡崎遺跡－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』イビソク京都市内遺跡調査報告　第12輯、株式会社イビソク、2015年

石田1938：石田茂作「古瓦に表はれた藤原時代の動向」『綜合古瓦研究』鵤故郷舎、1938年

石田1947：石田修一「法勝寺瓦に就いて」『日本史研究』第４号、同研究会、1947年

伊藤2016：伊藤敦史「瓦類」『京都大学構内遺跡調査研究年報2014年度』京都大学文化財総合研究センター、2016年

市本2001：市本芳三「大阪地域の平安時代後期瓦の様相」『第４回摂河泉古代寺院フォーラム　中世寺院の幕開け－11･12世紀の寺院の考古学的研究－』摂河泉古代寺院研究会、2001年

今井2012：今井晃樹「北円堂・瓦磚類」『興福寺　第１期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅵ』興福寺、2012年

今里1980：今里幾次「播磨魚橋瓦窯跡」『播磨考古学研究』今里幾次論文集刊行会、1980年

上原1972：上原真人「円勝寺の発掘調査（下）　円勝寺出土遺物について」『佛教藝術84号』毎日新聞社、1972年

上原ほか1975：上原真人・木村捷三郎・畑美樹徳「京都市動物園爬虫類館建設に伴う法勝寺発掘調査報告」『京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅱ』京都市文化観光局文化財保護課、1975年

上原1997：上原真人「瓦類」『史跡大覚寺御所跡発掘調査報告　大沢池北岸域復原整備事業に伴う調査』大覚寺、1997年

上原2010：上原真人「摂関・院政期の京都における丹波系軒瓦の動向」『佛教藝術308号』毎日新聞社、2010年

上村1981：上村和直「六勝寺跡、Ａ・Ｂ調査区」『六勝寺跡発掘調査概要　昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター、1981年

上村ほか1987：上村和直・辻 裕司『法勝寺跡発掘調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局、1987年

上村1990：上村和直「尊勝寺跡・岡崎遺跡１」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1990年

上村ほか1994：上村和直・西大條 哲「尊勝寺跡・岡崎遺跡１」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1994年

上村2003：上村和直「平安宮西院跡・聚楽遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概報　平成14年度』京都市文化市民局、2003年

上村2013：上村和直「瓦類」『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012－10、同研究所、2013年

上村2018：上村和直「鎌倉時代以前の瓦類」『寺町旧域（妙満寺跡・本能寺跡）』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016－18、同研究所、2018年

植山ほか1983：植山 茂・下條信行・定森秀夫・朧谷 寿『三條西殿跡　平安京跡研究調査報告第７輯』古代學協會、1983年

宇垣2009：宇垣匡雅「瓦」『備前国分寺』赤磐市文化財調査報告　第３集、岡山県赤磐市教育委員会、2009年

内田ほか1995：内田好昭・丸川義広・平方幸雄「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1995年
梅川1992：梅川光隆「瓦」『平安京右京六条一坊－平安時代前期邸宅跡の調査－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊、同研究所、1992年
梅原1925：梅原末治「南桑田郡千歳村出雲神社境内發見ノ古瓦」『京都府史跡勝地調査会報告　第６冊』京都府、1925年
江谷1985：江谷 寛「河内・向山窯の瓦」『同志社大学考古学シリーズⅡ　考古学と移住・移動』同大学、1985年
岡山県1980：岡山県文化財保護協会『泉瓦窯跡・万富瓦窯跡　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告37』1980年
か
香川県1983：香川県編「歴史時代　古瓦」『香川県史』資料編、同県、1983年
梶川ほか1976：梶川敏夫・浪貝 毅「平安宮真言院跡推定地発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告－1975』京都市文化観光局文化財保護課、1976年
梶川ほか1977：梶川敏夫・木村捷三郎・渡辺和子『六勝寺跡　六盛西店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』六勝寺研究会、1977年
梶川1997：梶川敏夫「最勝寺跡」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成８年度』京都市文化市民局、1997年
柏田2011：柏田有香「法勝寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成22年度』京都市文化市民局、2011年
柏田ほか2015：柏田有香・持田 透」『平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－5、同研究所、2015年
加納2004：加納敬二「瓦類」『平安京左京北辺四坊』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告第22冊、同研究所、2004年
加納2008：加納敬二「瓦類」『平安京左京三条二坊十町跡（堀河院跡）』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007－17、同研究所、2008年
北田1986：北田栄造『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局、1986年
京都市1975：京都市文化観光局文化財保護課編「法勝寺金堂跡発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告　1974－Ⅱ』同課、1975年
京都市1976：京都市文化観光局文化財保護課編「法勝寺金堂跡第Ⅱ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』同課、1976年
高1998：高 正 龍『南ノ庄田瓦窯跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第18冊、同研究所、1998年
纐纈2018：纐纈文佳「瓦類」『神出窯跡群発掘調査報告書』神戸市教育委員会、2018年
小松ほか1998：小松武彦・吉村正親・小檜山一良「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成８年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1998年
近藤ほか2005：近藤奈央・木下保明『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005－4、同研究所、2005年
近藤2014：近藤章子『延勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－１、同研究所、2014年
近藤2015：近藤奈央『史跡・名勝　嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013－17、同研究所、2015年
近藤2016：近藤奈央「出土遺物」『糺の森整備報告書』賀茂御祖神社、2016年
さ
市埋文1980：京都市埋蔵文化財研究所編『坂東善平収蔵品目録』同研究所、1980年
市埋文1996：京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集瓦図録』同研究所、1996年
市埋文1997：京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡－広域立会調査による遺跡調査報告－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊、1997年
杉山ほか1975：杉山信三・長宗繁一「鳥羽離宮跡第14次発掘調査概要－田中殿第２次発掘調査－」『鳥羽離宮跡・史跡西寺跡　京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅳ』京都市文化観光局文化財保護課、1975年
杉山ほか1976：杉山信三・長宗繁一「醍醐大智院跡発掘調査報告、昭和50年醍醐寺霊宝館宝聚院建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報」『埋蔵文化財発掘調査概報集1976』鳥羽離宮跡調査研究所、1976年
鈴木ほか1978：鈴木廣司・伊藤 潔・平尾政幸『常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告－Ⅲ、同研究所、1978年
清野1974：清野紀子「瓦」『栢杜遺跡調査概報』鳥羽離宮跡調査研究所、1974年
た
高橋ほか2012：高橋 潔・家原圭太「法勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成23年度』京都市文化市民局、2012年

な
中村1990：中村 浩『久留美毛谷－古窯跡群等の発掘調査報告－』久留美毛谷古窯跡群埋蔵文化財調査会、1990年
中谷1970：中谷雅治「8法金剛院境内出土の古瓦」『埋蔵文化財発掘調査概報（1970)』京都府教育委員会、1970年
奈文研1961：奈良国立文化財研究所編「尊勝寺発掘調査報告－京都会館建設地の調査－」『平城宮跡第一次・伝飛鳥板葺宮跡発掘調査報告　奈良国立文化財研究所学報第十冊』同研究所、1961年
布川2005：布川豊治「瓦類」『史跡・名勝　嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2004－11、同研究所、2005年
は
浜中ほか2003：浜中邦弘・西田倫子「軒瓦」『史跡及び名勝　平等院庭園保存整備報告書』平等院、2003年
春成2014：春成秀爾「明石の古瓦集成２」『明石の古代Ⅱ』発掘された明石の歴史展実行委員会・明石市、2014年
引原1992：引原茂治「史跡教王護国寺境内発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第48冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター、1992年
平方ほか1991：平方幸雄・菅田 薫・高橋 潔「勧修寺旧境内」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1991年
平尾ほか2002：平尾政幸・山口 真・永田宗秀『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002－６、同研究所、2002年
平田2003：平田 泰『史跡旧二条離宮（二条城)』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001－15、同研究所、2003年
平松2000：平松良雄『東大寺防災施設工事・発掘調査報告書　発掘調査編』東大寺、2000年
平博1977：平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣、1977年
細谷1968：細谷義治「鳥羽離宮跡出土軒瓦の整理」『埋蔵文化財発掘調査概報（1968)』京都府教育委員会、1968年
堀内1981：堀内明博「白河南殿Ｃ調査区」『六勝寺跡発掘調査概要　昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター、1981年
堀内ほか1986：堀内明博・鈴木久男・北田栄造「第113次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局、1986年
ま
前田ほか1979：前田義明・鈴木久男「第43次（田中殿Ⅶ）発掘調査」『鳥羽離宮跡　国庫補助による発掘調査概要　昭和53年度』京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1979年
前田ほか1986：前田義明・鈴木久男・吉崎　伸「第112次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局、1986年
前田ほか1987：前田義明・鈴木久男「第121次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局、1987年
前田ほか1990：前田義明・山本雅和「134次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　平成元年度』京都市文化観光局、1990年
前田ほか1996：前田義明・会下和宏「平安京左京一条三坊」『平成５年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1996年
前田2002：前田義明「瓦類」『鳥羽離宮跡Ⅰ　金剛心院跡の調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第20冊、同研究所、2002年
松本1986：松本敏三『讃岐陶邑古窯址群の瓦窯址について』第24回帝塚山大学考古学研究会発表資料、1986年
南1993：南 博史『平安京左京一条三坊九町－土御門内裏－平安京跡研究調査報告第10輯』古代學協會、1993年
妙見山麓遺跡調査会編1986：妙見山麓遺跡調査会編『神出　神出古窯址群に関連する遺跡の調査』同調査会、1986年
持田ほか2013：持田 透・小池知美『白河街区跡・岡崎遺跡－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』イビソク京都市内遺跡調査報告　第５輯、イビソク関西支店、2013年
森2010：森先一貴「瓦磚類」『興福寺　第１期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅴ』興福寺、2010年
森下ほか1987：森下 衛・竹原一彦・水谷寿克「尊勝寺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第23冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター、1987年
や
安井1960：安井良三「第２節　篠町Ａ號瓦窯址」『亀岡市史　上巻』亀岡市、1960年
藪中1991：藪中五百樹「平安時代における興福寺の造営と瓦」『佛教藝術　第194号』毎日新聞社、1991年
山崎1987：山崎信二「瓦塼」『薬師寺発掘調査報告　奈良国立文化財研究所学報第45冊』同研究所、1987年
山崎1999：山崎信二「瓦」『興福寺　第１期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅰ　1998』興福寺、1999年
吉崎2005：吉崎 伸「小野瓦窯跡」『京都市内遺跡発掘調査概報　平成16年度』京都市文化市民局、2005年
吉村1993：吉村正親「栗栖野瓦窯跡の調査（その２）」『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報　平成４年度』京都市文化観光局、1993年

付表５　塼観察表

番号	形状	手法の特徴	時期・産地	出土遺構
塼1	方形塼。	上面ナデ、側面縦ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後、計1点。
塼2	長方形塼。上下面平坦、側面は傾斜する。	上面ナデ、側面縦ナデ、底面平滑。	時期不明。産地不明。	柱穴2500、計1点。
塼3	長方形塼。上下面、側面平坦。	上面・側面縄タタキ。下面ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5115、計1点。
塼4	長方形有孔塼。上下面凹む、中央に孔あり。側面平坦。	上面・側面縄タタキ。下面ナデ。後に棒で刺突して孔を開ける。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後、計1点。
塼5	L字形塼。隅部を切り欠く。	上下面・側面ナデ。	時期不明。産地不明。	2区重機掘削中、計1点。
塼6	長方形塼か。隅は丸い。	上下面・側面縄タタキ。	時期不明。産地不明。	溝5135、計1点。
塼7	L字形塼か。端部に有孔。	上下面・側面縦ナデ、平滑。	時期不明。産地不明。	落込5126、計1点。
塼8	板状土製品。上下面に「＊」・「□」スタンプを押捺。その後ヘラで格子・斜格子を施す。端部に有孔。	上下面・側面ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後、計1点。
塼9	板状土製品。上下側面平坦で、側面に「右巻き二巴文」を押捺。	上下面・側面縦ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後埋土、計1点。
塼10	板状土製品。長方形で、端部に有孔。	上下面・側面縦ナデ。	時期不明。産地不明。	溝5135補修後、計1点。

付表６　土製品一覧表

番号	種類	出土遺構	寸法(cm)	色調	備考
土1	土製円塔	井戸2025	直径(4.0)　高さ2.4	胎土:10YR8/3浅黄橙色 釉:2.5Y6/4にぶい黄色	
土2	土製円塔	溝5135	直径(4.4)　高さ2.5	胎土:10YR8/2灰白色　釉:7.5Y5/3灰オリーブ色	
土3	土製円塔	溝5140	直径6.0　高さ3.2	胎土:10YR8/2灰白色 釉:2.5GY4/1暗オリーブ灰色	
土4	土製円塔	溝2091	直径(4.7)　高さ2.6	胎土:10YR8/2灰白色　釉:2.5Y6/6明黄褐色	
土5	土製円塔	溝2245	直径(5.8)　高さ3.5	胎土:10YR8/1灰白色　釉:7.5Y7/3浅黄色	
土6	土製円塔	土坑2067	直径(5.2)　高さ2.5	胎土:7.5YR8/3浅黄色　釉:10YR7/6明黄褐色	
土7	土製円塔	5区室町整地	直径6.0　高さ2.6	胎土:10YR8/1灰白色　釉:5Y7/4浅黄色	
土8	土製円塔	溝5135補修後	直径〈6.9〉　高さ3.2	胎土:2.5Y8/2灰白色　釉:5Y6/4オリーブ黄色	
土9	土製円塔	溝2090	直径〈6.5〉　高さ3.0	胎土:10YR8/2灰白色　釉:7.5Y6/3オリーブ黄色	
土10	土製円塔	溝5140	直径〈6.3〉　高さ2.6	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:5Y6/4オリーブ黄色	
土11	土製円塔	溝2092	直径(5.0)　高さ2.5	胎土:2.5Y8/2灰白色　釉:5Y6/2灰オリーブ色	
土12	土製円塔	溝2093	直径(5.2)　高さ3.0	胎土:10YR8/2灰白色　釉:7.5Y6/3オリーブ黄色	
土13	土製円塔	土坑4118	直径(5.6)　高さ2.8	胎土:N8/0灰白色　釉:5Y7/3浅黄色	
土14	土製円塔	溝9006C	直径(5.4)　高さ2.8	胎土:7.5YR8/3浅黄橙色 釉:7.5Y5/3灰オリーブ色	
土15	土製円塔	溝5140	直径〈7.8〉　高さ3.3	胎土:10YR7/3にぶい黄橙色 釉:7.5Y4/3暗オリーブ色	
土16	土製円塔	溝5135	直径(5.8)　高さ2.6	胎土:5YR7/4にぶい橙色　釉:N3/0暗灰色	
土17	土製円塔	溝5135補修後	直径(6.3)　高さ2.6	胎土:N8/0灰白色　釉:10Y4/1灰色	
土18	土製円塔	溝5135補修後	直径(6.2)　高さ2.5	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:5Y7/4浅黄色	
土19	土製円塔	溝5140	直径(4.7)　高さ2.5	胎土:10YR8/2灰白色	釉なし
土20	土製円塔	溝5135補修後	直径(5.2)　高さ2.5	胎土:10YR7/2にぶい黄橙色	釉なし
土21	土製円塔	土坑5090	直径(5.5)　高さ3.1	胎土:10YR7/4にぶい黄橙色	釉なし
土22	土製円塔	9区遺構検出	直径(6.0)　高さ3.2	胎土:10YR8/2灰白色	釉なし
土23	鞴羽口	溝5135西護岸	長さ(10.2)　幅(8.7)	胎土:2.5Y7/1灰白色　表面:2.5Y7/2灰黄色	
土24	型	溝9006B	縦(4.2)　横3.4　厚さ1.6	7.5YR7/4にぶい橙色	
土25	円盤状土製品	4区遺構検出中	直径3.3　厚さ0.9	10YR8/3浅黄橙色	
土26	円盤状土製品	瓦溜2355	直径3.35　厚さ0.9	N5/0灰色	
土27	円面硯	溝2094	硯径〈12.5〉　器高(4.6)	N5/0灰色	
土28	炉壁	土坑6151	縦15.1　横(11.2)　厚さ11.1	10YR7/2にぶい黄橙色 胎土にφ20mm以下の長石・チャート多量	被熱する
土29	炉壁	井戸4070	縦(15.0)　横(9.5)　厚さ(6.9)	7.5YR7/6橙色 胎土にφ17.0mm以下の長石・石英・チャート多量	被熱する
土30	窯道具	柱穴2260	器高15.7　厚さ3.2	5Y7/2灰白色　胎土にφ10mm以下の砂粒多量	匣鉢
土31	窯道具	4区重機掘削中	器高15.1　厚さ2.5	10YR6/2灰黄褐色 胎土にφ10mm以下の砂粒多量	匣鉢
土32	窯道具	柱穴2064	器高14.0　厚さ2.7	10YR6/3にぶい黄橙色 胎土にφ10mm以下の砂粒多量	匣鉢　刻印あり
土33	窯道具	4区重機掘削中	幅1.5　厚さ1.0	10YR5/2灰黄褐色	輪トチン
土34	窯道具	4区重機掘削中	直径8.8　幅1.5　厚さ0.8	2.5Y6/3にぶい黄色	輪トチン
土35	型か	2区重機掘削中	直径11.0　高さ5.0　厚さ1.9	10YR8/2灰白色	
土36	型か	2区重機掘削中	直径10.9　高さ5.0　厚さ1.7	10YR8/2灰白色	
土37	型か	2区重機掘削中	直径8.1　高さ4.7　厚さ1.7	7.5YR6/4にぶい橙色	
土38	型か	2区重機掘削中	直径8.3　高さ4.6　厚さ1.9	10YR8/2灰白色	
土39	インク瓶	2区重機掘削中	口径5.3　器高22.8　底径8.6	胎土5Y7/1灰白色　釉:5YR2/1黒褐色	施釉陶器、スタンプあり
土40	インク瓶	2区重機掘削中	口径5.0　器高22.4　底径8.5	胎土5Y7/1灰白色　釉:5YR2/1黒褐色	施釉陶器、スタンプあり
土41	煉瓦	建物基礎4120	縦22.6　横10.9　厚さ6.3	2.5YR5/4にぶい赤褐色	スタンプあり
土42	煉瓦	建物基礎4120	縦22.9　横11.1　厚さ6.5	2.5YR6/4にぶい橙色	スタンプあり
土43	煉瓦	建物基礎4120	縦22.8　横11.4　厚さ6.2	2.5YR6/6橙色	スタンプあり

※（　）は残存数値、〈　〉は復元径

付表７　木製品一覧表

番号	種類	出土遺構	樹種	寸法(cm)	備考
木1	漆器鉢	溝9006B	モクレン属	底径〈8.0〉 高さ(5.3)	
木2	漆器椀	溝9006A	トチノキ	高さ(1.1)	
木3	部材か	溝5115	ヒノキ科	縦3.5 横(7.2) 厚さ2.5	
木4	部材	溝5140	スギ	縦7.8 横4.0 厚さ2.1	
木5	横櫛	溝5135東護岸	イスノキ	縦(4.3) 横(7.3) 厚さ1.0	
木6	下駄	溝9006C	モクレン属	長さ(7.6) 幅(5.7) 厚さ(2.1)	
木7	毬	井戸2100	カキノキ属	直径5.2 厚さ(4.2)	
木8	匙	溝5135西護岸	スギ	長さ14.0 幅3.5 厚さ0.3	
木9	札状木製品	井戸2025	ヒノキ科	長さ12.8 幅3.6 厚さ0.5	
木10	栓	土坑5165	スギ	長さ4.4 幅2.0 厚さ0.4	
木11	栓	溝9006B	スギ	長さ7.0 幅1.8 厚1.8	
木12	板状製品	溝9006B	ヒノキ	長さ(9.5) 幅1.8 厚さ0.4	檜扇か
木13	板状製品	流路2180上層	マツ属複維管束亜属(二葉松)	長さ(12.3) 幅2.8 厚さ1.1	
木14	部材	溝5135補修後	スギ	長さ(23.0) 幅3.4 厚さ1.6	木釘(ヒノキ科)刺さる
木15	部材	柱2360	ヒノキ科	長さ(26.4) 幅11.2 厚さ6.0	
木16	箸	土坑5165	スギ	長さ19.1 幅0.6 厚さ0.5	
木17	箸	溝9006B	ヒノキ科	長さ(20.3) 幅0.7 厚さ0.4	
木18	箸	溝9006B	スギ	長さ21.2 幅0.7 厚さ0.5	
木19	箸	溝9006B	ヒノキ	長さ(21.4) 幅0.6 厚さ0.5	
木20	箸	溝9006B	ヒノキ	長さ21.7 幅0.6 厚さ0.6	
木21	箸	溝9006B	ヒノキ	長さ(22.2) 幅0.6 厚さ0.5	
木22	箸	溝5135西護岸	スギ	長さ22.7 幅0.7 厚さ0.5	
木23	箸	溝9006B	ヒノキ科	長さ(22.3) 幅0.8 厚さ0.5	
木24	火付け木	井戸5032	ヒノキ	長さ49.7 幅1.7 厚さ1.1	
木25	火付け木	溝5140	ヒノキ	長さ14.1 幅0.6 厚さ0.4	
木26	火付け木	溝9006B	ヒノキ属(サワラか)	長さ17.7 幅1.1 厚さ0.7	
木27	火付け木	溝5135補修後	スギ	長さ21.9 幅1.0 厚さ0.7	
木28	火付け木	溝9006B	ヒノキ	長さ(25.0) 幅1.2 厚さ1.0	
木29	火付け木	溝9006B	コウヤマキ	長さ11.8 幅2.8 厚さ0.9	
木30	火付け木	溝9006B	モミ属	長さ(8.4) 幅1.5 厚さ0.9	
木31	籌木	溝9006B	ヒノキ科	長さ15.1 幅1.1 厚さ0.4	
木32	籌木	溝9006B	ヒノキ	長さ13.6 幅(1.3) 厚さ0.3	
木33	籌木	溝9006B	ヒノキ	長さ13.0 幅1.1 厚さ0.3	
木34	蓋？	室町整地	ヒノキ	縦(6.1) 横2.4 厚さ0.4	
木35	曲物底板	井戸2025	ヒノキ科	直径15.3 厚さ0.8	
木36	曲物底板	溝5115	スギ	横(16.7) 縦(6.5) 厚さ0.9	
木37	曲物底板	溝5115	スギ	直径29.0 厚さ1.0	
木38	たたき棒	溝5140	マツ属複維管束亜属(二葉松)	長さ(35.2) 幅13.7 厚さ10.1	

※（ ）は残存数値、〈 〉は復元径

付表８　石製品一覧表

番号	種類	出土遺構	石材	寸法(cm)	重さ(g)	備考
石1	石鍋	溝2090掘形	滑石	口径22.4　器高(5.5)	217.8	
石2	石鍋	溝2094	滑石	口径20.4　器高(6.4)	384.0	
石3	石鍋	溝5135東護岸	滑石	長さ(7.3)　幅(7.9)　厚さ2.7	120.3	縦耳
石4	石鍋転用品	溝5135東護岸	滑石	長さ(5.0)　幅(8.1)　厚さ3.5	121.0	温石か
石5	石鍋転用品	土坑2015	滑石	長さ(5.4)　幅(9.7)　厚さ2.8	136.6	温石か
石6	石鍋転用品	2区撹乱	滑石	長さ(4.8)　幅12.3　厚さ1.3	145.3	温石か
石7	石鍋転用品	溝2092	滑石	長さ5.6　幅(7.8)　厚さ1.6	103.5	温石
石8	石鍋転用品	溝5140	滑石	長さ7.3　幅6.7　厚さ1.8	138.7	温石
石9	石鍋転用品	4区耕作溝	滑石	長さ(3.6)　幅(9.3)　厚さ1.5	110.8	温石か
石10	石鍋転用品	溝5140	滑石	長さ(12.8)　幅(12.5)　厚さ1.3	285.5	温石か
石11	石鍋転用品	溝5140	滑石	長さ(13.1)　幅(7.7)　厚さ2.6	348.0	温石か
石12	石鍋転用品	井戸2025	滑石	長さ7.4　幅(9.4)　厚さ0.8	155.5	温石か
石13	石鍋転用品	溝2092	滑石	長さ(5.7)　幅(8.3)　厚さ2.5	169.8	温石か
石14	石鍋転用品	溝9006B	滑石	長さ10.3　幅9.9　厚さ1.7	241.5	温石か
石15	石鍋転用品	5区重機掘削中	滑石	長さ11.6　幅8.1　厚さ2.2	293.2	硯か
石16	石鍋転用品	土坑6040	滑石	長さ7.4　幅4.1　厚さ1.1	65.5	温石か
石17	石鍋転用品	溝5135	滑石	長さ5.2　幅5.6　厚さ1.9	62.0	
石18	石鍋転用品	溝2092	滑石	直径2.6　高さ1.3	6.3	紡錘車
石19	石鍋転用品	溝5140	滑石	長さ2.7　幅(2.7)　厚さ1.6	16.1	
石20	石鍋転用品	溝5140	滑石	長さ8.1　幅(5.9)　厚さ1.9	163.5	硯
石21	硯	溝5140	粘板岩	長さ10.6　幅(5.3)　厚さ2.0	131.8	
石22	硯	落込5126	粘板岩	長さ(10.2)　幅4.8　厚さ0.9	61.5	
石23	硯	落込5126	粘板岩	長さ(8.5)　幅(2.5)　厚さ2.0	50.7	転用か
石24	砥石	土坑5019	頁岩	長さ(7.9)　幅3.2　厚さ0.8	26.5	
石25	砥石	溝5115	頁岩	長さ(7.8)　幅2.5　厚さ0.9	28.8	
石26	砥石	溝5115	頁岩	長さ(4.4)　幅3.5　厚さ0.7	18.1	
石27	砥石	溝5115	頁岩	長さ3.6　幅3.6　厚1.7	45.4	
石28	砥石	溝5135	頁岩	長さ(9.5)　幅(3.7)　厚さ1.3	73.6	
石29	砥石	溝5115	粘板岩	長さ9.1　幅(5.7)　厚さ1.4	146.5	
石30	砥石	溝5140	凝灰岩	長さ(11.3)　幅(8.3)　厚さ2.4	281.9	
石31	砥石	溝5135	砂岩	長さ(8.7)　幅3.6　厚さ3.6	168.3	
石32	砥石	5区撹乱	頁岩	長さ13.1　幅(7.2)　厚さ4.0	639.5	
石33	砥石	土坑5159	砂岩	長さ37.5　幅12.0　厚さ5.7	4,200	
石34	叩石	柱穴2122	斑レイ岩	長さ(10.5)　幅(9.8)　厚さ8.4	965.5	

※(　)は残存数値

付表９　金属製品一覧表

番号	種類	出土遺構	材質	寸法(cm)	重さ(g)	備考
金1	飾金具	溝5135東護岸	銅	縦1.4　横1.4　厚さ0.05	0.2	金メッキ
金2	飾金具	溝5135	銅	縦1.7　横1.6　厚さ0.05	0.7	
金3	環状製品	落込5126	銅	径2.2　厚さ0.25	2.4	
金4	刀子状鉄製品	土坑2167	鉄	長さ(21.1)　幅2.8　厚さ0.9	48.9	木質、布残存
金5	楔状鉄製品	土坑1003	鉄	長さ27.6　径2.5	450.5	木質残存
金6	椀形滓	溝2090	鉄	縦9.9　横8.4　厚さ4.9	326.0	
金7	椀形滓	溝2092	鉄	縦13.2　横9.4　厚さ5.4	561.0	
金8	開元通寶	溝5135	銅	径2.35　孔0.70　厚さ0.12	2.30	唐621年初鋳
金9	凞寧元寶	溝5135	銅	径2.40　孔0.75　厚さ0.10	2.40	北宋1068初鋳
金10	聖宋元寶	5区耕作溝	銅	径2.93　孔0.65　厚さ0.13	3.30	北宋1101年初鋳
金11	寛永通寶	2区耕作溝	銅	径2.53　孔0.55　厚さ0.18	2.90	
金12	半銭	8区重機掘削中	銅	径2.20　厚さ0.14	3.35	明治十八年鋳造

※（　）は残存数値

図　　版

報　告　書　抄　録

ふりがな	えんしょうじあと・じょうしょうじあと・しらかわがいくあと・おかざきいせき
書名	円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０１７−１６
編著者名	柏田有香、上村和直
編集機関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発行所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発行年月日	西暦2018年12月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
円勝寺跡（えんしょうじあと） 成勝寺跡（じょうしょうじあと） 白河街区跡（しらかわがいくあと） 岡崎遺跡（おかざきいせき）	京都市左京区（きょうとしさきょうく） 岡崎円勝寺町（おかざきえんしょうじちょう）	26100	417−4 417−5 417 418	35度00分46秒	135度47分00秒	2017年４月17日〜2018年２月24日	1,907.5㎡	美術館再整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
円勝寺跡 成勝寺跡 白河街区跡 岡崎遺跡	寺院跡 寺院跡 寺院跡 邸宅跡 集落跡	弥生時代〜古墳時代	溝、土坑、流路、落込	弥生土器、古式土師器、須恵器	京都市商品陳列所の基礎を検出した。第１期から第３期調査で検出していた東西方向の溝や南北方向の溝の間を繋ぐ部分を検出した。
		平安時代	溝、建物、柱列、柱穴、柱穴群、井戸、土坑、落込	土師器、須恵器、山茶椀、白色土器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品	
		鎌倉時代	溝、柱列、柱穴、柱穴群、井戸、土坑、瓦溜	土師器、須恵器、山茶椀、瓦器、白色土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品	
		室町時代前期	溝、畔、落込、土坑、耕作溝群	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器	
		江戸時代	耕作溝群、大溝群	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、金属製品、石製品	
		明治時代	建物基礎、柱列、耕作溝群、大溝群、井戸	土製品、銭貨	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2017-16

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

発行日　2018年12月28日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093　℡ 075-256-0961